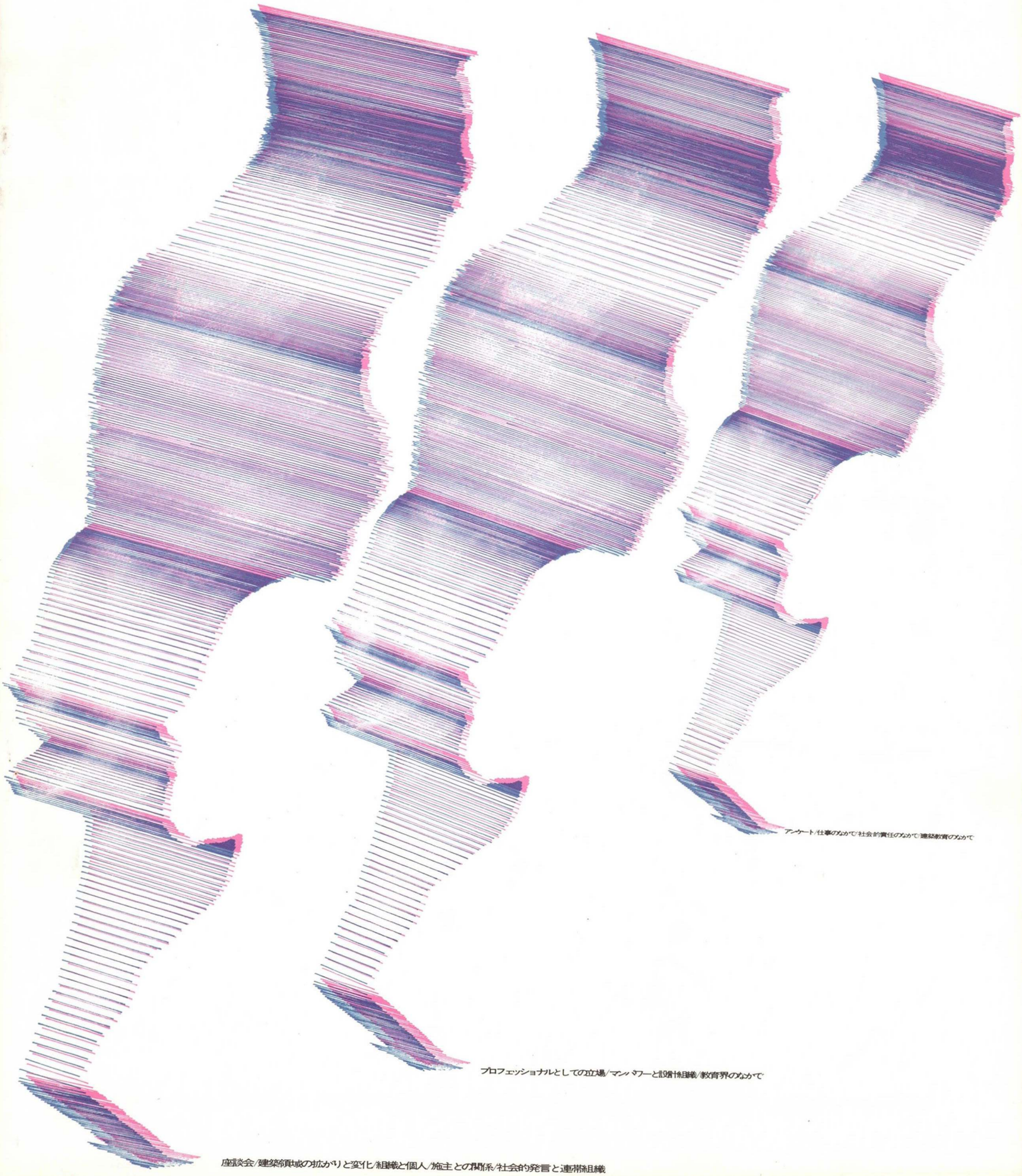
建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY ● VOL.51

社団法人　日本建築協会
昭和45年 8月25日発行　第51輯第 8号
毎月 1 回25日発行
昭和24年 3 月19日第 3 種郵便物認可

特集
建築家の課題と責任
1970
昭和45年
8



アンケート/仕事のなかで/社会的責任のなかで/建築教育のなかで

プロフェッショナルとしての立場/マンパワーと設計組織/教育界のなかで

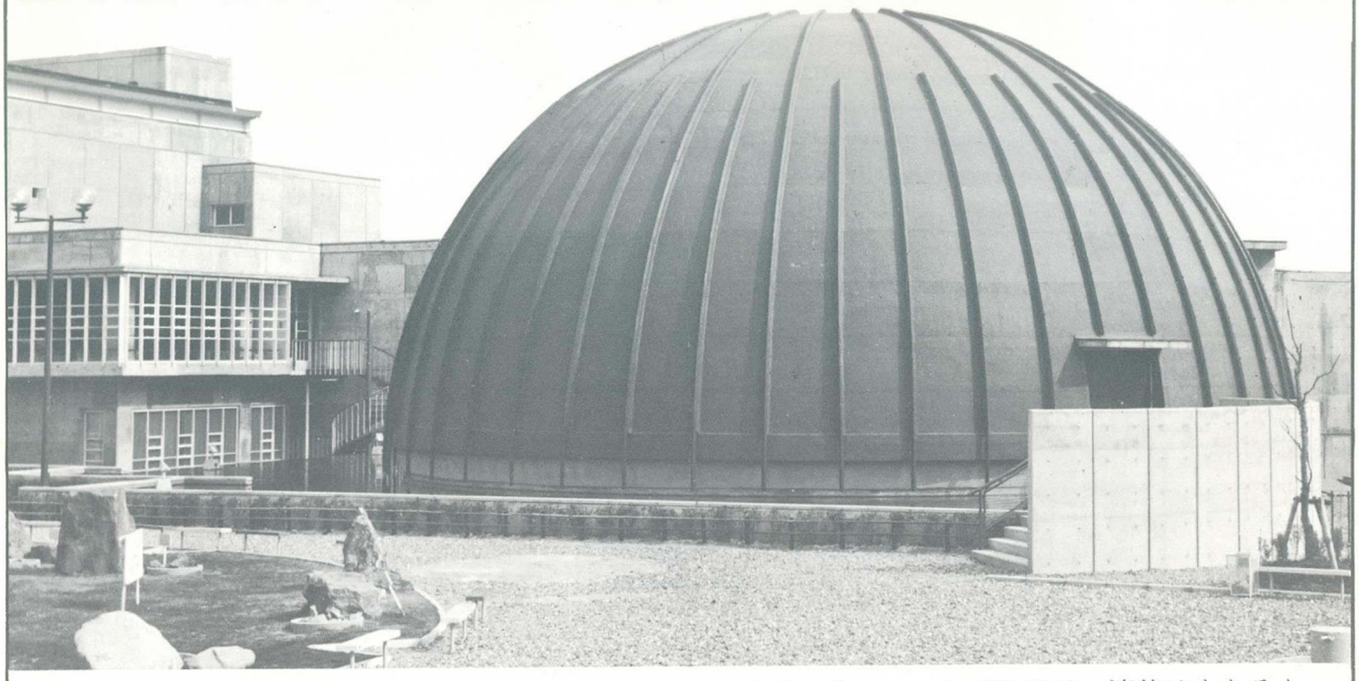
座談会/建築領域の拡がりと変化/組織と個人/施主との関係/社会的発言と連帯組織

屋根防水/地下防水/橋梁防水に

E・P・Tゴム完全防水シート

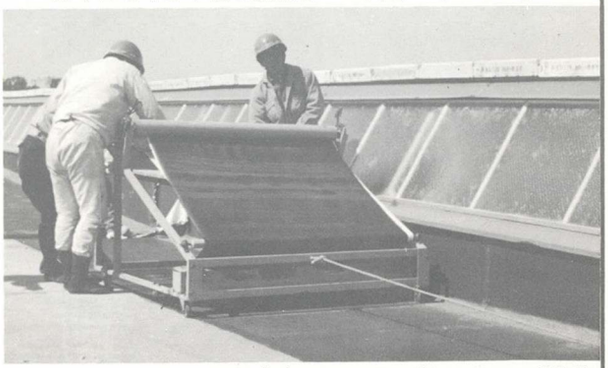
万国博〈みどり館〉に出展

三ツ星ベルト ネオ・ルーフィング EB



ネオ・ルーフィングEBは、液体はもちろん、気体の透過も許しません。
しかも他の防水シートにくらべて耐候性、耐摩耗性、耐破断強度が一段とすぐれています。
フレキシブルシートですから凹凸の下地でも施工でき、PC版、ALC版、木毛版、鉄板、木材、発泡断熱材など、ほとんどの下地材料に密着します。

※くわしくは下記の建材課へお問合せください。



ネオ・ルーフィングシーティング作業

ご用命はネオ・ルーフィング工業会

札幌 (株)浜建	TEL (0122)26－5676代
仙台 日新建工(株)仙台支店	TEL (0222)25－5431代
東京 高山工業(株)	TEL (03) 251－0161代
東京 (株)三柏商会	TEL (03) 251－7517～9
東京 金岡工業(株)	TEL (03) 363－4341代
東京 桑原建材(株)	TEL (03) 368－6973・8794
群馬 石田建材工業(株)	TEL (0273)22－3301代
埼玉 石田建材工業(株)大宮支店	TEL (0488)31－1225
栃木 石田建材工業(株)宇都宮出張所	TEL (0286)33－7697
茨木 (株)奈良屋商店	TEL (0292)31－0171～6
茨城 (株)奈良屋商店日立支店	TEL (0294)22－1155
静岡 (株)三井工業所	TEL (0542)85－9151
富士 (株)三井工業所富士営業所	TEL (0545)61－1688
山形 (株)山形建材	TEL (02362)2－8161,3－0175
名古屋 中央建材工業(株)	TEL (052)251－3541代
金沢 北川瀝青工業(株)	TEL (0762)41－1131代
福井 北川瀝青工業(株)福井営業所	TEL (0776)23－8847
富山 北川瀝青工業(株)富山営業所	TEL (0764)41－3261～2
新潟 北川瀝青工業(株)新潟営業所	TEL (0252)45－7688～9
長野 五十鈴建材(株)	TEL (02657)2－7181代
大阪 (株)久保商店	TEL (06) 364－0206代
大阪 (株)木下謹三商店	TEL (06) 443－0115代
大阪 高山工業(株)大阪営業所	TEL (06) 364－9015
大阪 ネオ・ルーフィング防水(株)	TEL (06) 372－5608・4571
神戸 (株)中出商会	TEL (078) 51－4501
神戸 太平特殊工業(株)	TEL (078) 56－4073
高松 ネオ・ルーフィング防水(株)高松出張所	TEL (0878)31－6332
松山 (株)山本商会	TEL (0899)31－6261
広島 青盛建材(株)	TEL (0822)21－2281～6
岡山 青盛建材(株)岡山営業所	TEL (0862)23－8285～7
松江 青盛建材(株)山陰営業所	TEL (0852)21－9551
福岡 青盛建材(株)福岡営業所	TEL (092) 28－5566～8
福岡 (株)工材社	TEL (093) 38－1468代
宮崎 (株)大二商会	TEL (0985) 2－5001・6084
鹿児島 (株)北原建材商会	TEL (0992)23－9395

三ツ星ベルト

本　社／神戸市長田区浜添通4丁目　TEL (078) 67－5071大代表
東京支店／TEL (03) 552－1421　名古屋支店／TEL (052)262－3551
福岡営業所／TEL (092) 29－5931　北海道出張所／TEL (0122)23－9101



TILE Bonn ボンタイル株式会社

本社	東京都中央区京橋3－4	TEL 03－281－1357
大阪支店	大阪市大淀区豊崎西通2－3	TEL 06－372－7271
名古屋営業所	名古屋市中村区米屋町2－16	TEL 052－571－9538
九州営業所	福岡市博多駅前2－19	TEL 092－43－5154
広島営業所	広島市上八丁堀5－24	TEL 0822－21－3421
仙台営業所	仙台市東1（丹野ビル）	TEL 0222－22－4126

画期的新製品

大きな音を遮ぎる壁は重い！

というのが常識でした

この KILD® 壁は

その常識を打破ったのです

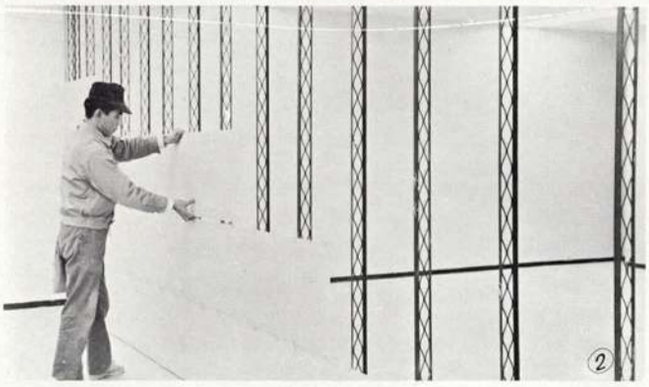
乾式軽量遮音間仕切壁　(特許実用新案 11件出願中)

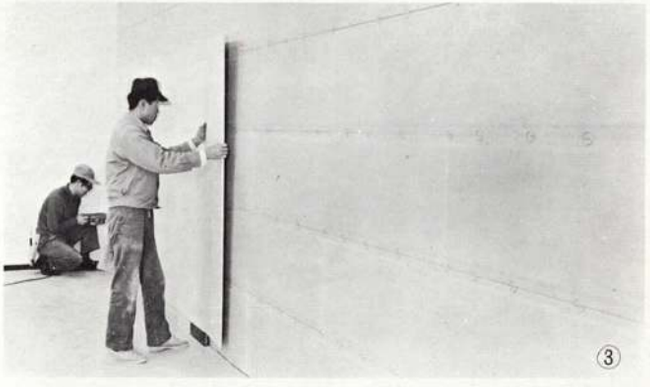
KILD®

専用遮音ボード

㊊ツバメ遮音ボード


①


②


③

遮音性能

遮音値　49デシベル(コンクリート 176㎜厚相当)
重　量　63kg／m²　(コンクリート 400kg／m²)
高層ビル・ホテル/集合住宅/病院/会議室/学校に最適

KILD壁の特長

■遮音性大　■軽量　●防火性大　■仕上自由
■配線配管自由　■施工簡単　■工期短縮
■変位対応性大

写真説明

①床と天井にランナー（エコニースタッド）を取付け、床ランナー、天井ランナーに間柱(エコニースタッド)を取付ける。
②下地ボードを間柱に下段よりクリップで止める。
③仕上げボードを下地ボードの上に接着剤と釘で貼りつける。あとはペンキまたは布貼りで仕上げる。

（ご一報次第カタログ進呈）

製造・販売・施工

株式会社 マンテン

本　　社　(〒542) 大阪市南区日本橋筋3－2
電話 (06) 632－1151(代)
東京営業所　(〒136) 東京都江東区亀戸2－3－17
電話 (03) 682－3241(代)
名古屋出張所　(〒460) 名古屋市中区宮前町4－16 東海塗料ビル
電話 (052) 262－6771(代)
福岡出張所　(〒812) 福岡市博多駅東1－12－26 岩瀬ビル
電話 (092) 43－4356

三井東圧化学(株)
建材部

本　　社　(〒100) 東京都千代田区霞が関　霞が関ビル
電話 (03) 581－6111(大代)
支　　店　大阪・名古屋・福岡・札幌

ここにも生きている
ビニロイド防水



屋根と室内にビニロイド防水を施工した霞ヶ関ビル

どんな地域でも　どんな構造の建物をつくっても完全な防水ができたら――それを実用化してすでに 250万 m^2 の施工実績を示しているのが**〈ビニロイド2号〉**です

防水下地にキレツができても破れず　寒冷地の冬にも丈夫で　どんな場所に使っても腐りません　それは弊社が合成繊維による不織布の独特な方法で加工した　技術の成果です　霞ヶ関ビルにも**ビニロイド2号**による防水工事をご採用いただきました

営業品目

●ビニロイド防水工事　●アスファルト防水工事
●三星ソフトンタイル貼工事　●保温・保冷工事
●三星プラスオール　●三星コーキン販売・工事
●シポレックス工事

三星産業株式会社

東京都千代田区岩本町3－11－13
TEL〈866〉0271～6・6121～9
出張所／札幌〈72〉6031　仙台〈21〉5366－7　名古屋〈941〉3751
〈971〉4574　大阪〈443〉9721－3　福岡〈76〉2076〈75〉0298

家庭・工業用有機汚水処理専門メーカー

大化式浄化槽

活性汚泥附着
生物曝気法

ビオティーン

（5人～500人槽）

特許付着曝気方式を取り入れ高性能の浄化機能を誇っております。

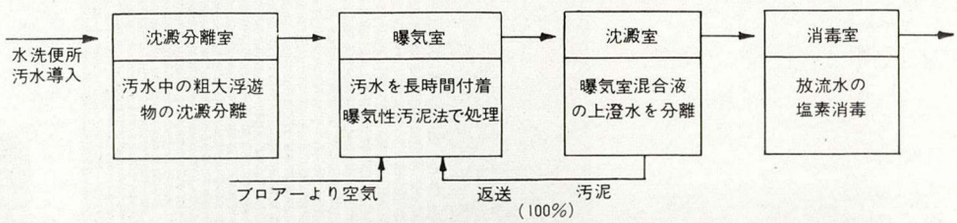
主なる特色

①付着曝気方式により曝気槽内の浮遊物が全くなく余剰汚泥量が特に少ない。
②大化式制御盤による自動制御方式で各処理のコントロール管理が容易である。
③汚泥返送用集泥器をFRP製品を使用し完全な（100%）汚泥返送が可能である。
④多乳性散気盤を取り入れているため目づまりがないので、ブロアー、モーターへの負荷が非常に少ない。

処理方法　活性汚泥法長時間曝気方式

FRPセット……5人～90人一槽式
…100人～200人三槽式
…200人以上RC

フローシート



大化式コミュニティプラント

（100人～5000人用）

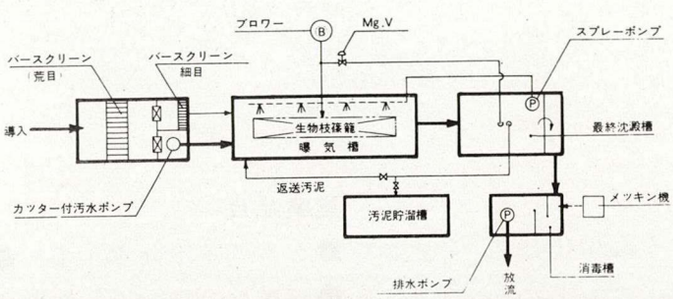
特許付着曝気方式により機械装置と自然材(竹)を合理的に組み合わせた最新式浄化槽で官公庁、民間に於いて大好評を博しています。

主なる特色

①工期の短縮……FRP製セット製品を工場にて生産し5人～500人槽迄各種取揃えております（例100人槽で着工から完成まで3日間）
②高性能の浄化率……放流水B.O.D　除去率90%以上。
③オーバーショックロードに耐える……接触材(竹)を使って生物群の集落を造り汚泥吸着作用が行なわれる。

処理方法　長時間曝気方式分離曝気型

フローシート



■すでに全国の官庁　団地　学校　協同組合　事務所　一般家庭などで大化式浄化槽は大活躍をしています。

KK 大阪化構材工業株式会社

営業所　八尾市弓削266－1　TEL　49－4501～2(代)
本社工場
東海支店　静岡県沼津市小諏訪611－1　TEL 0559－63－7888～9
東京営業所　東京都足立区足立4－14－1　TEL　03－840－1501(代)
伊勢営業所　三重県伊勢市朝熊町1003　TEL　05963－2－4985

◀サントリーウィスキー山崎工場の見学会

日　時　9月5日（土）13.50（集合）→16.00（解散）
集合場所　国鉄山崎駅前・目標会旗
〔参考〕自由行動（運賃は各自負担…大阪より往復 240円）
●13.10 国電大阪発上り快速電車乗車→高槻にて普通に乗替え→13.40山崎着下車
工場見学　14.00（山崎駅より徒歩 10分）工場着，説明をうけた後見学 16.00工場にて解散
定　員　30名
申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・役職・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上8月24日までに事業課へ
ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。

◀関西電力喜撰山（揚水）発電所の見学と平等院の拝観

日　時　9月12日（土）13.30（集合）→16.30（解散）
集合場所　京阪電車宇治駅前・目標会旗
13.30 の集合時刻厳守，すぐ揃って関西電力喜撰山水力建設所へ〔電話　宇治（0774）—21—8143〕徒歩約5分
〔参考〕自由行動（運賃は各自負担…大阪淀屋橋より往復 300円）
●12.23 京阪淀屋橋発急行乗車→中書島にて宇治行に乗替え→13.30 宇治着下車
行　程　13.40 関電建設所発（関電提供のマイクロバス）→天ガ瀬 P/S，PR館→天ガ瀬ダム→喜撰山 P/S →平等院着解散
（平等院は希望の方のみ拝観・京阪宇治駅まで徒歩10分）
説　明　いづれ見学の時にPR館で詳しい説明がありますが，喜撰山（揚水）発電所は夜間の余剰電力を利用して天ガ瀬ダムから喜撰山ダムへ揚水し，併せて発電する施設です。

喜撰山発電所建設工事概要

ダ　ム　ロックフィルダム　高さ 95m・頂長 267m
体積 2,300,000㎥
発電所　地下式，PC造
主要寸法　高46.4m×巾23.25m×長58m
建物面積　1,348.5㎡
ケーブル竪坑　内径　7.3m・高さ　261.2m
発電力　233,000KVA×2
工　期　着工 昭和42年3月→1号機運転開始 昭和45年2月
2号機　〃　〃　7月

定　員　30名
申　込　往復はがきに限ります。はがき1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・役職・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上8月31日までに事業課へ。
ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。

◀立川ブラインド工場と多賀大社・彦根城の見学会

日　時　9月26日（土）10.05（集合）→16.00（解散）
集合場所　国鉄東海道線，能登川駅出口付近・目標会旗
立川ブラインドのマイクロバスに乗車→10.10 出発
行　程　10.30→12.00　滋賀県愛知郡愛知川町東円堂・電話(074942)—3308（代）立川ブラインド工業株式会社西日本綜合工場見学・昼食の後，出発→途中湖東町分工場見学
13.00→13.40　犬上郡多賀町，多賀大社参拝
14.00→16.00　彦根市金亀町，彦根城の見学・後彦根駅にて解散
〔参考〕自由行動（運賃は各自負担）
往　8.19 大阪発上り米原行乗車→10.02 能登川着（運賃 400円）
復　16.16 彦根発下り網干行乗車→18.09 大阪着（運賃 470円）
定　員　25名
申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・役職・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上9月23日までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。
この見学会は立川ブラインド工業株式会社のご厚意とご歓待により，マイクロバスや昼食のご提供をうけます。ついては立川ブラインドさんと同業の方は申込をされても，参加をご遠慮願うことがありますから，ご了承おき下さい。

青年技術者のみなさまへ

――「建築と社会」昭和45年11月号の「第17回青年技術者特集号」の応募について――

日本建築協会誌「建築と社会」は毎年「青年建築家特集号」もしくは「青年技術者特集号」を企画し，すでに16回にわたって優秀な青年建築家を紹介してきました。今回も，昨年と一昨年にひきつづき，「青年技術者選衡委員会」を設けて，選衡の上掲載することにしております。

その選ぶ分野も，設計だけにかぎらず，都市計画，構造，施工，設備などを含み，それぞれの分野から，優秀な青年技術者を選んで，その不断の研究努力とすぐれた業績を「建築と社会」に掲載して顕彰することにしております。

ついては，下記応募規定を参照の上，ふるって応募されんことを。

応募提出規定

1. 応募される人は満35才までの青年技術者であって，本会会員に限ること。
2. 原則として，本会会員であるすいせん者を通じて応募のこと。すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司なり上長であること。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。（すいせん用紙は事務局にありますので，ご請求ください）
3. 応募者は，設計，計画（都市計画など），施工，構造，設備，その他の分野にあって，なしとげたすぐれた実績について，すいせんをうけ，下記の所要の資料を本会に期日まで提出すること。
4. 提出された資料は「青年技術者選衡委員会」にかけて選衡する。
5. 「青年技術者選衡委員会」において選衡されたものは「第17回青年技術者特集」（昭和45年11月号）に掲載すると共に，記念品を贈呈する。
6. **提出資料**
   - (1) **略　歴**
     本人の写真，氏名，生年月日，最終学歴，業歴，作品略歴など
   - (2) **選衡資料**
     - (i) **建築設計の場合**
       鮮明なる写真，主要平面図，概要，設計要旨，その他必要な資料
     - (ii) **計画の場合**（都市・地域の計画など）
       計画図，計画要旨，その他必要な資料
     - (iii) **施工，構造，設備の場合**（それぞれの設計計画なども含む）
       上に準じた資料
     - (iv) **その他**（新材料開発，著作などを意味する）
       それぞれにふさわしい資料
   - (3) **青年技術者としてのことば**
     青年技術者としての抱負，考え方，信念，建築観等々（400字～600字ていど）。
   - (4) **すいせんのことば**
     原則として，すいせん者によるすいせんのことば（140字ていど）を添付のこと。自せんの場合は不要。
7. **提出期間**　昭和45年8月25日
8. **提 出 先**　大阪市東区北浜3―37
   日本建築協会「青年技術者選衡委員会」
9. **青年技術者選衡委員会（45年度）**

委員長		鳥田家弘	（神戸大学工学部教授・工博・編集委員長）
委員	（設計部門）	薬袋公明	（日建設計・大阪事務所副所長）
〃	〃	山本純孝	（安井建築設計事務所・取締役神戸事務所長）
〃	（計画部門）	橋本忠保	（日本住宅公団大阪支所・支所次長）
〃	〃	富安秀雄	（市浦都市開発建築コンサルタンツ大阪事務所代表取締役）
〃	（構造部門）	石田　正	（竹中工務店・超高層工事本部副部長）
〃	〃	平田定男	（平田建築構造研究所・所長）
〃	（設備部門）	長谷川幸雄	（桜井建築設備研究所・取締役所長）
〃	〃	山本憲三	（ヤマト電気商会・専務取締役）
〃	（施工部門）	井上司郎	（松村組・工務部長）
〃	〃	窪田　祐	（大林組・技術部長）

法令コーナー

36

日本建築協会法規委員会

質疑などの投稿をお待ちしております

◇ 法 令 解 説

建築基準法の改正について

「建築基準法の一部を改正する法律」は，今年の第63特別国会において，5月13日に可決成立し，6月1日に公布されました。改正法の概要についてはたびたび話題となっており，御存じの方も多いと思いますが，法案成立の過程と今後の方向についてふれてみたいと思います。

基準法の改正が話題となったのは，数年来のことでありますが，現行法が，社会情勢の著しい変化と建築技術の進歩に対して，実情にそぐわない点が多くなったため，これに対処して抜本的改正が要望されていたわけです。これに対して建設省では，建築主事制度，違反取締り対策などの執行体制の検討を始め，集団規定の整備など実情に即した守りやすい基準とすることで，法の全面的な改正が検討されてきました。しかし実際には，新都市計画法の制定に伴なう集団規定の整備と，違反取締り体制の強化，ならびに実情にそぐわない部分の修正という範囲で改正案が作られ，昨年の国会に付議されましたが，成立をみなかったものであります。

しかし，ここで注目したいのは，昨年の衆議院の審議において，改正案について，違反建築物に対する強力な措置を講じることを要請するきびしい附帯決議がつけられたことと，改正原案に対して，違反取締り強化の条文を附加する修正が行なわれたことです。

主たる修正点の第一は，違反建築物に対する告発および行政代執行，ならびに違反建築物の公示に関する規定ですが，法第9条の第12項で，「特定行政庁は……必要な措置を命じた場合において，その措置を命ぜられた者がその措置を履行しないとき……は行政代執行法の定めるところに従い，自ら義務者のなすべき行為をし，または第三者をしてこれをさせることができる。」と規定しており，違反行為に対しては，強硬な措置をとることが要請されたわけです。

さらに，法第9条の第3項では「特定行政庁は，第1項または第10項の規定による命令をした場合においては，標識の設置……により，その旨を公示しなければならない。」と規定し，違反事実を一般に公示することを義務づけています。

修正点の第二は，違反建築物の設計者などに対する措置に関する規定で，法第9条の第3項で，特定行政庁は，違反建築物に対する命令をした場合，当該命令に係る建築物の設計者，工事監理者もしくは工事請負人（下請を含む），宅地建物取引業者について，これらの者を監督する部局と連絡をとり，関係業法に基づいて相当の処分を行なうことを規定しています。

これは違反の絶滅をはかるためには，基準法のみでなく，関係業法を含めた一体的な取締りを行なうことを要求しているものです。

このように国会審議の途中において，違反建築物対策について，これを強化する修正がなされ，きびしい附帯決議がなされたことは，"ざる法"といわれてきた基準法を守りやすくする方向での改正であることを考えるとき，今後の基準法行政のあり方を示しているものといえましょう。

参考までに，今国会における両院の付帯決議は下記のとおりです。

改正基準法の施行と経過措置について

改正法の施行は，「公布の日から起算して1年をこえない範囲内において政令で定める日から施行する」ことになっていますが，執行体制などの総則関係は10月，集団規定関係は来年1月ごろの施行とすることが一応予定されており，これにあわせて政令などの検討作業も行なわれることになります。

用途地域制に関する部分は今回の改正で，8種類の用途地域の区分が採用され，同時に都市計画法も改正されています。ここで注意を要することは，附則15の経過措置において，この法律の施行のさい，現に改正前の用途地域が定められている都市計画区域については，改正後の用途地域の決定は，この法律の施行の日から3年以内に行なわなければならない旨規定しております。そしてさらに附則16で，3年を経過する日まで（新用途地域が決定されたときはその日まで）は従前通り旧法が働くということであります。いいかえれば，新制度による用途地域制により全面的な指定替が行なわれない限り，地域制に関する制限は現行通りで，従って建ぺい率の緩和や，現行の高さ制限の廃止などは，それまで働かないことになります。

— * — * — * —

建築基準法の一部を改正する法律案に対する附帯決議

（衆議院　45・5・13）

都市化が急激に進展しつつある今日，住みよい街づくりを進めるために，政府は，本法の施行に当って左の諸点について適切な措置を講じ，その運用に遺憾なきを期すべきである。

1　違反建築物に対しては次の措置を強力に講じて，その絶滅を期すること。

(1)　告発および行政代執行の徹底

(2)　建築士，建設業者，宅地建物取引業者等の建築関係業者に対する厳正な監督処分

(3)　電気・水道・ガスの供給停止

2　執行体制の整備強化を図るため，建築関係職員，建築監視員の人員および予算の確保について特段の配慮をするとともに，これらの職員の研修制度を拡充強化し，職権の濫用をいましめ，適正な建建行政の執行を期すること。

3　改正法の運用に当っては，単に住宅環境の悪化を追認するにとどまるが如きことのないように，積極的な行政指導，技術的指導により，日照，通風等良好な環境実現の方途を提示し，住民の自発的協力を強化すること。

4　住民の密着した建築行政とするため，執行権限をできるだけ市町村に委譲するよう指導するとともに，政令の制定等改正法の施行にあたっては，条例に委任するなどの方法により自治体の実情を活かした運営ができるよう配慮すること。

5　都市環境を良好にするために，都市計画法により用途地域に関する都市計画を決定するに当っては，原則として公聴会を開く等して住民の意見を反映させるようにすること。

6　都市環境の抜本的改善をはかるため，著るしく立ち遅れている共同利用施設として，公園・緑地・広場・遊び場・運動施設等の空間確保について，格段の協力をすること。

右決議する。

昭和45年5月12日　衆議院建設委員会

建築基準法の一部を改正する法律案に対する附帯決議

（参議院　45・4・17）

都市化の急激な進展に伴い，過密地域における既成市街地の生活環境が著しく悪化しつつある現状にかんがみ，政府は都市施設の整備を積極的に行なうとともに，次の点について運用に遺憾なきを期すべきである。

1　建築監視員等の質問権の対象となる「工事の施工者」の範囲については，施工の権限を代行する者を含むものであることを周知徹底せしめ，本制度の実効を期すること。

2　違反建築物により被害を受けている者の通報及び違反の有無等について近隣者からの調査依頼に対して，特定行政庁が速やかに適切な措置を講ずるよう指導すること。

3　特定行政庁の不作為又は特定行政庁等が課した不作為義務の不履行によって被害を受ける者の行政法上の救済措置について，速やかに検討すること

右決議する。

昭和45年4月16日　参議院建設委員会

（大阪府建築部市街地建築課　片田俊彦）

読者の頁

投稿をおまちしております。掲載の分には規定の稿料を差上げます。

□ 高層建造物と「テレビ」公害について

阪神高速道路公団前調査役　加藤　雄三郎

前稿（昭和44年1月号読者の頁欄）にて建設公害の理論と補償の実例について述べたが，今回は現在問題となっている「テレビ」公害について論じてみたい。

1.　「テレビ」受信障害の現状について

テレビ受信障害は最近，日照妨害とともに社会的な注目を集め，新聞紙上にも，掲載される程に至った。生活妨害の一つで，この種の生活妨害は，公害対策基本法（42年）の汚染，汚濁，騒音，振動，沈下，悪臭，粉塵等の7項目には入っていないが，とにかく，従来から受けていた利益を，何らかの形で受けられなくなったので，生活を妨害されたことになるであろう。

かような事例は，最近都市の再開発による建物の高層建造物，すなわち高層マンション，高層公営住宅，高架高速道路，電車軌道の高架化に伴う構造物の増加によって起こる現象である。

わが阪神高速道路公団の大阪堺，神戸線でも工事中から障害が生じており，大阪松原線，守口線にも将来起こり得る可能性が十分あるものと推察されている。今までの事例としては日本住宅公団，大阪府，市の住宅公社の各所，国鉄の新幹線の一部，阪神電鉄の三宮付近，近鉄線の八戸の里駅付近で，その数，約2万戸を越えるものと推定されている。

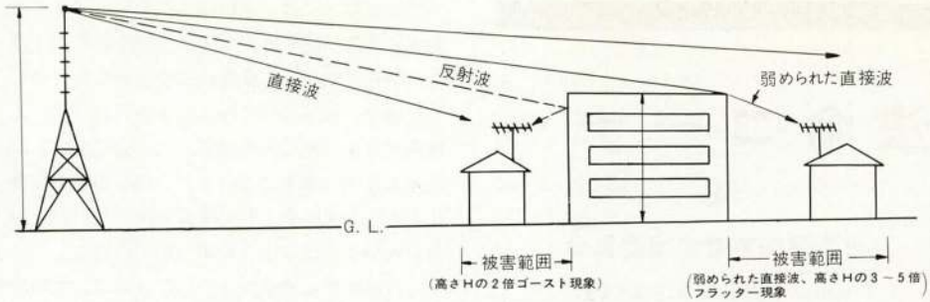
以上の事例はすでに障害改善工事が，それらの企業者の社会的責任において実施されているが，高架道路については，事例が全くなく，救済方法に苦心を重ねてきた。今回大阪市と時を同じくして，道路事業についても，これらの問題の解決に踏みきらざるを得なかった。その理由として，次の4点をあげたい。

(1)　公害対策基本法の法の精神内に含まれていると解釈される学者もあること。

(2)　民法の709条に抵触するであろうとする法学者，学識経験者も多数あること。

(3)　「テレビ」は情報化社会の現代においては，「水道」「ガス」と同じ位，生活上必要であること。

(4)　大阪府の行政機関である公害監視センター所長の意見をも参考にしたこと。



（図－1）

2.　「テレビ」受信障害の理由について

「テレビ」電波は，光線と同じく，直進する性質があり，一方"金属"や"コンクリート"はその性質として「テレビ」電波を透しにくく，しかも鏡のように電波を反射させるものである。そこで，高層「ビル」や高速道路ができると，その陰になる所は電波は弱くなる上に，近所の「ビル」から反射してくる電波が入り込むので，「テレビ」画面が薄くなったり，多重像になったりするものである。

〔ビル陰障害はビルの遮蔽により発生するが，ビル前面の反射によってビルの前方（電波到来方向）にゴースト障害が発生する場合もある〕

3.　「テレビ」受信障害の改善対策について

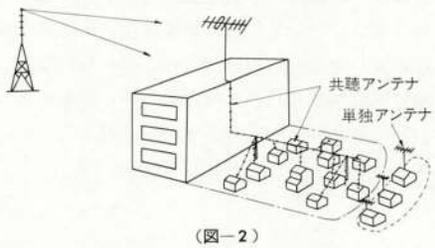
その対策については，良好な電波が受かる地点に「テレビアンテナ」を移設すれば改善されるが，その方法は次の2通りある。

(1)　共聴アンテナ方式

障害発生地域近くの"良好な電波が受かる地点"に親アンテナを立て，そこから各戸へ有線で電波を分配し，一括して改善する方法。

(2)　単独アンテナ方式

障害が軽微な場合には，「アンテナ」の位置・高さ・向きを変えたり，素子数（アンテナの横棒）の多い高性能「アンテナ」と取り替えるとか，場合によっては，「アンテナ」を2個所以上に立て，切り替えて受信するようにして，各戸ごとに改善する方法。



（図－2）

(3)　対策工事費について

○共聴アンテナの場合
1戸当り　10,000～25,000円

○単独アンテナの場合
1戸当り　5,000～10,000円

○一集団ならして　1戸当り約18,000円前後となっている。

4.　電波障害者の対象範囲決定について

(1)　改善対策の範囲の決定については，一口にいってまことに困難であるが図－1・図－2に示すごとく道路端から道路高さHの3～5倍の距離の範囲が，電波感度測定受信機器の感度品位の評価基準方法により下記の通りの評点評価によって大体判定される。

評点　1.……受信不能と認められるもの。

評点　2.……ガマン限界，妨害がひどすぎるもの。

評点－3.……許容限界外，専門的にみて受認限界外。

評点＋3.……許容限界内，妨害はあるが，専門的にみて許容できる。

評点　4.……検知限界，専門技術的にみて妨害があると認められるが，気にならない。

評点　5.……専門技術的にみて，妨害がないと認められるもの

(2)　上記の受認限度または許容限界については，だれが，何によって決めるのかという問題であるが，損害賠償である以上，当然，受認の範囲を決めなければならない。そこで専門家である第三者のN・H・K，近畿電波受信障害防止協議会，電波監理局，電力会社等に依頼し，その専門的技術資料と指導によって一応判定することができる。しかし，被害者の方々に，これを納得して戴くことはなかなか大変なことである。というのは，被害者個人個人の私見があり，また実際視憩感度の個人差および心理的な影響もあるであろうから。

5.　施設の財産帰属および維持管理について

施設の財産帰属については，単独アンテナの場合は問題とならないが，共聴「アンテナ」の場合には，「アンテナ」・「ポール」引込線・分配器等について，その帰属が問題であり，またこれらの維持管理も問題になってくるが，補償施設として被害者に引渡す以上，慎重かつ後日に紛争の起こらぬよう，万全の措置を講ずる必要がある。そのため，その地域で選定された代表者に引渡す場合，これらの点を一切責任をもって，やって貰うよう，連名の確約書または請書を取る方針である。

6.　法から見た場合の公害責任について

(1)　公法上から見た場合について

「テレビ」公害については，公害対策基本法には，前述の通り7項目の中には入っていないという点，一体テレビ受信権という権利が有るのか，無いのか，基本法制定の昭和42年には，交通騒音，日照妨害，電波公害，道路の照明に

よる被害等は非常に議論となったが，これらを結局，基本法に入れなかったという説。また一方ではいやそうではないのだ，公害を例の「積極的妨害」と「消極的妨害」とに分けると，「基本法の」第2条では，

「事業活動その他の人の活動に伴って生ずる，相当範囲に渡り，しかも人の健康または生活環境にかかる被害が生ずるものであり，その公害の分類としては，汚濁，騒音，振動，沈下，悪臭等の7項目」が列挙されているが，その内の相当範囲に渡り云々の中に，電波，テレビ公害，日照妨害等が入っているのだという説。

すなわち，汚染・汚濁・騒音・振動・沈下・悪臭・粉塵等……積極的妨害，テレビ電波妨害，日照妨害等……消極的妨害等々，種々の論説があって，確たる判例も無いのが現状である。

(2) 私法上から見た場合について

私法である民法上では，不法行為論で糾明処理すべきなのか，あるいは相隣関係法より検討すべきなのか，そこで，東大加藤教授の公害紛争の法的処理という論文によると，

損害賠償の請求は，不法行為を理由として民法709条の「故意または過失に因りて他人の権利を侵害したる者はこれに因りて生じたる損害を賠償する責に任ず」という規定に基づいて行なわれるといわれている。

◎テレビ公害……「故意・過失→人権侵害」→賠償責任の方程式に当てはまるかどうかという問題。すなわち違法性の有無としての条件およびその判定基準として，

(イ) 故意／過失＼人権侵害

(ロ) 工業地域，商業地域，住居地域。

(ハ) どの程度の技術，費用，努力で被害を防止できるか。

(ニ) 先住者か後住者か

以上(イ)…(ニ)の総合判断で判定される由。

また公法的規制に関連して，そこで定められた基準を守っていれば，私法上の損害賠償を免れるかどうかという問題がある。しかし，これは理論的には別の問題とされており，公法が私法に優先しない判例が最近日照権問題でも，二，三の事例ができている。以上のように法的には確たる判例はないが，前述のように，過去においてすでに各公的企業体が法律上はともかく，「企業の社会的責任において善処」されているのが実状である。

7. 今後の問題点について

(1) 各企業者だけがおのおの単独で企業責任を負うことが，正しいかどうかという問題

私はこの問題について疑問を持つものである。例えば，東京都においては，概して，かかる「テレビ」公害は発生していないこと。その原因は，次の通りである。

(イ) 「テレビ」塔が，都市の中心部にあること。

(ロ) 「テレビ」電波が大阪より強力であること。

上記について，大阪も東京と同じ施策ができないのか，この点N・H・Kに対して企業責任をせまったのであるが，当分できないとの返事であった。その理由として「テレビ」塔の位置の変更は各民家の「テレビ・アンテナ」の方向変えのため，数億の金が入用とのこと。また「テレビ」電波を強くすると，現在新聞報道関係，警察，通信関係，タクシー無線関係等の通信が不能となり，N・H・Kとしては電波管理局の統制下にあり，単独ではできないとのことであった。しかし，これはおかしいと思う。東京も大阪も都市再開発事情は同じ条件であり，電波行政がバラバラという感じがする。

(2) 行政機関で処理すべき問題について

上述の問題については，知事の公害紛争処理機関で解決すべきではないか。

その問題点として

(イ) 電波管理局が将来電波行政の正しい改善施策を行なうべきこと。

(ロ) N・H・Kも視聴者より料金をとっている以上社会的責任はまぬがれないのであるから，各企業者と，N・H・Kとの間でなんらかの比率で改善費（アンテナ工事費）を分担すべきではなかろうか。特に今後の問題としては，高層建造物施工に当って，テレビ電波障害防止上，その設計，施工の面に改善の方法を検討せねばならないが，N・H・Kとしても，将来有線化問題がからんでいるとはいえ，その改善施策を急速にとるべき責任があると思うものである。

□ 日照基準をめぐる諸問題

塚本正司（住宅公団大阪支所）
社本孝夫（　〃　）

1 建設省住宅局では6月に都道府県知事あてに「既成市街地等における高層公営住宅に対する日照条件等の環境基準について」という通達を発し高層公営都市住宅への日照1時間基準を打ちだした。おりから職住接近，都市再開発等の高密都市住宅開発の必要。公害問題，公園・上下水道等都市公共基幹施設の不足等生活環境水準の低下。容積率規定，日照権等の建築・都市法体系の改変および権利問題などが顕在化している昨今，都市居住空間の開発と計画に直接・間接に影響をもつこのような規定が一般化されようとすることは種々な問題を提起するものと思われる。そこでこれまでの日照にかかわる諸問題を整理して，とくに市街地における公共高層住宅計画の課題を考えてみたい。

2 日照の問題は三つの観点から整理することができる。その1は，日照と住宅が備える性能とのかかわりの上で成立するもので，日照に対する建築計画や意匠設計のあり方や効果の問題である。住宅への日照は住宅の性能とは一応別に，いわゆる住環境に基づくところの居住性のファクターであるから，日照の問題を建築(物)の範囲だけで論ずることはできないが，建築基準法ではその29条で"住宅は敷地の周囲の状況によって止むを得ない場合を除く外，その1以上の居室の開口部が日照を受けることができるものでなければならない"とし，30条では"地階における住宅居室を禁止"している。住宅性能としてのいわゆる採光面積の規定は法28条および施行令19条・20条に各種居室の床面積に対する開口面積の割合と隣地あるいは対向隣接建築物への水平および垂直距離による有効面積の算定方法を基準として示している。

しかしながら，ここに提示される住宅の日照とは，環境的に十分な日照が保障されていることが前提となっている点を注意しなければならない。どんなに好ましくとレテラスハウスもサンルームも中庭ももともと日照のないところでは計画・設計しようがない。逆に，各住宅が基準法にのっとった十分な日照権確保を意図するなら住環境も保持されるはずだという論も成りたちそうであるが，そうした法通念は今日の都市環境や郊外スプロール住居地域にみるごとく，残念ながら一般的ではない。ところで，日照なるものは居住性や居住生活上の人体や生活行動への影響というべき点での根拠が明らかでない。日照時間というよりはむしろ日射量として把える方が住環境基準もしくは住性能にとって定量的であるという考え方もこの点に依拠している。住宅公団の設計指針においても日照2時間というとき，午前10～12時の日射量に相当する日照時間を基準とするというコメントもある。よく設計担当者の間で住宅性能を論じて，"住宅にとって日照は必要だろうか。今日，日照は設備的な配慮で代行できる。"と言ったりする。しかしこれを，採光や照明と混同した論であって，採光や照明は日照とは無関係に備えなければならない住宅性能である。としても，人間の生存と生活にとってどれだけ陽光があればよいかという話は，どれだけ空気が必要かという話に似て確固たる実証がない。この点を看過して日照時間理論の最低基準だけが先行てしまうのは，基準の意図そのものが居住性や住環境の整備以外のものであることを示している。

3 日照問題のもつ意味は，個々の住宅の居住性のほかに全体としての居住性，住環境整備あるいは住宅地計画の観点でより大きな問題を含んでいると思われる。すでにこれまで住宅公団の市街地高層住宅団地（再開発市街地住宅）では，南北軸住棟配置(11階H・31m程度)を採用し"冬至2時間日照"を基準としてきた。(団地住宅では中層5階建H・13.8m，南面平行配置で隣棟間隔25m冬至4時間日照が一般的）今回の通達は公営市街地高層住宅に対してであるが，公団の南北軸2時間日照を対比的に例証すれば，一般市街地住宅，再開発市街地住宅の建設方針あるいは設計指針として，"住戸の日照は居住室・台所兼食事室およびサンルームの開口部下端における日照時間を算定するものとし，その算定にあたっては開口部との交角が15°以下となる日射は含めないものとする。なお西向住戸については日照調整を考慮するもの

とする。”という内規に基づいてきた。要するに，窓面に陽の当たる時間を日照時間とし，窓面に対して15°以下の角度で射し込む日射は算定しないという意味である。問題の何時間とするかはここには表現されていないが，原則として冬至2時間である。これによれば南北軸住棟では中廊下型式を例にとれば東向住戸は午前9時〜11時。西向き住戸では午後1時〜3時において窓面が日影とならねばよい。その間において規定時間を確保できない場合は午前8時30分から午後3時30分までの日照を有効範囲として考えることになっている。

すでに述べたように時間規定の根拠の問題は据え置くものとして，住宅公団ではこれまで団地住宅および面開発において多くの実績を積んできた。とくに日照理論がこれまで団地計画のプランニングに与えた影響は，隣棟間隔の確保を通じて住環境としての開放性，プライバシー，通風，屋外騒音の処理，アクセスのバリエーション，園地，植栽等土地利用計画，火炎延焼防止などのオープンスペースの論理として団地を一定の居住水準に保つことに貢献してきた。日照理論はオープンスペースを生み，住棟配置のバリエーションの技術的な説得の論理である。プライバシーとかアーバニティとか景観論とかコミュニティ論などのさまざまな概念手法の中にあって，日影線図で示しうるという事実においてももっとも実具的なフィジカルプランニングの手法である。

しかしながら，団地計画において日照理論（最低基準としての4時間日照）が安易に平行配置とかその若干の変形としてしかあらわれないとき，本来的な生活空間の創造の見地からのオープンスペースの論理やコミュニティの概念はない。団地のあの連続した画一的平行配置は，5階建中層住棟で4時間日照，隣棟間隔25mを単純に固定して，もっとも効率よく戸数消化のできる土地利用の結果である。その漠とした画一的空間構成を排して，それを打破する上での最大の障害はとりもなおさず日照理論であるかのごとき論も聞かれる。しかし，それを非難する前に本来的な生活空間の創造における日照理論の重大さを考えてみなければならない。

土地の高度利用の名のもとに4時間日照あるいは2時間日照を1時間日照にするというものならば，住戸において奪われた日照の代償としてのオープンスペースやテラスが集約的な形で十二分に必要である。イギリスの British Standard code of Practice によれば“1年のうち2〜11月の10カ月以上，1日少なくとも1時間，地平線から5度以上，窓面に対して22.5°以上の角度の入射光線”という日本よりさらに低い基準となっているが，そこには集合化された形で豊かな中庭や広場や公園が必ずある。

以上のように，日照基準の変更は新しい建築空間や屋外空間の論理ともなり土地利用経済主義の最大の救いともなる。それだけにこの表裏一体の問題を総合的に体系づける計画理論が必要ではないだろうか。

4 その3は日照権問題に象徴されるような都市および生活環境における日照の問題である。住宅地計画も新しい住生活環境の体系であるが，とくに既成市街地における環境秩序の更新や破壊の相互的な問題として最近認識されている。その意味では騒音，振動，煤塵，排気ガス等人間の基本的な生存と権利をおびやかす公害問題と同列というよう。すでに日照権問題として次のような事例をあげることができる。

○昭和42年：（東京地裁）基準法違反の2階増築により日照・通風を奪われた被害者へ20万円の慰謝料支払命令。

○43年：（福岡地裁）基準法適法の5階建ビルによる日照妨害に対し50万円の慰謝料判決。

○44年：（大阪地裁岸和田支部）市立小学校の3階建校舎（H・12.3m）による日照妨害につき3階以上の建築中止仮処分命令。市が住民との約束を無視したことによる差止請求権の発生。

○44年：（大阪地裁）7階建マンションに対し6階以上の工事中止仮処分命令。

○44年：（西宮市）既成住居地域におけるマンション建築に対し計画変更命令と建築協定。

ここにみられる問題点は，

○基準法に準拠さえしておれば何を建ててもよいか。

○慰謝料の問題か工事変更あるいは差止請求権か。（権利の範囲）

○日照通風等は単に自然事実的な既得の恩恵か，すべての人に公平に配分されるべき共同の資源か。

などである。今回の1時間日照論は直接的にこのあたりの問題を法的に規定するものではないが，判例以上の材料として一方的な日照権の切捨ての根拠となりはしないかという危惧も生ずる。避けられない都市の膨張は，宅地造成，工場進出等，都市空間の創造プロセスというよりは自然破壊，文化財破壊の公然の事実として現象し，またその自然環境保全も“新全総”などでは観光開発の手段として述べられているにすぎないという現状にたつとき，今日の都市開発は相反する価値基準のもとでの相剋であると言うことができる。都市計画および都市再開発は人権と市民の意志を尊重し，常に文化・公共施設や公園を伴いながら都市的欠陥を除去し地域を更新させるものでなければならない。今後，公営・公団を問わず民間においても市街地高層住宅が大規模に開発され，2時間あるいは1時間日照の基準のもとに都市生活環境が造りだされてゆくとき，単に高密で効率的であるとか，空間造形的に面白いとかいう判断からではなく，人間中心主義に立ちその創造者よりも長い都市の寿命と歴史に貢献する豊かな環境づくりでなければならないと思うのである。

□ 京間と江戸間

安田誠一（安田レールKK）

大正12年の東京大震災の時，関西から畳や建具を救援した。ところが京間と江戸間の違いで役に立たなかったニガイ経験がある。古来よりの風習で，統一することは話題にもならなかった。近頃は関西でも江戸間の建築が応々見られるようになり，その上公団間もできた。しかも一種でないと聞く。プレハブ建築に至っては，会社ごとに寸法が違うとのこと。いずれも大量発注されるので，メーカーも無条件で応じるのであるが，実に無駄なことである。このほか名古屋地方に中京間がある。狭い日本に四種も五種も建築寸法があるとは，全くもって不経済極まりないことで，無形の損害は甚大である。建材業者の皆さんが，京間，中京間，江戸間，公団間，プレハブ間となやんでいる。なんとかならないものだろうか。少なくとも京間と江戸間の二種に限定してもらいたいと思う。

□ 明治建築土木史年表・関西篇（その41）（自明治11年10月31日〜至11月2日）□

明治

11年10月31日　夜寺島（宗則）外務卿主宰のソハレ（夜会）があり，各国外交官，勅・奏任宮夫妻，御雇外国人が一堂に会した。芝浜の延遼館でこれは後年の鹿鳴館の東南方数百米のあたりである。併し「昨年のとほり」とあり，鹿鳴館の先駆は明治十年からあったらしい。

〃　〃　〃　工部大学校（後東大工学部）の造家学専門生徒小原益知（ほはら）「警視局諸課の結構（構造）」を一覧。彼は「諸方の結構を見て其術を研究」中だった。

〃　〃　〃　長州萩の士族，平民が寄附し，町々より手伝いの人夫を出して，豊栄（ほうえい），野田両神社（共に毛利家の先祖を祭る）の遥拝所を指月（しげつ）山（城山）の麓に完成したとある。人夫の中に「娘幼稚（こども）」も混り，三十人及至五十人づつ群をなし，揃いの衣装で，一に三つ星の旧藩主の定紋を描いた旗を押立て，三味線，太鼓，笛で賑やかに囃したて，沿道の家々が所望すると，浄瑠璃に合わせて京都の砂持踊に似た踊を踊ってみせたとある。

〃　11月1日　北陸。京畿御巡幸帰りの先発の衛兵，横浜へ着く。

〃　〃　〃　堺県下のコソダウ（河内より山城へ抜ける間道）に追剝ぎが出たという新聞記事がある。被害者は河内国交野（かたの）郡尊延寺村の古手買（古着商）平井與三郎（七十三才）。

〃　〃　2日　旧土佐藩主山内侯。土州物産会社を興して土佐の鰹節や木炭を大坂地方に売弘める計画を樹て，旧同藩士四，五名が大坂へ出張し，堀江辺に土蔵三棟，納屋等を物色していると言われる。

〃　〃　〃　「大坂府下内淡路町・松屋町東へ入る所で」品物売買（うりかい）飯屋という新商売を始めた者がある。路銀がなくても品物を飯の代金に取り，値打によっては釣銭まで呉れたので大繁昌という。

（東京都北区神谷2ノ22ノ13　須藤欣二）

□ 来阪したソ連の建築家たちを案内して

ソ連の建築家たちが大阪にやってきた。1970年6月19日のことである。

モスクワ市建築計画総局次長のアレクセヴイッチ・オスメル氏，同第一建設局主任のヤコフ・ポリソヴイッチ・ピエロポルスキー氏，モスクワ市第一設計局局長のアレキサンドル・グリゴリェヴイッチ・ロチェゴフ氏の三人の建築家が，全ソ労組総評議会中央副部長のレオニド・グリゴリェヴイッチ・シリヤエフスキー氏，通訳のマーガレッタさんと一緒に，神戸港からハイヤ2台をやとって大阪の日本建築協会へやってきた。

その数日前に日ソツーリストビューローの知り合いの人から来阪するからと連絡があったが，あってみるといずれも堂々たる風格のある人でソ連ではもちろんトップクラスの建築家と見受けたが，さて，一日で大阪を案内するといっても，ごく限られたものになる。見学希望建物をきいてみると，都市ホテル，オフイスビル，団地，劇場ホール，ショッピングセンターという。そこで訪問先を竹中工務店と大阪府企業局に限定し，あとはホテルやショッピングセンターなどを案内することにした。大阪で第一級の建築事務所である日建や東畑建築事務所も考えたが，時間的に無理で訪問できなかったのは残念だった。

出発のまえに，協会の編集室で，「建築と社会」万博特集号と，発行されたばかりの「架構空間　人間—日本万国博建築写真集」(日本建築祭実行委員会編集) をそれぞれに贈呈したら，大変によろこんでもらった。きけば前日に，ソ連観光団とともども万博を見学したところだということだ。

さて，大阪の中心地である御堂筋の業務地区の建物や，船場センタービルの廻りなどをハイヤーのなかから説明しながら走って，まず御堂ビルの竹中工務店を訪問した。竹中工務店を選んだのは，大阪に本店があること，万博のソ連館を施工したこと，設計部門も日本でトップレベルにあることなどである。竹中工務店の会議室で，小川正氏と種々懇談した。小川氏はさかんに設計と施工とが一貫できる total system の特徴を力説していたが，ソ連建築家もその点はうなづいていたようだ。小川氏の案内で，設計部，開発計画本部，研究本部などをまわったが，ホテルの図面の前では，しばし，ユニットスペースに討論の花が咲いた。

つづいて訪ずれた大阪府企業局では，宅地開発部長がるすで，田中主幹より，千里ニュータウンと泉北ニュータウンの説明をうけた。この団地の話になると，幼稚園施設はどうの，土地代，家賃，コストはどうのこうのと，やたらに質問がでてくる。公営，公団，公庫住宅らが混在しているため，その説明もなかなかむつかしい。果して理解されたかどうか。

つぎにロイヤルホテルに向う。ここで，小川氏の好意でホテルの営繕関係の係員から，客室(シングル，ダブル，特別)，リネン室，展望室，宴会室などを案内してもらった。客室では，結露の話にソ連ではどうか，等々の逆質問のやりとりがあった。彼らはなかなか熱心にみていたが，装飾面のことをかなりほめていた。

ついで新朝日ビルのフェスティバルホールを見学した。この7月1日からレニングラード交響楽団がくるので，そのポスターに，美人通訳マーガレッタさんはしばし見入っていた。きけば，彼女はレニングラード綜合大学東洋学科で日本語を学んだとのことだ。なかなか上手だ。魅力ある通訳だ。

さて，地下ショッピングセンターから朝日新聞ビルをざっとみて，小雨ふるなかを，一路，新御堂筋から千里中央地区センターへ向う。中央センタービルの屋上で折からの雨で，オスメル氏が転んだ。床にぬりたての赤ペイントで服がよごれた。同僚はインディアンだとひやかしていたが，気の毒だった。

1階フロアの舗装タイルについて，タイルや目地の商品名は，タイルの大きさ（深さ）はどの位だ，という質問だったが，とっさにわからなかったので，後で調べて返事した。

千里中央地区センターのショッピングセンターをしばらくぶらぶらして，記念撮影をした。「いままで平行配置ばかりだったのが，この千里ニュータウンの囲み配置は，日本で最初である。もちろんソ連ではあたりまえの配置でしょう」といったら，逆に，ソ連でも，平行配置はあります，という答がかえってきた。まあこれ位の規模では何も驚いてはいなかったのもあたりまえの話かも知れない。

車の中で，交通じゅうたいのことや，都会の空気の汚いのや臭気のことなどを，ちょっぴりもらしていた。あるいは，編集室にきたときの窓に面した淀川のにおいのこともいっているのか知れない。私たちにはもう慢性になってしまったのでこの点気はずかしかったが，それでも住民は青空をとりかえそうと公害反対の運動を少しは起しはじめていると返事してやった。通訳を通じてのことだから，うまく伝わったかどうか心もとないが。

ところで，ロイヤルホテルのロビーでモスクワ市第一設計局のロチェゴフ氏と話をしたときに，数年前に大阪，京都，奈良を案内したビリンキン教授（当時モスクワ建築大学の教授だった）と，ホムトフ氏（ソ連文化省局長）のことをきいたところ，ビリンキン教授のことをよく知っていて，「元気だ，彼は私より10才年上だが。彼の息子も建築家だ」といっていた。目下ある科学技術省関係の要職にあるとのことだ。ホムトフ氏については，「なかなかじようだんをとばす男だが，目下病気療養中だ」と悲しそうにいった。ロチェゴフ氏は，いまフランス語を勉強しているという。フランスの「現代建築」の編集長がソ連建築特集の取材にやってきたときに招待して4日間モスクワを案内した。その代りにフランスへいくためらしい。この話は，私が編集の仕事をしているので，いいだしたのかも知れないが「もしモスクワにくれば歓迎するよ」といってくれた。



1962年に来阪したときのビリンキン氏（左）とホムトフ氏

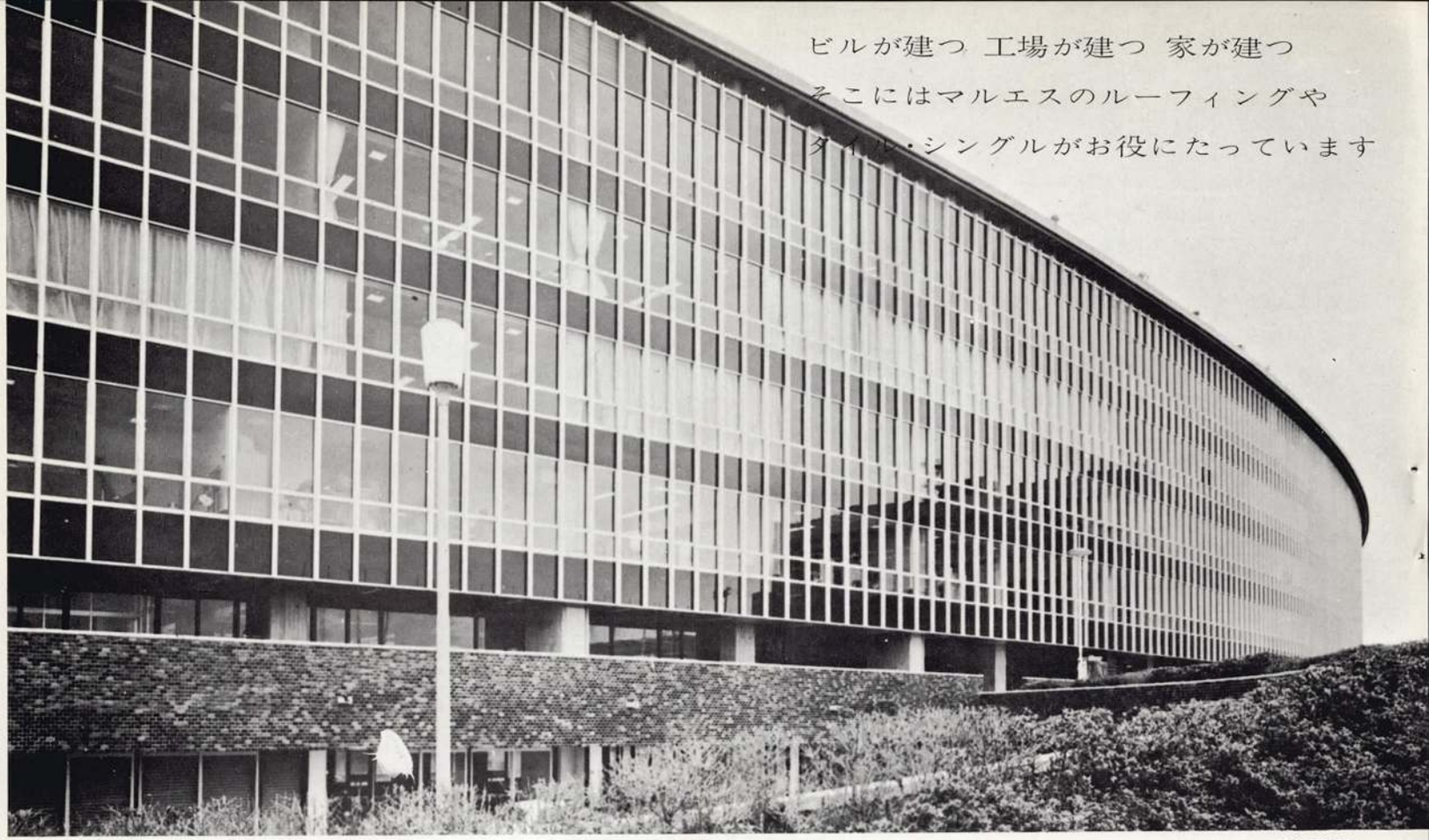
「ビリンキン教授に，彼と親友であった建築家・中村登一は，昨年亡くなったということを伝えてほしい」とたのんだところ，悲しそうな顔をしながら私の名刺に書きとめていた。

千里で別れたときに，ウオッカをくれた。透明の酒で帰ってから飲むと，中国でごちそうになったマオタイ酒の味を思いだした。

（松井昭光）



左から，ピエロポルスキー氏，通訳，シリヤエフスキー氏，オスメル氏，マーガレッタさん，ロチェゴフ氏，筆者——千里中央地区センターにて。1970年6月19日——



ビルが建つ 工場が建つ 家が建つ
そこにはマルエスのルーフィングや
タイル・シングルがお役にたっています

▲渋谷区役所

- ウエルドルーフィング
- SPウエルドルーフィング
- SPビニロンルーフィング
- NS防水（ネオプレン＋ハイパロン）
- NPシート2号（EPT＋ブチル）
- マルエスBPシングル



▼熱海後楽園（メルタン防水）



▲裁判所書記官研修所（NS防水）

マルエス 日新

日新工業株式会社

本　社：東京都足立区千住東2－21－28　TEL（03）882－2424
大阪支店：大阪市西区新町北通1－18　TEL（06）531－5281
営業所：札　幌・山　形・東　京・名古屋・広　島・九　州

建築と社会 ニュース

ニュース原稿をお送りください。

■ ミサワホームプレハブ住宅国際設計競技 '70

ミサワホーム株式会社主催，新建築社後援で次のコンペが行われる。

課題（抜粋）「個人空間」をテーマとしたプレハブのシステム設計

今回の課題は，生活単位が個人にまで分解して行くとすると，そこにはいかなる機能が必要とされ，プレハブ工法によりいかなる形態が考えられるか，またその「個人空間」単位はどのように結合されて人間性に富んだ家族単位を形成し，さらに社会へと有機的に連結して行くか，そうした段階的問題に対してのプレハブによるシステム設計を期待するものである。連結させる段階の範囲，構造形式，使用材料，「個人空間」の規模は各自設定すること。

提出図面
平面図，立面図（2面以上），詳細図，透視図あるいは模型写真（模型は受付けません）。その他必要と思われる図。説明文。以上をＪＩＳ A_1（タテ595mm×ヨコ841mm），2枚におさめること。図面の縮尺，表現の方法（鉛筆・インキング・彩色など），用紙の種類は自由とし，応募作品裏面に住所・氏名(ふりがな)・年令・電話番号および勤務先名・所在地・電話番号を記入した紙を貼付のうえ提出。

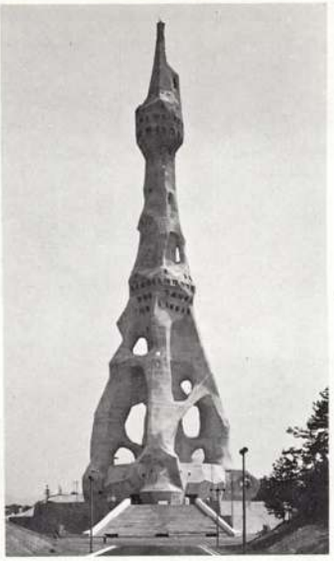
提出先：新建築社内 ミサワホーム・プレハブ 住宅国際設計競技係 東京都文京区湯島2-31-2 〒113 TEL811-7101(代)

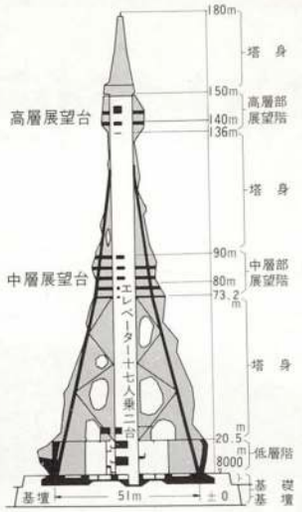
応募締切：昭和45年11月24日

審査委員：池辺陽，芦原義信，井口洋佑，黒川紀章，杉山英男，清家清，ポール・ルドルフ（建築家）

賞金：1等1名100万円，2等1名50万円，3等3名各20万円 佳作若干名，総額30万円，アイディア賞20万円（適宜配分）

発表および表彰式
応募者に通知すると同時に，「新建築」と「ＪＡ＝The Japan Architect」で発表。表彰式は12月中旬。





大平和祈念塔断面図

建築場所
大阪府富田林市大字甘山 289
施主 ＰＬ教団
設計監理 株式会社日建設計 大阪事務所
施工 東急建設株式会社

工事概要
敷地面積 約250,000㎡
構造 基壇擁壁 — 鉄筋コンクリート造，正面階段 — 花こう石張り，床 — アスファルト舗装，塔基礎鉄筋コンクリート造，低層部鉄骨鉄筋コンクリート造，主体軸組，鉄骨構造
床（中層，高層共）U型デッキプレートの上ショットクリート打設
外装 ショットクリート（白色セメント使用）厚70mm
内装 仕上材は原則として不燃材料使用

■ 超宗派万国戦争犠牲者慰霊 "大平和祈念塔"

この塔は有史以来のあらゆる戦争犠牲者の霊を奉祀し，大平和の確立する日の一日も早からんことを祈念して，大阪府富田林市のＰＬ教団大本庁聖域の一角に建造された。

内部は霊を奉祀する神殿が安置され，教団業事用諸室，展望休憩室，湯茶接待所などが設けられている。

平和のモニュメントとして造形されたこの塔は世界でも初めての大彫刻塔で，基壇および広場など周辺の計画も合せ教団の意を体して，その目的の実現に努力されている。

夜間には調光照明により夜空にその純白の全容を仰ぎ見ることができる。

■ 民間資本による大型総合都市再開発大阪ビジネスパーク（OBP）基本構想

住友生命保険（相），東洋工業㈱，松下興産㈱，㈱竹中工務店の4社では，かねてより大阪市東区弁天町地区の敷地約27万平方メートルの総合的な都市再開発構想を計画してきたが，このほど，その基本構想が4社による「ＯＢＰ開発協議会」でまとまり，実現化への第一歩をふみだすことになった。企画グループは竹中工務店開発計画本部，ＫＫ日建設計，槙総合計画事務所である。

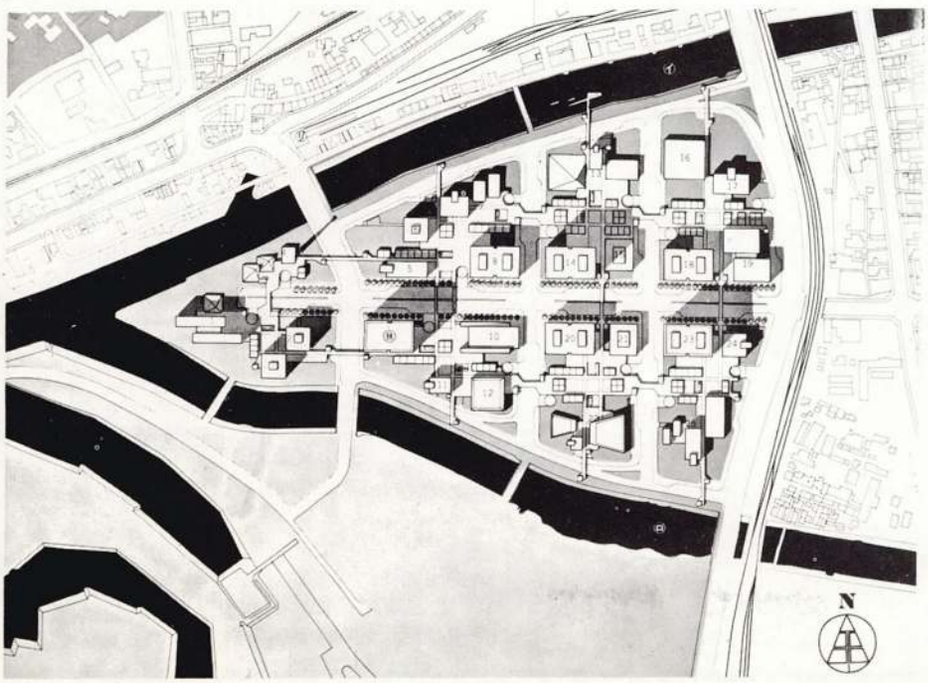
この総合都市再開発構想は「大阪ビジネスパーク（略称ＯＢＰ）」と呼ばれ，民間企業による大規模な都市再開発計画で，ポスト万国博の民間大型プロジェクトの第一弾となる。

ＯＢＰ計画立案にあたっては，業務機能を単なる事務所建築の集合だけでなく，情報交換機能の一端をになうホテル，会議場，展示場などの付随施設を設けること，未来の都市が種々な流行と生活パターンのイメージを発生する空間であるという考えから多様性をもたせている。

開発地区総面積27万平方メートルは7つのスーパーブロック(大規模街区)によって構成し，各ブロックの内部には共用スペースが計画されている。そして，この地区は3種の空間 ①メインストリート沿いに地区のシンボルとしての景観をつくる高層建築群 ②河川に面して低密度で緑に囲まれる外周部 ③歩行者を中心とする共用スペースで構成し，情報産業社会の中枢機能となるオフィス空間と，それを支えるコンピューターセンター，ショールーム，展示場，ホテル，会議場，文化センター，研修所などの施設を計画している。さらに店舗，アミーズメントセンター，デパートなども考えられている。

なお，当計画の開発手法としては，①適正規模のスーパーブロックの採用 ②共用スペースの確保 ③用途別地域の変更 ④特定街区の指定の4つの手法が導入された。

ＯＢＰ開発計画



〔ＯＢＰの開発概要〕

地区総面積	270,000㎡	計画宅地面積	160,000㎡
現在宅地面積	230,000㎡	延床面積	846,000㎡
容積率	400%	昼間人口	延150,000人
駐車場面積	177,000㎡……4,400台		
設備	地域冷暖房，上水道，下水道，遊歩道など		

常温で使えるアスファルトの
フリントコート



屋根防水工事に

世界各地で40年間の実績があり、その安全性には定評があります。

床工事に

セメント、砂、砕石と混合した独特の床で、一例をあげると各地日本専売公社の倉庫の床に採用されております。

■施工特約店

（北）高梨組　札幌（56）3217
陽光建設　仙台（22）6273
東京（268）4929
シエル石油大阪発売所　東京（562）4646
大阪（303）7131
福岡（77）1961
名建商会　名古屋（261）3671
日建工材　福岡（75）7752

シエル石油土木建設部

東京都千代田区霞ケ関3—2—5 TEL（580）0111大代表

SHELL
シエル石油

■ 新建築家技術者集団結成へ

「新建築運動統一準備会」は新しい全国組織をつくろうと，かねて全国の建築関係技術者に呼びかけていた。（このことについては本誌昭和45年3月号の読者の頁欄参照。）その後数回にわたって話し合いがもたれた結果，「新建築技術者集団設立準備会」が結成され，このほど設立趣意書と綱領案がまとめられたので，ここに紹介する。

新建築家技術者集団設立趣意書

かっての近代建築の理念はその権威を失いつつありますが，より高い建築文化の創造をめざす現代建築の理念はいまだ確立されず，建築界はこんとんとした状況を示しています。

「高度経済成長」政策にもとづく空前の建設ブームのなかで，大企業の建築市場の独占化がすすみ，建築行政や建築教育などあらゆる分野への企業支配が強まっています。そして，本来総合的に発展すべき建築にさまざまのひずみやかたよりが生じ，建築家・技術者や建設労働者・住民に苦痛と不安がもたらされています。

建築家・技術者は，技術の「合理化」のために分断され，技術はどうあるべきかという基本理念にもとづいた総合的な見方ができなくなっています。住民の立場にたった計画・建設にうでをふるう場や，技術を深め，建築の質をたかめるための諸条件はせばまってきています。職場や仕事のわくをこえた交流，あるいは経験ゆたかな建築家と後進の間の交流は少なく，技術と理論の継承・発展は不十分といわなければなりません。

都市は醜悪な過密化の一途をたどり，建設災害や公害はひろがり，無数の都市問題が生じています。地方都市さえも，かってみられた美しい環境は消えさろうとし，多くの文化遺産が破壊されています。このように国土の荒廃がすすみ，町や村の姿がはげしく移りかわるなかで，各地の住民は，都市や環境を守り，住みよく豊かにするための運動を起こしつつあります。そして，その運動に建築家や専門技術者の協力を切実に求めています。

このような状況のなかで，全国各地で建築運動をすすめてきた建築家・技術者は数年来交流を深めてきました。そして，すばらしい仕事をしたい，すぐれた伝統と理論を身につけ発展させたい，人間的な生活空間・環境をつくりたい，というさまざまなねがいが，多くの建築家・技術者のなかにうずまいていることを知りました。しかしながら，各地域の活動だけでは大きな社会的な力となることはできません。全国的に統一して結集することが，さらに各地域での運動を発展させることにもなると確信し，新しい方向をきりひらくために，「新建築家技術者集団設立準備会」を結成しました。

建築を社会の発展とつながりのなかでとらえ，生活と技術を全面的に向上させ，勤労者や住民のすべてのねがいと知恵を吸収して，住みよい環境を建設するために，全国的な組織をつくることは，いまや急務となっています。全国の建築関係技術者は，交流を深め，現代建築のただしいありかたをさぐり，技術をすべての人々の生活に役立てるよう真剣に努力し，社会的責任を果すべきだと考えます。そして日本の建築の発展のために巨歩をすすめることのできる条件をつくりだしていこうではありませんか。

すべての建築家・技術者のみなさんに，つぎの目的をもつ「新建築家技術者集団」への参加を心からよびかけます。

（綱領案）

1. 建築を社会の発展とつながりのなかでただしくとらえよう。
2. 国土を荒廃から守り，住民のための住みよい豊かな環境の建設をめざそう。
3. 建築のすぐれた伝統と理論をただしく継承し，その発展と創造につとめよう。
4. 各分野各職場の建築家・技術者の交流をはかり，相互理解を深めて，生活と技術の向上，諸問題の解決につとめよう。
5. さまざまな分野の科学者・技術者，民主的諸運動と連帯し，建設労働者や広範な住民と手をむすぼう。
6. 世界の建築家・技術者との自主平等の交流・連帯をつよめよう。

1970年7月

新建築家技術者集団設立準備会

（連絡先：東京都千代田区内幸町1－3－1幸ビル2階17号－2　新建築技術者集団事務局気付）

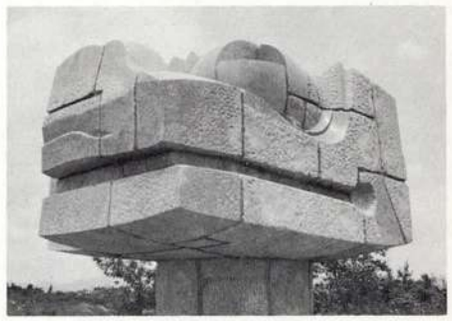
■ 千里ニュータウンの新しい彫刻

千里ニュータウンの開発事業が今年でほぼ完成する。それを記念して，彫刻5点が千里に新しくすえつけられた。3年前にも22体の彫刻が地区センターや公園など，あちこちに設置され，町の環境造りに一役買っている。

あほんだらしし ▶

制作者　流　政之
設置場所　千里中央公園

大きさ約 4.75×3.4×3.25mの石彫，重量約 130トン。北木石，庵治石，徳山石を使用。千里は大阪の鬼門にあたるらしい。厄除けの獅子頭という。夫婦，ひとり者どちらにみえても結構。みていても楽しいが，さわってみれば丹精された石の細かな感触が伝わって愉快になる。

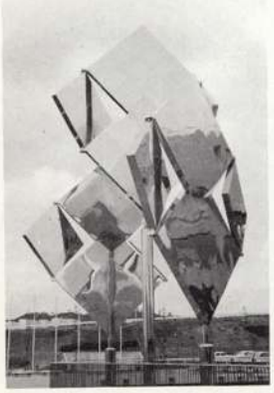


ステンレスの林

制作者　飯田善国
設置場所　中央地区センター

鋼鉄のフレームに鏡面みがきステンレス板2ミリ厚，高さ約15m，巾約12m。

作者のことばの一つに「完全鏡面でない鏡面に映る風景は歪んでおり，この事実は人間の認識の主観性についてのユーモラスな批評である。」がある。鏡面みがきのステンレス板が風に廻転し，歪曲した対面をピカピカ映す。6月5日から6日の台風で支柱（直径10cm）が地上10mの所から東へ傾いた。



風の道

制作者　新宮晋
設置場所　千里北公園

高さ約20m，スチールパイプ製。最上部羽根強化プラスティック製。緑のくさ原が続く丘に，白のパイプと橙々の風車がひときわ目立つ。作者は「四季を通じて私たちの生活にリズムを与えてくれる生き生きとした"自然の使者"を意図した」と語る。



日と風と雨に

制作者　辻晋堂
設置場所　千里南公園

高さ約5m，巾約2m，真鍮5ミリ板製。木食上人にならい，天下和順日月清明を祈念して，この像を創られたという。千里の丘に大陽を浴びて，金色に輝やいている。



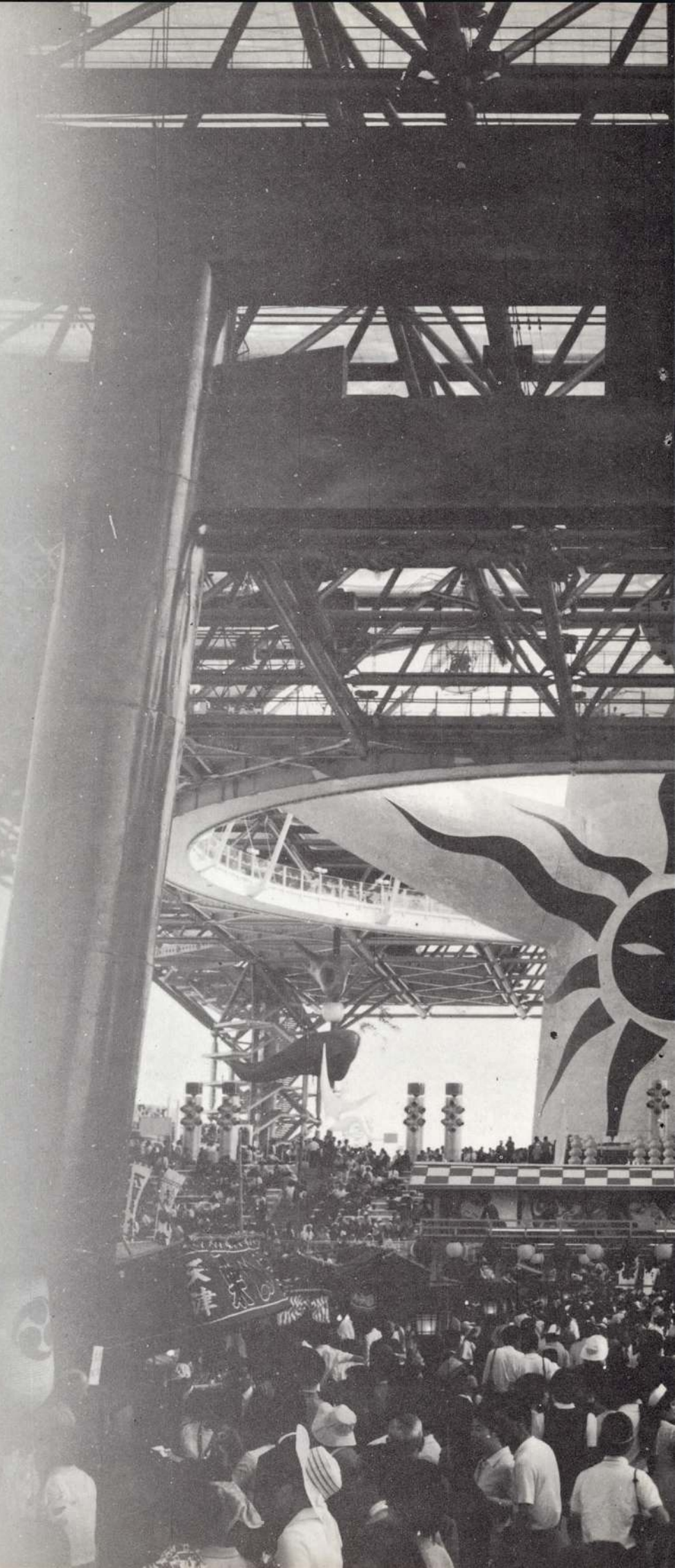
集

制作者　植木茂
設置場所　北地区センター

高さ約7m，ステンレスパイプ製。枝周りは短径2m，長径4m。たくさんの短形のパイプが一つの球と半球の中に集約され，外にのびる集合体となって，はなやかに，建っている。



インタビュー
万博のなかの人



■ I 市役所に勤める青年技術者

●一日見て廻られての印象など、おもいつくままで結構ですから、万博見学の感想を聞かせて下さい。

ぼく実は、工事中に少し関係していたのですが、その時の方が、作業員といろいろ話ができたり、太陽の塔も中からではなく、外面からのぼったりして、おもしろかったですね。今日も40万人ぐらい入ってるらしいけれどこれでも人員オーバーじゃないですかね。入場料 800円も出して、パビリオンに入るのに、1時間も2時間も待たされるんじゃ、ばからしいですよ。そういうパビリオンは敬遠しました。

●誰か知らない人と会話などされましたか。

話をするといっても第一、場所がないんじゃないですか。広場も名前ばかりで、あれは売店中心の広場ですよ。さっきも弁当をもちこんだら出てくれといわれて、なんというか、もうけることばかりの商業主義が露骨で、不愉快でした。文句いってやりましたよ。それから、人と人との交歓といっても、農協の団体などをみていると、そういうことを望むほうが無理ですよ。

●あなたは万博をどう捉えていますか。

万博招致で関西の経済的地盤沈下の回復などといってましたが、やはりなんといっても、70年安保のカムフラージュということが、強く動いているんじゃないですか。

ぼくも設計監理やってるわけですが、技術一辺倒ではだめだとおもいますね。もっと社会との関連性のうえにたって本来の意味での都市再開発を考えるべきですね。都市計画で、調整区域や市街化区域をつくってたとえば水洗便所ひとつにしても、特定のところ以外はやらないといったようなことで、1兆円もの金をかけた万博に来れば、一日か二日は技術革新の最先端に触れられるが、毎日の生活にもどれば文化的どころか、水洗便所ひとつないというようなことですね。文化的生活の日常的向上ということからいえば、その方が先決ではないかとおもいますね。

まあ、ぼくも学校出たての頃は、職場でも不満が一ぱいあって、いろいろ意見を出したりしましたが、先輩や同僚の大半は「なにを言うてんねん」という態度でねえ。



■万博会場内警備員

●会場内で働く従業員としてあなたがみられた万博について、会場施設のこと、見物客のマナー、あなたの勤務に関することなどを聞かせて下さい。

仕事は雑踏整理のようなものですが、設備で困るのは雨が降ったときの水はけの便が悪いことですね。客のマナーについては、動く歩道で歩かないで下さいといっても、農協など団体の人は言うことをきいてくれないので精神的にも疲れます。パビリオンの道順とか、食事はどこがおいしいかとか聞かれるんですが、地図ぐらいは、用意してきてほしいです。万博協会の委託で警備会社は5社ほど入ってるようで約2000人の警備員がいますが、そのなかには私のような学生アルバイトもかなりいます。隔日制の24時間勤務で、うち4時間の仮眠がありますが、会社によって雇用条件もまちまちで、私は本給38000円で、東京からきたので食事も3食とも自腹ですから、割に合わない仕事ですよ。

■ソ連館女子従業員（Aさん）
エキスポランド男子従業員（B君）

（A） 私達のことは、新聞にも出ましたが、直接雇用者はソ連館ではなくて、S輸送機なんですが、夏季一時金の要求で、リボンをつけたところ1時間ぐらいで、ソ連館から追い出されて、一時はどうしようかとおもいました。

正直いって、3月に入ったときは、アジアではじめての万国博だからということで、これを成功させるためにお手伝いさせてもらうという、バラ色の夢を描いていたのですが、毎日、事故を起こさぬようにという緊張の連続で最近は、家に帰ったら、ぐったりします。それに私達は外国パビリオンの中では日給1600円で一番低いらしいんです。

（B） それは間接雇用制ということで、他のパビリオンにもあることですがここは商社、建設会社、下請というように企業の中間搾取がはなはだしいわけです。資本家のお祭りということではなく、我々の要求獲得で労働者全体もレベルアップしていくというようになればとおもいます。また、多少の賃上げでは、万博による物価値上りを考えるとすぐには喜べないですしね。

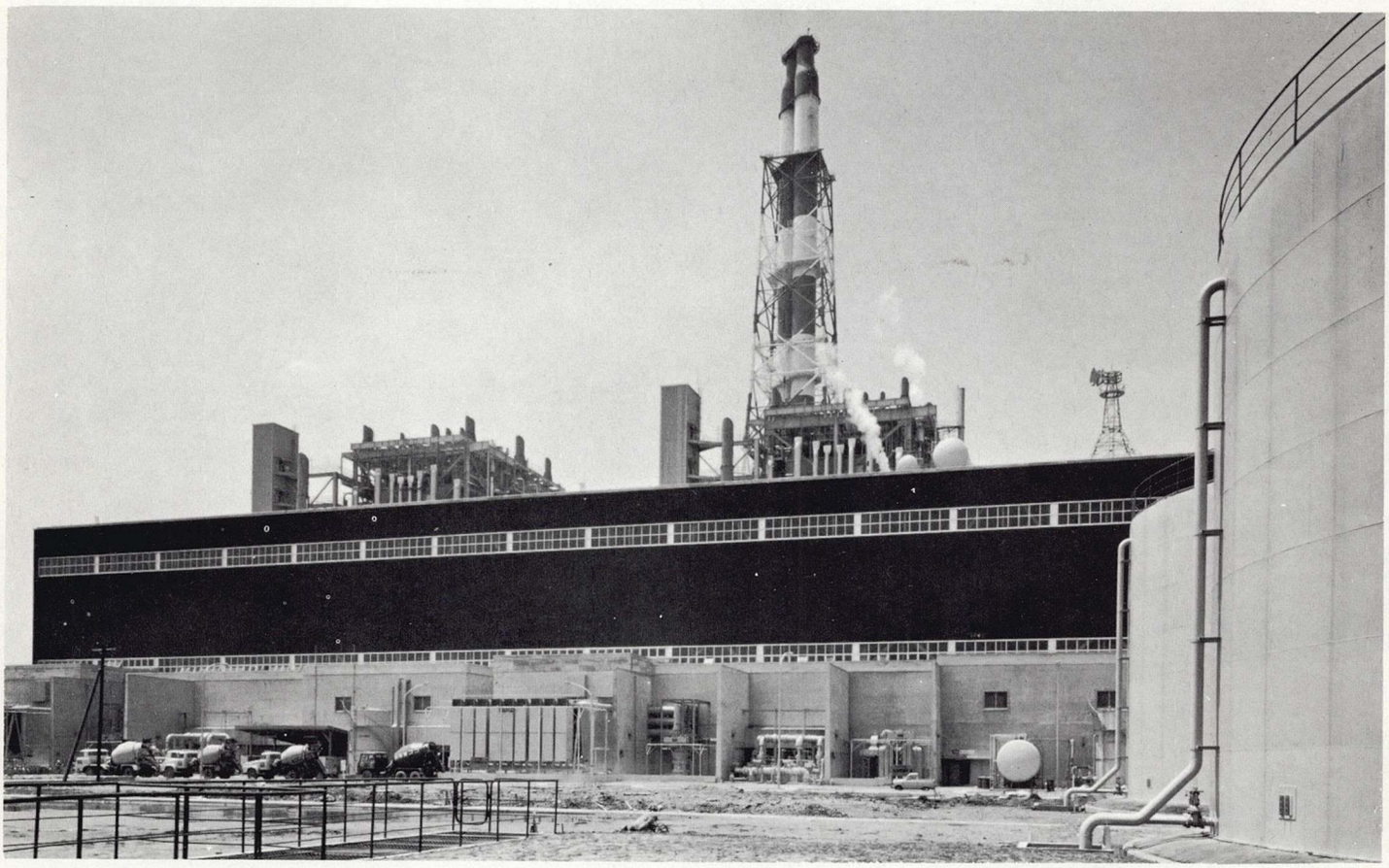
（A） 私達18人の女性はほとんどが学校を出たばかりで、働くのもはじめてですし、労働組合のこともよくわからなかったのですが、こんどの団結を通じて、今までにない人間的な触れあいを知ることができたようにおもいます。

人と人との交流ということは、皆が、フランクな気持になっているはずだから、もっと簡単に友達になれそうにおもうのですが、それがないのですね。国民性でしょうか。お祭り広場にしても垣がつくってある感じですが、いっそ芝生にして、音楽でも流して、誰でも入っていける雰囲気にしたら、自然にお祭りになるんじゃないですか。

すぐれた居住性を創造する

軽量気泡コンクリート

シポレックス



海南発電所
設計　㈱新日本技術コンサルタント
施工　鹿島建設株式会社
使用場所　屋根、カベ(外壁)

軽　　量（比重 0.5コンクリート¼の重量）

断　　熱（コンクリートの１０倍の断熱性）

耐　　火（法　定　耐　火　材　料）

◆シポレックスは工場、住宅から超高層ビルまで
あらゆる建物の屋根・床・壁・間仕切・耐火被
覆に使用されますが次の建物には特に最適です

1　工期短縮を要するすべての建物
2　空調を要する工場・倉庫事務所住宅等
3　鉄骨大張間の工場・体育館等
4　軽量化を要する高層建築物・軟弱地盤の建物
5　鉄骨耐火構造の建物

SIPOREX

シポレックス販売株式会社

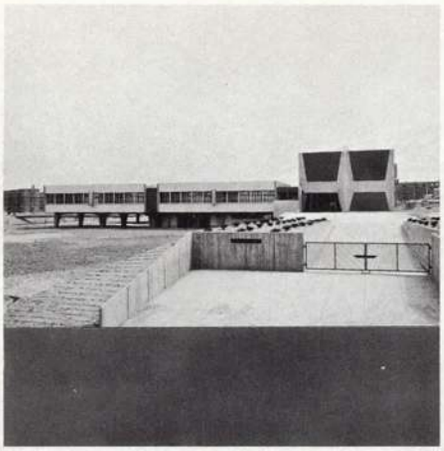
本　　社　東京都千代田区岩本町２ノ１ノ16(森川ビル)
　　電話　東　京（861）代　表　７　２　４　１
大阪支店　大阪市西区立売堀北通１－90(第三富士ビル)
　　電話　大　阪（538）代　表　０　５　２　１
名古屋支店　名古屋市中村区広小路西通３ノ２(大商ビル)
　　電話　名古屋（581）代　表　７　４　２　１

□ 写真と概要をどしどしお送りください。
凡例：a．所在地　b．建築面積　c．延面積　d．構造規模　e．工　期



568.　神戸常盤短期大学附属幼稚園

設計：KK　明和工務店
施工：KK　明和工務店
a．神戸市長田区大谷町2丁目13番地
b．363.136m²
c．757.733m²
d．RC造、2F
e．昭和44年10月～昭和45年3月



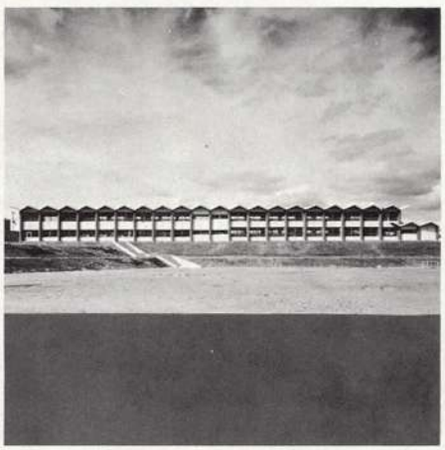
569.　吹田市立青山台小学校　校舎

設計：KK　日新建築設計事務所
施工：栗本建設工業、小林工務店
a．吹田市青山台2丁目5番地
c．6,395m²
d．RC造
e．昭和42年6月～昭和45年3月



570.　平安女学院高等学校　校舎

設計：富家建築事務所
施工：ミラノエ務店
a．京都市上京区下立売通烏丸西入ル武衛陣町
b．691.27m²
c．4,148.31m²
d．RC造、B1、5F
e．昭和44年8月～昭和45年3月



571.　吹田市立古江台小学校　校舎

設計：KK　日新建築設計事務所
施工：盛工務店、小林工務店、三木組
a．吹田市古江台
c．5,752m²
d．RC造、2F
e．昭和42年6月～昭和45年3月



572.　近畿学園　校舎

設計：電々公社
施工：安藤建設KK
a．大阪市都島区東野田町4丁目
b．7,298.29m²
c．21,539.24m²
d．RC造、B1、3F・6F
e．昭和44年4月～昭和45年5月



573.　大阪大学　体育館

設計：真壁建築設計事務所
施工：安藤建設KK
a．豊中市待兼山町1番1号
b．1,668.496m²
c．3,413.395m²
d．RC造、3F
e．昭和44年9月～昭和45年4月



574.　神戸大学教育学部附属住吉中学校体育館

設計：神戸大学事務局
施工：島藤建設工業KK 大阪支店
a．神戸市東灘区住吉町赤塚山
b．695.6m²
c．695.6m²
d．S造、1F
e．昭和44年9月～昭和45年2月



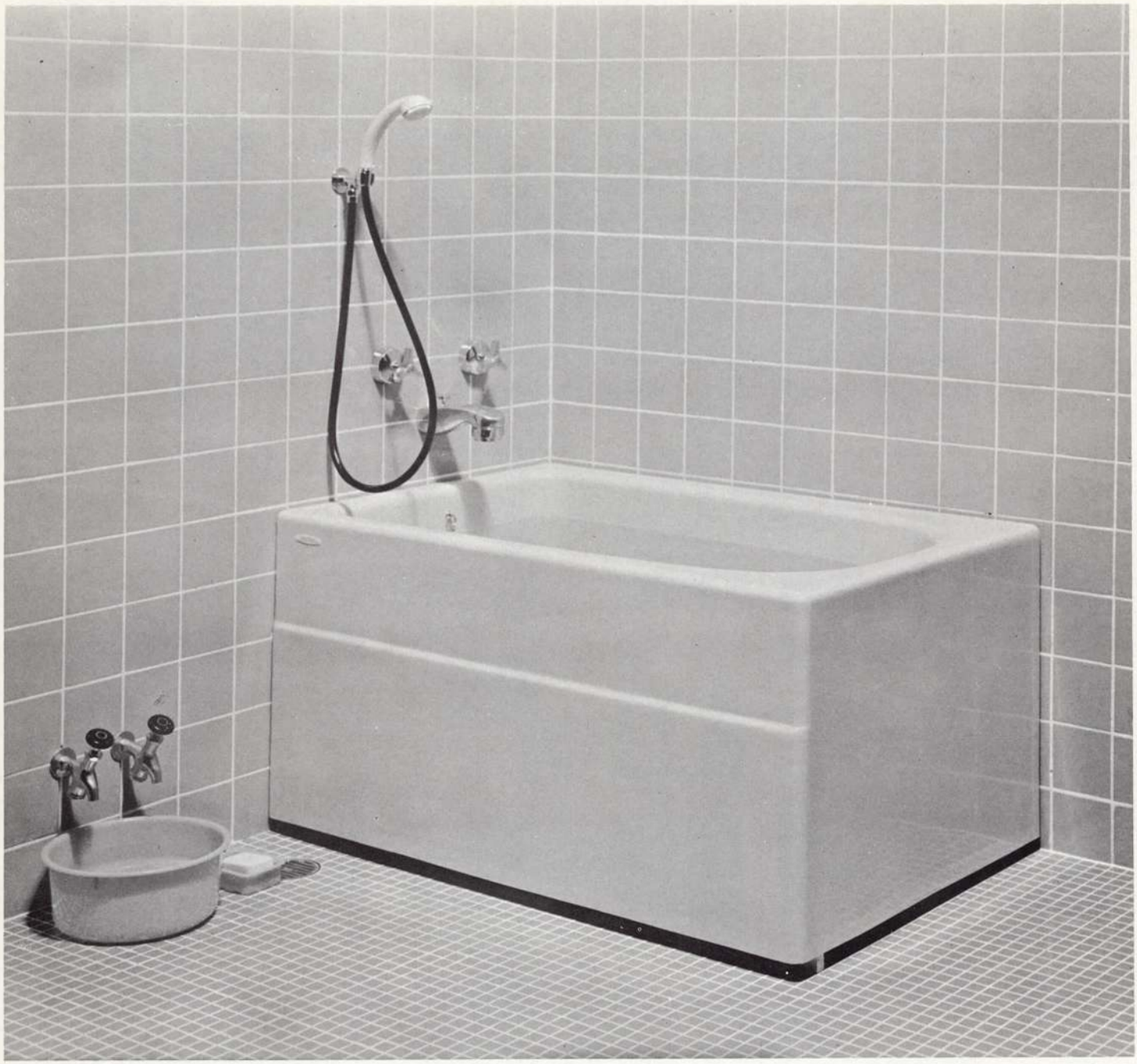
575.　大阪府立吹田高校　体育館

設計：大阪府建築部
施工：島藤建設工業KK 大阪支店
a．吹田市原町4－24－14
b．1,169m²
c．2,083m²
d．RC造、S造、2F
屋根シポレックス
e．昭和44年6月～昭和45年2月
特徴：1階、道場
2階、その他の体育施設



576.　大阪市立明治小学校　講堂

設計：大阪市建築局
KK 竹内建築事務所
施工：岩出建設KK
a．大阪市西区阿波座通3－1－12
b．681.42m²
c．1,108.90m²
d．SRC造、2F（一部3F）
e．昭和44年10月～昭和45年3月



和風と洋風の持味をプラスしたポリバス=P1801

P1801は、洋風バスのゆったりと足を伸ばしてくつろげる寸法と、和風バスのたっぷりと首までつかれる深さを生かした、和洋折中タイプのポリバスです。材質は丈夫さと保温力に定評のあるFRP。美しいピンク・ブルー・グリーン・ライトブルー、4色がそろっています。

埋込工事のいらない据置タイプの利点として、工事費が安上りな点も見のがせないポイント。給湯式・外釜式・BF釜いずれのセットも可能にしました。日本で最初にFRP浴槽を開発した東陶機器が、これからの浴室におすすめする、新しい自信作です。

TOTO

東陶

東陶機器株式会社
(旧社名　東洋陶器株式会社)

本　社　北九州市小倉区篠崎町458
TEL　(093)－93－5151　〒802
大阪営業所　大阪市東区高麗橋5の32
TEL　(06)－203－5701　〒541



後列左から：浦辺鎮太郎　高橋慶夫　遠藤省一　坂本秀雄　石橋逢吉
前列左から：藤井左内　佐々木米太郎　宮川久三　西山卯三　（敬称略）
京都 嵐山 吉兆にて　1970年6月15日

クラスメート

63　〔京都大学　昭和8年卒〕

十一会、昭和8年京都大学卒業生のクラス。京大建築学科の第11回卒業生だというので無雑作に卒業の折にきめた会名である。実は在学中dezamという団体をつくって活動をしていたクラスである。厳密にいうと昭和8年卒業でない人も数名いる。デザム結成が1930年6月だから、かぞえると40年目。大学を出ればそれぞれの職場で活動をするべきだと卒業の際解散し、改名した。

卒業30周年の時、老いさきもみじかくなったので5年目にやろうという話になったが、つい間のびして7年目になった。10周年、20周年は会員在住の重心をとって箱根でやったが、30周年と今回は故郷の京都にかえって嵯峨野の吉兆で。嵐山を正面にみる新緑はひときわ美しいが、残念ながらふりつゞく梅雨で庭にはでられない。

40年の歳月で会員も大分欠けた。青年建築家クラブの提案者・荒木正巳、デザイナーの貴宝院隆、芸術家肌の和田登、新海悟郎、建築生産史を手がけた鈴木義孝、音楽家の竹内成夫……いまの医術なら生きておれそうな病没や戦死・交通事故死などでなくなったデザム時代の理論家・芸術家・実務家などの追憶談に花がさいた。学生時代に蟇股の社会学で一同をまくしたて、いまは名古屋で繊維関係の仕事をしている伏原五郎君が体の不調で参加できなかっただけで、残りの9名全員があつまった。ほとんど還暦の線をこして、まだ潑剌として仕事をしているが、長年あゆんだコースから転身したり、しようとしている時期でもある。

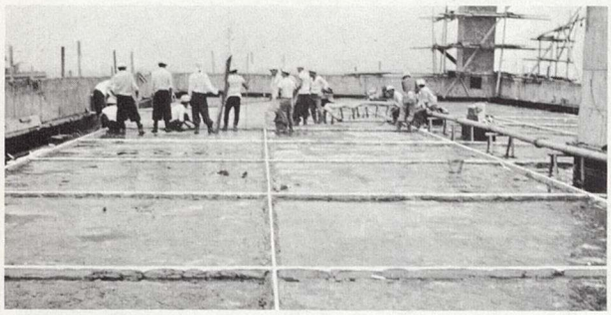
宮川久三君は明治38年生れの最年長もその筈、3年上からおちてきた。戦後満州から引きあげて文部省施設関係の仕事をするかたわら教壇にたち、現在は米子工専の先生。西陣には古い家がのこっているが、反骨高い京都人の一典型。**佐々木米太郎君**は同じく京都人だが温和な風貌の今一つの典型、ずっと京都をはなれず市につとめ、住宅局長を最後に役人をやめて現在公成建設ＫＫ取締役。**藤井左内君**は鹿児島人の重厚さでデザム時代は執行委員長、建築に熱意をもやして入学したのに卒業後は仙台の工芸指導所など工芸畑をあるき、通産省産業工芸試験所々長を2年前にやめて今は飛弾産業ＫＫの参与で悠々自適。悠々といえば**坂本秀雄君**。フランス語をやり小柄で学生時代からおちついていたが、卒業以来ずっと松村組で活躍して先年専務を退職、そのあとは一同がうらやむ悠然たる自適の生活、8㍉にこって超プロ級ときく。**遠藤省一君**は岡山高梁の産。「制服の処女」と綽名された純情家で戦前は陸軍畑にいたが、戦後姫路市に帰って建設局長をつとめ、現在は近畿大学教授、時々家にかえるが呉で単身ぐらし。**石橋逢吉君**は長崎の産、山本健吉氏の弟といえばとおるといわれて本人はくさるが文人の一家、学生時代は演劇活動、三たび大陸で軍務についたが命を全うして帰還後は住宅政策の第一線にたち、神奈川県住宅（供給）公社に入って現在最長老の理事。**浦辺鎮太郎**君は倉敷の産で六高応援団長、デザインの凝り屋であったが今は知る人ぞ知る浦辺建築事務所長、**高橋慶夫君**はひょうひょうとしているが生粋の大阪人でデザム時代から構造学の専門家、大阪建築事務所社長。久しぶりで浦辺君の正調下津井節、高橋君の初代春団治の落語をきいたが、この2人がいまのところわがクラスで一番「たより」になる人である。かく申す幹事は当日数々のヘマを重ねたが大阪生れで京都の方が長くなった京大の先生。同じく明治生れだが会員の中で最も若く、停年までまだ3年数ケ月という**西山卯三**である。

（西山記）

防水層の保護と軽量、断熱に

共栄のパーライトコンクリート PC－D工法

（歩行用及び防水下地用）



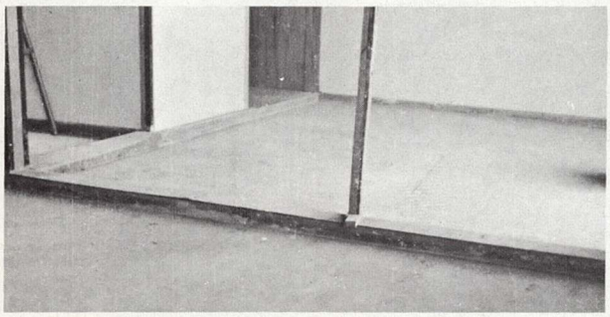
共栄パーライトコンクリートＰＣ－Ｄ工法採用の京都工芸繊維大学
（設計　教育施設研究所、施工　ＫＫ大林組）

作業が一工程省け工期の短縮とコストが安くなる合理化工法

- 防水層の押えに使用し仕上モルタルの要らない金ゴテ一パツ仕上工法
- デッキプレートの軽量化や露出防水下地、または貼物下地にナラシモルタルの要らない金ゴテ一パツ仕上工法

畳下地の省力化と塩ビ系タイル下地の防湿、防温、軽量化、断熱（結露防止）に

共栄のパーライトモルタル PM－C工法



共栄パーライトモルタルＰＭ－Ｃ（普通タタミ下地）採用
の住友電工西島社宅（設計施工　ＫＫ竹中工務店）

- タタミ下地の床組（大工仕事）が全く要らないので**工期短縮とコストが安くなる**
- 床組しないので建物の**ボリュームの節約ができる**
- 無機質 100％絶対耐火それに多孔性材料のため吸温、遮音に優れている
- **独立気泡**の共栄パーライトと**防水液を使用した完全防水パーライトモルタル**であるため、湿気を全く透さない

比重・断熱共木材並１：３

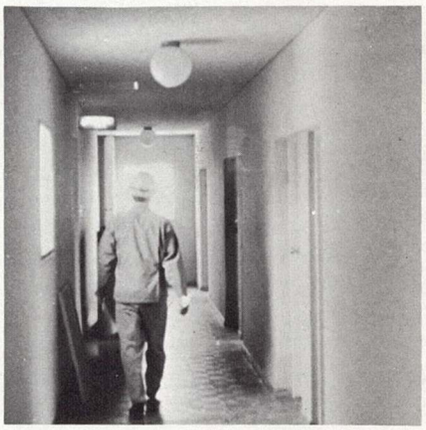
（比重0.85kg／ℓ、熱伝導率0.14kcal／mhc）

遂に出た…ベニヤ仮枠コンクリート下地の**かべ**、天井の一パツ吹付仕上工法

ネオパールスキン®

化粧、吸音、防湿、断熱（結露防止）と多目的用に

- ベニヤ仮枠コンクリート下地（天井及びかべ）に直接吹付して剝離の心配がない
- **かべ面は金ゴテ押え**すれば聚洛壁タイプの表面強度のあるソフトでデラックスなムードである（ネオパールスキンの特徴）
- 一工程で仕上るので**工期の短縮とコストが安くなる**
- 下地はボード類、鉄板類、石綿板、モルタルなど何んでもよい
- 標準色20色と特別色もできる



ネオパールスキンをベニヤ仮枠コンクリート下地の天井（吹放し）壁（金ゴテ押え仕上）採用の西宮トラピスト修道院
（設計　村野森建築事務所、施工　ＫＫ竹中工務店）

共栄パーライト販売株式会社
大阪市東区森之宮西の町５９４　TEL代表(941)9243

けんちくの眼

巽　和夫
京都大学教授・工博

一ノ瀬周太郎
兵庫県北摂開発局長

富安秀雄
市浦都市開発建築コンサルタンツ

中村博幸
乃村工藝社展示部次長

〔本号より十二月号まで上記四氏で担当〕

●建築技術のクローズ化

建築技術の特許件数が飛躍的に増加している。かっては、土木建築部門はわずか3人の審査官でこと足りていたのに、今日では50数人をもってしてもまだ不足気味で、申請しても審査までに2～3年は待たされるという。建築技術の開発テンポの速さはまことに目を見張らせる。だが、これは額面通りに受取ってよいものだろうか。技術開発が活発化したのももちろん確かではあるが、それとともに、開発された技術がすぐ特許に保護を求める傾向が強まっているフシがみられるのである。

もともと建築技術はオープンな性格を備えていた。技術は一般に公開されており、利用は自由で特別の費用は不要であった。技術の適用範囲は広くて一般的であった。建築生産が設計と施工に分離されており、しかも設計が優先性とイニシアティブを持ち、施工はこれに従う形であったため、施工者に独自の技術が育たなかったのがひとつの理由である。本格的な研究は大学か官公立の研究所で進められていたし、非系統的には個別プロジェクトの開発的設計を通じて行なわれてきたといえる。

今日、事情は大幅に変ってきている。設計者も施工者も、自社独自の技術開発にはすこぶる熱心であり、大建設会社は大きな研究部門をかかえてもいる。民間企業による技術開発は特許化または非公開の方向に進んでいる。建築技術はクローズ化の道を歩みつつある。　（Tat）

●あみどり

庭にいるからにわとりだろうと思っていたが、近ごろのにわとりは全くのあみどりになってしまった。ふ化したときから網の上で育ち、成長して卵を産むようになっても網の上、一生を終ってやきとりになるときもまた網の上という皮肉な運命である。

仕事の関係でよく田舎まわりをする。車の中から新しい住宅市街地の将来像を描きながら地勢地形をながめることが主な用務である筈なのに、一軒家があると目はひとりでにその庭さきにはしる。ほんものののにわとりを探しているのである。期待はいつもうらぎられて、いるのはやはりうすよごれたあみどりである。それでも、この前やっと2羽だけ見つけ出すことができた。茶色のよく肥ったのが庭さきで餌をついばんでいたのである。車は瞬間にその前を通り過ぎてしまった。しかし、そのときのほのぼのとした気持がいまだに忘れきれない。

人間性の復活がさけばれるようになった。うれしい傾向である。人間性と合理性はややもすれば相反するものを要求するかもしれない。その調和が非常にむつかしくなっていきそうである。　（Ich）

●チーム・ワーク

都市計画は、その作業のほとんどが、チーム・ワークである。大勢で仕事をするのは、なかなかむつかしい。さまざまな能力をもつ人や、タイプの異なる人々が、ある目標に向いて力を合せるわけで、チーム・ワークがうまくいけば計画の半ばは、成功したようなものである。そこで、気の弱い人には、皆がその人に発言しやすい機会を考え、我の強い人は、自らつとめて控え目に、仕事に不馴れな人には解りやすく説明するなど、皆がチーム・ワークを考える必要がある。いわばチーム・ワークのルールである。長い間、共同作業をしていると、何とか、やれるようになってくる。最も困難なのは、チームがある方向に動いている時に、問題が起り、その方向を大きく変えるときである。チームを構成する一人一人の差異がたちまちあらわれ、混乱する。多くの人は、保守的で、本能的にそれまでの方向を維持しようとする。そこをうまくまとめて、新しい方向に動きだす。新しい秩序が生まれる。チームはこうしたことの繰返しの中で成長する。　（Tom）

●都市のお色気（2）

都会のビルの屋上や外壁のいたるところに無統制なまでの広告看板やネオンサインの氾濫、空地の板塀や電柱など、猫の額ほどのスペースが少しでもあれば、蟻のごとく低俗なるポスター、貼紙が競うようにしてベタベタ古いポスターの上へ無秩序に貼りつけてあるのをみるにおよんで、まさに姥桜の厚化粧以外なにものでもないように思え、むしろ不快感さえおぼえる。車が走り、人が歩くのに不可欠な交通サイン、地名サインの存在が判別しにくく事故の誘引や混乱をまねいたりしかねない。だいいち都市美観の点からも大いに問題があるように思える昨今だが、まじめに本質を追求し、広告の使命を充分果しながら都市空間に見事に調和している例が一部では見られるが、やはり総体的にみて無秩序、無制限で野放しの状態が続きそうで残念でならない。

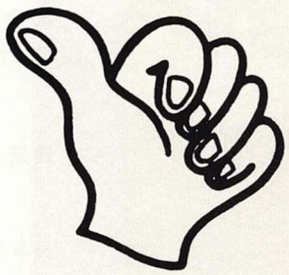
お色気と厚化粧とでは本質的に異なることで、根底からにじみでたほのぼのとした良さ（本質的に思考された良さ）が人間の心をとらえ、社会のサイクルを正常に保つ大きな原動力となっていることは事実で、至難だと思うが、そういった管理、監督等、行政指導のできる機関が確立されることを望む。これからの都市づくり、都市再開発に緻密な計画性と創造性を駆使し、官民一体となってその実現に向かっていくことが賢明だと思う。　（Nak）



完全責任施工　年限保証

日本アスのアスファルト防水

■シグマートによるウエルドシステム防水工法
■特殊絶縁防水工法（特許出願中）
■メルタン防水工法



50年の実績が生んだ防水

シグマート・SPウエルドルーフィング

■全国に配置された組合員の強力な連繋で完全な施工工事をお受けいたします

地区別	会社名	電話
北海道地区	日本スレート株式会社	札幌 23－7511代
	日新建工㈱札幌出張所	札幌 22－5015
東北地区	信栄工事㈱仙台出張所	仙台 23－1735
	日新建工㈱仙台支店	仙台 25－5431代
関東地区	伊藤建材株式会社	東京 842－1431代
	春日工業株式会社	東京 802－3871代
	金岡工業株式会社	東京 363－4341代
	木下工業株式会社	東京 634－0821代
	協立工業株式会社	東京 433－1961
	日新建工株式会社	東京 803－2411
	日本綜合防水株式会社	東京 403－0171代
	野口工材株式会社	東京 444－3531代
	鶏田工業株式会社	東京 263－4861代
	藤井工業株式会社	東京 941－0271
	富士工材株式会社	東京 634－0161代
	藤瀝青興業株式会社	東京 362－5697代
	北条瀝青工業株式会社	東京 551－2676
	マサル瀝青工業株式会社	東京 842－6311代
	大和工業株式会社	東京 802－4751代
	瀝青建材株式会社	東京 861-2706～8
	石田建材工業株式会社	高崎 22-3301～3
	同和建業株式会社	新潟 45－2251代
	株式会社奈良屋商店	水戸 31－0171代
北陸地区	石橋建材株式会社	福井 23－0775
	有限会社折橋政次郎商店	高岡 22－0999
	有限会社小島工業所	高岡 23－0391
	島屋建設株式会社	金沢 42－5151

地区別	会社名	電話
東海地区	協和建材工業株式会社	清水 2－2221代
	中央建材工業株式会社	名古屋 251－3541代
	東京建材工業株式会社	名古屋 411－6621
	日本建材鋼業株式会社	名古屋 571-5541～4
	株式会社三井工業所	静岡 85-9151～3
	宮崎建材	名古屋 331－1531代
近畿地区	清水興業株式会社	大阪 372-0250～3
	棚田建材有限会社	神戸 22－9182代
	中村瀝青工業株式会社	神戸 34－5884
	日新工材株式会社	大阪 541-3785～6
	フタバ興業株式会社	大阪 458-7431～3
	マサル瀝青工業㈱大阪営業所	大阪 313－3817代
	マルエス工業株式会社	大阪 458-4841～3
	日新建工㈱大阪出張所	大阪 538－1621
	日本綜合防水㈱大阪支店	大阪 329－1023代
中国地区	株式会社三洋技建	大竹 2－5155代
	東中国防水工業有限会社	岡山 23－1181代
	豊永建材株式会社	広島 61-6371～3
	大和工業㈱広島出張所	広島 71－4687
四国地区	大三工業株式会社	高松 51-6811～5
	大三工業㈱高知支店	高知 83－1786
	徳島大三工業株式会社	徳島 54－4161代
	株式会社マルマス河野商店	今治 2－5000代
	株式会社山本商会	松山 31-6261～3
九州地区	安藤工事株式会社	福岡 28-5207～9
	株式会社北原建材商会	鹿児島 3-9395～6
	株式会社　工材社	北九州 38-1468～9
	株式会社大二商会	宮崎 4－1625
	日建工材株式会社	福岡 74－3548
	日新興業株式会社	延岡 2-4305～6

■建設省東計第240号認可

日本アスファルト防水工業協同組合

東京都足立区千住東２－21－28 日新工業株式会社内　電話（882）２４２４（代）
関東支部　東京都足立区千住東2-21-28 日新工業株式会社内　電話（882）２４２４（代）
関西支部　大阪市西区新町北通１－18日新工業株式会社大阪支店内　電話(531)5281～3
九州支部　福岡市大手門１－６　日新工業株式会社九州出張所内　電話（74）３４６１

建築と社会

The Architectural Association of Japan

特集：建築家の課題と責任

1970年 Vol. 51 8

会　告　サントリーウィスキー山崎工場の見学会・関西電力喜撰山（揚水）発電所の見学と平等院の拝観・立川ブラインド工場と多賀大社彦根城の見学会・青年技術者のみなさまへ …… 5

法令コーナー　36. 建築基準法の改正について……大阪府建築部　片田　俊彦… 7

読者の頁　高層建造物と「テレビ」公害について（加藤雄三郎）・日照基準をめぐる諸問題（塚本正司・社本孝夫）・京間と江戸間（安田誠一）・明治建築土木史年表41(須藤欣二）・来阪したソ連の建築家たちを案内して（松井昭光） …… 8

建築と社会ニュース　ミサワホームプレハブ住宅国際設計競技'70・超宗派万国戦争犠牲者慰霊"大平和祈念塔"・民間資本による大型総合開発大阪ビジネスパーク（OBP）基本構想・新建築家技術者集団結成へ・千里ニュータウンの新しい彫刻…… 13

日本万国博ニュース　16. 万博のなかの人…… 16

スケッチブック　最近竣工した新建築9点（№568～576） …… 19

クラスメート　63. 京都大学　昭和8年卒…… 21
（西山夘三，高橋慶夫，佐々木米太郎，浦辺鎮太郎ほか　5名）

建築の眼　担当：巽和夫（建築技術のクローズ化）一ノ瀬周太郎（あみどり）富安秀雄（チーム・ワーク）中村博幸（都市のお色気2） …… 23

海外写真　イタリアファンタジア　2. VISTA（モンテカブール）……写真と文・吉井　孝治… 27

作品作風　志摩マリンランド水族館・海洋館…… 設計　大阪建築事務所… 28
施工　清水建設㈱
神戸ポートターミナルビル…… 設計　㈱日建設計… 30
施工　清水建設㈱
公立学校共済組合大山保養所ますみず荘…… 設計　安井建築設計事務所… 34
施工　西松建設㈱

特集 ＝＝ 建築家の課題と責任

座談会　テーマ：建築領域の拡がりと変化・組織と個人・施主との関係・社会的発言と連帯組織・プロフェッショナルとしての立場・マンパワーと設計組織・教育界のなかで…… 38

出席者（順不同）
鳥田家弘・塚本正司・藤沢　隆・近藤　繁・小島　孜・橋本健治・三村浩史
室崎益輝・福田晴虔・平内祥央・安田　孝・垂水英司・松井昭光

アンケート結果

取材建築家氏名（順不同）
椚座正信・今西祥郎・片田俊彦・青樹英次・山田俊満・萩野益司・光安義光
岡橋作太郎・薬袋公明・佐野正一・山本純孝・西沢文隆・太田隆信・富安秀雄
藤田邦昭・横尾義貫・西村一朗・栗原嘉一郎・山中　孔

生活と空間の原理　—京の町内 11.……U　D　O… 57

日本万国博跡地開発計画 10.……TEAM　BARK… 67

戦後の建築運動史　1　第Ⅶ章　新しい建築運動をめざして……松井昭光・垂水英司… 69

技術の頁　96. 技術部門　土質用語の解説 ……中堀　和英… 77

月報　日本建築協会月間の動き（昭和45年度6月分） …… 79

編集人　松井昭光
印刷　昭和45年8月20日
発行　昭和45年8月25日
発行人　福中定三郎
発行所　(社)日本建築協会
大阪市東区北浜3—37
電 大阪231—9648
振替口座 大阪39975

印刷者　網野　栄
印刷所　(株)研文社
大阪市北区堂山町66
電 大阪361—2091
売価　1部　300円・送料共

表紙デザイン：表紙デザイン小委員会 & 山元清重

KENTIKU TO SHAKAI No. 8 Vol. 51, August 1970

(Architecture and Society)

A Journal of "The Architectural Association of Japan"

Cover design: K. Yamamoto

Editor: *Akimitsu Matsui*
Publisher: *Teisaburo Fukunaka*
Published by
The Architectural Association of Japan.
37, 3-chome, Kitahama, Higashi-ku, Osaka, Japan
Price: *single copy price* ¥300

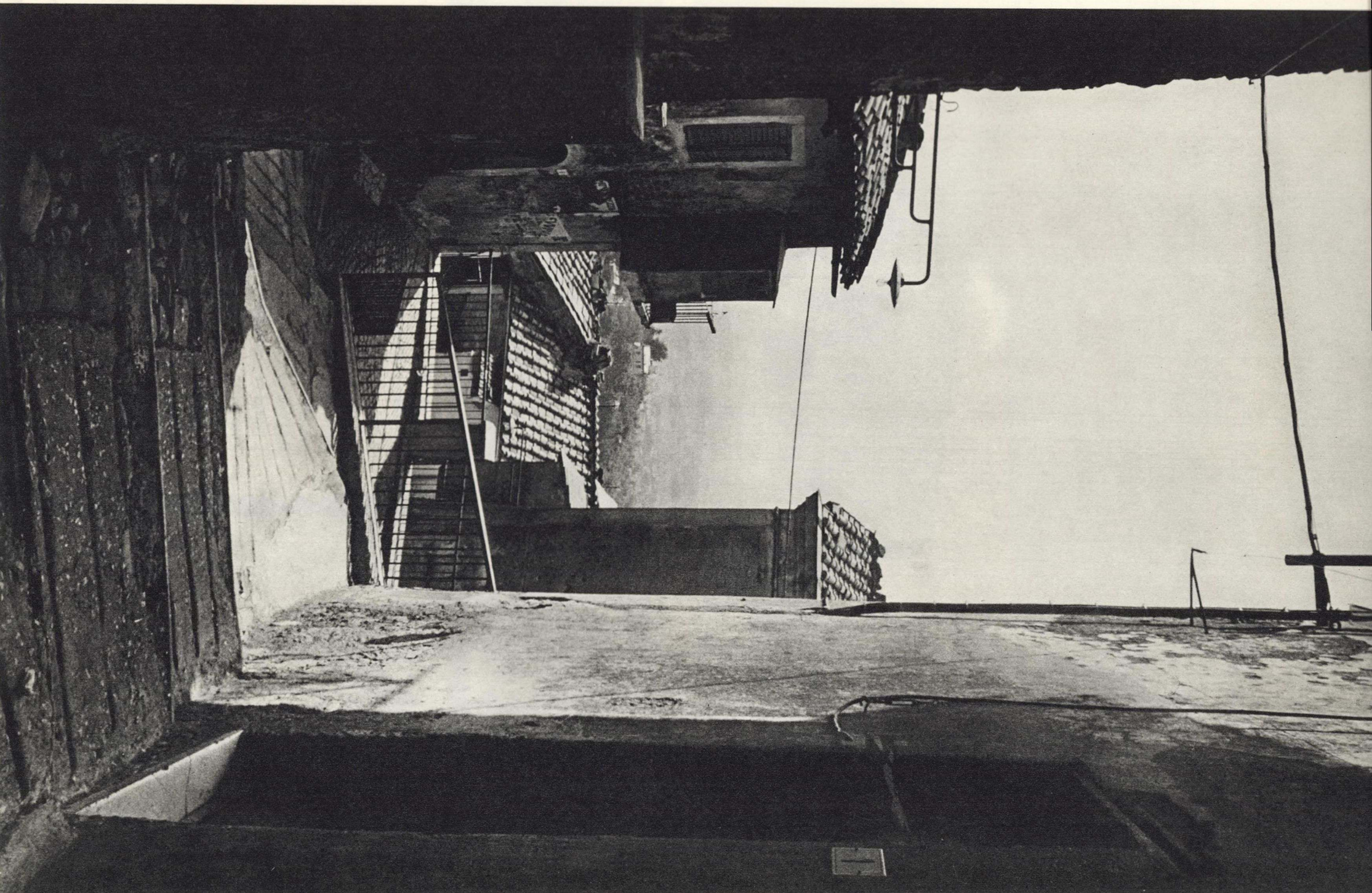
CONTENTS

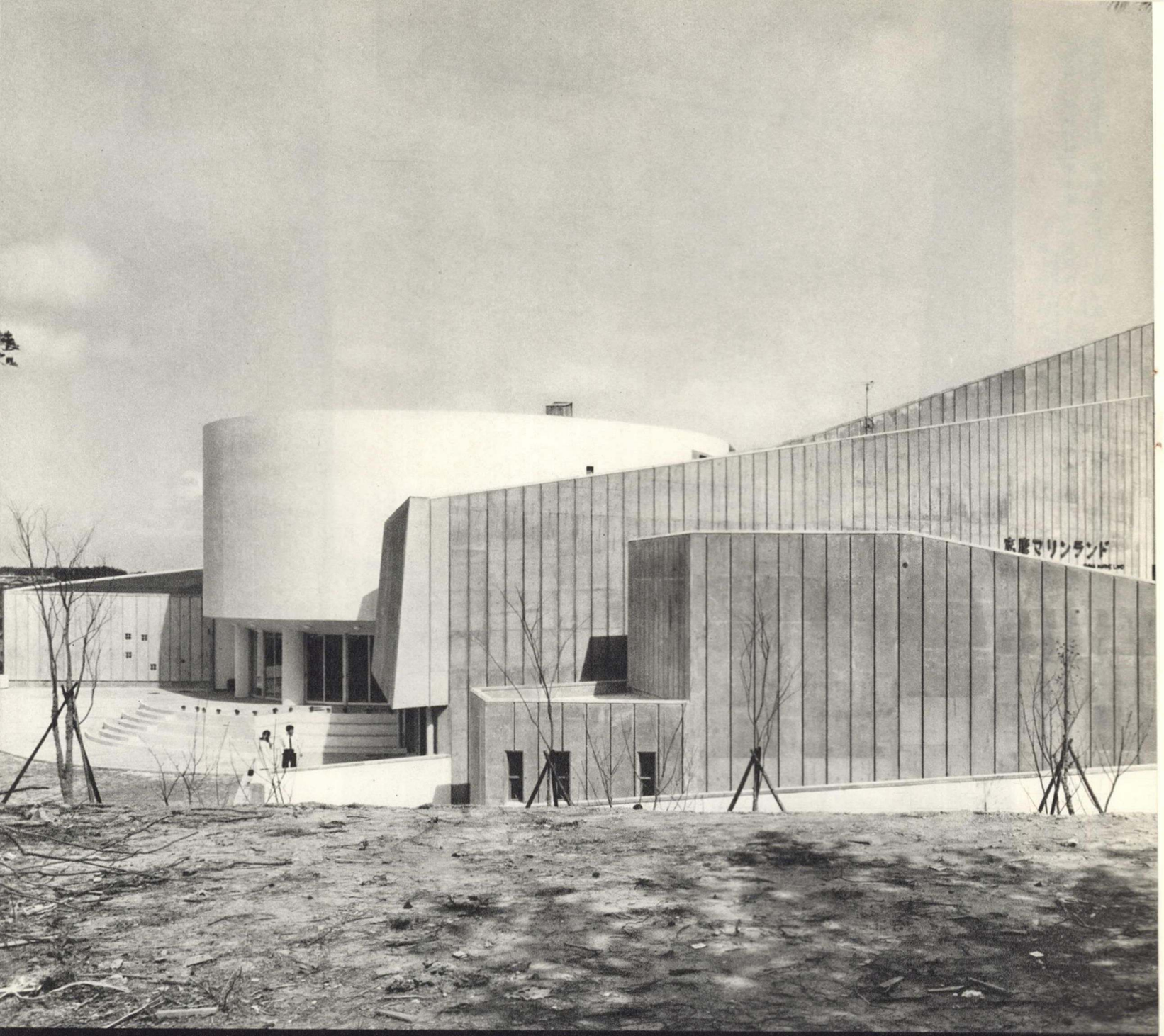
Column for Laws & Ordinances about Architecture	7	
Column for Readers	8	
News for Architecture and Society	13	
EXPO '70 Architectural News	16	
Column of New Buildings	19	
Class-mates	21	
Essayes ("Kentiku no Me")	23	by *Kazuo Tatumi, Shutaro Ichinose, Hideo Tomiyasu, & Hiroyuki Nakamura*
Photograph: Italia Fantasia—Vista (Monte Cavour)	27	Photo: *Takaji Yoshii*
WORKS OF NEW ARCHITECTURE ASSESSED		
Shima Marine Land Aquarium	28	Design: Osaka Architectural Office Construction: Shimizu Construction Co., LTD.
Kobe Port Terminal	30	Design: Nikken Sekkei LTD. Construction: Shimizu Construction Co., LTD.
Public School Mutural Relief of Daisen Cottage "Masumizu Sou"	34	Design: Yasui Architectural Office. Construction: Nishimatsu Construction Co., LTD.
SPECIAL FEATURES ON FUNCTIONS OF ARCHITECT AND ITS RESPONSIBILITY & OBLIGATION		
Symposium	38	
Opinionaire		
A Design Survey in Kyoto (1)	57	by *U D O*
Redevelopment of EXPO '70 Site 10	67	by *TEAM BARK*
History of Postwar Architects and Engineers Movement — 1 —	69	by *A.Matsui & E.Tarumi*
COLUMN OF ENGINEERING		
96. The Explanation of Technical Terms in Soil Mechanics.	77	by *K.Nakabori*
BULLETIN	5, 79	

海外写真 *ITALIA FANTASIA* Andante ma non troppo

写真と文　吉井孝治

VISTA（モンテ・カブール）：坂道の切れ目から見える平野は、太陽の下で白くひかり、遠くローマにつながる。静かな午后のイタリアは、赤い月からきたオリエントの人をしばし幻想の世界にとらえて離さない。プロント（もしもし）pronto！プロント！耳をそばだてる。ポコ（少し）poco a poco・ア・ポコ、人声が聞えて我をとり戻すと、69年の5月は時をきざみ始めた。アローラ（さて）allora、アンディヤーモ（出かけるか）andiamo!!





志摩マリンランド
水族館・海洋館

施主　近畿日本鉄道ＫＫ
設計　㈱大阪建築事務所
監理　近畿日本鉄道ＫＫ
　　㈱大阪建築事務所
水族館設備設計
　　㈱斉藤省三商店
施工　清水建設㈱名古屋支店
　　㈱斉藤省三商店
　　近畿工業ＫＫ
　　㈱白展
　　近鉄興業ＫＫ造園部

設計にあたって：海洋およびそこに住む生物に関する人類の知識は近年著しく増大し、海洋資源の開発も日ごとに進歩している。しかしこれらの技術開発はその緒についたばかりで、目ざましい発達は社会の中に海洋科学の普及、理解があってこそ期待されるものである。志摩マリンランドは海洋知識の啓発を目的に企画された。施設は逐次増加されるが、今期工事完成の段階では、水産動物飼育と、海洋資源開発の展示を２つの柱として計画された。

全体は古代生物アンモナイトの形態をとり、志摩という特殊な地形にマッチさせるとともに将来の開発のランドマークとして表現されている。内部は従来の暗く、陰湿な水族館のイメージを極力さけ、自然光を随所にとり入れ、明るい光のファンタジーをテーマにした。

平面的には、巨大なオーバーハングにカスケードと池を配し、観客を導き、海洋館から個水槽へと動線のつながりをもたせてある。

建物の構成は回遊水槽を中心に個水槽を半円周上に配し１階分スロープダウンさせながら、観客の視線を苑地と、美しい志摩の海に展開し自然と一体となったドラマチックな構成になっている。また外観上はなだらかな山に対し鋭角と方向性の異る壁面によりまとめている。

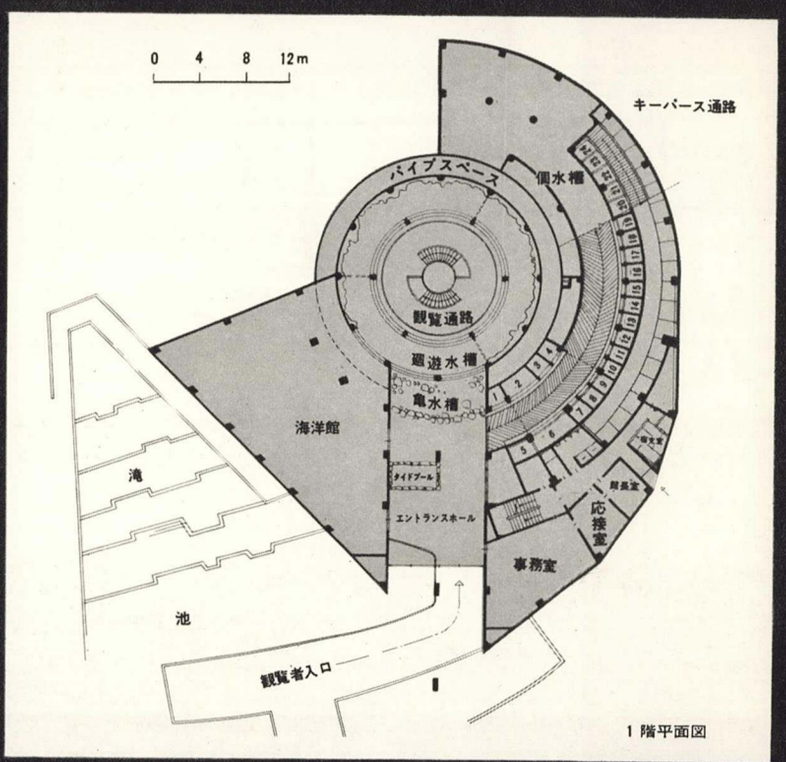
水族館では、観覧効果を上げるためと、汚染物の排除から水質管理が特に重要で、今回新しい考え方として、汚水浄化設備の一つを水族館フイルターとして使ってみた。

また施工時に水槽マワリ枠取付方法および防水方法について、コンクリート同時打込およびエポキシ系樹脂防水材を使用している。

（製作部　清野　彰　特望秋美）

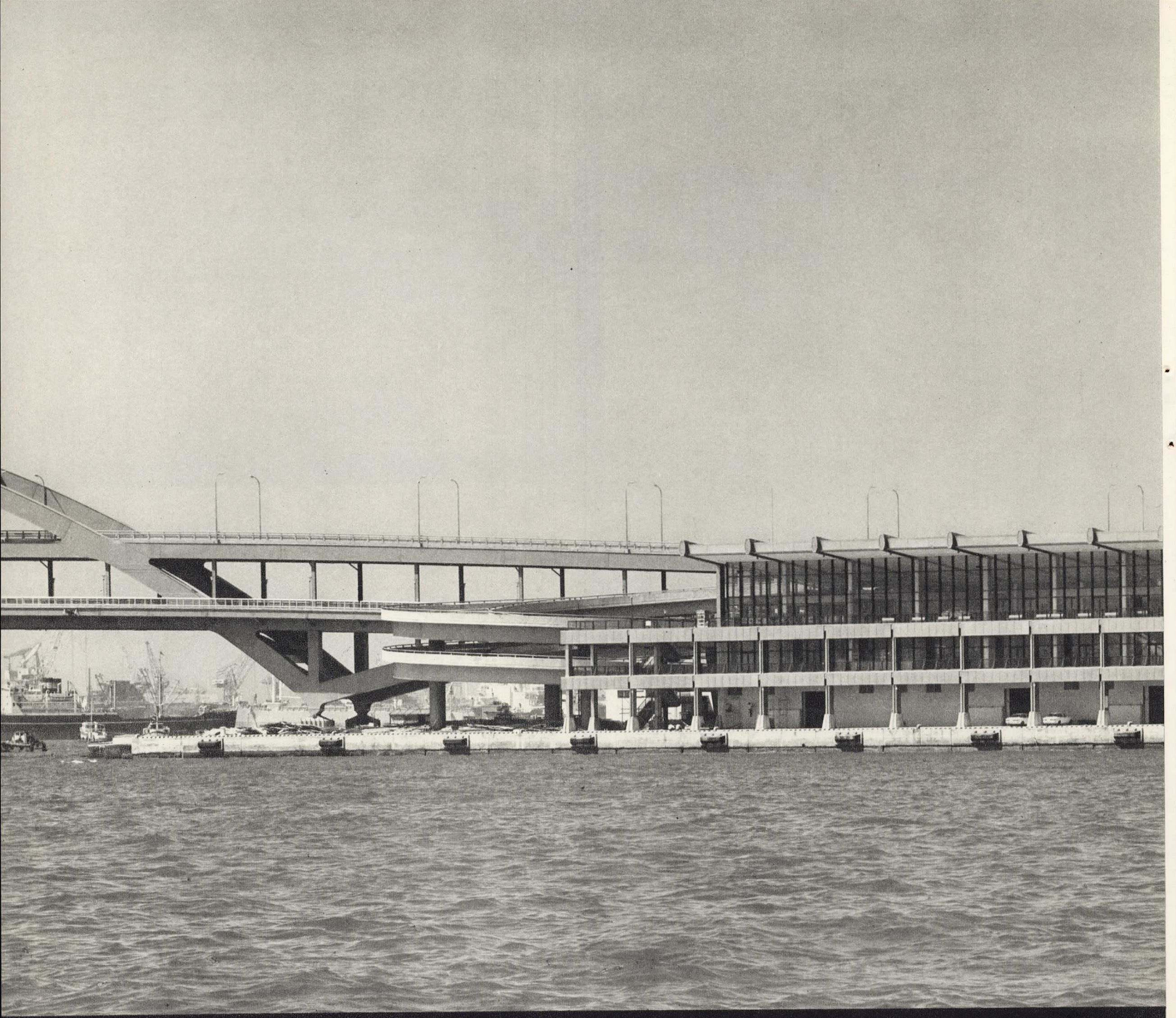






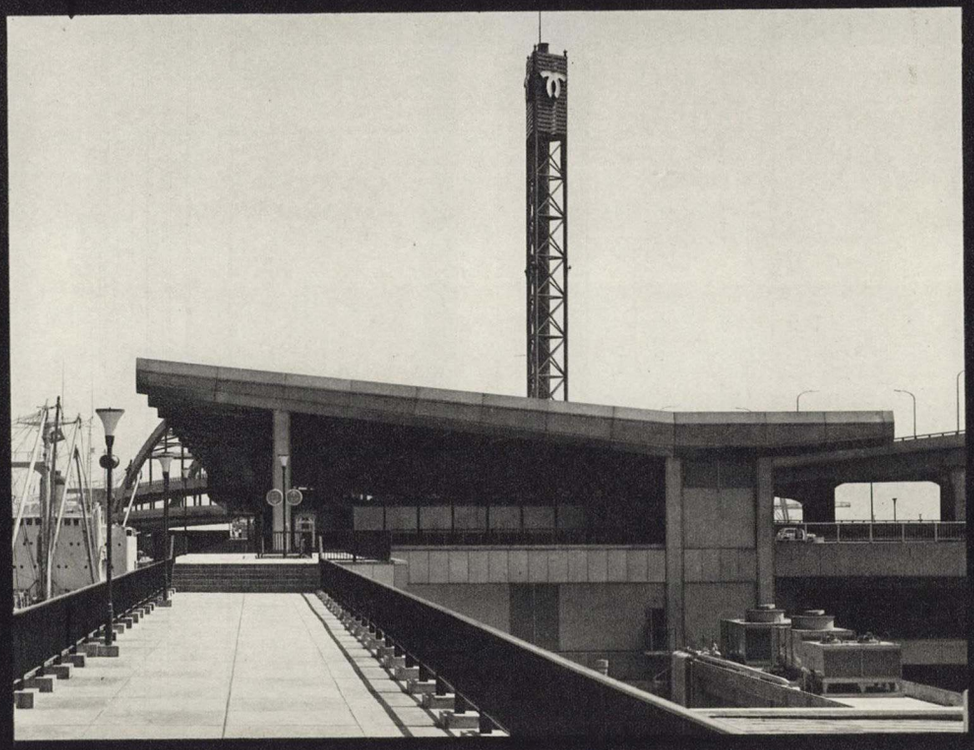
所 在 地／三重県志摩郡阿児町神明字カシコ
723の1
敷地面積／20,000㎡
規　　模／地下1階・地上2階一部塔屋付鉄骨鉄筋コンクリート・鉄筋コンクリート造
建築面積／1,410㎡
延床面積／2,842㎡
主な仕上／屋根　シート防水
外壁　コンクリート打放
内壁　ボンタイル吹付
床　ビニールアスベストタイル
水槽容量／廻遊水槽　約300T
個水槽　約80T
亀水槽　約20T
工　　期／昭和44年7月25日～
昭和45年3月17日
工　　費／500,000,000円





神戸ポートターミナルビル

設計
株式会社　日建設計大阪事務所
総　括　上田恒太郎
計　画　広瀬二郎　上野博美
構　造　和田勝妻
設　備　水野　力　白神昌亮
　　牧野　茂　山田恒春
インテリア　永田俊夫　西田智江
監　理　今津栄良　北村泰一
　　岩野　泉
監理　神戸市港湾局
施工
建築　清水建設株式会社
鉄骨　川崎重工業株式会社
電気　太陽工藤工事株式会社
空調　東洋熱工業株式会社



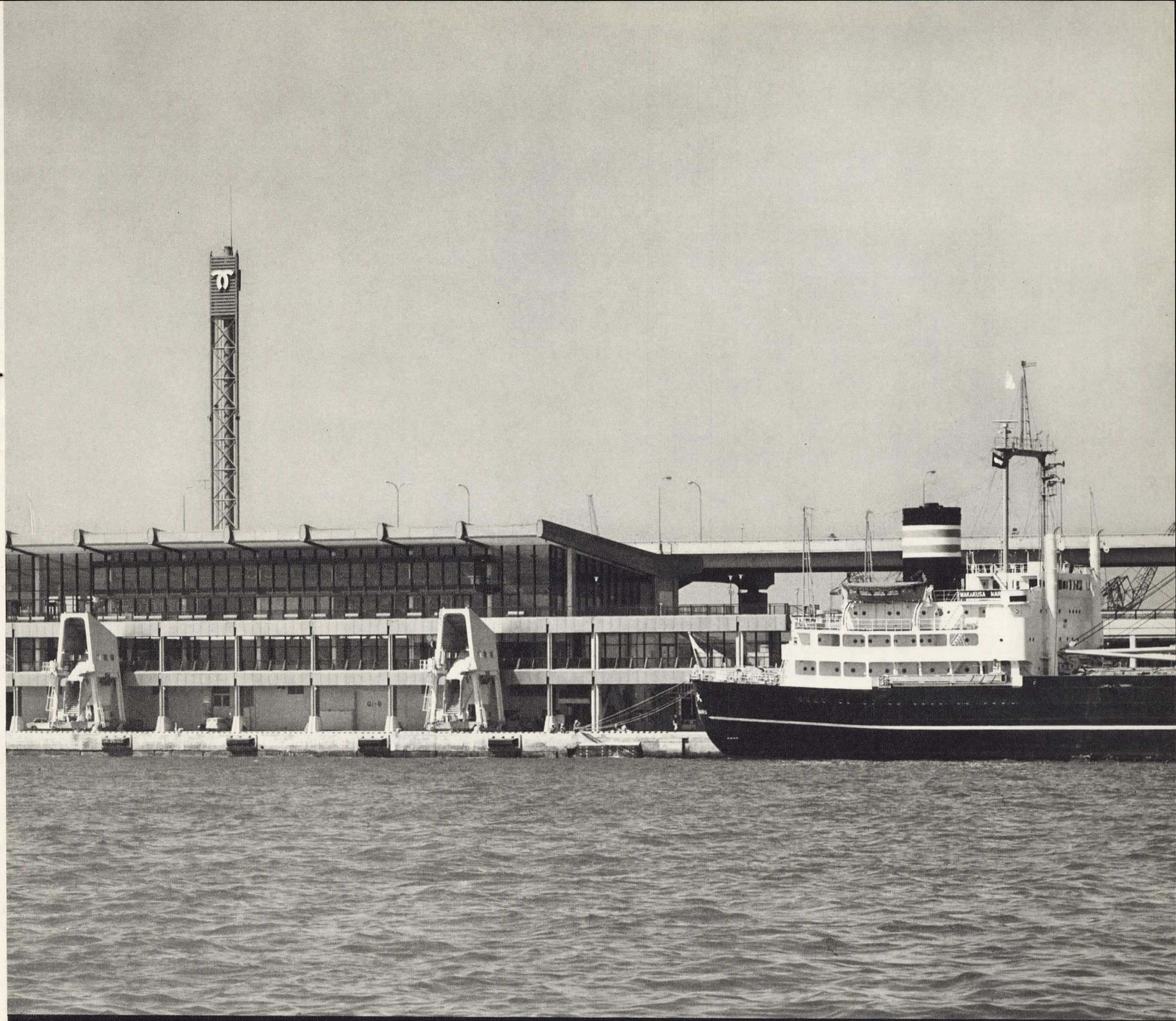








写真 神戸新聞 提供

設計者のことば

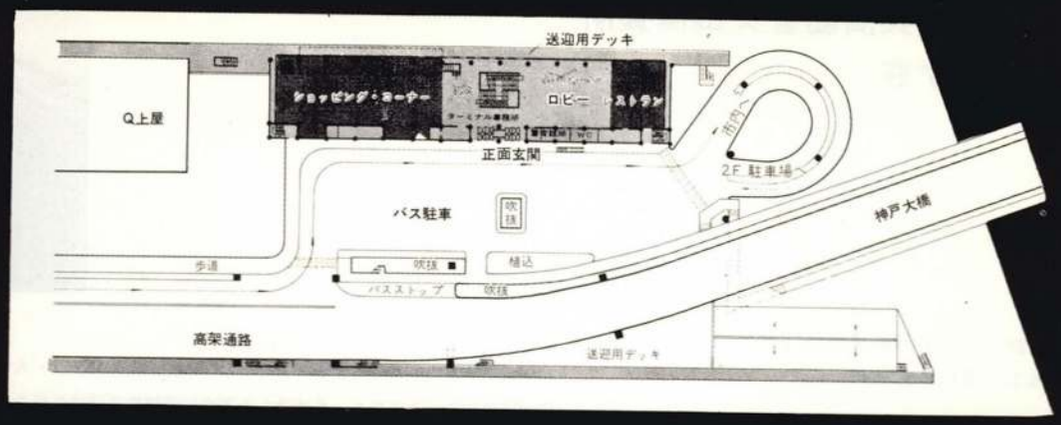
神戸港は東の横浜港とならんで日本の代表的なライナーポートとして急速な発展を続けており、急増する貨物量に対処した整備拡張を行なうとともに、近年輸送の近代化の要請によるユニットロードシステムに対してコンテナ専用バースの必要性を満足すべく意欲的な港の総合計画が行なわれている。しかし、近年外国船客の増加に対して、その受入れ施設の不備のため不評を受けていたので、万国博を機に人工島ポートアイランド連絡橋（神戸大橋）連絡道路の基部に当る第4突提に総合的な計画のもとに建設されたもので、外国船客用施設を完備するとともに海にしたしむことの少ない市民のための憩いの場ともなるよう計画された。

地上階は貨物上屋として使用のため保税地域との関連上2階および3階を船客および外来者用として計画することになった。建物は突堤の東側水深12Mの2バースに対して、Q上屋（以前の旅客用上屋）と並列して新しく延長された突堤の部分にターミナルメインビル（Q'上屋）が計画され、西側水深11Mの2バースに対しては船客用デッキ（2階）、送迎用デッキ（3階）が設けられ歩廊によってメインビルに連絡されている。

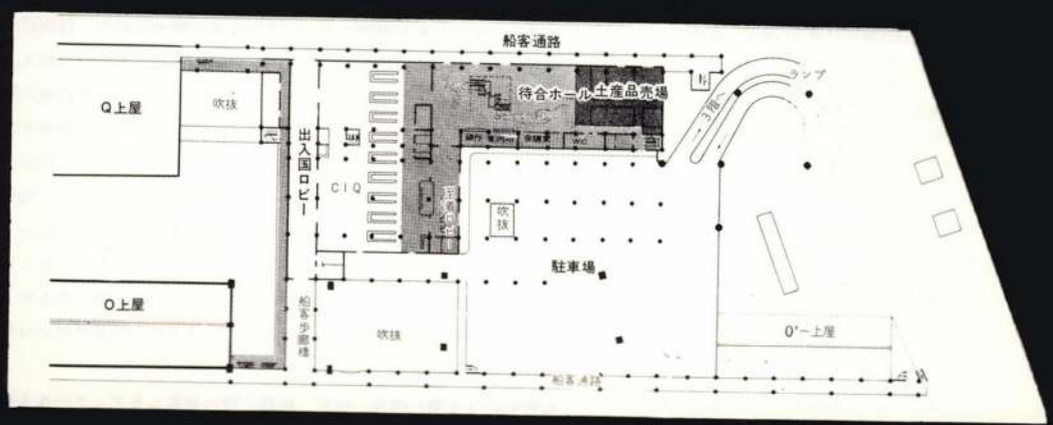
アプローチは4突基部より歩車道完備の取付専用道路がポートアイランド連絡道路と平行して設けられ、直接3階の人工地盤の広場に導入され、広場に面してメイン玄関が計画された。広場はバス20台、タクシー50台程度の駐車が可能で、自家用車用有料駐車場は2階に 200台のスペースを確保した。3階は玄関ホール、ショッピングコーナー、レストラン、管理事務所等が、2階は船客用専用階として通関のための検査場等が計画された。

建物は突堤の特殊な地盤のため、片方をケーソンに直接のせ、片方は鋼管杭支持による方法を採用せざるを得ない状態となったが、この方法が工期、工費、施工上最良であると判断したので、この基礎の地盤条件に最も合理的な上部構造を追及することになった。主体構造を鉄骨造とし、上部構造はできるだけ軽量化をはかり、長スパン構造の採用により不同沈下に対しての対策を考慮するとともに各部分の仕上げに到るまで超高層建築に準じた配慮をした。（廣瀬二郎記）

神戸ポートターミナルビル



3階平面図



2階平面図



配置図

建築概要

所在地　兵庫県神戸市生田区新港町新港第4突堤

敷地面積　75,816.00m²

	ターミナルメインビル(Q'上屋)	O'上屋	歩廊橋及びO,O'上屋歩廊	高架駐車場
構造	鉄骨造	鉄骨鉄筋コンクリート造	鉄骨鉄筋コンクリート造	鉄骨鉄筋コンクリート造
地上階数	3階	1階	2階	2階
工事の種類	新築	新築	新築	新築

上記建家以外にO上屋（新築）およびQ上屋（改装）の追加工事を行った。

工事種目（建物）

全棟

建築面積合計　7,116.76m²

床面積合計　20,149.72m²

棟別建物概要

名称および用途　ターミナルメインビル（Q'上屋）

建築面積　7,116.76m²

延床面積　11,945.42m²

他にピロティおよび送迎用デッキ　1,610.99m²

高さ

標準地盤高　KP+3.30m

一階床高　標準地盤上　0.15m

軒高　〃　10.75m 16.70m

最高部高　〃　51.00m

構造種別

地業　鋼管杭

基礎　鉄筋コンクリート独立基礎および鉄筋コンクリート布基礎（ケーソン部）

軸組　鉄骨造

床組　鉄骨梁デッキプレートの上軽量コンクリート床板および鉄筋コンクリート造

小屋組　鉄骨梁ALC板

外装

屋根　アスファルト露出防水カラー砂付ルーフィング

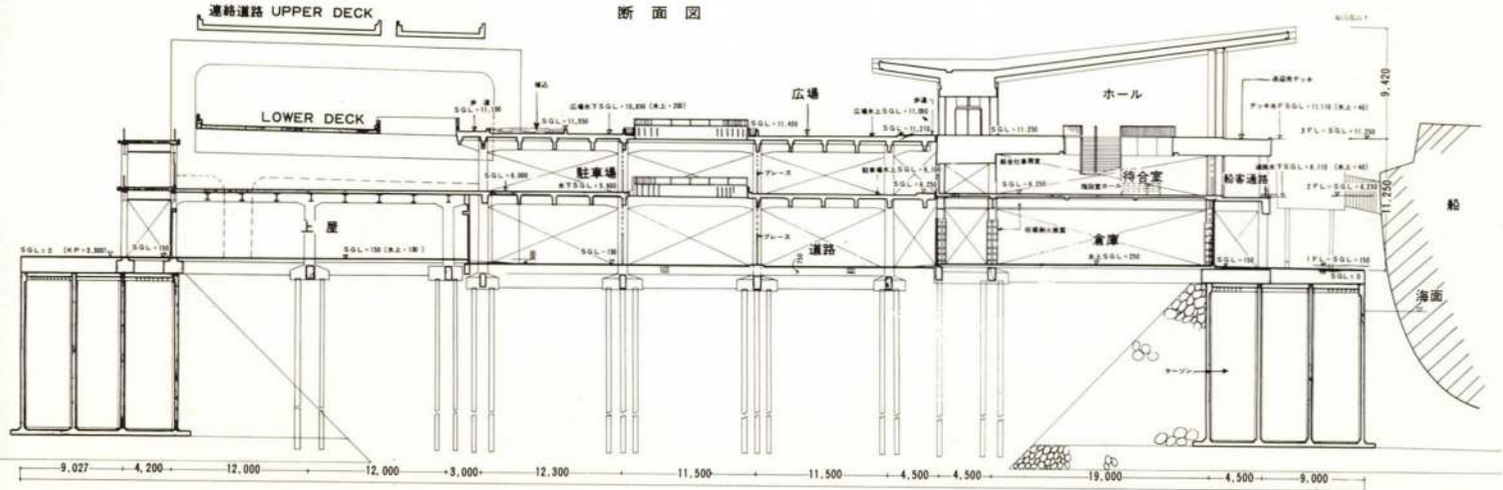
外壁　1階鉄筋コンクリート壁モルタル刷毛引色モルタル吹付

2階　2階ALC板ラフコート吹付
3階ALC板ミュールコート吹付
柱型、梁型、鉄骨面岩綿吹付の上アルミ自然発色

外廻り建具　1階アルミサッシュ、出入口鉄製扉（防潮扉付）
2・3階型鋼サッシュ

工期　1968年12月～1970年3月

断面図



公立学校共済組合大山保養所
ますみず荘



設計　ＫＫ安井建築設計事務所
施工　西松建設ＫＫ

工事場所　鳥取県日野郡溝口町金屋谷字桝水高原７９３番45
敷地面積　9,994㎡（3,023坪）（国立公園第二種特別地区）
1）本　館
構　造　鉄筋コンクリート造　２階建
建築面積　1,307.565㎡　（395.538坪）
床面積　１階　1,157.848㎡（330.24坪）
２階　1,137.449㎡(344.078坪)
合計　2,295.292㎡(694.318坪)
軒　高　7.7ｍ（共用棟西側ＧＬより）
8.4ｍ（宿泊棟西側ＧＬより）
2）従業員宿舎Ａ（単身者用）
構　造　鉄筋コンクリート造　平家
建築面積　129.36㎡（39.13坪）
床面積　130.798㎡（39.56坪）
軒　高　3.0ｍ（設計ＧＬより）
3）従業員宿舎Ｂ（世帯者用）
構　造　鉄筋コンクリート造　平家
建築面積　94.72㎡（28.65坪）
床面積　94.72㎡（28.65坪）
軒　高　3.0ｍ（設計ＧＬより）

設計者のことば

かって信仰の山であった大山（だいせん）も、近年のレジャー人口の増加と交通機関の整備、発展とを伴って、観光開発がさかんで有り、当施設も全国の公立学校共済組合員を対象に、冬のスキー、春、秋のハイキング、夏の登山等四季に渡り変化の有る大山で休暇を楽しむためのものである。

米子から約40分、老松のガードが続く快適な大山有料道路を行くと、大山寺に着き、ブナの原生林の中をいくとやがて雄大な大山南側のスロープ桝水原が敷地で有り、目前に大山、眼下に弓ヶ浜の眺望がすばらしい。

国立公園内での建築制限上、全体を２階建でまとめ、大山の雄大さと自然にマッチさせるため、ダイナミックなブロックとなめらかな屋根で対処し、外部廻りは特に素材感の有る材料でまとめて見た。

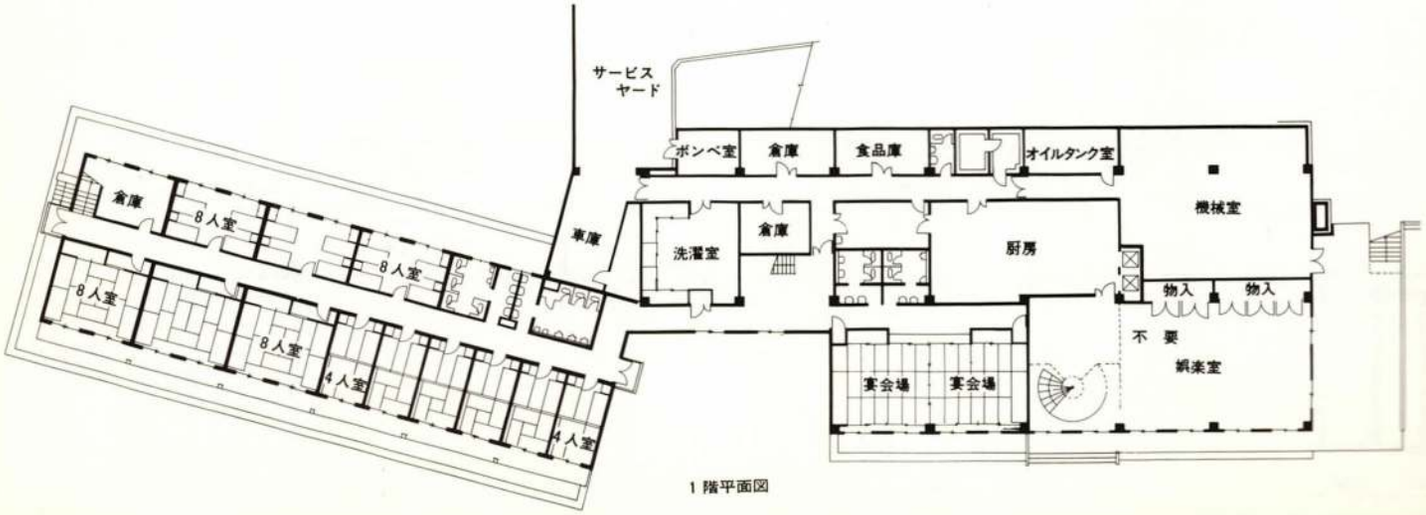
観光白書にも見られるように、最近のレジャーの動向は〝静養する、見る〟等の受動的なものから、〝行う、楽しむ〟等の能動的なものに移りつつあり、また、グループ旅行、家族旅行の量が増大しており、当施設の計画に当っても、それらの動向に合せて、宿泊部門とパブリック部門の分離をはっきりさせ、従来行なわれていた宿泊室での食事を原則的に廃止し、かつ管理面からの省力化とともに、食堂、ロビー等を重点的にかぎられたスペース内で余裕のあるものとし、宿泊室をできるだけ、ピーク時の収容人員にフレキシビリティーを持たすために２段ベッドとタタミの組合せといった特異な宿泊室を作り、タタミの部分が宿泊とグループの団らんの場ともなるよう計画し、小中学校等の生徒達の団体旅行時には会議室、宴会室が団体食堂となるよう厨房に接近させて計画した。

技術的には冬期の凍害、積雪、結露に特に留意し各ディテールを検討した。

現在施工中の造園工事が完了すると当施設も完成であるが、大山での休暇の数日間の中の１部は建物が参加して、楽しい休暇が完了してくれれば、これ以上のよろこびはない。　（山口哲夫、松尾方彦）



2階平面図



1階平面図







食堂



ホール

特集·建築家の課題と責任

アーキテクトとエンジニア，スタッフとライン，さらにイメージパターン屋とプラクチス屋とを問わず，建築出身者が関心を持ち活動する領域は著しく拡大し，それらの境界領域も複雑に混り合っています。また，ライフサイクルの時差によっても，その取り組みかたには大きい位相差があるようです。これらの領域と志向によって，当面の課題と責任の在り方もそれぞれ多様であると思われます。

われわれの活動と関心の領域を社会的により広く押し拡げようとすること，また個々の対象のレベルをより深く求めようとすること，いずれも重要な方向でありましょう。それぞれの立場から，有意義な問題領域とそれに対処する責任とを，大きい視野の中に把え，明確にしたいと考えます。

そこで，下記アンケートについて関西で中心として活躍されている方々から，ご意見をお伺いしました。あわせて，編集委員による座談会をもって，われわれの課題と責任の所在をさぐりました。

アンケート

1. あなたの当面のお仕事について，問題の方向と責任の在りかた，責任を果す上での心構えなどをお示し下さい。

また，最近取り組まれた，もしくは関心のあった具体例について，その現実のねらい，隘路，その解決への将来のビジョンをお示し下さい。

2. 建築界の全般の広がりの中で，これからの展望の上で重要と思われる問題領域をお示し下さい。また，それに向って良い仕事をするために，われわれが負う可き責任は何か，をお示し下さい。

3. 建築界および建築教育の現状について，欠陥があると思われる点を，大小にかかわらずお示し下さい。また，その是正のための対策，さらに進んで広く社会への責任をお示し下さい。

建築家の課題と責任

アンケート

椚座正信

建築技術者について

新都市計画法による市街化区域，市街化調整区域の指定も決定の運びとなって，特に大都市周辺の街づくりの体制も整えられた。

今後はこれまでのようなスプロール現象も相当程度は是正されるものと考えられるが，ふりかえるとこれまでの急速な都市化現象に関して建築界は無力でありすぎたように考えられる。

建築確認申請の90～95%以上は建築士の設計にかかるものであって，現実の姿は大阪府の場合，庄内，門真の過密地帯を造り上げてしまっている。建築基準法はザル法であるから法律を改正しなければ，街は良くならないという議論は別として，最低基準を定めた基準法を頼りにして国民のために良心的な街づくりを意図することはナンセンスであろう。国民の望む建築水準はもっと高レベルのものであるはずである。そこで，これからは都計法において，建物だけではなく，土地造成についても規制を受けることとなるが，これを機会に建築家として都市建設という広い分野に大量進出するチャンスであろう。個々の建築にタッチするばかりでなく，宅地や都市施設にまで深い関心と知識をもって街づくりに立向ってほしい。過去の都市計画がマクロの立場から進んできたのに対して，下位の計画（一戸の住宅環境整備計画）から上位の計画におよび，前記の上位計画とうまく結合することが望まれる。建築技術の進歩は一方では建築家の技術分野を細分化，専門化させてゆくことは当然であるが，複雑化，多様化する都市化現象に対し，物的施設だけではなく，社会，経済の観点における地域社会の建設にも関心を拡大する方向での建築家の進出を期待したい。このことは吾々の周辺で既に先例を持っている。すなわち万国博において建築家が示したすばらしい創造的エネルギーであり，この力をもってすれば都市建設における建築家の偉業は必ず成功するものと思われる。大切なことは，新しい領域での活動には強い連帯組織と共同精神を根幹として始めて成立するものであって，ひとりよがりの建築活動は，国民から建築家に対する信頼を失墜するばかりである。この機会に建築家のモラールの向上と領域の拡大のために，建築技術者教育の再編成を望みたい。建築物の安全性，快適性について総合的見地から判断をして建築作品を創造し得るような技術者教育を必要とするのではないか。断片的建築知識を綴合せて，目標を定めていない建築物が市街地に乱立している現状であればこそ，建築災害も頻発するのであろう。このため建築士試験制度が悪いのであれば改めなければならないし，さらにまた建築士制度を改正する検討も必要であろう。極端にいえば建築士法が必要でないというなら，士法を廃止してでも，建築界は堂々と建築活動ができるようにしたい。そのためには建築士試験を意識しない学校教育と建築界の自主的団結による思想統一が根幹であろう。

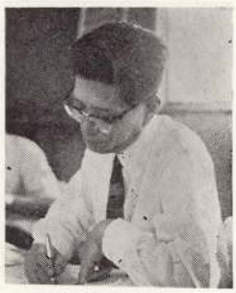
座談会

鳥田　たくさんの方々から取材いたしましたのをまとめますと，主として建築に対する社会の要求と，オーナー，クライアントの組織が複合化して拡張する一方ですので，この社会の複合化に応じるわれわれの組織化の問題が皆さんの触れておられる一番量の多い，しかも重要な問題だと思います。さらに分けてみれば，行政官庁でも基準法でカバーできないような関連領域が複合化してふえてきており，どういう組織のからみ方でこれに対処するかというのが一つの悩みになっております。また一般の設計分野でもそういう複合化が非常に進んできているので，個々の問題ではどうにもならない，やはり明確な組織を持った責任の分担のしかた，一貫したシステムというものをどう立てていくか，というふうなことが大問題になっている。それから一般市民の関心をどう取り上げるか，一般市民にどう参加してもらうか，そういうものを受けとめて市民と一緒に運動していくような行き方というのも非常に重要だ，ということが主として出てきております。そういうものにからんで，社会的人間としてわれわれがどう組織の中で動いていくか，一方個としての建築家のありかたに関連して，建築家像，最終的には人間論と教育の制度，これらがアンケートの中で皆さんが主として触れておられた問題点だと思います。ほかに，まだ問題も二，三あると思いますが，アンケートを集約してみた結果を初めにごく大ざっぱに総括だけを申し上げました。私はこれで退席させていただきますが，あとは三村さんにご司会願い，活溌にご意見を頂きたいと思いますのでよろしくお願い致します。

三村（司会）　急に司会を引き受けまして，ほんの進行係をつとめさせていただきます。ぜひとも皆さんが司会者になったつもりでやっていただきたいと思います。建築家というもの，これは19世紀あたりの建築家像とそれから現在の特に20世紀の後半の建築家像というのはかなり変わってきている。私たちがかって建築学科を志望したときに，想っていた建築家像と実際にいま皆さんがやっておられる仕事との間には非常な違い，あるいは変化というものがあるのじゃないかと思います。最初にいまここへ御出席の方がやっておられる仕事というものと，それから一般的に建築家と考えられているものとのイメージの違いとかあるいは建築の内外で新しい領域が広がっているという点で気づいた点がありましたら，皆さん方のお仕事とか経験に即して，出していただきたいと思います。

建築領域の拡がりと変化

垂水　アンケートのいろんなコメントを聞いてますと，いまやもう個人的な責任だけというのはあり得ないということがよく言われています。施主のほうも社会化してきたし，あるいは建築家なり技術者の方も非常に総合的な問題の中で処理しなければならない。ともかく個人的な責任ということに還元できない，というようなことがよく言われてましたね。それとそれに関連してたとえばデザイナー的な態度だけではだめだというようなこともいわれていました。そこで結局組織的な責任，あるいは課題を追及するということで，建築家とか建築技術者自身がいろん



鳥田委員長

な組織をもって対応してきたと思うのです。その一つにいわゆる建築運動という分野で技術者が自主的に団結して，あるいはいろんな協力をして，社会的な責任もそこで追及していこうというような運動があったわけです。これは現在いろんな形での努力が行なわれております。今日はぜひともその辺の問題を追及していただきたいということがこの座談会に対する期待の一つです。

それからもう一つ，このアンケートで登場された方は，わりと経営者的な人とかあるいは管理者的な人で，かなり総合的な観点からものを判断できるような人がほとんどのようです。ところがわれわれの周囲を見てましても，そういう総合的な観点でものを見られない立場の技術者というのが意外と多く，しかもいわゆるラインとスタッフというような形で，総合的な仕事をする分野の人，立場の人と，それから非常にこまかいことをやらされてるというか，やらざるを得ないような技術者，そういう層が非常に分化してきているようです。もちろん即断はしかねるんですがそういう人の間で矛盾が出てきてると思うわけです。たまたまわりあい社会的にも偉い人の「責任」がよく言われていたわけですが，そういう「責任」ということすら感じられないような立場の人が実は非常に多い。そういう人が建築なり都市あるいは住宅といったものの大きな支えになってる。こういう層も含めて，先ほど言ったような技術者の組織なり組織づくりを進めていかなければいかんと私自身は考えております。しかし，それがなかなかうまくいかないという悩みを持ってるんですが，その辺もひとつ含めて討論していただければありがたいと思います。（垂水委員退席）

平内　在来の建築家のイメージといえば，クライアントとかお施主さんを相手に，敷地その他の与条件に対してある空間をデザインし創造する，そういう職業が建築家であるというイメージが強いわけです。おそらく社会の多くの人もそういうイメージをもっていると思います。これからの建築家あるいは建築の計画に従事する者はただ単に条件を示されデザインするということじゃなしに，先取りしてその問題を解決していく，そういう積極的な姿勢で仕事を進めていかないといけないのじゃないかと考えるわけです。具体的に私の仕事の内容から言いますと，私のというより私自身の所属している会社の仕事の内容になるわけですが，都市の再開発の計画，提案，そういうものから住宅の設計に至るまで，かなり多方面の分野にわたってやってるわけです。もちろん組織の中である程度専門化され分化して，仕事を進めておるわけですが，それらを全体として統括する何らかのシステムというのが必要になってくるわけです。そのシステムの重要さということは，特に最近大きく認識されているのじゃないかと思います。

橋本　建築家の社会的責任という範疇でものをいいますと，どうしてもきょうのたくさんのアンケートの中に出てきましたように，大義名分といいますか，たとえば大臣の公約のようなことばのためのことばでしかないそういうニュアンスの内容が多くなると思うのです。僕らそういう文章を目にしますと，むしろその背後にある見えないもの，自動的に見えてくるはっきりしたことばよりも，その背後にある見えてることは見

今西祥郎

建築領域の拡がりと建築家のあり方

現在とりくんでいる仕事は，泉北ニュータウンの住民の足となる「泉北高速鉄道」の建設と，ポスト万国博の府行政のヒットになるような「開発事業」の企画立案ということになっている。大阪都市圏の人口のドーナツ化現象と流動化によって，都市交通としての鉄道に対する需要が増大している。しかし現在の抑制された運賃体系では，坪あたり数十億円もの建設費を必要とする新規建設路線の収支バランスはむづかしい。泉北高速鉄道は，そのような状勢に対応して泉北ニュータウンの建設と一体となり，府・財界出資の「第三セクター」を経営主体としてスタートすることになり，今後の都市交通のあり方として注目されている。このように，これからの大規模プロジェクトは建築，住宅という一つの側面からとらえられるものではなく，フイジカルな面，経済的，社会的側面が複雑に入りまじって，広域的複合的なものとしてとらえていかなくてはならない。住宅・都市問題を例としてとりあげてみても，建築屋がアドバルーンをあげていたときから，最近では，民間ディベロッパーという名乗りをあげて，あらゆる分野の人々が住宅都市問題に参画してきた。そして今まで建築屋の手の中にあったと思われるそのリーダーシップは，他の分野の人々の手の中に移ろうとさえしている。たしかに建築の領域の中だけでとりあげられていた住宅・都市問題とちがって，あらゆる分野の人々が参画するということは，住宅問題，都市問題が社会，経済ベースに乗ったということで，住民の生活向上や環境改善につながるものとして歓迎すべきことである。そのとき建築を学んだものは，「何をすべきか」「どう活動したらよいのか」ある種の戸惑いを感じる。この「建築家の課題と責任」という特集を計画されたのも，われわれの立場と責任の所在を明確にしようとしたこころみだと推察する。「建築家」という表現に含まれる芸術的エリート意識や，ロマン的造型に酔った個人プレイに，すべての建築出身者が関心をもち，あこがれさえもって自分の目標と考えていたといっても過言ではないだろう。しかし「個々の敷地に個々の建築を思いのままに建てる」という建築の古い性格に根ざした理論的独断が許される時代ではない。これからの社会は組織の力で働くもので個人的英雄は，もはや必要とされないであろう。

技術革新と社会の急速な変化は，実学的な学校教育での建築を陳腐なものとし，すぐに役立たなくするであろう。社会での建築は各分野の領域が複雑に入り混り，個々の責任のあり方を不明確にしていくマイナスが見出され，事故が起っても何となくシステム全体が責任を分担することになる。一つの具体的例が公害である。技術革新や人工頭脳により物的生産力は拡大され，われわれは未曽有の豊かさの中に埋没しそうになっている。その中でこそヒューマニズムと創造性を標榜する建築を学んだものが果すべき役割がある。そして弾力的な頭脳と基礎的な学力を身につけて，新しい社会空間づくりの組織の一員として，そのリーダーシップを担う実力を身につけなくてはならないと思う。



三村委員

えててもでてこない，巨大さというか，現実に働いている見えざる力，そんなもののほうがむしろ重大に思われるわけです。それが現実，日々おりにつけて触れたり，見たり，聞いたり，感じたり，話ししたりするそういう中で，いまいわれてきたようなことばには，そこからもうどんどん漏れてしまうようなことばがいかに多いか。ですから極端なことをいいまして，きょうのレポートが全体としてどれだけ現実の意味がでてくるのかというあたりになってきますと，非常に疑問に思えるのです。

つまり社会的責任というレベルでいいますと，ほとんどの建築人というのが一つの企業というか，そういう法人団体としてあるわけですね。ところが実はそこで設計なり計画なりをやってる人たちというのは皆個人であるわけです。毎日自分の家へ帰っては生活し，あるいは職場で生活し，あるいはその途中でいろんな人たちと触れ合う，そういう中で実はほんとの社会的な意味で建築をやっている人の意味みたいなものがあるんじゃないかという気がします。だから組織と個人というような問題で話ししていきますと，それは非常にことばのためのことばの議論にしかならずに，非常に実際的直接的なものがもう何か漏れてしまうような気がするわけです。

司会　いま橋本さんから，建築家といっても個人ではなくて実際は組織で仕事をしていっている。その中での責任問題というのが出たわけですが，こういう点で組織の中の個人の責任と，そして事務所なら事務所というものがもつ組織としての責任というのとどうつながっているのか，という疑問が出されましたが，これは非常に重要な問題ではないかと思います。たとえば最近の建築はさまざまの主体が同居する複合建築になっているとか，あるいは公共建築のようなところでは施主というのは市役所であっても，実はその建築をほんとに使ったり要求しているのは多数の市民である，そういうような建築が出てきているわけですね。そういう場合に，先ほど平内さんが言われましたように，社会があるいは市民が何を求めているかということを先取りして，それを計画に表現していくことが建築家の責任として必要なんだということになるわけです。そういった場合に建築家の仕事というのは，単に既得の技術や体験をアプライすることでは済まなくなり，他のいろんな専門家の協力を求めたり，あるいは建築家自身がそのために相当の学習をしたり新しい経験を積んだりしていかなければいけないというふうに思うのです。そういったことが実際の職場のお仕事の中でどこまでできるのかとか，あるいはやられているのかといった点について話しをしていただきたいと思います。

近藤　この場合責任の感じ方なんですが，人間が社会生活をしている限りは，建築家に限らずだれでも，社会的な責任はあると思います，それぞれお互いに影響し合って動いてるわけですから。その中でも建築家という一つの職業人として社会にいろんな影響を与える，例えば建物をつくって，それがたくさんの市民に使われて社会に対する影響がいろいろある，そういう意味での責任ということになってきますと，われわれの日常の仕事では岡橋が言っているようなことになると思います。すなわち商

山本純孝

建築界の拡がり，社会とのつながりにおける問題点

・最近建築家の活動範囲が拡大されている。従来発注主体(施主)が行っていた用地の撰定，資金計画，建築経営などはもちろん，国や自治体が行うべき地域の計画にも参画するようになってきており，建設に関する施工者の行う業務以外はすべて建築家がタッチしていると言ってもよい。

・このような状況で建築家は施主に対して，社会に対してどのような責任をとるべきか，また責任に対する合法的な報酬を得ているか，逆に報酬に対する充分な責任をとっているかが論議の中心であると考える。

・大きな問題から入ると，まず施主の利益と社会の福祉との矛盾に巻き込まれた場合，建築家はどうあるべきか，日照権，公害問題，その他，法で規定されれ大小様々の問題に直面した場合，元来施主の利益の代務者である建築家はどう処理すべきか，実務家としてのまた社会人としての建築家の責任上どう解決するかといった問題がある。都市や建物に対する現行法の矛盾については高い見識に基づいた建築家の長期にわたる根気づよい政府に対する働きかけ，説得が必要であり，これが建築家の社会に対する最大の責任と考える。

・いかに法を改正しても複雑な現代の社会には未解決の問題が山積しており，個々の問題に対しては建築家自身の先行的な正確な判断で施主の利益を代行するとともに，施主が社会的責務を果すよう，鋭く説得せねばならない。これが第二の責任である。

責任の所在と方向の明確化の問題

・建築家の技術的責任について考えてみると，経済の成長産業の変革，科学技術の長足の進歩などの結果，小さなビル一つを設計するにしても，一人の建築家だけの能力では技術的な問題のすべてを完全にカバーすることはできない。

・このため建築家は設計組織をつくり，各分野の専門家を動員して，設計監理の責務を果すことになる。従って責任はその建築家が結成した組織で負うことになる。

・組織で設計した建物に欠陥があった場合，施主社会に対しては組織の代表者としての建築家が責任者となるが，組織の中でどのような区分になっているか明確でない場合が多い。工事の監理面での責任体制も不明確な点が多い。建築家はこの不明確な責任体制を明確にして，より確かな形で社会に対して責任を負う責務を持っている。

・さらにさまざまの問題がある。

・機能的な欠陥についてはどう考えるのか，構造上は100年もつ建物でも，機能上のライフが5年といった建物を設計した責任はどう処理するのか。

・新しい技術，新しい材料を使用した場合，その欠陥に対する責任は，どこにあるか。

・施工工事の出来ばえの悪さに対する責任はどこにあるのか。

・いわゆる設計ミスの処理方法，設計者の経済的負担能力の弱さをどう克服するのか。

・このようなさまざまの責任体制のあいまいさからくる問題を整理して，その結果として建築家の社会的地位の向上と経済的な処理対策を計ることも建築家の責務の一つである。　(文責小島)



垂水委員

業ベースの中での仕事には限界があるが，その制約の中でもスペシャリストとして建築の本質的な答を出す。こまかいことになりますが，良いデザイン悪いデザインの受け取り方ですが，例えば駅とか万博会場での標識が一部明快な型とか色でデザインされ，東京オリンピックなどをさかいにして普及してきて，一般市民もそれを見て非常に解りやすくなった。という事は，一般の人の受ける影響というのがいい状態で返ってきている。そういうようないろんな形で，デザインする側とかあるいはプロジェクトする側でそういう世間一般への還元のしかたというのもあると思いますが，あまり大上段にとらえると話はややこしくなってくる……。

小島　でもある程度大上段にかまえざるを得ない状況があるのじゃないかと思いますが。先ほどのアンケートの中で，人間だれしも社会的な責任を持ってるのに，なぜ建築家だけが社会的責任をことさら問題にするのかという発言がありましたけれども，建物をつくる場合に，そこで派生的に生まれるいろんな問題というものに対し，古い形の建築家像，建築家のモラルといったことではもうどうしようもない状況が生まれてきている。建物をつくる上で建築家として日常行なう判断の中で正しいと信じてネグレクトした問題にならなかった条件の集積が，たとえば公害問題，都市問題というような形で大きな問題になってきていることを考えると，その中でやはりもう一度建築家を，社会的責任とかいうようなことで，縛り直さないといけないような社会的要請があるのではないでしょうか。

近藤　デッカイことになりますとかなり行政面に関係してくる場合もあると思うのです。

平内　社会的な責任ということで，建築界全体が反省しなければいけないことだと思うのですが，社会に対する建築界からの発言というのが非常に少ない。発言があっても発言力，内容が非常に弱い。たとえば特別の経済団体であるとかあるいは労働団体，医師会等の職能団体から発言されたことはジャーナリスティックにかなり大きく扱われる。ところが建築界からそういう強いアピールはほとんど見られない。その辺にもいわゆる建築に携わる人の日常活動というものがかなり不足しているのじゃないかと思うわけです。ただ自分の職務を通じて，いい仕事をすればそれが社会のためになるという消極的なことじゃなくて，もう少し積極的な意味での日常活動というものを，ある程度重要視しなければいけないと思います。

組織と個人

橋本　そうですね。社会的な責任ということを話する場合に，どうしても職場論というか，企業論というか，要するにそういう組織の中のひとりというレベルでしか話がなりたちにくいのですね。自分の職ということじゃなくて，建築というか，空間を扱うひとつの仕事をしているひとりとして，その生活の中で何をし，何を発言し，何を訴えるか，という

西沢文隆

当面の仕事

Ⅰ）組織と能力の拡大

㋑ⓐ　Designer ―建築そのものを造形する人

ⓑ　Producer ―建築に関連するあらゆる分野を含めた人々を総合統轄する人

ⓒ　経営者―建築活動を経済的に成立せしめうる人

ⓐ，ⓑ，ⓒは不分離一体である。しかもその間に撞着もあるのが現状。それをいかに Harmonize するか。Harmony とは折れ合うこととは違う。年とともにⓐの能力が減じⓒの方向に向かう人が多かった。これは好ましいことではない。

㋺　建築家一個人の Total Energy ＝ 1 とするとⓐ⅓＋ⓑ⅓＋ⓒ⅓＝ 1 では困る。ⓐ 1 ＋ⓑ 1 ＋ⓒ 1 ＝ 3 に働かさねばならない。そのためにはさらに Free Time ⓓが必要。したがって

Total Energy＝ 1 ＝ 4

となるよう遊ぐ必要がある。その能力を各人が体得しなければならない。同時にいくつかの行動を行なうことを除いてこれを実現させることはできない。

㋩　人にはそれぞれの持ち味がある。それをいちはやく確認すること。

Ⅱ）仕事自体

予算は常に足りない。予算の獲得能力だけでは処理し切れない。どのような高等技術を使って思うものを造るか，建築が竣工しない限り，何が造ってもらえるのか，本当のところ施主にはわからない。これを説得するのは，建築家のエネルギー注入量である。建築の出来ばえ自身についても，同様。

建築界全体の拡りの中で

Ⅰ）㋑建築の内容は次第に複雑になる。今までの建築の概念は解体せざるを得ない。㋺あらゆる分野がからみ合う。あらゆる分野の知識をもち，あらゆる分野の人と接触し，交流し，それらを統合する能力を備えなければならない。㋩与条件が複雑なだけではない。与条件にも建築家が参画し，consult し，施主とともに造らねばならない。（設計料の考え方は根本的に改案すべきである）

Ⅱ）『設計施工，否―分離』などといっている間に，建築界全体が社会から置き去りにされよう。仕事の獲得に窮々とする前に全エネルギーを仕事にぶっつけるべきである。

Ⅲ）㋑世の中は一寸も進歩していないことを諦観すること。まだほとんど何もわかってなんかいない。未来云々どころの騒ぎではない。月旅行の成功もびっこな進歩の歪の断面にすぎない。

激しい変化≒急激な進歩。

㋺'70万博は未来学の底の浅さを露呈した。今，現時点をしっかり凝視し把握すべきである。

㋩　混沌が現在的でありさらに未来的である―恰好いい―という盲信は捨て去らねばならない。混沌は今更発見するものではない。いつの時代でも混沌の世の中である。過去のどの時でも末世思想が支配していた。何も現代に限ったことではない。混沌の霧の向こうに何を現成すべきかを凝視すべきである。

㋥　人間性の喪失―これも伝説である。真の人間性はこれから生まれるのではないか。ただしエロチシズム的原始に帰ることではない。



橋本委員

建築界および建築教育者の現状

誰が教育するのか。教育できる人間が果して存在するのか。仕事を通じて見分で自分を教育するのが一番の早道のように思われる。まず建築家という職人になって，体で建築を会得すること。必要に応じて自分で研究の必要を生じたときに行ける研究所があればよい。学校教育自身は initial stress を正しく与えれば十分。しかし正しく与えられる人が果して存在するのか？

太田隆信

建築領域の質的変化と組織

建築家の仕事の質が，徐々にではあるが，確実にかわってきつつあると思う。仕事のスケールが大きくなってきた。これまでの建築設計の概念からするとそうとう設計以前の段階から仕事にとりくまねばならなくなった。いわゆるプロジェクトにタッチするチャンスが多くなってきている。

等々の声は，いずれも私たちの仕事の質的な変化を具体的に表わしているといえよう。別のいい方をすれば，建築家の仕事の範囲・責任・権限が増大しつつあるということなのであろう。こういった情勢は，本来建築家の職能・組織に大きな影響をあたえるはずなのだが，現実の問題として，そこいらの動きは，そうとうＴＰＯにかけるようである。建築家の側があまりにも問題を，これまでの仕事の延長上に，演繹しようとしすぎるからであろうか。

昨年の暮から，今年の初めにかけて，坂倉準三建築研究所から，坂倉建築研究所に，私たちの組織は変わった。西沢所長がのべているように，この変革はすこぶるスムーズにおこなわれたが，新らしい組織がこれからどうなっていくのかは，まったく私たちチームの一人一人にかかっているといえよう。チーム自体その体質が，生まれかわらねばならないのだが，現実の問題として，今までと同じメンバーが同じ建物で顔を会わしているのだから，さてさてこれはむつかしいことだ。

以上２つの問題は決して２つの切りはなされた問題ではなく，私の体内では渾然一体となっている。具体的にどう解決のための一歩をふみだすか，ここ当分の間これが私の課題だ。

教育について

私にとって，坂倉先生，西沢所長は学校での諸先生と，ある面では，まったく同じ意味での先生であり，教えを受けてきた。設計の仕事をするものにとって，多かれ少なかれ，教育は，学校，事務所に関係なく，一生つきまとうものであり，前半は教えられる立場として，いくぶんのんきにかまえていても，後半は，すべての人が，教える立場に立たねばならない。これは，しごくあたりまえのことなのですが，このあたりまえのことが，少しく忘却されすぎているのではないだろうか。

学校教育は，長い建築生活のスタートとして，建築に愛情をもてるように，建築が好きになるように（きらいな人をふるいにかけてもよい），という点に，第一目標をさだめるべきでしょう。それからさきは，各自が一生かかって，とりくんでいけば，それでよい。学校と，実社会といった呼び方で２つに分けてしまうのは，まずいことである。もう少し自由なかたちで，交流がなされるべきである。おたがいのからを，うちやぶらなければならない。

ようなレベルから出発したい。どうも何か会社の中でどうのこうのという職業人としての発想しかできないというあたりが問題なんで，いま言われた日常的活動とかあるいは運動というのは実はそういうところにあるんじゃないかという気がしますね。

小島　僕もそう思いますね。企業の中で仕事をやる上で，いろんな選択を迫られて，その中でやはり結果的にはまた別の問題を生み出してるわけですね。そういうことに対処する方法としては，組織論として企業を問題にしてもまた企業の職能団体みたいなものを考えてみても，経済的な要件などの隘路が多くって，やはり非常に日常的な，個人的なレベルからそういうものが出てこないとほんとうの回答にならないのじゃないかと思いますね。

橋本　ひとりの人間がたとえば殺されてしまうというようなレベルから，発想していけば，非常にシビアに問題が浮き彫りにされてくるんじゃないかな。学会の建築世代論のなかでどなたかが言っておられたのですが，まあ１，２キロ平方にとにかく建築をやってる連中をばらまけというような発想をされ，それに共感を覚えたわけです。つまり，都市に集まってきたある企業体の中に蝟集した建築人というのじゃなくて，もっとネットというか，網ですね，領域として建築をやってる人たち，空間を扱う人たちがばらまかれているというようなレベル，つまり非常に日常的な個人というレベルからと，そういう点の集合みたいなものからも問題を起こしていかないと，どうもダメなんじゃないかという……。

司会　いま出されてる問題というのは，企業というか，あるいは現在の組織というものの中では，個人の努力とかあるいは意欲とかそれから責任感というものは十分果たされ得ない，と。しかしだからといって組織というものを否定するということはできない。そうするともう一度個人というところから建築家としての位置づけを確かめながらスタートしていかなければならない，と。こういうようなお話しだったように思うのですけれども，その組織というもの自体が責任を現在果たしているかどうか。端的な場合，仕事のミスだとか，施主に非常に損害を与えたりして，クレームだとか，訴訟だとかそんなものが起こってきたり，また責任をこちらが果たしたと思っておっても実際には追及されるというようなことが現実にあるんでしょうかね。

小島　追及されにくい状況をむしろつくり出してるみたいなところがありますね。大体追及されないようになっています。

施主との関係

司会　建築家というとすぐ設計ということになるわけですけれども，その設計にもとづいて実際に建築というのは生産されて，そうして供給される，そこで予定された性能とか価値が出るか出ないかということになるわけですが，そこのところが，建設するほうとか生産する側と，それから設計したり計画をしたりする側との間の責任関係というのはどうなってるんでしょうか。まあ建築家というのはわりあい，偉くて，先生



平内委員

と言われてまして，建設するほうは大体先生の言うことを聞く，と。だから少々無理なことを言っても建物はできるんだ，というような考え方がかなりあったように思うんですが，現在はそういうような位置関係というのは変わりつつあるんでしょうか。

小島　さっきの設計ミスに対する金銭的なことを含めた責任というのは，取材の中で山本の話に出てきたわけですが，アメリカじゃ設計ミスをカバーする保険というのがあって，ミスがあった場合，その設計者と，それからそのミスを発見できなかったという責任を負ったゼネ・コンとの間でそれで折半するというのが通常の補償の形だと聞いています。やはり日本もそういう補償のできる体制を設計組織が持った上で，建築家が責任を豪語するということが必要だと思いますね。

平内　アメリカでの設計契約はかなりシビアらしいですね。プレゼンテーションする場合に，どういう内容の，どこまでのレベルのプレゼンテーションをするかということまで契約にうたっておき，それ以外のことをやった場合にはそれに対してお金をもらえないというぐらいきびしい。

近藤　そういうかなり現実的な意味での責任になってきますと，日本の場合，建築設計を依頼されたときに，はたしてどれだけその設計者にまかされているかということになってくると思うのです。たとえば外装の色も材料も何もかも全部まかすんだ，お金はこれで，これだけのものを建ててくれ，という設計の依頼のされ方じゃなくて，やはりオーナーからもたくさんの要求が出てきます。主要部の材料を決める場合にもオーナーの承認を得る必要があるとか，発注する側も，自分が責任を取らざるを得んような条件を出してるわけですね。

そういう立場で設計してますと，その場合の設計ミスという意味では責任は取りにくく，別の意味で，オーナーのほうにも責任があるわけです。たとえば設計の立場，逆に管理する立場，施工する立場，それぞれにまた違った責任があるわけで，一般の場合最終的にはオーナーのほうの費用負担でミスが直されてる例が多いのじゃないかと思いますが。はっきりいえることは，いままでと違って，何でも少々の変更についてもお金がついて回りますから，ほとんどの場合にお金に置きかえられて処理されている……。

塚本　住宅公団がやってることといいますのは，宅地開発にしろそれから住宅建設にしろ図式的にいいましたら，国の政策なりがまずありまして，それに従って土地を選びその中で企画し設計する。それから工事を行なって完成後は管理まで，賃貸住宅などの管理まで行う。そういう組織の広がりの中で仕事というのがあるわけです。そしてその企画なら，企画は行財政という意味で，国の政策あるいは地方公共団体なんかとの調整があり，それと対応している。設計の段階になりますと設計事務所さんに仕事を請負ってもらっておりますね，実施設計なんか。そういう意味で設計事務所と対応している。それから工事になりましたら建設会社と対応する。そして管理になりますと，やっとここで居住者と対応するというようなそういう図式が成立しているわけです。

青樹英次

住宅開発の仕事を通じての問題の方向と責任の所在

イ　大規模住宅市街地の形成

ロ　都市再開発へのアプローチ

ハ　地方都市の整備

に役立つ住宅の建設と管理

○責任を果す上での心構え

平和国家の基盤となる社会像の確立をめざし，その社会像の基盤としての新しい住宅像と家庭像を追求すること。

○最近の具体例

北神，北摂宅地開発事業

神戸市兵庫区，兵庫県三田市にまたがる5地区 1270ha の大規模開発事業で計画人口15万人。一部工業地区(150ha)を含み，昭和55年度までに，新都市として完成する。

千島公園住区

大阪市大正区の貯木等埋立地17.8ha。大阪市の"港の見える丘"公園事業と協力して公園住区として計画。計画戸数5000戸(17,500人)。30階超高層住宅を含む住棟7棟と庁舎，体育館，広場などより成り，コミュニティ拠点，防災拠点でもある。

建築全般での展望としての課題と責任

良き社会，良き都市は良き市民が創る。在来の都市計画，建築家の夢想・独断による都市像は，真の都市づくりとはいえず，目標とする社会像を市民とともに真剣に論議する必要があり，その責任を負う。そのために，

(イ)　都市づくりへの市民の関心と意見の喚起

(ロ)　人間像や都市科学の糾明

(ハ)　開発，再開発を支える法通念と法体系の確立

が課題となる。

建築教育のありかた

都市づくりの指導者は健康な情操，知識への不断の積極性，広い視野を常に維持し開拓してゆく必要があるが，人間や都市科学を総合的に学びとるためには，人間的成長の観点からも最低4年の課程が必要ではないか。　(文責・塚本)

光安義光

公共建築と都市施設

1　公共建築を取扱っているために，建設施設が直接，県民と交渉をもち，その効果を期待される。建物内の動線計画，効用性は現在，相当に熟練していると考えているので，次の点を重視している。

① 配置計画に際し，その街区のポイントになり得るよう配慮しているか？ 交通処理，街区の構成美のかかわり方などにつき検討を加えている。

㊁ 外部空間をいかにして，県民に返すかを配慮している。商業ベースの場合は基準法の建蔽率で効果をあげるであろう。公共建築では，むしろ，過密都市の中での人間のための施設としての効用性を期待するものである。

最近の実例としては，兵庫県立美術館，県庁舎周辺の諸施設，子供病院などがある。ねらいは，イ，ロに記しているが，建蔽率を小さくし，戸外で県民の交流する空間に律動感を与えるよう，緑，水，テラスをその素材として，解決に努めている。

2 過密都市の建築として，都市機構とのかかわりあいとして，交通処理塔（案）等，都市施設として考慮しなければならない。また，歩行者のためのトラベラー施設，エレベーター施設等，車に優先すべきであると考える。

W・H・Oの4項目安全，保健，利便，快適という都市のための守るべき要素として，われわれ建築家が強く意識し提案せねばならぬだろう。

3 マスプロに対応する教育がなされている。これは，今の社会のしくみに対しての流れとして，一応認めざるを得ない。しかし，マスに対して，人間回復を唱えるとき，集団（群）対個として，抽象化された個性を対比している。このことは，群という，没個性，巨大，得体の知れぬものに対して，取上げた個は，再び没個性のものでしかない。数字10に対し数字の1というがごときである。

その個は「私」という人間感情の通ったものとして置換しなければ，良き建築は生まれないだろう。ジオポンティの「建築を愛する」という「私」の感情の原点から再出発の教育を行なうべきである。

都市計画者などは特に心すべきであろう。

萩野益司

建築行政の中で

1 責任の範囲や関連が拡大しつつある。

最近，建築行政を行なううえで，たとえば市の行政のなかだけでも，ほかのいろいろな部局との関連が強くなり，他の行政部門との協力なしには解決しえない問題がふえているようだ。たとえば住宅地に混在した工場など用途規制の問題にしても，都市計画局はもちろんのこと，公害問題をあつかう市民生活局，中小企業問題をあつかう経済局などとの連繋なしには，問題の核心にふれることがむつかしい。

そこで，施主は誰かという問題は，住宅供給という立場では居住者あるいは市民，あるいは国民であるわけです。住宅を供給される側，利用する側であるわけです。ところが，そういう国民の住宅の要求というのがどういう形で施主の姿をとっているかというと，国の政策という形の一度大きな指標化を通してやっと施主という姿に還元されている。そこでその段階でいろいろ問題がありまして，量的なものだけを先行する場合や，質的な側面でも，DKの型系列を中心にしていままで実績を積んできたんですが，ところが施主の側，つまり国民なり市民なりの要求というのは今日，ずいぶん変わってきた。生活様式とか家族構造，それから生活環境などもいろいろ変わってきて，要求自体が変わっているはずです。ところがそれが政策で単に量だけの解決ということに還元されてしまうと，企画の立場でも，それから設計の立場でも，施主の要求を表現できるかというと表現できていない。そこらに非常に大きなギャップがあるわけです。

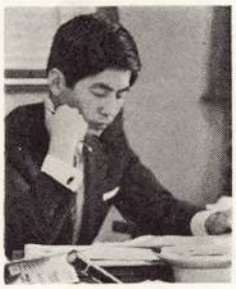
そういう中で設計という立場でいろいろやってますと，居住者の要求もくまなければいけない，それから政策に従った実行，量なら量，住宅の一定の性能なら性能ということで処理していかなければ実現したことにならないというそういう立場にあるわけです。つまり施主に対する責任はそのまま，いい住宅を供給するという意味で社会に対する責任であるわけですが，大きな図式の中のどこら辺で責任の所在を見つけてどういう立場をとるかが問題となってくるわけです。

司会 公団の中で住宅を設計する場合にコストだとか戸数だとかいった条件が上から上から与えられてくると，ひとつはその条件の中でいかによい仕事をするかという努力と，それからもう一つはその条件をどのようにして変えたりよくしていくかという，二つの努力の方向があるというわけですね。

塚本 公共住宅なり公共建築というのは，施主すなわち市民が不特定であって，要求が明快な形であるわけじゃない。しかし，大量でもあるし，住宅というのは生活の基盤であるから，誤ったものを建設すると，そのまま社会への害となる。たとえば団地におけるコミュニティの不在とか，スラム化論というのは，大きな問題だと思います。そういう意味で，住宅政策に対してエキスパートであるべきなのはもちろんですが，市民の要求を組み取って反映するようなパイプの立場であるべきじゃないか。そこら辺の市民の参加といいますか，意見の反映というか上位策へのパイプとしてのあり方が責任の所在にかかわるように思います。

社会的発言と連帯組織

平内 いま住宅政策，公共投資の話が出たわけですが，また先ほどの建築家の日常活動とも関連するのですが，日本という国は当然法律によってほとんど動いておるわけですね。そうすればその法律ということ，あ



近藤委員

るいは立法ということに対しても，建築家はもっと日常活動面で参加していくべきじゃないか，また働きかけるべきではないか。さらに公共投資，これはいわゆる公のお金になるわけですが，それをどういうふうに使うか，たとえばそれを万国博に使うことが市民のため国民のためになっているのかどうか，あるいは別の住宅政策に使うほうがいいのかどうか，そういうことに対しても建築家として判断して，働きかける必要があると思います。

別の例でいえば建築基準法施行令で水平防火区画が規定されていますが，吹抜が制約された空間というのがはたして人間的空間かどうかということですね。そういう面についてももっと建築家の立場として積極的に働きかける必要がある。防災面からいえば吹抜があっても，技術的に安全な防災措置は十分に講じられるのですが，そのようないろいろな働きかけというのが非常に弱いと思います。

近藤　いまの話，昔からの日本――まあ外国でもそうだったかもわからないんですが，建築家の人間像的なものですか，かなり個人の腕力とかそんなもので設計がされていた時代があって，最近はだんだん組織力とかそういう問題が出てきて，集団で仕事をする状態が多くなって来ているわけですが，そういう意味での建築界の横のつながりというのは非常に少ないと思うのです。施工関係ですと建設保証制度とかそういうので保証制度的なものがあったり，設計事務所ですと日本建築家協会など設計事務所の横のつながりはありますが，何か総合的な力，建築に携わってる者の全体の力になるような組織がないから，全体としての働きかけが弱い。たとえば基準法に対しても，われわれ設計してる立場でも不満があるわけです。しかしその不満のぶっつけようがないわけです。会社でもそういう基準法専門にやってる人に，役所と話合いをしてすじを通してくるようにたのんだ場合でも実際はあとの利害のことを考えると，一人でやってもどうしようもないし，一歩下がって役所の言うとおりにやることになる。最近の建物を見てますと，設計計画でできるのじゃなしに，基準法が建物の形をつくっているようにも思えます。防災面とかいろんなことを消防で言われるが，これも地方とかそれに携わってる個人によって適用の仕方が変わっている反面，逆に扉の位置とか大きさは消防がきめているのではないかと思うぐらいいろんな形でものがきまってきて，設計計画ではなく全然別の要素で建物の形がきめられている場合があるわけです。それらに対しての建築界全体のまとまった提案のしかたとか，そういうのが今後の課題になってくるのじゃないかと思いますが。

司会　そういった建築界のいろんな行政とか立法とかあるいはその他の問題についても発言していくためには，建築協会というような組織も，学会とか家協会とかあるいは士会とかいろいろあるんですが，それらの組織というのはどこまで活動できているのでしょうか。

近藤　それぞれの利益代表みたいな形で，もう少しうまく全体がからみ合って，たとえば医師会なんかですと国全体の医療制度を動かすぐらいの力を持っておりまして，一部では暴力団的な（笑声）ものの言い方をする人もあるとか？　それぐらいの力を持ってるわけですね。それです

一般的に，現在，建築家の責任の範囲や関連領域は拡大しつつあると思うが，こうした状況での責任の問題を考える必要があろう。

2　現在の仕事は，建築指導といいながら，その大半の精力は違反建築の取締りにさかざるをえない。しかし，多くの違反は，じつはその背景に，土地の細分化，あるいは，住宅問題，都市問題といった大きな問題がよこたわっている。建築基準法という法律だけでは必ずしもこうした問題に十分こたえきれないため，違反取締にもきめ手を欠いている。こうした，いわば社会的な問題に対して，建築技術者としてどう対処すべきなのか，大きな問題といえよう。　（文責，垂水）

片田俊彦

建築士について

建築家は，社会のあらゆる分野で活躍しており，その役割と責任は重大です。近年の社会の進展はめざましいものがあり，社会の建築家に対する期待も大きく，また建築家もこれに答える必要があり，常に最新の技術を身につけると同時に，社会の動きを知る必要があります。「建築家の課題と責任」というテーマですが，身近かな問題として「建築士」について考えてみましょう。建築士は，もっと自分の仕事の役割の重大さを認識し，責任を果すことによって，社会的な信用と地位を確立する必要があると思います。建築士の設計する建築物は，人の生命をあずかるものであり，また個々の建築物の集積が，われわれの住む街を構成するものであるからです。"責任を果すこと"これは決して大変なことではないと思います。建築行政という仕事に関係しているため，日常，建築界のある一面，"違反建築"の実態をみることができるわけですが，これらの中には，悪質なものもありますが，大部分は建築士がその責任を果すことによって防止できるものと思います。例えば，建物単体については問題がなくても，土地についての規制について充分な調査がなされていない例，設計が完全であっても，現地には全く別のものが建てられている例など，あげれば限りがありませんが，特に土地に対する制約については，充分な調査をする必要があると思います。土地建物に関する関係法令は，相当な数にのぼっており，市街化区域，市街化調整区域の決定に伴なう開発行為，建築行為の規制のごとき新しい制限のほか，関係法令は日々改正がなされております。これらに対する配慮を怠ると，建築主に多大な損害を与えると同時に，建築士に対する信用を失うことになります。建築士は日常の仕事を通じて，その責任を着実に，誠実に果すこと，これは，必ず建築士に対する信用となって返ってくるものと思います。そして，違反取締りパトロールや取締人員の増強といったことに，大切な税金を使わなくてもすむ日が一日も早く来ることを切望してやみません。



藤沢委員

山田俊満

仕事における努力

組織というミクロスコピックな視点に立ってみるならば，公団は勤労者のために低廉にして良質な住宅および宅地を大量に供給しなければならず，組織人たる私たちは少なくともこの責務を果たさねばならぬ。すなわち，目的とするところは，①宅地の供給(量)＝f(需要とのバランス，価格のバランス etc)②住宅の供給(量)＝f(需要とのバランス，所得と家賃とのバランス，世帯構成《員数も含む》と広さとのバランス etc) で示される。公団がこれらを年間に消化する量は公的な機関の中では比較的大きいだけに全体に与える影響は大きいから，例えばどんな所にどんな規模のものを，いつ提供できるかということは非常に問題となる。特にその方針がおよぼすところは大きいようである。そこでその責任のあり方とかこれを果たす心構えは一つにかかって，これを果たすに当ってどんな努力がなされたか，またその努力がどんな型となって実現されたか，そしてその追跡をなし，次へのワンステップとなす努力がなされたかによって決定づけられるのではないか。次に最近取り組んだ仕事を通じて感ずるところを述べてみたい。

(1) 大阪市周辺部の衛星都市における高密度住宅開発について。——①いわゆる開発と再開発のいずれの性格もかね備えたような性格の開発事業化の作業。②大阪市に接する衛星都市における空地の開発利用計画。③職住近接の問題。④市自体の核心部に当たるものをつくることと民間ではできぬ規模のものを中・環沿いに新らしい開発パターンとしてイメージアップさせた。⑤地元民との事業化への努力をどのようにするのか，公団と市との協力体勢はどうなるのか etc。

(2) 近畿圏域，特に大阪を中心として新都市計画法による線引き作業のヒアリングを行なって気づいた問題。①各府県によって考え方に差異があり，かなりの府県の事情とか，地元民のつき上げや要望があるように見受けられたこと。②その中でも各府県とも当然ではあるが農林サイドからの強い要望により市調区域が設定されているかと思えば，大都市近郊農家などはこれと反対に動こうとし現在も調整中の所が多い。③大阪府のように当初から相当強行な作業を進めた所もあれば，最後までじっくりと腰を落ち着けている京都府。そうかと思えば県下に強い独自の意見を持つ市町があってその調整に手間取っている所など。④保存と開発。農地と宅地化。緑地など自然保護。スプロール防止。地主の思惑と業者の思惑。政治屋の介入。都市計画とはどんなに難解なものか。そして土地にしがみつく人たちのむき出しの利害感情。こんなになるまで第2次大戦後二十数年間無策だった政府と，こんな状態を続けさせていた行政担当官や専門家および国民の責任は？ ⑤そこでこんな状態を改めるための機会ではあるように思えるのだが，それには予算的配慮が乏しいようだ……。

(3) 総評「生活をまもる国民大行動」における住宅専門部会設置へ。①住宅を勤労大衆の手にとり戻すために!!②新らしいまちづくりが，単なる生産手段化して勤労者の「ねぐら」化させぬために。③専門家により一般国民大衆への住宅・都市問題の理解を深め，意識のほり起こしを行なう。④特に労働組合を通じて組合員たちの住宅意識調査，主婦連などへの呼びかけ。住宅関係労働者の横の連繋を緊密化し，よくコミュニケートして運動化へ。「住宅よこせ運動」の展開。⑤このような活動はマクロスコピックな視点からの活動範ちゅうに入ってくるように思う。

からお医者さんになると生活も保障されてますし，その範囲でまた活躍できるわけです。弁護士も同じですね。一部では三聖職の一つで，建築家，弁護士，医者というんですが，日本の場合には建築家というのは全然別の立場で……。

藤沢　各団体の合同連絡会議とか，そういうものがあるんですか。

橋本　いま建築技術者の運動をつくろうということで，全国的な組織づくりが行なわれておりますね。

松井　ごく簡単に言いますと，二つの点があると思いますね。一つはやはり最近の建築が非常に複合化し，建築生産が非常に高度化してきて，専門分化がすすんでいる。専門分化それ自身はよいことですが，その中で建築技術者がそれぞれ各職域専門別に分断されてきていると思うのですよ。それをもう少し建築技術者が場職域とか専門を越えて一つの場に結集して総合的に建築を考えていく必要があるのじゃないかと思いますね。これは建築生産の流れで最近特に痛感されることですね。そのためのあらゆる建築技術者の結集，そのための全国組織が必要である，と。それが一つですね。もう一つは，最近の都市化に伴って公害問題，環境破壊，その他いろんな問題が生じてますね，それに従って住民運動も起こってきているわけです。で建築技術者はそういう住民運動に対してどういうような社会的な責任を果たしていくべきか。住民運動と手を結んで，より住みよい都市とか環境をつくり出していかなければいけないのじゃないかという，そういうふうな立場ですね，その二つの立場で現在建築技術者の全国組織をつくる必要があるということですね。

小島　ということは個人の集団ですね。組織体の集団じゃありませんね。

松井　そうです。

橋本　だから個人の持ってる技術とか考え方とか，そういうものを要するに企業を通して社会に提供するのじゃなくて，個人意志のレベルで参加しようという，僕がさっき申しあげたことに通ずるところはあるのですが……。

小島　いまの横のつながり，そこでの責任領域の拡大という場合に，組織体として社会に対して責任を持つということと，そこで建築に携わってる個人として社会に対して責任を持つという，やっぱり二つの側面があると思いますね。だから横のつながりというときにも，いまのお話は個人の横のつながり。やっぱりもう一つの組織体の横のつながりというのが何らかの形で必要なんでしょうね。

松井　もちろん，それは必要でしょう。建築協会の場合は大正時代は若干，都市問題や災害問題に対する運動的な面があったんですけれども，それでも建築運動の歴史の上では運動団体と規定してないんですね。50年の長い歴史のなかでだんだん一つの総合団体となってきたわけです。他の職能団体に比べると非常に社会とのつながりを重視する総合的な横のつながりをもつ団体であるわけですけれども，その社会というのがどちらかといえば，建築界の職能団体のまとめ役的な方向に向いた社会であって，もう少し住民とか市民とか，そういうふうな勤労者のほうに目を向いたものが少ないようで，ちょっとその点が他の運動団体とは違い



福田委員

ます。

橋本　それは建築に関する情報がほとんど建築界内部だけであって，建築関係者以外に対する情報の提供というのが一般的な新聞雑誌とかテレビとか，しかもそれがわれわれのタッチしないレベルで現実に行なわれていて，ますます建築部落的にギャップができていくというようなところがありますね。

プロフェッショナルとしての立場

福田　建築家というのが，三聖職の一つだというのは，いわゆる西洋流の言い方で言うところのプロフェッションということになるのだと思うのですけれど，社会学者が最近このプロフェッションという問題をずいぶん取り上げておりまして，ことにアメリカ社会学で非常に盛んなんですね。そういう社会学者が言うところから見ますと，プロフェッションに属しているいわゆるプロフェッショナル，そういう人たちが自分の責任だとかなにかということを言い出すというのはこれはかなりおもしろい現象で，プロフェッション特有の現象だというわけです。（笑声）はなはだどうも高見の見物的なことを申し上げますけれども。まあ他の職業では責任などということはあまり言わないんだというんですね。最近では商店の人たちとかも責任というふうなことを言い出しかねない世の中ですけれども，本来ある職業について，自分の職業にまつわる責任というふうなことを言うのはこれはプロフェッショナルだけであって，しかもどういうときに言い出すかというと，自分の商売が正直言いますと危ないときであると。（笑声）すべてそういう経済的な動機からそういうものが出てくるんだ，というふうなことを言ってるわけですね。

といいますのは，自分たちが公正なことをやっている，あるいは社会のためになることをやっているということが絶えずアピールされなければ，それらのプロフェッションは成立し得ないんだというわけです。あたりまえの話でありますけれども，弁護士だとかお医者さんというのはすべてそうなんですね。で建築家というのもおくればせながら19世紀の半ばごろにプロフェッションの仲間入りをしたというふうにヨーロッパの社会学者は見ているわけなんですけれども，そうだとするとやはり自分たちが社会に役立っているということを証明しなければならない。そういうことを言う一つの手段が責任論だ，というふうに社会学者は言うわけです。はたしてそうなのかどうかというのが，おそらく建築に携わる者の問題なんだと思うんですけれどもね。そこのところを乗り越えない限り，つまり単に責任論がそういう経済的動機，ないしは自分たちの職業の存立いかんということだけから言われてるんだとすると，やがては建築家の団体というのも医師会のように圧力団体の方向へ動いていかざるを得ない，と。その方向というのが一つ必要なことは確かなんですけれども，はたして終局的に長い目で見たときにそれでいいのかどうかという問題が一つどこかにあるのだと思うのです。

建築家の横の連帯

一般に現代社会において焦眉の急とされている都市問題については，その解決に当っての努力が今の建築界のあらゆる分野を通じて求められているようであるが，私の携わっている分野でいうならば，「都市問題の解決」という大きな命題を背景にして業務，すなわち「国民大衆(勤労者)の住宅問題の解決」を遂行しなければならない。最近の建築界では業務内容が専門分野別に分業化されるに従い，総括的に物事を見る余裕がなくなって機械的処理にゆだねられがちである所に問題が起きているように思える。すなわち専門家とは部分的には非常に卓絶した手腕がふるえると同時に，広い視野，例えば需要者であり，使用者の立場もとり得る自分というものを見失なって了っていてはならない。特に一番注意せねばならぬと思われることは，「都市問題の解決」には市民の存在を無視できず，この市民の不在の街づくりとか，問題の解決はあり得ないであろう。そのためには，「都市問題解決」に当っての専門家である建築家とか，都市計画家は自分自身をもっと厳しく見つめることができなければならない。しかもこのことは単なる批判活動とか自己反省をすることだけではすむことでもなく，ましてや単なる暴露活動だけでもいけない。従ってこれを国民大衆（すなわち一国民として）に訴え，よく理解してもらい行動を起こすことが求められるのではないか。（この際に公的機関に所属する者としては特にイニシアティブをとることを求められる機会が多いものと考えられる。）このためには横の連繋が必要である。すなわち，建築や都市計画に携わるものたちの横の組織が求められる。例えば日本のように企業単位のものでなく，欧米のような建築家協同組合（or 組織）のような組織をつくり，これを強くする必要があろう。（官吏であり，業者である前に建築家，技術者であることを）

その他，建築教育についてはあまり語るべき材料を持ち合わさぬが，学校に数年ぐらい在学してそれだけで社会に出てすぐ使いものにしようというような教育は必要としないのではないだろうか。それよりは社会に出てから自分自身をコントロールできるような人間，そのために，柔軟な頭脳と抱擁力のある人格が求められる。すなわち，真の建築家，すなわち精密なロボットや，非情な，非人格的人間では「人間のためのまちづくり」とか「人間のくらすためのすまいづくり」はできぬと思われるからである。

岡　橋　作太郎

以下の小文は常識的なことを述べたものです。けれどもこんなことを述べる必要を残念ながら感ずるのです。したがって有識の方はお読みにならないで下さい。時間のむだです。

1　責　任

われわれの環境はいま大きな変革を迫まられている。住宅，都市。建築家の能力に俟つところが大きい。但しこれは建築家がそう思っているだけであって，社会一般はそうは思っていない。建築技術者には期待しているが，建築家には出る幕がそんなにあるとは思っていない。そこで建築家は自分の役割について社会にＰＲ(語源どおりの意味のＰＲ)する責任がある。これは建築家のためではない，社会のためである。誰もそれをやってくれないから，建築家がやらなければならない。建築家の一番大きな責任はこれでしょう。

2 問　題

万国博の会場はたいへん立派にできた。安全で，便利で，快適で，効率的なものができた。これからは日常のわれわれの環境を立派なものにしなければならぬ。個々の建物にあまり力こぶを入れる必要はない。とんでもない技術も必要はない。あるAreaの処理に建築家を用いればよいということを誰もが知った一といいたいが，果してどうか。

3 教　育

建築家を教育する学部と建築技術者を教育する学部を分けることが必要。建築学科はデザイン学部（ことわるまでもないが，芸術学部ではない）とでもいう学部に移す。建築工学科は工学部に残す。こういうことができていないから，(1)の責任の項で述べたようなことが起る。社会の大きなマイナスが起っている。

薬袋公明

1　多様化，多極化，多元化する世の中で柔軟な頭脳と振幅の広さを持つことではないか。

2　今後，建築にはほとんどすべての産業が結集されると思われるので，産業界各分野をジュズに繋いでつなぎ目をなくしていくコーディネーターの役割が，建築家の仕事となるであろう。

（文責　近藤）

山中　孔

仕事の分化と結合

1　多くのテーマがそれぞれの専門家により，専門化，分化した体制で徹底的に研究されている。また一方，これらの専門分野の優れた成果を一つの建築の中に有機的に統合し，昇華させる機能も強く要請されている。分化と統合，これを高性能，高効率に調和させ人間社会に貢献することこそ建築家の最大の責任の一つと考える。I.C.S Integrated Construction System（統合生産システム）――企画，計画，設計，生産にいたる全プロセスを統一されたイメージで一貫する。そのためその血ともいうべきよい情報システムの確立に取り組んでいる。

2　環境の時代にふさわしい，人間のための建築をつくることが最大の目標である。このため自然科学的，人文科学的手法を開発し実施したい。

3　建築は文明のバロメーターである。建築を通じて社会の要請に応え，そして大きい貢献をすることを特に重視する広い視野と高い識見をもつ人物の育成こそ，建築教育の目的でなければならないだろう。

佐野正一

設計事務所のあり方

1　建築家の活動範囲が，ますます拡大しつつある現在，建築家の責任について考えるには，その社会的責任がまず第一に問題にされねばならない。当事務所では，創設以来，一貫して地域社会に建築を通じて参加し貢献するという姿勢を持ち続けており，現在

司会　建築家は聖職だと言われているということは，昔は大体建築家に仕事を頼む施主というのは非常に金持ちでして，それに結びついているエリート階層としての建築家という選ばれた層があって，その建築家というのはいわば自由業というか，プロフェッションであって，自営層であるというのですね。そういう状況の中でフリー・アーキテクトというものが成立しておったように思うのですが，最近の建築の組織というのは非常に複雑になってきているわけでして，みんな組織の中で仕事をしているわけですね。そういった意味ではそういう建築家意識というようなものは形の上では残っておっても実際は働いてないのじゃないかという感じがするわけです。ある意味では一つの組織の中の専門家とかあるいはエンジニアになってきている。そこでたとえば自動車をつくっている会社がどんどん自動車をつくる，そこで欠陥車が出てくるとか，あるいは都市の中が排気ガスで非常に汚れてしまうというときに，じゃ自動車会社の設計スタッフははたしてエンジニアの責任と言うてるかどうかという問題。（笑声）建築家層というのは実際は責任を果たし得ないような状態になってきているのに，何か責任，責任と言ってるというような感じとしてとれるわけですね。

福田　いまおもしろいことをおっしゃったと思うのですけれども，実はアメリカあたりの社会学者に言わせますと，いまやすべての職業というのが，いままでオキュペイションと単に呼ばれていたものがプロフェッション化してくる。いわゆるプロフェッショナリゼーションの過程にあるというふうなことを言うんですね。で，新しいプロフェッション，たとえばコンピューターのプログラマーであるとか，いわゆる専門技術ということからのみ言うならば，そういう新しいプロフェッションがどんどん出てきているのだと。それでこれらの人々は殆どなんらかの組織に属していてフリー・ランスではない，むしろそこでは，仕事の内容という点が一番プロフェッションの重要な点で，フリーランスであるかどうかということは必ずしもいまや重要な問題ではなくなってきていると。で，組織の中に属していながらもプロフェッショナルというのがどんどん新しく生み出されてくる。そういったときにプロフェッショナルの興味の焦点は一体どこへいくのかというふうな議論がアメリカあたりで最近されているように思われるわけです。

そうしてみると，建築家がいまそういうふうにやってるということは，建築家自身が十分にそういう組織，ある力を持った組織の中に参画し得ないがためにあるいはピーチクパーチク言ってるのかもしれない。たとえば機械技術者，エンジニアというのはかなり早くから，やはり建築家と同じくらいの時期にある団体をつくり上げていたくらいの，プロフェッション化が早いものであったわけですが，それがある自動車工業界なら工業界という確固とした組織の中に安住の地を占めてしまったがために，あんまり責任などということはかえって言わなくなってしまった。（笑声）ははなだ皮肉な言い方なんですけれども，そういうことも言えないこともないという気がするわけですね。

小島　そういうことはあるでしょうね。今住宅産業と呼ばれているもの



塚本委員

を例に取り上げても，家をつくりたい人があって，設計する人があってつくる人がおってという関係を乗りこえて，建築家なんてものを飛ばしたような，需要者との直接的な関係を結んじゃって，結局建築家は企業の中に組み込まれてしまう。そこでは建築家の責任なんてものは問題にならなくなるというような動きは一部ではありますね。

塚本　さっきの建築家同士の横の連帯とかそういう問題と結びついて言いますと，さっき図式的に言いましたように，公団は企画から管理まであるというような立場ですが，中間的な設計みたいな立場におりましてもある程度管理の人とも意思を疎通しなければならない，企画的なところとも意思を疎通しなければいいものができない，つまり組織なら組織の中でのそういう上下の仕事のフロー，相互のつながり，あるいは一体化が必要であると同時に，逆に企画は行財政地方公共団体なんかと折衝しますが，そういうところとの交流，意思疎通というのは，日常業務のレベルで隘路に突き当っている。それは非常に複次化していますからそこら辺の隘路だと思いますが。それでさっきも言いましたように，居住者のそういう要求なりなんなりをどうくみ取るかということで言いますと，管理の人が居住者自身の立場に立って，芝生に入っちゃいけないとか，犬を飼っちゃいけないというような消極管理じゃなしに，もっと積極管理で居住者の意思をくみ込んでいくというあり方が必要だと思います。それがまたうちの内部で設計とのフイードバックが必要だ，というようなことになってくると思います。そういう組織の中の流れと同時に，外との交流みたいなものが十分にないと，建築の表現とか，生活空間なら生活空間の創造と言いましても，なかなか，スムーズにいかない側面が出てきてるのじゃないかと思います。

マンパワーと設計組織

近藤　仕事をしておって感じる事ですが，ビルの設計でも，企業を代表して打ち合わせに行く，向うも担当の人が出てくる，しかし最終的には組織と組織の接触であっても，そこでは実際に担当している人というのは人間対人間の接触になってくるわけです。そのときは逆にその設計なりそのプロジェクトを担当した人の手腕のありなしによってそのビルがいいビルになったり，あまりよくなかったりするという問題も出てくる。そういう意味では，建築をやってる以上はやはり個人の能力を高めて，なおかつそれを組織の中で生かす形というのが今後の大きい組織の課題じゃないかと思います。そういう意味での個人の力というのは高める必要があると思います。

司会　個々の仕事と結びつくわけですが，建築技術者の責任という場合は，やはりとにかく建築を設計し建設するということも含めまして，それの技術というものを全体として水準を上げていくといいますか，そういうことは技術者層として非常に重要な役割りじゃないかと思います。そういう技術はどういう形でててくるのですか。特許とか何かとるわけでも明確にそれを意識して活動している。しかし，地域社会の体質が，閉鎖的性格から開放的性格に変質し，事実上，地域が地域としての自立性を失ってきている上に，発注主体が複合化した組織であるケースが多くなり，建築がそれ自体目的よりも手段として考えられるようになってきたという社会的背景の変化もあって，従来の作家的姿勢では，建築家も設計事務所も充分にその社会的責務を果せない情況となっている。一方，発注主体の複合化の結果として，発注側の要求は目先の機能だけを追った無難なものとなりがちで，それにプラス建築技術の普遍化，建築の評価の変化などもあって，普遍化された技術による無難な対応が器用になされるケースが多くなっている。しかし，真の意味で地域社会に貢献するには，作家的満足に堕するのではなく，また，無難な対応により利潤追求のみを計るのでもなく，ヒューマンな姿勢で真に人間にとって地域社会にとって必要なものは何か，そのために必要な技術は何かをねばり強く考え，高度の技術的責任をもって社会に答えていく姿勢が必要で，そういった活動の場として，フリーな設計事務所のあり方が，考えられねばならない。

2　こういった社会的要求に答え，地域社会に貢献するためには，設計事務所はある程度大型化，組織化されることが必要で，デザイン的な働きにプラス経済的効用性の判断，高度な建築技術的判断を行ない得る能力を持ったエキスパートの集団として，また，各々の問題にその能力を結集させる場として，設計事務所の組織体としてのあり方が今後の課題として考えられねばならない

（文責　小島）

富安秀雄

1　やっている仕事とその傾向

われわれの事務所でやっていることは，公共的共同住宅の設計から，住宅の配置設計，団地計画設計，住宅都市計画，都市計画，地域計画とあり，共同住宅を除いて，ほとんど基本構想，基本計画，設計といった実施設計の前の段階のものです。こうした仕事が主流で，こうしたものに関連の深い，広域土地利用計画，市街地開発調査，計画，宅地造成計画，レジャー，観光地計画，公園緑地計画も行なっています。依頼主は，ほとんど100％都府県および大阪市で，中小都市がこれにつぎ，民間ディベロッパーからの仕事の依頼は，現在までほとんどありません。大阪出張所は現在所員14名で，都市工学出身者1名を除いて，あとは皆建築の大学または大学院卒ですが，いずれも都市計画か住宅地計画を目指して入所した人々で，5年から10年の経験者が主体です。従って，建築設計は今まで行ないませんでしたが，最近共同住宅の設計が継続して依頼され，建築設計のスタッフが常駐するようになりました。最近の仕事の傾向は，在来手がけてきたもののほかに，高層高密度地区の開発，市街地の再開発（住宅建替え計画を含む），新規住宅地開発と，再開発の中間にとり残された市街地外縁部の開発計画，ニュータウンセンターとそれに伴う経営計画などが急に増加しています。また民間ディベロッパーからの依頼は，今まで話しはあっても，ほとんどが絵を描いてもらいたいということで，われわれが努力してきた地域の特性や，都市像の中から計画を位置づけ，得られた条件を技術との関係から形態化し，構想，計画は単なる絵ではないとして，むしろ作業のプロセスを重視する（当然の話ですが）方向となかなか一致せず，仕事として実現しなかった

のですが，漸く質の高い大規模住宅地を考え始めたようで，まともな仕事として，われわれのマーケットに登場し始めました。これは，市民の生活水準が上昇し，よりよい住宅環境が要求され，評価され出したことと，千里ニュータウンを始め，公的施策による大規模団地が次第に完成に近づいて，在来の民間住宅地の水準を遥かに抜く実例としてあらわれつつあるゆえと考えられます。

2　われわれの問題点

日本でも経験のすくないコンサルタント業ですから，経営上，いろいろ問題があり，収入の時期と，支出の時期的ズレなど困ることばかりですが，とにかくこんな仕事だけで，何とかやれています。またこの点は特に他の民間建築事務所と基本的には変らないと思います。

最も大きな問題は，こうした構想，計画に対する報酬が確定していないので，一般に廉く，大学の研究室や，特別な組織（学会や，協会など）でなければ困難な費用で仕事をすることがしばしばあって，民間コンサルタントがこの方面に進出することをはばんでいるといえます。基本設計は，一般に実施事業に結びつくので，報酬規程も一般化されつつあって規程改正によって，設計内容の変化に対応する途がひらかれているのですが，そのもう一つまえの大切な段階が，現在われわれによって充分計画しうるし，またそうした能力蓄積と目標に努力しているにもかかわらず，その評価が低いのは困ったことです。また，そのために無責任な構想，計画が行なわれることになり，一層事態が悪化する悪循環が考えられ，早く，この方面の計画内容と成果，報酬のルールが確立されねばなりません。

事務所の内部的問題としては，仕事の内容が広くなるにつれ，小人数のときに充分行なわれていた横の連絡の良さが消え，専門化する一方，各人が都市問題全体の眺望をもつことがなくなることのないような組織をつくることが一番大きい問題です。これは所内のコミュニケーションの問題で，これを組織化することが，小事務所では容易なはずであり，専門化をおしすすめることによって大事務所と対抗しつつ，新しい分野の開拓が可能になると思います。また，計画の内容は日進月歩であって，新しい情報を正確に駆使する必要がありますが，より多くの人々が，より質の高い計画を行なうために，公共的インフォメーションセンターや，建築研究所にあたる，計画研究所のようなものを作って，計画の研究が行なわれ，公表されることを期待します。

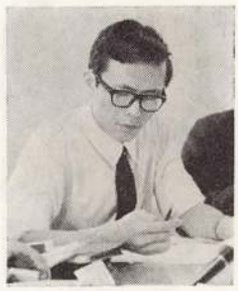
藤田邦昭

1　やっている仕事

都市再開発に関するコンサルタント業務

調査，企画，立案，基本計画（土地，建物，経営，資金）公共団体，地元権利者，組合などに対するカウンセラー実施計画はしていない。

仕事は各県市，組合等よりの受託が多いが，設計事務所，商社，



安田委員

ですか。

近藤　建築の場合，特許というのは少ないと思います。たとえばある大きい組織体ですと若干余裕があるといいますか，集中的にどこかで採算面の仕事をやっとけば，あとはかなりの人を開発的な仕事とか，ある時期に勉強をさすこともできる。たとえば最近問題になってます地域冷暖房などの場合その方面へ，それに適したような人を回して，その間にいろんなことをおさめて，次にその人材をこちらへ持ちよってそれをその企業の中で利用するとか，そういうふうにして，何らかの形でそれぞれの部門にそういうプロフェッショナルな人間をつくって，うまく統合して，1＋1＝2じゃなくて3とか4の力が出るように，そういう動きがあるように感じるんですが。

司会　きょうご出席いただいてるのは割合大事務所の，かなり組織的な能力を発揮できるような事務所の場合ですけれども，きょうは残念ながら中小事務所の，——まあ建築事務所というといい格好なんですが，産業構造的に見れば零細企業に属するわけですが——，そういったところではこれからは新しい技術とか非常に高次な能力が求められてくるのにどういうふうにやっていくかということが大きな問題だと思うのですけれども，そういった点でもし気づいた点があったら。

安田　そうですね，関係すると思うのですけれども，いま言われたように，大事務所だったらプロフェッショナルというか，専門化が進んでいく。一方小事務所ではすべて，一人か二人でやらなければいけないという問題があるのじゃないかと思いますがね。

橋本　ただ組織の大小を問わず個人事務所的なレベルで何でも多角的にやれるような能力というのが実は基本的に必要なんですね。

近藤　岡橋と話をしておりまして私も感じたんですが，建築家の能力というのはいろんな資本とか設備に置きかえられないものであるというふうな言い方をしておりました，ということはそういう個人の場合でも今後はレンタルのコンピューターとかいろんな形で情報を手に入れる方法などもありますから，情報とか，プロフェッショナルな人を積極的に利用して，小事務所とか個人であっても大きいプロジェクトと取り組んで，より専門的な立場で活躍できるだろうと。

それとまた逆に社会のほうも，そういう個人を積極的に利用するような社会にならなくてはいけないし，また建築家のほうからもそういう提案を社会にするべきだということを，岡橋がインタビューの時に言っておりましたが……。

司会　建築事務所なんかよりも専門化して分化していく。たとえば設備，構造は小事務所の場合だったら外へ出すとか，あるいは他の分野の専門家にプロジェクトに参加してもらうとか，複数の事務所で組織をつくってやるとかですね。ただ，それだけのことをやろうとすると，他のまた専門家に頼むわけですから，大へんに計画料をたくさんもらわないとできないのじゃないかと思いますがね。

近藤　しかし現実的には設備とか構造の外注形式というのは多いですね，小さい事務所なんかの場合。僕の友だちのやってる例ですがある規

模までの住宅程度なら自分でもできるが，少し大型になってきた場合は外注する。それに対する外注の設計料率というのも一つの形式ができてるようですね。

平内　建築と他の同じような空間をつくり出す技術との大きな違いといいますのは，自動車であるとか電車であるとかの，人間が中へ入る空間をつくり出す他の技術と比べて，空間的に非常に創造する自由度が高いということですね。そこに設計組織と関連する大きな意義があると思う。どういう質の空間をつくり出すかといった系統の創造活動の面であれば，組織的な大きな事務所でなくてもできる場合が多い。そのような分野に中小の設計事務所が進んでいく道があるのじゃないでしょうか。それを具体的にどういう技術でバックアップして建てていくか，その辺はやはり外注なりそういう形で大きな組織を利用してやっていけばいいんじゃないかと思います。

司会　中小企業の建築事務所だけじゃないですが，協業化とか組織化というのはよく中小企業政策なんかでもいわれておるわけですが，実際はなかなか進まないで，やっぱり事務所を経営している人は一国一城の主のような感覚を多分に持ってるのじゃないかと思いますがね。

平内　その設計組織という問題なんですが，組織的に大きなほうがいいとか，小さいほうがいいとか，あるいは設計施工一貫体制がいいとか，設計施工分離がいいなど極端にどれがいいとか悪いとかいう問題じゃなしに，社会の中にいろんな形で私はあっていいと思います。

福田　しょせん建築の場合，人間が問題なわけですね，つくる人間というか，マンパワーであるわけですね。したがってそういうマンパワーがどういうあり方をするかということからいうならば，ファームという形式もあるだろうし，あるいはでっかいカンパニーという場合もあるだろうし，より集まる場合もあるだろうということで，いろんなあり方というのは可能なんだろうと思うし，今後ももっといろんなあり方というのは出てくるんだと思うのです。それでいちがいに中小事務所というのは消えるべき運命にあるというふうに言い切れない。たとえば最前衛ですけれど，日本なんかではわざわざアトリエと銘打って事務所をやってる人がいます。あれはいつでも解散できるという意味を含んでアトリエというふうに称しているのだそうですが，そういうふうなあり方もあり得るし，あるいはタレントになる人もいるかもしれない。いろんなあり方があって，どれがいけないとか，将来性があるとかということはいちがいにいえないだろうと思います。そういった場合でも，そういういろんな社会とのつながり方をしながらも，何かそこで建築家という——建築家ということばはもうすでに古いのかもしれないんですが，あるいは，空間創造に携わるもの，というふうなことで，ある共通項みたいなものが見出せるのかどうかと思うのですが。

小島　そうですね，設計組織自身が多様な社会の要求にしたがっていろんな形へ分化現象を起している。さっきのここに集められているアンケートの結果を見てみても，建築家の社会的な責任というテーマに限ってみても，非常に自分のポジションの設定が多岐にわたっている。またそ

ディベロッパー，施工会社の各企画部門との共同作業も行なっている。受託業務ごとにプロジェクトチームをこしらえている。完全な共同作業（下請関係ではない）構成メンバーは，土木，経営などのコンサルタント，大学教授，設計事務所，施工会社の企画部門などであり，発注者との打合せもチームで出席している。

今後，大型プロジェクトの増加にともない，チームによる作業の必要性が考えられる。私自身現在，建築家協会の会員であるが，建築家協会は未だに，フリーアーキテクトが単体の建築を受註する考え方で構成されている。その建築家憲章も再検討すべき時期であろう。再開発関係の仕事はトラブルの連続である。発注者も複雑である。これらの取りまとめ，その中での構想のとりまとめが私たちの仕事である。実際には，発注に際し，設計事務所，施工会社の受註をめぐる足のひっぱり合いに悩まされることがあまりに多い。そのために計画がつぶれかけることがある。仕事あっての設計，施工業者であることの認識とプロジェクトチームで仕事をこなす考え方が欲しい。

2　社会に対する責任

どの会社でも社会に対する責任はある。建築家だけが肩をいからせているのはナンセンス。

まして大型プロジェクトの多い現今，現在なすべきことは建築家の果すべき範囲，責任の限界をはっきりさせることであろう。とりもできない責任を広言するのは，世をあざむくのもはなはだしい。具体的には何十億，何百億の仕事では，金銭的に責任をとるためには保険などのシステムの確立も，責任を感じているのなら，考えねばならない。多数の構成員による計画では各々の分野をはっきりさせておくこと。発注者の責任（これも集合体の場合明瞭にする必要あり），計画～設計担当おのおのの分野，施工の分野ごとの範囲と限界を明確にすること。これが社会に対する責任のまずしなければならないことである。

横尾義貫

建築教育について

欧米では ARCHITECT と ENGINEER が別の学校で教育されるのが普通である。しか最近では，ARCHITECTURAL ENGINEERING という学科が若干見受けられる。日本は明治の初め東京大学に造家学科がおかれてから，次第に現在行なわれているような ARCHITECT ENGINEER 教育の体系ができ上がりまた建築界もそれらの課程を修めたものの集団として構成されている。おそらく当初はヨーロッパの教育体系が輸入されたのであろうが，なぜわが国は欧米と異なった形となったかは興味あることである。それはさておき，わが国でも，技術の発展は，実際上

の職務内容の分化を来たし，教育も分化すべきであるとの考えがかなり以前からみられる。京都大学において，建築第二学科の創設が企だてられた当時は，在来の建築学科に対して，建築工学科を設置しようという考えであった。しかし大学事務当局また文部省の関係者の諸氏には，この区別がなかなか理解してもらえなかったので，やむをえず第二学科とすることに同意した。そして現在では，新旧両学科とも内容は全く同じとし，二つの学科は単なる組分けのように考えることとして今日に至っている。現在の私どもの心境は案外これでよかったのではないかという気持である。しかし教育の分化を否定するものではない。

現状を肯定している理由は多々あるが，その最大の理由は現在の4年制大学には前期2年を教養課程，後期2年を専門課程とする立前があり，専門課程があまりにも短かいことである。ものごとを理解するのには時間がかかることは当りまえである。ことに建築の分野は，学問の性格からは総合大学のあらゆる学部を包含してしまうほどに広い。そのなかで学生諸君が自からの志向する方向をさだめるには，できるだけ時間があった方がよい。要するに専門課程の量ではなくて期間が問題である。まず教養・専門の両課程のくさび形，さらには平行教育，あるいは両者のコン然たる四年間一貫教育などが問題とされるべきである。そのような努力と実践のなかで分化の問題は取り上げられるべきである。

一方，教養課程はそのままとし，専門課程を延長すべしとする議論もある。しかし私はそれには賛成しがたい。理由の一つは大学の格差を大きくするおそれがあるからである。他の一つは，技術には早教育が必要であると思うからである。創造力豊かな20代の後半，30代が社会の建設的活動に参加しなければ，新らしい時代の進歩はありえないし，もったいない話である。早教育はバイオリン教育や水泳学校ばかりではあるまい。

専門教育とともに現代における教養教育とは何か，いかにあるべきかよく考えてみる必要がある。エリートの資質として考えられた旧制高校的教養観ではいけない。大学卒は，知識においては旧制時代とまさるとも劣らぬが，もはやエリートではないのである。

LEADERSHIP について

科学・技術また社会の構成も，進歩とともにますます細分化されてくる。それぞれの分野には専門家が必要となっている。この傾向はまず科学・技術において著しい。生産的・社会的活動のなかでは，たえずこれらの総合が行なわれねばならない。総合のための ENGINEERING の開発も必要である。しかし，社会の発展は著しく，条件は流動的である。その時点でのできるだけソウ明な解決がなされねばならない。それには専門家が参加した会合が必要である。しかしこの会合は，独裁者的な御下問形式の会合ではなく，また議会民主主義的な会合でもない。このような会合に創造的なものは期待できない。専門家は問題を提起し，対立者を理解し，たがいにそれ克服し解決を見出していくものでなければならぬ。ここに必要なものは，司会者・総合責任者と参加専門家の心がまえであり，ことに前者の現代的意味における LEADERSHIP であろう。まず会合の実践の積重ねのなかから，訓練され，会合はより稔り多きものとなるであろう。これらのことは建築界においても例外ではない。



小島委員

ういうトップの人と，組織の中で現実に働いているスタッフの意識の断層の問題とか，またいろんな組織形態による問題意識の違いとか，非常に多岐にわたると思うのです。そこでここでそれを一まとめにして，「建築家の責任とは」ということになると，究極建築をやる空間創造にたずさわる個人の責任というところに行きつかないと共通項は見つからないと思いますね。

司会　これまでの討論のところ，建築家の責任といっても，建築家というもの自体が非常に多極的に分化しつつあるので，まずいちがいにはいえないと。そうすると共通の責任となると，個人がいかに心がまえを持って努力しておるかというような，個人の心がまえにまずなってくる，というのが一つの見解なんですが，しかしまた逆に個人の心がまえで建築技術者というようなものが日常の業務とかそういうものを通して，うまくやっていけるかといったら，ちょっと僕はそれだけでは頼りないような気もしないでもないんですがね。

小島　でも，そういう建築家の責任ということをここにことさら取り出さなければいかんような社会の情勢がある，公害問題とか都市問題みたいな。そこでそれに対応するのに問題を個人レベルに一度引き戻さなければならないといいましたが，たとえば都市広場みたいなことを問題にするにしても，それをプロジェクトの形で提案するということも一つでしょうけれども，たとえば御堂筋のイチョウが新緑でパーッときれいなときに，歩道に椅子を持ち出して，皆さん座って話して行きましょうというような呼びかけを（笑声）やるようなことからスタートすることもできると思うのです。その辺になってくると組織体としての事務所がどう取り組んでも対応できなかった問題に対して，個人の働きによってうずをまきおこす，このほうへいけというゲリラ的な活動によってかえって活路が見い出せるのではないかと思うのですが。

橋本　あまりにも組織体というものが個体を踏みにじってるというか，そういう実はみえているんだけど見ないことにしている力というものが絶大だから，結局個人のレベルからそういうこと，たとえば一種の演劇的な要素ですね，そういうものをみんながつくり出していかないと，どうにもならない側面があるのですね。

松井　私ちょっといま発言を聞いてて気になるのは，個人と組織といった場合に，いままで発言されてる組織というのは，企業のような感じがするんですよ。組織すなわち企業であるということは必ずしも言い切れんと思うのです。先ほど建築運動の全国組織をつくろうということは，企業をつくるのじゃないわけです。個人が社会的な公害の問題とかそういうものについて，いままで企業の中ではほとんど外部に対して発言できないわけです，企業の一つのワクに制約されますからね。しかしそういうワクに制約されずに，技術者の良心でもって外部に発言できるような場，そういう組織が必要であると。一口に言えば民主的な組織と言えばいいわけですけれどね。私の言ってる組織というのはそういうふうな組織で，そういう組織があってお互いの交流ができれば，技術者が自分の良心にしたがって，もう少しこの問題はこういう点について問題があ

りますということを社会的に発言できるわけです。そういう意味の場が必要であるんじゃないかと思うのですが。

司会　いまの建築家というか，「建築家」というのは「建築に関する仕事をしている人」という意味で，プロフェッショナルな人がどれくらいいるかなと思いますと，おそらく建築家的技術者というのは非常にたくさんあって，一級建築士はいま7，8万人くらいおるんだけれども，そのプロフェッショナルとして実際にやってる人はごく一部ではないかと思います。それに対して技術者層だとか専門家層だとか，あるいはまた建築技術労働者とか，そんな言い方もあるわけですね。その辺のいろんなところでいろんな人が働いてるわけですが，やっぱり位置づけというものがないと，みずからが全部の責任をかぶってるような経営者とか管理者的な責任のにない方と，それからもう一方は建築技術労働者だというような意味でのにない方と，いろんなにない方というのがその取り方によって変ってくるのではないでしょうか。

建築家の責任についていちがいにいえないということは，仕事の多様性ということもありますし，それからもう一つは経営様式による差も大きいことからきていると思います。二級建築士として仕事をやっておられる方とか，あるいは町の大工さんからずっとやって，一人親方ならぬ一人事務所長というような，そういう人たちも建築家の領域に入っているわけですね。そういった意味で，いちがいには言えないという結論は，私は案外当たっとるのじゃないかというような気がするんですが。

教育界の中で

室崎　その辺で，僕ら大学で勉強している仲間，これから社会へ出る仲間で話し合ってることでは，僕らもう将来「エリート」になれないという考え方がかなり支配的になってきてるわけです。そうした中で主要な側面とは一体何かというと，さっきも言われたように，我々が技術労働者的なそういう層としてあるという面です。そうした側面が重点に出てくるのじゃないかということで，責任論なんかでも僕らはいままでは建築家の社会的責任という言い方をやってたけれども，いまは建築技術者の総合的，組織的，社会的責任という言い方をする必要があると思います。むしろ個人個人が，君は何のためにやるんですかとか，だれのためにやるのですかという，昔のそういった責任論じゃなくて，君はそれをどういうような形で実現をしていくのかという，やっぱり組織というか，だれと共同してそれに当るのかとか，どういった組織の中に入ってどういった組織と闘かってそういう責任を果すのかというように，集団とか組織とか層というものをものを，責任論の中で論議することが必要だと思います。

確かに多様なタイプの建築家とか建築技術者がいますが，これから問題になるのは，少数のエリート建築家は将来とも残っていくであろうけれども，建築全体を動かしていくのはそのような人達ではなくて，むし

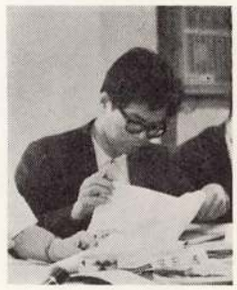
情報化社会へ向かって

情報化社会という言葉がしきりにいわれている。また万国博跡地を西日本の情報センターとするという話も聞かれる。建築界は，このような新らしい時代の到来に直面して，どのように考えるべきか，企業は個々に情報の蒐集・整理に努めなければならぬことはもちろんである。しかしそれには共有してさしつかえない情報が多くの部分を占めるであろう。情報は待っていて，上から下されるものではなかろう。建築界として，どのような共有情報をもとめるのか，考え，準備し，その実現を推進していく時期が到来していると思う。技術情報・経済情報・統計的情報などのそれぞれについて，どのような形で欲しいのか，考えてみる必要がある。たとえば技術情報については，建築部分の例えば，防水，防音，断熱などの性能試験法の立案や，それらの試験実施する場所の必要性が当然のこととて要請されるであろう。近畿においては日本建築総合試験所の強化拡充が必要である。統計的情報についても，年鑑の出版をまって知るのではなく，すくなくとも近畿圏だけでも，月ごとの情報ぐらい，すみやかにえられるようになりたいものである。これらのことは建築界に意欲がもりあがれば，実現できるものと信ずる。これらの問題の提起は，日本建築協会の役割の一つとして取り上げるべきではなかろうか。

栗原嘉一郎

現在の職務，専門についてどのように考えているか

――現在，教職にあるが，必ずしも「教職意識」からすべてを発想しようとは思わない。むしろ，自分自身，建築にたずさわり，それについてさまざまな問題意識をもちながら，学生とともにそれについて考えてゆくことが，私にとって当面なしうる最良の教育と考えている。専門としては，建築計画の研究を行なっているが，この分野は大きくいえば，人間の福祉(welfare)の増大というひとつの目標をかかげる諸分野に参加するものであり，目標，方法からいって，古典的な「建築学」の枠内からはみ出したものをもっている。計画学などの立場からいえば，建築を単なる一個の空間として，それのみを対象として追求するだけでは不充分であり，常にそれを社会や制度，生活原理と結びつけて考えてゆく必要がある。またそれらの分析の過程が，大目標への接近のために総合され，実践されなければ無意味である。この際，「建築」という言葉にこだわりすぎて，大きな目標を見失ってはならないだろう。建築はいわば，われわれの実践の「結果」であって，必ずしも目的ではない。古典的な「建築」概念の中にとじこもっていては，かえって建築のために ならないだろう。計画学の立場からいえば，福祉を形成する要素のひとつとして，あるいは，環境福祉の結果として，建築という形式がたまたまとられていることになるのである。このような意味からすれば，私は単にある対象の分析を行なう「研究者」としてではなしに，常に全体像に向かってアプローチする，実践的なプランナーとしてあるといえる。これは私の教職にある立場となんら抵触するものではなく，むしろ，建築における教育はそうしたトータルなかつ実践的な視点でなされることが望ましいのではないか……。



室崎委員

建築教育の問題，現行制度の問題について

――前記のようなことから，建築教育は必ずしも古典的な「建築」という言葉で自らをしばり上げる必要はなく，むしろ広い意味での環境プランニング――大きな目標とそれに向かっての実践――に関心をよせるような人間が育て上げられることが大切である。最近の建築学科の卒業生は，建築の分野だけでなく，かなり広いさまざまな領域の職場にはいりこんでいるが，これはむしろ歓迎すべきことであり，教育体制がそれについてゆけないことの方が問題である。今日の日本の制度では，建築は単に工学の一分野として位置づけられ，したがって建築学科はほとんどが工学部内の一学科として設けられているわけだが，このことは，建築を上述のような観点から位置づけすべきだと考える私にとって重大な疑問である。現実に工学部内に設置されてみたところで，学部内にほとんど学問的な意味での連帯感も求められぬままに，むしろ建築学科がどこでも非常に特殊なものとして，学部内から考えられているような傾向がみられるのは問題だ。

今後のヴィジョンとしては，「環境学部」というようなまとめ方をとり，そのなかに，ソシアル・プランニング――アーバン・プランニング――建築――インテリアなどの諸部門を含めるというような方法がよいのではないかと考える。この学部には，単に冷たく対象の分析を行なうだけではなく，常に良い環境を指向しつつ全体像に向かって実践的にアプローチしてゆくという共通理念が必要である。このような共通理念のささえがあるならば，各部門間で扱われる対象のあばれや方法的な差異は問題にはならず，かえって望ましいことでもあろう。抽象的な目標こそ共通であれ，いやしくも大学である限りは，それへの思考過程・方法に関しては，個々の構成メンバーに完全な自由が保証されるのが当然だからである。

西村一朗

都市計画を中心とする研究の分野において

○最近おこった大阪のガス爆発は人命軽視の計画のあり方の反映である。こうしたことを科学的データで批判していく必要がある。ただ観念的に「人命軽視の計画反対！」ということではだめで"リアル"に描いていくことが必要であろう。

○都市計画において，一般に「住民参加」といわれるのは何であるのか，そうした場合，今までの都市計画のやり方とどうかわる，あるいは発展すべきなのか明らかにすることも必要であろう。

○大学においては現場から遊離しがちであるが，現場に接近する心がまえが必要である。ガス爆発がおきた時にも，すぐに見に行こうとする問題意識がないといけない。そうしたことが課題をみつけるためにも必要である。生産現場の問題では労働災害の問題が重要である。どうすれば防止できるのか，どのような技術を開発すれば防げるのかを学問的に明らかにする必要があり，そのためにも現場にいかないとわからない。都市計画の問題では，都市行政や住民運動に専門家として当面リアルに接近してゆくことが大切であろう。

ろ，現在多量に社会に送りだされているマスとしての大学卒業生と，現場の労働者からいろんな技術をつけてきて，それなりのまたプロフェッショナルな人になってきた人たちが混沌として区別ができなくなって，そうした中に形成されるような層が，全体としてどう社会に責任を果たすかということが非常に問題になってくるのじゃないかなということを感じるわけです。

そういった意味では，大学における問題でも，単に責任の社会性ということだけ追求するのじゃなくて，たとえば教育の問題でも常に総合性と社会性ということが必要なわけです。いままでは社会性だけを僕らは主張してきたけれども，総合性ということを教育の中に入れていかないと非常にまずい点が出てきている。総合性といった場合には一つは自分たちと他の分野の人たちの関係という場合と，それから自分たちと同じ層というか，同じレベルに存在する人たちとの関係をどう考えるかという場合が考えられますが，そうした総合性の問題というのが，やはり責任を考える場合には非常に重要になってくるのじゃないかという感じがするわけです。

福田　たびたび水をかけるような言い方でよろしくないんですが，少し楽観的過ぎるような気がするんです。これまでどういう人たちがどういう組織をつくってくることができたかというと，いまだかってわれわれが知っているのは労働組合とそれからプロフェッショナルの団体，それ以外は親睦団体です。組織というのはそれしかないのです。それ以外のどんな形になるかというのは，これからのわれわれの運動論の範疇に入りますし，それはいまのわれわれの話ではないだろうと思いますので，ただ単に技術者が何となく仲よく集まってやれるだろうというのは希望的観測にすぎないんですね。

室崎　じゃなくて，客観的な基盤としては，大学からも大学院からも大量のいわゆる「エリート」という範疇に入れない精神的な労働者が送り出されてきているという状況と，もう一方ではいままでの現場の労働者がいろんな技能を身につけてきて，それなりに一つのパートを専門的に果たしてきているという層が，同時に大量に存在してきているという事実を考えることができます。この事実が客観的な条件としてわれわれやそういう人たちに同時に一つの組織をつくり得る可能性を与えていると感じてるわけです。だから非常に労働組合的な要素も持ってるし，いままでの知識層的な要素も持ってる，といったようなものが生まれてきつつあります。たとえばいま全国の青年建築家技術者集団というのが仮称ですが，準備会ができて動き始めてるわけですが，それは将来どうなるかということはわからないけれども，そうした面がまた出てきてるということは，そういう状況を反映してるのじゃないかなという感じがしてるんです。やはりそういった問題，いわゆる建築家の社会的責任というのは，そういったところでどういうふうに取り上げられるのかということは期待できるのじゃないかという感じがします。

司会　いろいろ論議がでてきましたけれども，なかなか建築家像といってもいちがいには言えないものでありますし，したがってまた責任の所

在といっても心情的につきつめれば，建築家総懺悔論にもなりかねないですが，みなさんのお話をうかがってみて，日常的かつ具体的な仕事を基礎にしてよくがんばっておるんだというような，建築家や建築技術者層としての意気込みというようなものの実感を得ました。

今日のお話しではっきりしたことは，ひとくちに建築家層といっても複雑に技術的，階層的な分化を深めつつあるという事実です。それだから建築家層というものに対して統一した考え方がでてこない。ある人はプロフェッショナルなものを意図しているし，またそうでなくて，もっと大量に出されてくる組織的な中の技術労働者としての問題，それに対して建築家層として個人としてまた組織としてどう活動してゆくかという問題を意識している人もいる。またそれぞれの企業の中でやっていく仕事と同時に，社会的な場で建築家層というようなものを横断していくような活動をどうやっていくかという問題に実践的にとり組んでいる人もいる。今日の座談会ではそういった建築家層の活動の場というものについてのあらまし，どういうような責任領域があるんだとか，そこでの建築家層がおかれている状態などについて，いくつかの重要な問題提起がなされたと思います。こういう問題は，その問題だけ取り出して論じようとすると非常に難解なテーマになってしまいます。しかし建築家の責任というものは，これまで実践を通じて果たされてきたといえます。本日は問題提起にとどまりましたが，その展開はこれからの職場や組織や社会での諸活動にまちたいと思います。

どうもありがとうございました。

教育において

○後輩や同輩と一緒にやっていく，既製知識を伝達する考え方は遅れている。むしろ一緒にやっていくことに意義がある。

○若い人の長所は，するどい問題意識があるという可能性が大きいことである。それをのばすように考えないといけないのではないか。その点でつめこみ教育，マスプロ教育には問題がある。

○最近大学院に重点がおかれていて，学部がつけたしになっている。そこには教員の不足，予算の不足があると思うが，どうであろうか。

○高専教育の問題では

i）技術面に重点をおいてやっていることが多い。

ii）文部省の方針が，わりにスムースに入ってくる。
例えば，情報処理教育のすみやかな導入がそれである。

iii）現場ですぐに役立つ人を養成しようとしている。こうした理由で，もっと勉強したいという人もいるが，高専で行きどまりである。時間においまくられて遊んだりのんびりしたりするゆとりがない。教師としても，研究や教育の時間的ゆとりがほしいところである。現場だけでは全部解決しないが，こういうところに現場の教育者の課題と責任があるのではないか。

○生活―生産―空間のつながりを研究するなかで教育を考える必要がある。学生にもそういうことを理解させるため一緒にとりくむ必要がある。

出席者

（順不同・敬称略）

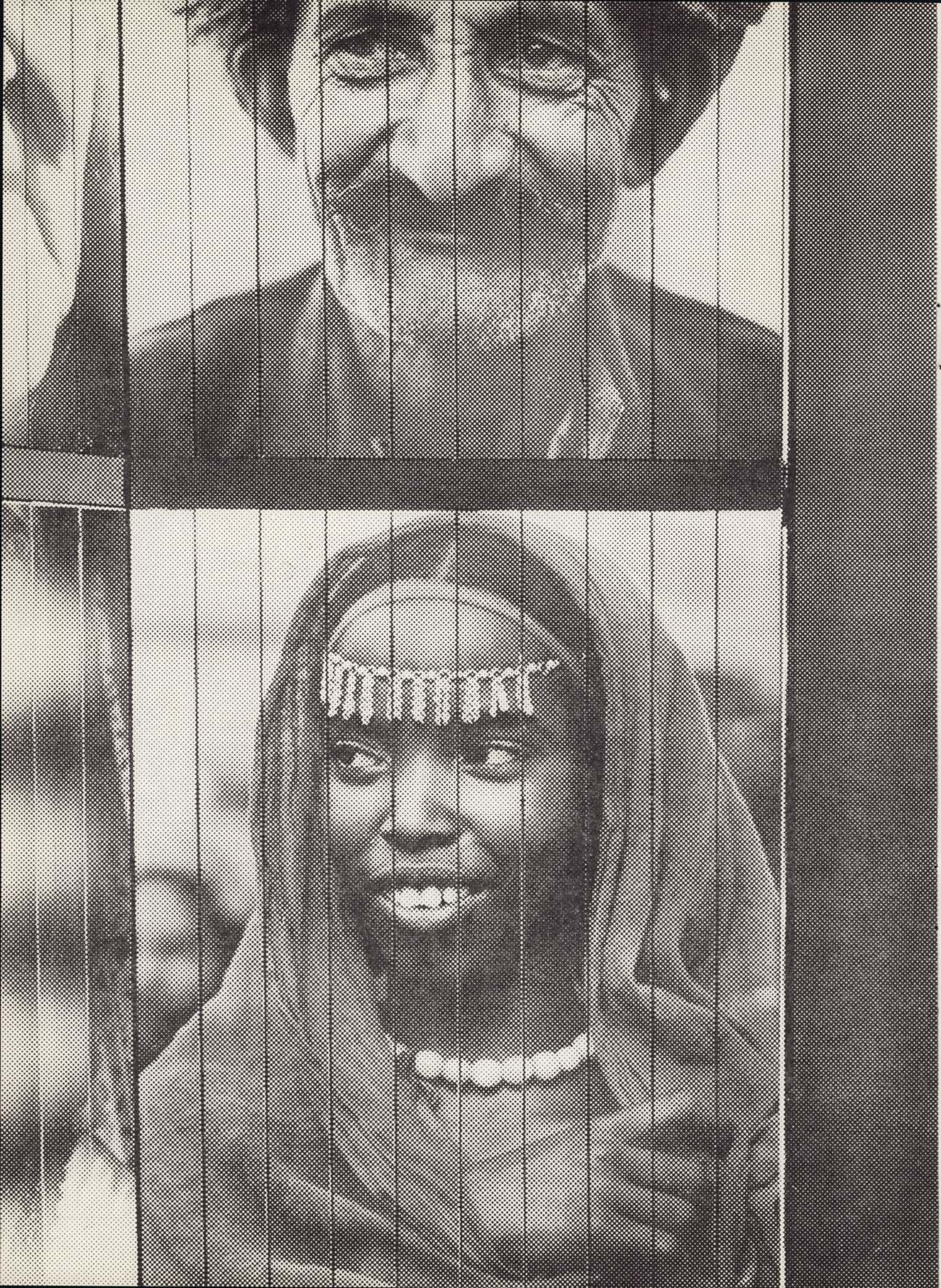
（1970.6.2.）

編集委員長	鳥田家弘	（神大）
編集委員	三村浩史	（京大）
〃	室崎益輝	（京大）
〃	福田晴虔	（大阪市大）
〃	平内祥央	（竹中工務店）
〃	安田孝	（阪大）
〃	垂水英司	（神戸市）
〃	塚本正司	（住宅公団）
〃	藤沢隆	（兵庫県）
〃	近藤繁	（日建設計）
〃	小島孜	（安井建築設計事務所）
〃	橋本健治	（板倉建築研究所）
事務局	松井昭光	（日本建築協会）

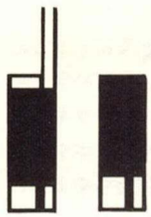
回答者

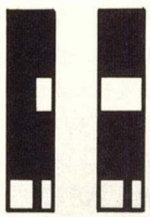
（順不同・敬称略）

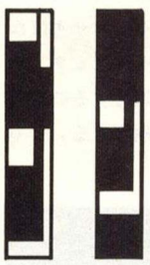
官公庁関係	椚座正信	（大阪府）
	今西祥郎	（大阪府）
	片田俊彦	（大阪府）
	光安義光	（兵庫県）
	萩野益司	（神戸市）
	青樹英次	（住宅公団）
	山田俊満	（住宅公団）
設計事務所関係	岡橋作太郎	（日建設計）
	薬袋公明	（日建設計）
	佐野正一	（安井建築設計事務所）
	山本純孝	（安井建築設計事務所）
	西沢文隆	（坂倉建築研究所）
	太田隆信	（坂倉建築研究所）
コンサルタント	富安秀雄	（市浦都市開発建築コンサルタンツ）
	藤田邦昭	（都市問題経営研究所）
建設会社設計部	山中孔	（竹中工務店）
大学（教育）関係	横尾義貫	（京大）
	栗原嘉一郎	（大阪市大）
	西村一朗	（京大）



■ ニ　ワ


4キューブ構成


6キューブ構成


8キューブ構成


ローヂウラ長屋

ニワが人工的な空間に対して何んらかの自然的素材を装置化し，極度にメカニカルな人工性に自然性をもちこみ，われわれの精神性と不可分にからみ合っている生理に一定の充足を与えることによって，われわれの自然的存在性の証しをする空間の総体的な呼称として意味づけされている現代は，とりもなおさず量的なまた質的な都市化の中での自然への欲求阻害，人間性の1つの大きなファクターの喪失を痛感している現実の反映であろう。自然，緑，オープンスペースなどの必要性が，住宅レベルから都市レベルまで問題化され，「自然」のより具体的なイメージをともなった「ニワ」として，たとえば『ニワ都市』といった表現がみられるようになった。みずみずしい緑，さわやかな風，せいれつな水の流れといった具体的な自然の容相は，われわれの根源的な生命を支えるものとして，不可避的にわれわれの精神に浸透している。根源的に生命を支えるものであるゆえに，自然は人間諸個人を貫通して普遍的に快感される。このような「自然」はわれわれの生活空間の中で種々の容相（量的，質的多様性，運動形態）をもって存在し，われわれの働きかけや出合い（チャンス）によって相互の交流（コミュニケーション）が発生する。ニワが住宅レベルの居住空間において占める位置も究極的にはこのような「自然」との交流の必要性を基盤にもっているものの，その交流の仕方は能動的にあるいは受動的に，また対象の種類において多様である。一般にニワは住宅おける戸外住居スペースをさし，ヘヤに付随したものであるが，ヘヤとニワの交流，相互依存性によって不可分の相互関係をとり結び，住宅間の主要な構成部分をなしている。とりわけマチヤ・イエ空間の稠密性はこの間の状況を極限的な形において実現し，その密度高い自然的素材の容相，それらとの交流の情況を日常レベルにおいて濃密に具現している。

広義のニワが住宅の玄関ポーチやサービスヤードなどの，狭義のニワ庭園以外をも含めているように，マチヤにおけるニワもいわゆる庭園的なセンザイ，ナカツボ，ニワサキ以外にローヂ，ロジ，ナカニワ，ウラニワのイエ空間におけるオープンスペースを含む。トオリニワといわれる直線的なダクト空間でもゲンカン，ダイドコ（ハシリモト）部分はシエルターをもつエンクローズドスペース（Enclosed Space）であり，植樹などの行為はおこなわれない接客や炊事機能のスペースとして除外される。したがってマチヤにおけるニワはイエ空間の中のオープンスペース（Open Space）であり，これらは概して狭少なOスペースである。トオリニワダイドコをEダクトとOダクト，これに平列するキューブ連続のうちオイエスペースをEキューブ，ニワスペースをOキューブとして論じた過去の例でいえば，ニワはOダクトとOキューブである。Oダクトは幅1～2M，長さ3～15M程度のリニアーなオープンスペースであり，Oキューブは幅3～5M，長さ2～6M程度の正方形ないし，これに近い長方形である。このような空間的条件をもつ，Oスペースは，高密住宅空間における狭少な緑化スペースであり，マチヤ・イエ空間の成生過程におけるグリーンの内部化の状況，高密な集合住形態におけるグリーンのための最小限空間設定の実例であると同時に，逆にマチヤという人為的な空間システムの発展過程においてグリーンがどれだけ入りこまざるをえなかったかという自然浸透性の指標であろう。いわばグリーンミニマムであり，Eスペースの増殖過程で要求されるOスペースの最小限は，それが最小限である故に，その価値をまたその必要性を訴えるのであり，ひときわ鮮烈な印象を与えるのである。このようなOスペース（Oダクト・Oキューブ）はマチヤを構成するキューブ数（間口よりも奥行の長さに支配される）による構成タイプによって短冊形イエ空間に数カ所，前，中，後と効率的にうち抜かれて，オイエ・居住スペースと密接な関連をもちながら，Oスペース特有の機能を十分に発揮するのである。イエの奥行によって決定されるキューブ数との関連においてながめるとき，このOスペースの重要性，機能性をいっそうよく知ることができるのである。

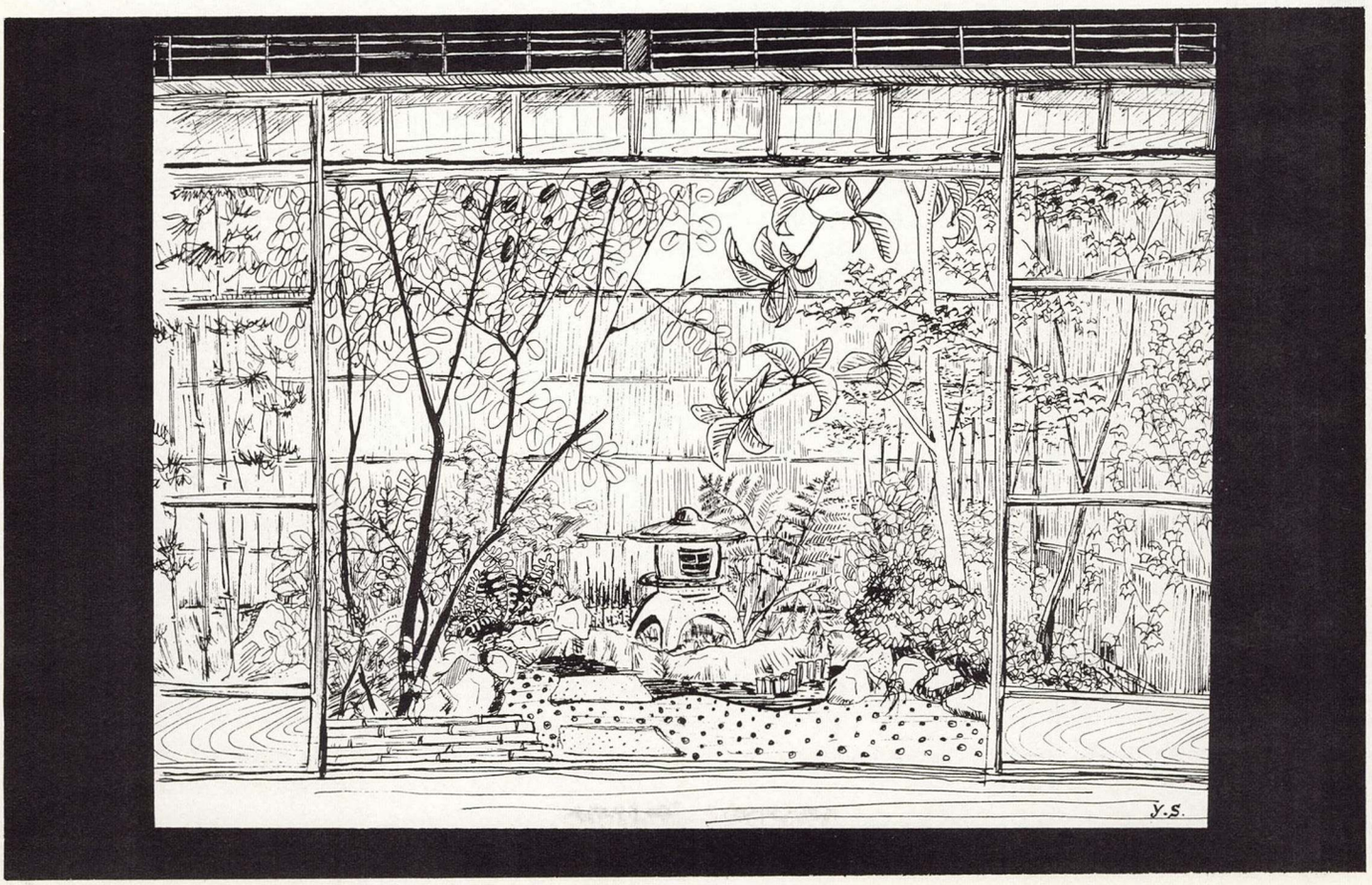
マチヤ・イエ空間の基本形である4キューブ構成タイプのマチヤの場合は，最奥の1キューブがニワサキとしてOキューブである。しかしこのOキューブは2面でL型にオイエ（オクノマ・ザシキ），エンガワ，便所，風呂にかこまれ，他のL型2面は隣家，背接家屋のニワとを区切るヘイ（塀）によってかこまれ上方1面のみをオープンとする。オイエとニワの連続性はエンガワを緩衝帯として自由に流動し，たんに空間的な流動性（相互浸透性）のみでなく生活行為においても流動性をもつ。エンガワから庇下にかんたんな干物（ハンカチ，クツシタ，手拭など）をしたり，オクノマ・ザシキの掃除の際の掃出し場，ゴモクの終着点としてニワサキは重宝であるというようなサービス的な利用方法から，庇下の鳥カゴ，虫カゴ，風鈴などに象徴されるリビング的利用まで，このニワとオイエの接点における行為は，ニワ・Oスペースへのオイエ・Eスペースからの住行為の延長がOスペースゆえに可能な仕方ではみ出している。また夏の夜にニワサキでの花火は季節をいろどる子供のみならず，大人のたのしみでもある。従来ニワサキは，オクノマ・ザシキと関連して観賞的で様式的であったのに対して，現代的な生活様式の変化は，さらに行為的で生活的なものとしとOスペースを，機能変化させている。幼児のある家では幼児たちの安全なママゴトの場にもなる。幼児はエンガワを「流し」にニワサキの木の葉を蔬菜にみたててママゴト遊びにふける。天気のよい日には，ニワサキにゴザを敷いて，隣り近所の子供が参加して，このママゴト遊びは活況を呈する。エンガワのすぐ下にクツヌギ石，それから数個の飛石のあるニワサキはいまでも土のままのものが多く，土いじりの場としても恰好である。このような子供のための遊びスペースとしてのニワサキはオイエとの連続性ゆえに，そしてまたそのドメステックなスケール（domestic Scale）ゆえにいっそうアットホーム（at home）な遊びスペースを提供している。そしてときたまニワサキに手づくりの池を見出すことができる。土を掘りセメントモルタルで固めた手づくりの池には，夜店でかってきた金魚や，地蔵盆の金魚すくいでとった金魚が数尾およいでいる。子供は夕食後に自分の茶ワンからいくつかの飯つぶをつまみ，これらの金魚に与えるのがたのしみでもあり，夏の水遊びの場ともなる。主人や主婦，あるいは老人の中に鉢植を好む人があれば，ニワ木の根本，一段の玉石づみのきわにこれらをならべ，それは朝や夕に手入れをほどこすことによって精神上の清涼剤ともなろう。

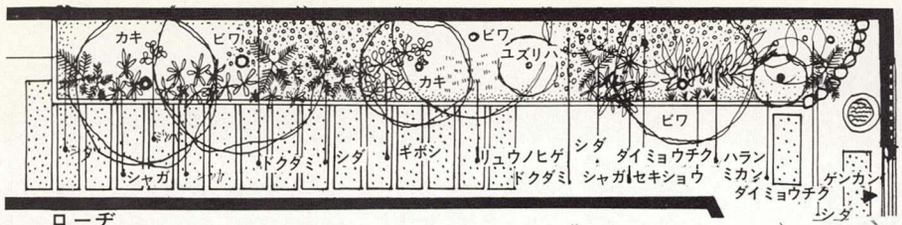
ニワサキに不可欠のニワ木は，マツ，アオキ，ツバキ，ナンテン，ヂ

ンチョウゲ，ヤツデ，下クサのバラン，シュウカイドウ，ドクダミ，トクサ，アオイ，ギボウシ，シャガなどが眼につくが，ビワ，カキなどの果樹は，夕食後のデザートに食べたビワやカキのタネが子供のいたずらにニワサキにまかれ発芽し，数年のうちに1.5〜3Mに生長し，一般に陽あたりのよくないニワサキも1階の庇レベルを越えると，急に陽あたりがよくなり生長の速度を増して枝をはりだす。またサシ木の利くイチヂクやヂンチョウゲを近所の家からもらい受け，ニワサキの片隅にサシ木してその生長を楽しむのである。またピクニックにいってとってきた山のツツジを植える場合もある。このようにしてニワ木は一般に従来あったニワ木にプラスして，家族のいろいろの動機からもちこまれた木々が家族の成長とともに生長していく。ある青年はかれの中学時代にまいたビワが10年の後に小さい実をつけたのを発見する。またある少女にとっては彼女の生まれる以前からあったサザンカは毎年1月になると，花を満載することを知っている。例年のようにさいた今年のサザンカをみて「おかあちゃん，サザンカが咲いたね」という会話がうまれる。それは彼女や家族にとってそれほどの事件ではないであろう。しかしこのサザンカは家族にとってはかれらの生活と同じ時間を生活してきたサザンカであり，かれらと同じように今年も生きていることを確認することである。それはかれら自身をサザンカに対象化しているともいえよう。従来あったニワ木も年数がたって立ち枯れているものもある。しかし何故か，この立ち枯れた木を切りとろうともせず設置されている。それは子ネコのよじ登る遊び木なのかもしれない。あるいはまたこの生命を失なったニワ木も，かっての家族の思い出につながり，切りとるにしのびないのかもしれない。ヂンチョウゲのような香木は季節の到来ごとにあの冷やかな香りをニワサキからオイエへ運んでくる。湿潤なニワサキはこの香りをいっそうしずんだものにし，住人の心に静かな慰安を与える。このようにニワサキは，住人の生活行為の中で，自然との交流を通じてのみ可能なそれが，狭少なスペースであるにもかかわらず，あるいはそれゆえに密度高く行なわれている。

ニワサキのニワ木も観賞的なものにとどまらない。イチヂク，ビワ，カキ，ザクロのような果樹は当然それらの果実が住人の食用となるのは当然として，ミツバ，キノメ，ミョウガ，シソウなどは，香辛料として食膳をにぎわす。キノメやミョウガの香りは朝夕のミソ汁，スイモノにひときわ新鮮さを与え，爽快さを感じさせる。食生活に関連して，ササやナンテンやバランは食物へのそえものとして，ササはすしにそえ，ナンテンの実は赤飯にそえ，キノメは煮魚にそえる。そしてこのような料理はときどき隣近所へのつけとどけにつかわれる。またユキノシタやドクダミ（ゲンノショウコ）は薬草として，ニワサキに植えられていたものである。

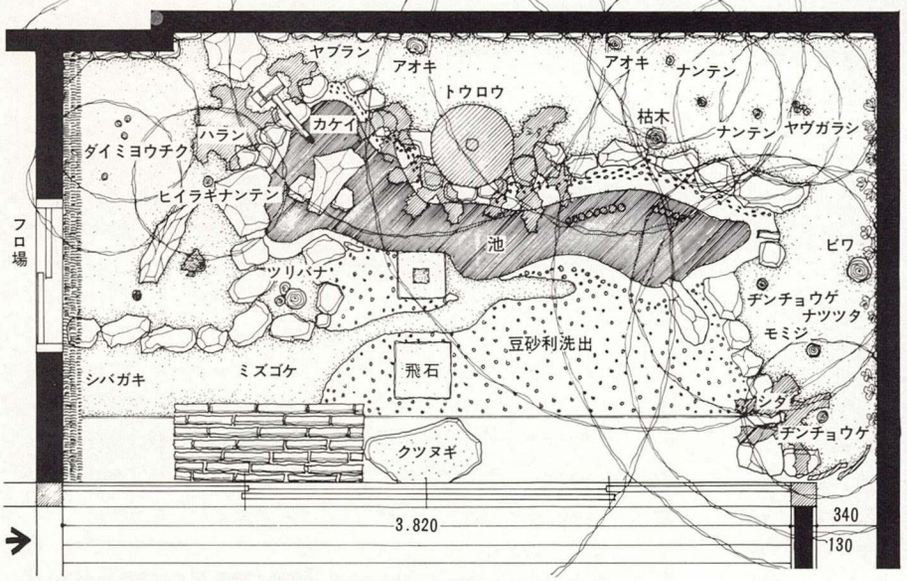
ニワサキOスペースの機能はこのような生活行為のはみだしの受容器としての役割に加えて，そのOスペースとしての性格から必然的に外部自然空間からの自然の種々の容相を受けいれる，そのような受容器としても働く。3方を山に囲まれた京の町は町の中に京都御所や，大きな寺を内包し，それらからやってくる「自然」をこのニワサキ・Oキューブが受け入れる。対象町内のように京都御所に近い場合はとくにそうであり，たとえば季節によって，ヤブウグイス，ハト，モズ，などの鳥がニワサキを訪ずれる。ニワ木の枝にやってきたこれらの鳥はニワサキの空気を慄動させ，住人の好奇心をひく。またチョウチョウやトンボやテントウムシのような可憐な来客もある。これらの来客は子供たちをよろこばせ，季節の訪ずれを告げもする。このような外来客の他に，マチヤを住いとする小動物たちがいる。ニワサキの住人はアリ，デンデンムシ，ミミズ，クモ，ケムシ，アマガエル，ガなどである。これらはニワサキでの子供の遊び相手となり，いたずらっ子はこれらの小動物で一時を過すのである。緑の草むらの中に紋様の美しいテントウムシを見つけだしたときなどは，子供は大よろこびである。またネコなどのペットは当然として，マチヤのユカ下に永年すんでいるものにイタチがいる。連続的なマチヤのユカ下の1カ所に巣をもつカップルのイタチは，やがて数匹の子をもち，子イタチは暗いユカ下からオープンな明るいニワサキにでてきて遊ぶ。ニワサキのシダの茂みの中でレスリングをする可憐な子イタチの姿がみられる。夜でもオイエからのあかりのとどくニワサキはかれらの恰好な遊び場である。おそらくイタチどもはマチヤブロック（60×120M）を生活領域とし，ときどき隣のブロックまで遠征するのだろう。事実，夜半のトオリをすばやく横切るイタチの姿がみられる。このようにニワサキは小動物のための容器でもある。





ローデ

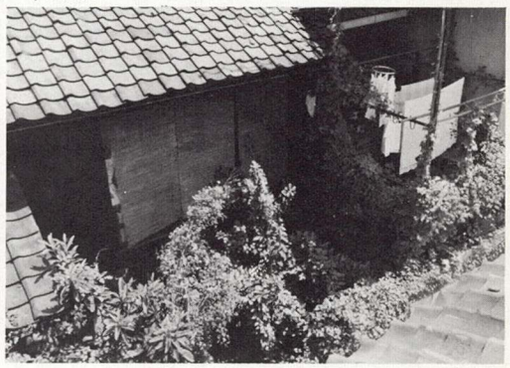
ニワサキ

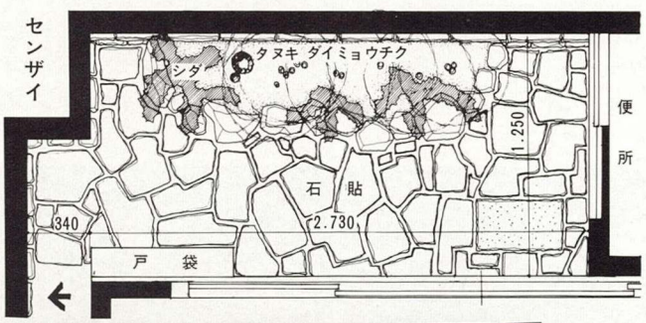




▲小さなセンザイにまぶしく陽が入りダイミョウ竹がしげる

▼ニワサキからニカイ・モノホシにまでのびているナツツタ，ヤブガラシ









▲ニワサキの緑のシエルターをとおして陽がもれてくる

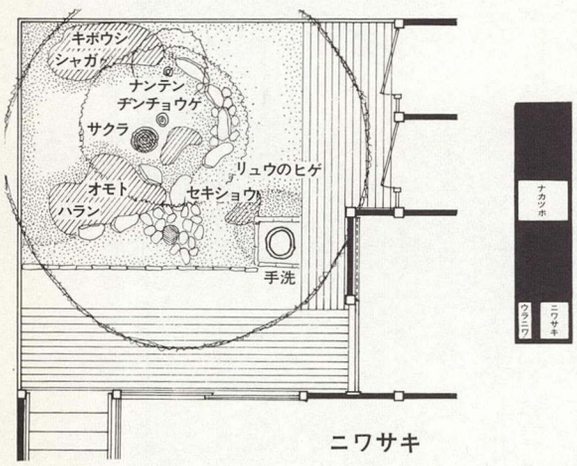
▼ニワサキでママゴトをする子供たち



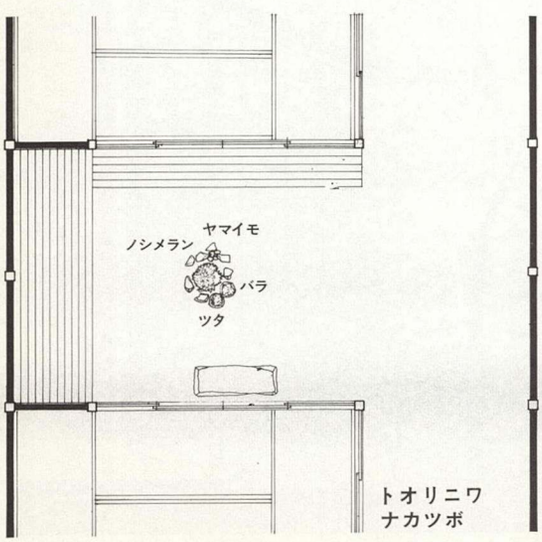
ニワサキ断面

ローヂで引込まれた4キューブ構成タイプのイエ（E14）は，トオリに面する4キューブ構成タイプのイエ（E13）の背裏空間にかみこむように位置づけられ，前のイエのニワサキを区切るヘイ（高さ約2M，真壁造，白シックイヌリ，腰竹半割張り）を隔てて，センザイ（といっても幅1Mあまり，長さ約4Mのクリアランス状のアキ）をもち，上木としてダイミョウ竹が数株うえられている。オイエからのアイレベルでは，白シックイの前に竹の幹が数本垂直な線のリズムを奏でている。オモテノマのセンザイぎわに立って，このアキの上方を仰ぐと竹の葉をすかして空がみえ，暗いオイエから小短冊形のオープンカットがまぶしく利いていた。下木とてシダが数株はえ，陶製のタヌキ（高さ30cm程度）が置かれている。このような陶製のタヌキやカエルのほかに青銅製のツルなどが他のイエのニワにみられる。これらの動物のオキモン（置物）に石灯ろう，鉄灯ろうともにニワのオブジエをなしている。以前土スペースであったこのセンザイもいまは排水のため玉石でかこまれた竹やシダの土スペース以外は青石張りにされている。そして以前ローヂとは杉板の片開き戸で出入りできたが，ここを区切る形で水洗便所がつくられている。このセンザイから奥へ，オモテノマ，ダイドコ，オクノマの3キューブをへて，ニワサキ・Oキューブが開ける。このような1軒アプローチローヂ型4キューブ構成タイプではオイエ3キューブをとった残り1キューブのうち，⅓がセンザイ，あとの⅔がニワサキへ空間配分された形となり，ニワサキの幅も2.5M程度の狭少なものである（ここで1キューブの平均奥行は宅地の全奥行約30Mが8キューブによって構成されることから，約3.8Mである）。またニワサキの長さはフロンテージ6モデュール型（オイエ4モデュール，トオリニワ2モデュール）のオイエの4モデュールに合せる約4Mである。したがって約2.5×4M²の狭小なOスペースがこのニワサキの空間的ボリュームである。このOキューブのV方向4面は，エンガワからオイエに連続する1面，風呂場（改築）の壁面（モルタルヌリ，リシン吹付）によって遮断される1面，背接家屋のニワサキと区切るヘイ（杉皮張り高さ約2M）の1面，最後に側接家屋の側面とこれに密接してヘイの高さに廻された杉皮張りの1面である。

次にH方向1面，すなわちユカは以前土の上にマメ砂利敷きであったが，現在はニワサキ中央部にセメントモルタルで池をつくり，ヘイにそってL型の部分は石を1～2段つんだ土スペースで植栽がほどこされ，その他は，マメ砂利埋込みのコンクリート舗装で様式的なクツヌギ石，飛石が昔のまま姿を残している。池の端には竹（約φ50）でカケイが装置され，少量の水がしたたって，微かな音をだしている。土スペースには，アイレベル以下にミズゴケ，シダ，ヂンチョウゲなど，アイレベルには，ナンテン，アオキ，カキなどがみえ，アイレベル以上には，ツリバナ，アオキ，ビワが枝をはり，シエルターをつくって，小さなニワサキに緑のヤネをかむせている。そしてこれらの木の枝やヘイに，さらにニカイエンガワの手すりやスダレにまで，ヤブガラシやナツツタがはびこり，緑のヤネを密なものにしている。アオキやナンテンは以前からあったが，ツリバナやツタ類は，自然に生えたものである。鳥や風によって運ばれてきたこれらの自然はマチヤの小さなOスペースに棲家を見い出し，そこで生長した。このような自然の容相は，コンパクトなマチヤ・イエ空間の中でひときわ力づよく自然の力を，その生命力を感じさせる。実際このような緑のシエルターの下のニワサキはオクノマエンガワからみると，葉脈を透かして，また葉むらをもれて流れ落ちくる光線は，わずかな風にチラチラとこまやかに動きながら，緑の光となってニワサキの空間に充満している。日照のほとんどないニワサキはコケが生えるくらい湿潤で陰湿なのだが，カケイの水音と緑の光線の中では，深山の気配すら感じられる。Oスペースといっても，太陽の一杯な公園などとは異なった質の緑の空間であり，冬期には落葉して短時間の日照をうけ比較的ドライとなるものの，夏期には枝葉が繁茂してニワサキは一段と湿潤となる。とくに暑い夏の夕方にはニカイエンガワから緑のヤネに水をうつ。オクノマエンガワにいると葉さきから幾百の水滴がしたたり，タマスダレをつくる。



ニワサキ



トオリニワ
ナカツボ


▲ナカツボで土あそびする少女

▼オイエからナカツボをみる



▼よく手入れされたニワサキ



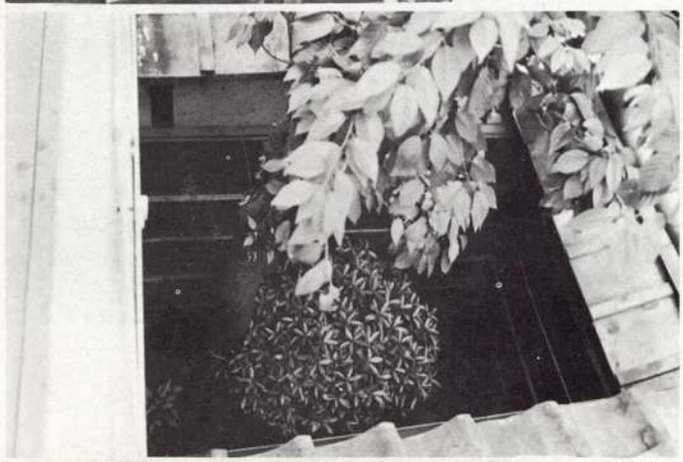


庇下・エンガワの小鳥かごや干物

ニカイモノホシからのニワサキ

シエルターとなっているニワサキの主木・サクラのしげみ

ニワサキのながめ







6キューブ構成タイプ（E9）の場合，キューブ数にしてトオリから3キューブ目にナカツボ，6キューブ目にニワサキがある。うす暗いトオリニワ・Eダクトを通っていくと，ナカニワ・Oダクトにでて，ここの場合はオカツボと一体となってOスペースをつくっている。ナカツボの中央部分にノシメラン，ヤマイモ，鉢植のバラ，ツタがこぢんまりと植えられた小さな土スペースを除いて，全体にモルタルがうたれ，ヘヤへの上り口にクツヌギ石がうめられている。このナカツボ・Oキューブは子供の遊び場として使用され，土いじりや三輪車のりがおこなわれる場である。ちょうどサーベイをしているときに外出から帰ってきた女の子はさっそくバケツとスコップをもちだし土遊びを始めた。子供にとっては，毎日の生活に欠くことのできないプレイロットであり，また母親にとっては安全なる子供の遊び場なのであろう。そしてこのようなOスペースでの遊びの中で子供は，アリの行列をみつけだしたりする。オイエの上り口にそって行き交い，挨拶しあうアリの行列はセッセと働くアリの習性を教える。6キューブ目のニワサキには，上木のサクラがよく繁り，その下にヂンチョウゲ，ナンテンが植えられているが，このスケールのニワ空間においては，これらの灌木が十分中木として働いている。下部には根締めとしてオモト，ギボウシ，バラン，シャガなどがバランスをとって配置され，地被にはスギゴケがほとんどを占めて繁茂し，その中に埋まるように庭石が飛んでいる。この石は，赤石や青石などのこったものではなく，一般的な御影石である。このような石はもともとこのマチヤができた当初からあったものに加えて，居住者の生活過程の中でもち込まれたものが多い。たとえばニワの好きな母親のために息子が山や川からもち帰った石は，1つの記念としていまもこのニワサキに当時の思い出を秘めている。一見他人には何んでもない石が居住者にとっては，生活の一里塚であったりする。実際，以前には夕涼みがてらに鴨川を散歩し，その帰りによく河原で姿のよい石をえらびもち帰って庭に並べたりしたものである。従来の様式的なニワに居住者の生活が浸透していることを感じさせると同時に，オイエとニワを一体化して生活が展開され，しかしOスペースゆえにありうる状態で生活が対象化されていることを強く感じさせられる。オイエとニワサキの緩衝帯としてのエンガワから庇下に鳥カゴさげ，文鳥，十姉妹を飼い，エンガワ下の木箱には，アヒルのヒナが飼われている。そしてニワサキにはいくつかの鉢植が置かれ，小鳥や鉢植の世話をするのがおばあさんの楽しいみであり，またアヒルのヒナは子供のペットである。このようにニワサキは家族のたのしみがいろいろの形ではみだし，おかれ，オイエの住生活と一段と密着した形で存在している。

8キューブ構成タイプ（W4）の場合，出入口のサル戸をはいると，ロジである。ロジはトオリニワダクト・最初のOスペースであり，センザイ・0キューブとオイエ・オモテノマに接している。ロジ（露地）は明らかに茶庭の影響がみられ，植込，井戸，トモマチなどを附帯しているものがある。センザイとの区切りはヤマト板ベイや杉皮ばりのヘイであり，センザイへの通路になる開き戸が装置されているのが普通である。ここの場合，植込としてシュロチク，井戸があり，トオリニワ，ダイドコにいま1つの井戸があった。いずれも現在は水がかれ使用されていない。ローヂが側接家屋に挟まれた引き込み空間であるのに対して，ロジは一方は側接家屋と接するが，一方はセンザイやこれに続く茶室的なオモテノマに接している。センザイはトオリとヘイで区切られているが，センザイの成長した樹木はヘイ越しにトオリへオーバーハングし，トオリに緑のシェルターをさしだしている。これはトオリを歩いていると，ときどき出会う光景である。さてここのセンザイはV方向3面はスギ皮張り，高さ3M程度のイチヂクが植えられている。その横にトウロウがこれとバランスをとるように置かれ，地面は小さな砂利まじりの土である。乾燥している場合は全体が白っぽく見え，オイエからみると白川砂のような感じを与える。京のマチヤのニワを囲うヘイは杉皮張りが多い。これは北山丸太をつくった際にはいだ杉皮を利用するからである。このような素材はニワ空間により自然的な質を与えている。センザイから奥へオモテノマ，ダイドコロを通って4キューブ目にナカツボ

がある。ナカツボはハナレとオモヤの間にうがたれたOスペースであり3面がオイエ空間によって囲まれたOキューブである。ナカツボには，キョウチクトウが2本（高さ約2Mと約1M）がバランスをとって植えられ，チョウズバチ（手水鉢），庭石が配置されている。これらの様式的な装置に加えて現在では子供の遊び道具（バケツ，スコップ，ビニールのプール）などが置かれ，ここが子供のためのプレイロットとして活用されていることを物語っている。この8キュブ構成のイエはモヤの方に老人夫婦，ハナレの方に若夫婦が生活している複合家族の住いである。もっとも奥の8キューブ目がニワサキであり，背接家屋とヘイで仕切られたOキューブである。ここは雑草が繁り，中央部にシュロチクが植えられ，センザイやナカツボほどには手入れがされず荒れた感じがする。

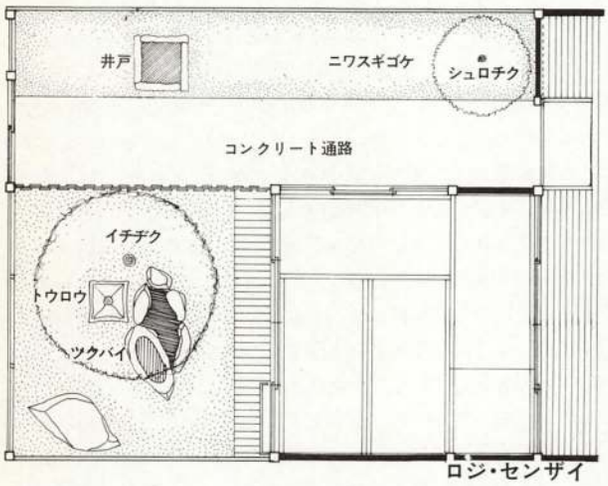


▶ロジ・センザイ

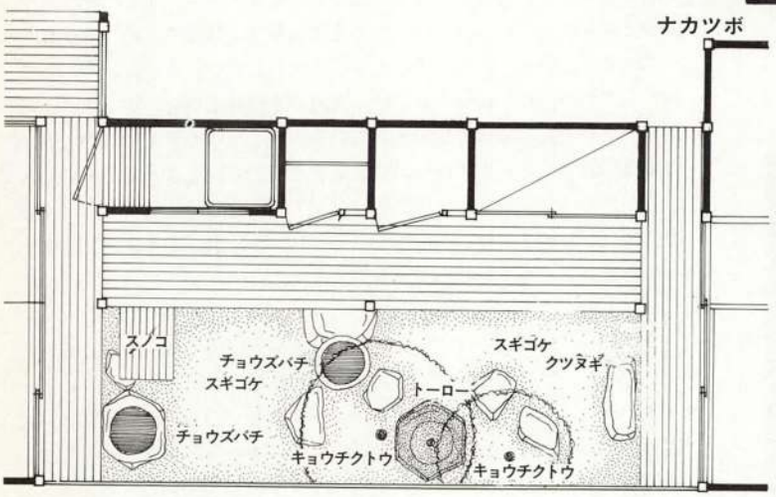




▶イチヂク・トウロウをオブジエにもつセンザイ
▶子供の遊び場になっているナカツボ

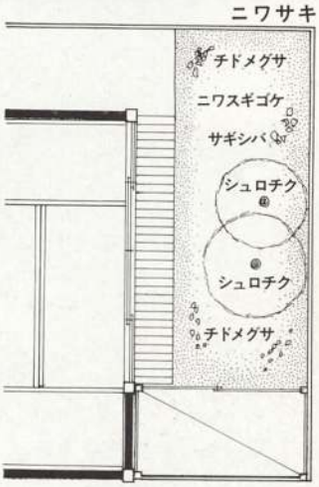


ロジ・センザイ



ナカツボ

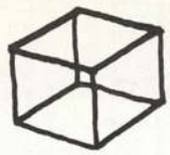




ニワサキ

4，6，8キューブ構成タイプのマチヤ，イエ空間におけるOキューブの性格は，上記の具体例によって大略の意味を知ることができるが，これらのニワに加えて，モノホシやトオリに面するノキシタのOスペースも見逃すことができない。モノホシには，植木鉢や木箱がおかれ，シソウ，アサガオ，ミツバなどが栽培されたりしている。また，オモテの軒下には鉢や木箱に草花がしばしばみられる。ローヂウラ長屋の共用スペース，サービスヤードにも共同のニワがあり，アオイ，アサガオ，オシロイバナ，タマスダレが植えられ，また，それぞれのイエの前には植木鉢が数多くおかれ，ツツジ，ゴヨウマツ，ソテツが手入れされている。対象町内周辺のローヂウラには物置小屋の屋根の上にも小さな鉢植がおかれ，生活の中の緑の意味がひときわ強く感じられるのである。また，もともと8キューブ構成タイプであったところに6キューブ構成タイプのイエが建てられ背後に2キューブのOスペースがとり残され，ニワサキのように，手を加えられることもなく放置され雑草が茂るままになっているところもある。このような装置化されないOスペースは陽あたりもよく干物の場，子供にとっての遊び場であると同時に，老人のいこいの場ともなり，イエ空間の中に内包されているゆえに，安定した家庭的なOスペースとしての質を獲得している。

ニワ・Oキューブは町家の成立過程で，書院造や茶庭の影をうけつつ定式化した。しかしこの様式的なニワの形態はいまでは，その観賞的な性格が失なわれている。クツ脱ぎ石，飛石，トウロウ，ツデガキ，ニワ木などのニワエレメントによって構成されるニワの様式性は，オクノマ（ザシキ）の床と関連してかっては家の格式を小スケールにせよシンボライズしていたのであろう。しかし，この場合でも，わが国の伝統的な自然観は，この稠密なマチヤ・イエ空間に最少限のOスペースを設定し，人為的空間の中での自然的空間の可能性を追究したといえる。このようなニワスペースの形成過程は，まずその空間構成と，そのスケールを現代にもち込んでいる。一般的なマチヤのニワ・Oキューブはヘヤ・Eキューブと同程度のスケール，したがってドメスティックな居住スケールであり，オイエに面する1面をのぞいて他の3面はカベ，ヘイによ



A SPACE



AN OPENNING



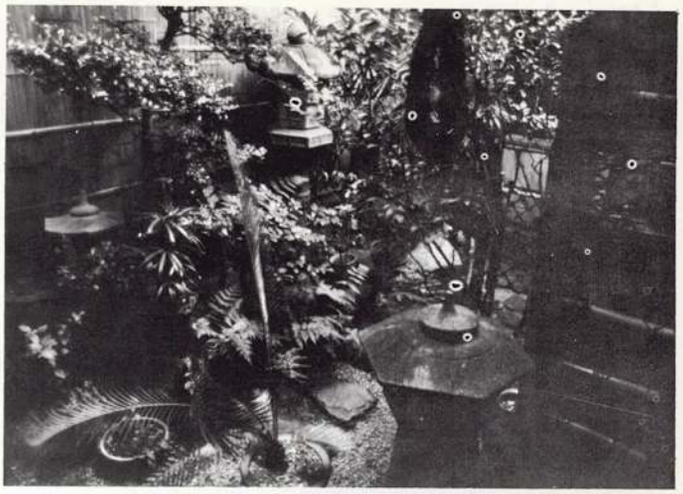
A GAP



A VACANCY

って囲まれ，このスペースの空間量を決定すると同時に，この空間の質を高める役割を果している。一般に空間の量と質は，囲みのスケール，そのテクスチャー内部の装置エレメントによって決定されるが，ニワは，この場合のもっとも顕著な具体例である。

空間構成上のOキューブの意味は，およそ4つの意味をもっている。まず第1に，拡がり（a space）であり，これは逆に囲まれているということであり，一定の空間的ヴォリュームをもっているということである。この空間量のドメスティックスケール（domestic scale）については，具体例において先にふれたが，この空間量がニワの質を決定する大きなファクターであり，オイエとの連続性，したがって，住行為のOスペースの機能延長に適正なスケールをもっているということである。第2は，開き（an openning）空間であること。これは上方1面が開放され，上方外部空間と交流する可能性をもっているということである。住空間に不可欠の通風，採光，換気のための空間でありニワからオモテへの通風はコンパクトな町家群の中で，意外なほどよくおこなわれる。ニワサキからオモテへ，あるいはオモテからニワサキへの通風は，その間のオイエの間仕切（フスマやショウジ）を，いくらかでも開けておくと，オイエ・Eキューブは連続してダクトとなり風が流れる。オモテ・トオリとニワサキの上昇気流の差は風のない日にも，オイエを流れる風



▲昔ながらの様式的なニワサキ



▶ロジぞいに飾られている小さな緑

▼ガーデニングをたのしむウラニワ

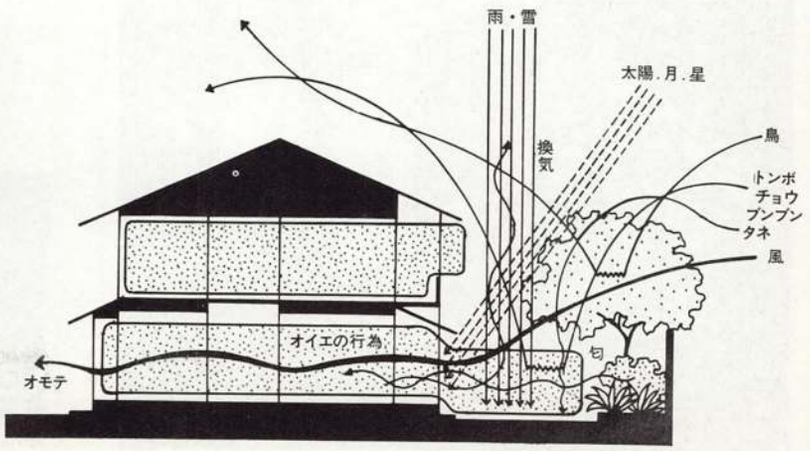
▼ローヂ長屋の共同ニワ





▼出入口ぎわにそだてる緑





ニワの行為と自然

を起す。オクノマで喫むタバコの煙は，ゆらゆらとニワサキに流れ上昇していく。また蚊取線香の煙は，オクノマからオモテノマへ流れ，オイエ中にその香りをただよわせる。第3に，隔たり（a gap）の意味をもつ。これは，ニワOキューブがEキューブを隔てる役割を果しているということである。とくに6・8キューブ構成タイプのイエでは，モヤとハナレの隔たりをつくり，双方の住空間の独立性と連続性を実現し，また4キューブ構成タイプのイエでは，背接家屋のニワサキと合せて2キューブのOスペースができ双方の隔たり，独立性がつくられることになる。

最後に空き（a vacancy）空間であること。これは，オイエ住スペースの質とは異った空間の質をこのOキューブがもっているということである。住生活の空き，精神的息抜きの場としての空きである。オイエ・Eキューブの人工的なカベ，家具などにとりまかれない空き空間である。そして，それが，オイエとの密接な連続性，相互浸透性から，より価値高いものになっている。マチヤのニワはすでに自然的小世界として，その特異な価値を評価されるが，それは従来の観賞的視点からの評価であり，われわれはこのOキューブの意味がコンパクトなマチヤ・イエ空間の中で占める価値をたんなる観賞性のみに見いだすことができない。

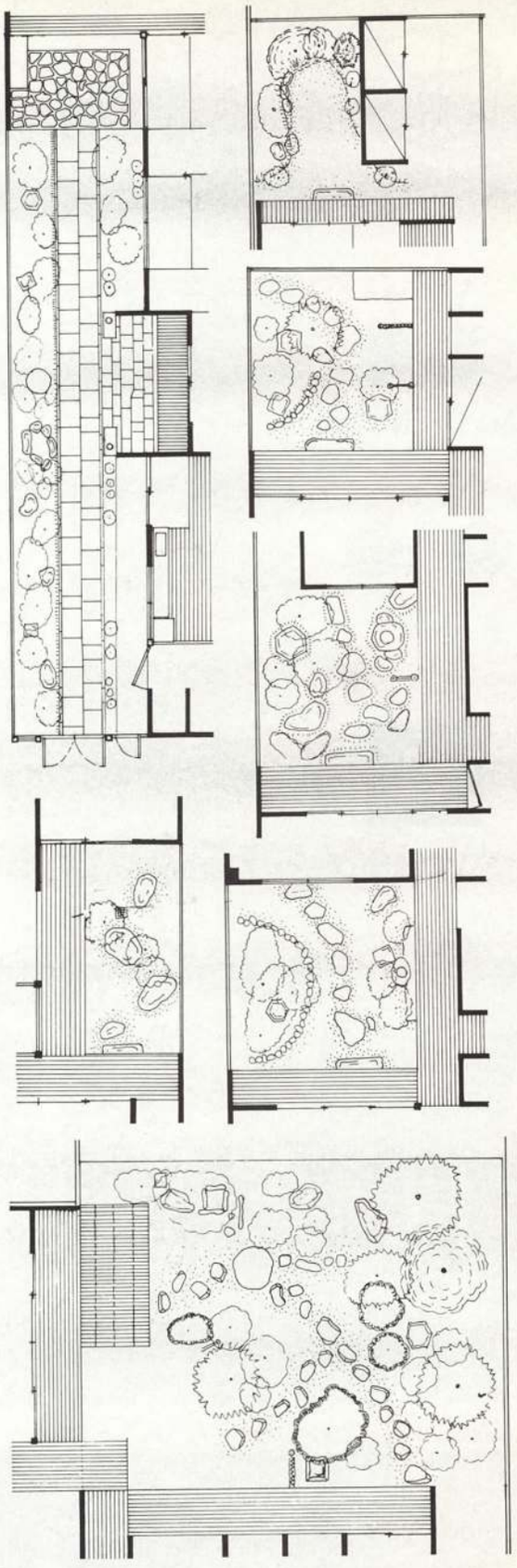
一般にわれわれは空間的拡がりを感覚的にとらえ，またその中にはいり込んで行為する。感覚的にとらえる場合，その空間は感覚領域として，われわれのまわりに拡がり，行為する場合その拡がりは行動領域としての意味をもつ。オイエからニワを眺める場合，ニワは感覚領域としての拡がりであり，そこにある種々の装置は感覚対象としての意味をもつが，実際にニワに出て行為する場合には，ニワは行動領域となり，またその中の装置は行為対象に転化している。このようにニワ空間は，感覚領域と行動領域の錯綜する空間であり内部の装置も感覚対象と行為対象の二重性をもっている。

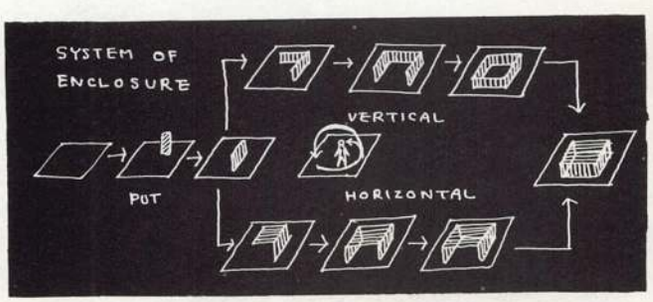
日常生活サイクルの中でのこの二重性が対象をより密接なものインティメートなものとして居住者に結びつける。このようにニワ・Oキューブのもつ意味は一つには空間構成の面から，いま一つには装置の面から，さらにまた素材（テクスチャー）の面から考えられねばならないし，またこれらを総合してニワ・Oキューブの住空間の中での価値が評価されねばならない。このような空間構成や装置の性格はなによりもそれが，イエ空間の中に位置づけられていることによって，住行為と密着した関連性をもって機能づけられ，日常生活にくみ込まれている。オイエとの連続性から，サービス的（掃除や干物）行為や，リビング的（子供の遊びや休そく）行為がはみだす。また，そこに自然的要素（雨，風，太陽，月，雪，鳥，虫，小動物，ツタ，木）がはいりこみ，自然の生態的容相を展開する。このようにして，ニワは人間的行為と自然生態の混合する空間であり，また行動領域と感覚領域の錯綜，混合する空間であり，人間と自然という，対立的関係がニワキューブ空間スケールで，また日常生活サイクルの中でこの上なく密着したコミニュケーションを実現している。



◀よく手入れされた緑ゆたかなニワサキ

ニワのいろいろ











ウラニワの空き地

もち上げられたフラワースタンド

壁面を飾る草花





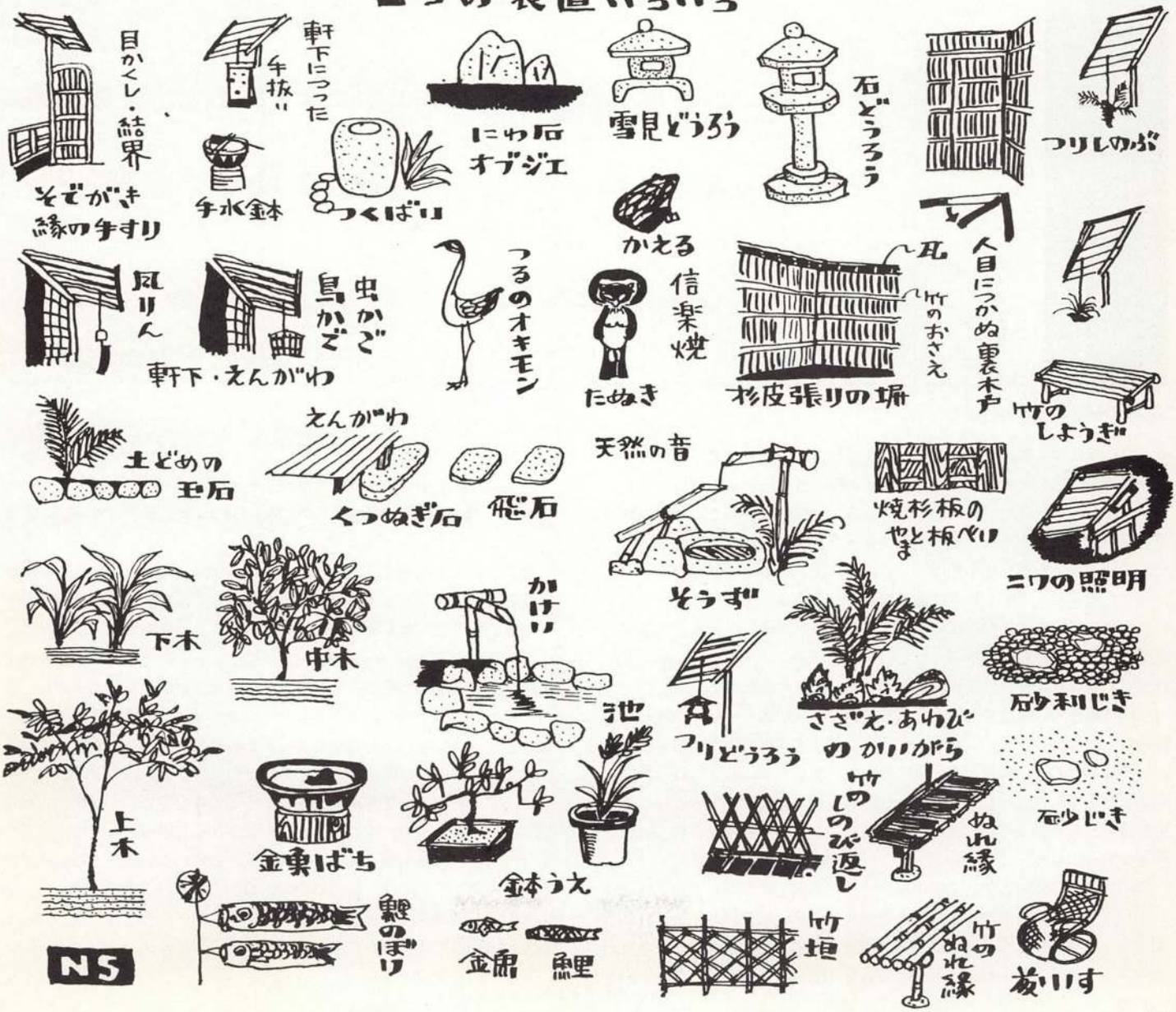


屋上のフラワーベッド

オモテにもち出した草花

ぬれ縁にならぶ鉢

ニワの装置いろいろ



植物＼生因		自然的		人為的				
		自生	増殖	既存	記念	観賞	利用	育成
		土壌、水分、温度湿度、日照等の条件下で自生する風、鳥が媒体となって生ずる	種子がこぼれて発芽する捨てた種子から発芽、植えた植物の株についてくる	昔からある先祖が植えた	ピクニックの記念に野山からもちこむ誕生記念樹	庭木（庭園構成素材としてもちこむ）	生花用食用薬用	鉢植盆栽
地被 Ground cover	コケ・シダ類	ゼニゴケ・ジャコケニワスギゴケ・ミズゴケ・イノモトソウ	スギゴケヒロードゴケワラビノキシノブ	ヒトツバヤブソテツ	オシダ・オオタニワタリ・	スギゴケオオタニワタリヤブソテツトクサ	ヒトツバ	タチシノブ
	草本類	チドメグサカタバミサギゴケオオバコ	ムラサキカタバミ	リュウノヒゲオモトハランギボシセキショウノシメラン	ヤブランカンアオイツワブキスミレヤブカンゾウシャガ	ツワブキギボシセキショウノシメラン	ドクダミ・ユキノシタ・オモト・ハラン・ミツバ・ミョウガ・パセリ・シソ・ヘチマ・アロエ	タマスダレ・スミレ・オリヅルラン・ヤブカンゾウ・アサガオ・オシロイバナ・キク・ダリヤ・グラジオラス・ショウブ・ガーベラ・アオイ・マツバボタン・マツバギク・ヒマワリ・マリーゴールド・リュウゼツラン・サルビア・サボテン
	ツル類	ヤブガラシ	ヤマイモ		フジ	ナツツタサネカズラ		
灌木 Shrub	常緑灌木			アオキヤツデサツキイマツゲ	ヤブコウジツルコウジアセビミツバツツジ	アオキ・ヤツデ・チンチョウゲ・サツキ・ナンテン・アセビ・ヒイラギナンテン・マンリョウ・カンツバキ		
	落葉灌木			ウツギ	ヤマブキ	ヤマブキアジサイ	サンショウ	バラアジサイ
喬木 Tree	針葉樹			クロマツ・ヒノキイヌマキ・ラカンマキ・モミ		ヒマラヤスギ		ゴヨウマツ
	常緑広葉樹		ビワミカンカキサザンカ実生	モチノキ・クロガネモチ・キンモクセイ・タラヨウ・アラカシ・モツコク・ツバキ・サザンカ		ツバキサザンカキョウチクトウユズリハ	ユズリハビワミカン	
	落葉広葉樹	ツリバナ	モミジ実生	モミジ・アオギリ・サルスベリサクラ	キリ	モミジ	イチジク	
	特殊樹木			トウシュロ		シュロチク・ダイミョウチク・クロチク・ユッカ		ソテツ

ニワの植物と生活

ニワに繁茂する植物は日常生活行為と密接な関係をもっているが，その植物のもち込まれた経緯をたどれば，人間の行為目的の有無によって自然的なものと人為的なものに分けられる。自然的なものとしては，ニワ特有の環境条件のもとで自生するコケ・シダ類，風や鳥などが媒介となって種子がまちこまれて繁茂するもの（自生），および無意識のうちに捨てた種子から発芽したり，植えた植物に偶然混っていたもの，あるいは植えた植物の種子がこぼれて発芽したもの（増殖）がある。人為的なものとしては，昔誰かが植えたもので現居住者にとっては既に植えられていたもの（既存），家族の誰かが野山に出かけた記念にもちかえったもの（記念），観賞を目的として装飾的に好みに適しいものを選んで植えこんだもの（観賞），果樹，切花，薬草など有用植物の利用を目的として植えたもの（利用），一・二年草の草花など土いじりの栽培行為を楽しむもの（育成）などがある。しかしこれらの植物はもちこまれる動機はそれぞれ異っていても，いったんもちこまれると種々の複合的な機能をもって存在している。

表，「ニワの植物と生活」はニワの植物が日常生活の中でどのようなかかわりあいをもっているかをみるために、観察や植物のもちこまれた動機をヒアリングして，植物の形態（地被・灌木・喬木）別にまとめたものである。「自生」植物は殆んど地被類に限られ，踏み固めない土の面には何らかの植物が生えている。そして生えてきた植物を人間が育てようという配慮がみられる。「既存」植物は地被・灌木・喬木のすべてを含み，様式的な昔のままのニワにみられ，手入れがゆきとどいている。

またその植物も環境条件に適合したものだけが選択されて，長い間人間とともに生きつづけてきたものである。「観賞」植物が地被・灌木・喬木のすべてに多くの種類がみられるのは，観賞を目的とするため，人間の趣好を植物によって表わし，自分のニワを造っているからである。「利用」植物は簡単に栽培できる草本類や喬木の果樹があるが，自分で手がけた植物はまた格別のようである。「育成」植物は栽培行為を楽しむと同時に咲いた花を観賞するため草花類が殆んどである。この種の植物が多いのは，高密なマチヤ空間の中にあって，植木鉢，木箱を用いて，日のあたるところ夜露のかからるところをくまなく利用して緑を育てたいという意志の現れである。そして，草花の種子は大切に軒下などで乾して，来年も同じ花を咲かせようとしている。各戸とも数多くの鉢植を栽培しているが，植物の種類が似かよっているのは，好みが一致しているのではなく，種子や苗を親しい隣人とやりとりしたり，夜店で買ってきたりして花作りを楽しんでいるからである。

（つづく）

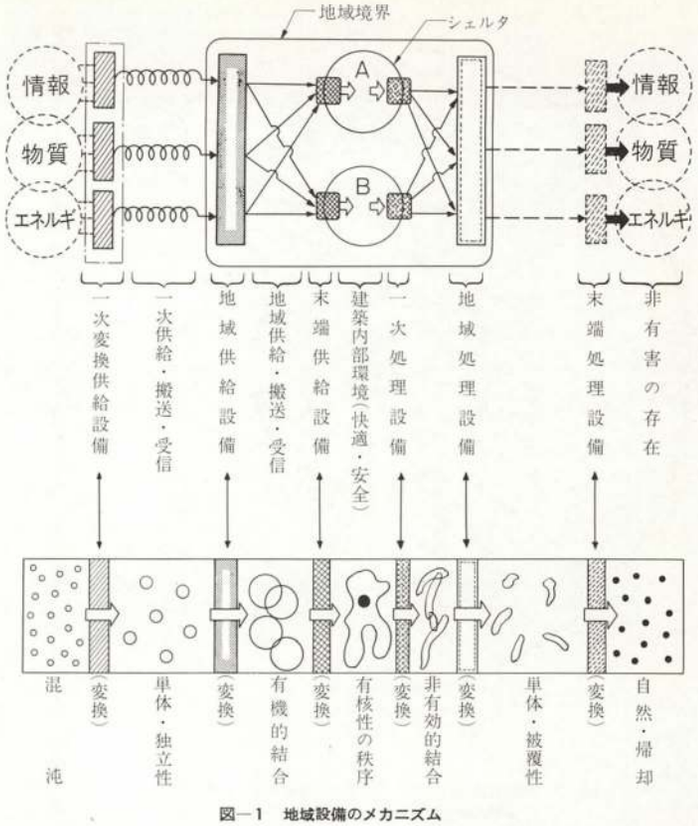
日本万国博跡地開発計画

TEAM BARK

10

TEAM BARK

プランナー　奥保多聞
　　小北博一
デザイナー　植田昌吾
　　清水正俊
リサーチャー　木内俊明
　　中東達男
　　中村守保



図―1　地域設備のメカニズム

第3章　都市空間構成

3―4　環境装置計画

H　地域設備の機能

地域社会の1ブロックとはいえ，そこに供給され処理される設備装置は，全体の中の一要素としてのシステムをにない，構成されるシェルタ内にくまなく出入りする。

設備の働きはミクロ的，マクロ的双方の見地から総合して見出さねばならない。一つの建物のみを対象としての最適な設備システムは，建物群にはあてはまらないと考えてよい。地域全体を対象として考えるならば，群としての新たな要素が横たわっており，一般にさらに複雑な様相を呈するものと考えてよい。

地域設備の機能的流れは図―1のメカニズムフローシートによって全体システムをつかむことができる。図―1のA，Bは建築を示すもので，A，B……の建築群が一つの地域社会を構成する。

設備はその目的に応じた形態と様相を呈するが，結局は交換処理の装置と考えてよい。これが単純に一カ所に集中するものでなく，ステップを歩みながら建築内部に浸透する。

万博跡地のごとく地域空間を有する敷地において，地域境界内の設備のみを云々することはミクロ的であって，広がりのある空間を対象とする場合は，地域空間をとりまく全域的視野のもとでの考察がなければならない。これらの考え方を設備の受持つ範囲，その機能について述べてみる。

設備は単に電気，給水，ガスといった具体的なものはもちろん含まれるが，これらの具体的な名称をあげるのみでは技術革新によって今後新たに利用できるかも知れないエネルギなど，とり残される懸念がある。したがって，これを①情報，②物質，③エネルギの3要素として取上げる。これら3要素はその生成地域あるいは特別に装備されたプラントにおいて，いわゆる一次変換に供され，それぞれ独自が，あらゆる産業に容易に利用できる形をとる。例えば，エネルギが第一次変換供給設備を経ると，具体的には電気(高圧)，重油，ＬＰＧ，天然ガス，都市ガスなどとなる。これらのエネルギ源は直接，生活空間で利用できないことはないが，安全性からみて末端供給に都合のよいものとするために，地域空間を一ブロックとして第二次変換機構といわれる地域供給設備により，エネルギがさらに有効に利用されやすいよう変換され，互に有機的結合の状態を示すこととなる。エネルギの一例では，地域冷水や地域温水の供給は，末端における合目的にそったもので，粗なるエネルギからさらに精なるエネルギへと質的程度が高められたものである。この地域供給設備はわが国では4～5年前から各種のシステム方法が唱えられ，公害に対する防止策の一環をもになうべく，国策の一つとして脚光を浴びている。

この第二変換すなわち地域供給設備を経た情報，物質，エネルギはこらに供給網のもとに供給システム機構に従って，各建物に供される。各建物はその建物の目的にそって，必要な情報，物質，エネルギを必要な量だけ，受けいれる。この3要素が別のシステム機構によって，建築空間の本来あるべき目的（快適性，保健性，利便性）に充分に適合できるように建物の随所に変換設備が設けられる。この建物内の変換設備は，ここでは末端供給設備と呼ぶことにする。これは一律に一つの設備だけでなく，例えば電気照明のごとく，変電設備，安全設備，照明設備と多くのステップを経るものもあろう。ともかく末端供給設備によって，人体を対象とする室内空間にあっては，次の目的に合うものでなければならない。

(A)室内環境調整にあたって

ⓐ快適性であること…眼，耳，鼻，肌，その他

ⓑ保健上有効であること…空気，水，食物，排泄物，屑

ⓒ利便性が得られること…人と物の流れ，情報交換，エネルギ交換

ⓓ安全性が維持できること…災害，気象，外敵エネルギ遮断

(B)建物外部すなわち地域空間に対して

ⓐ有害な排出物がないこと…騒音，排気，煙，下水

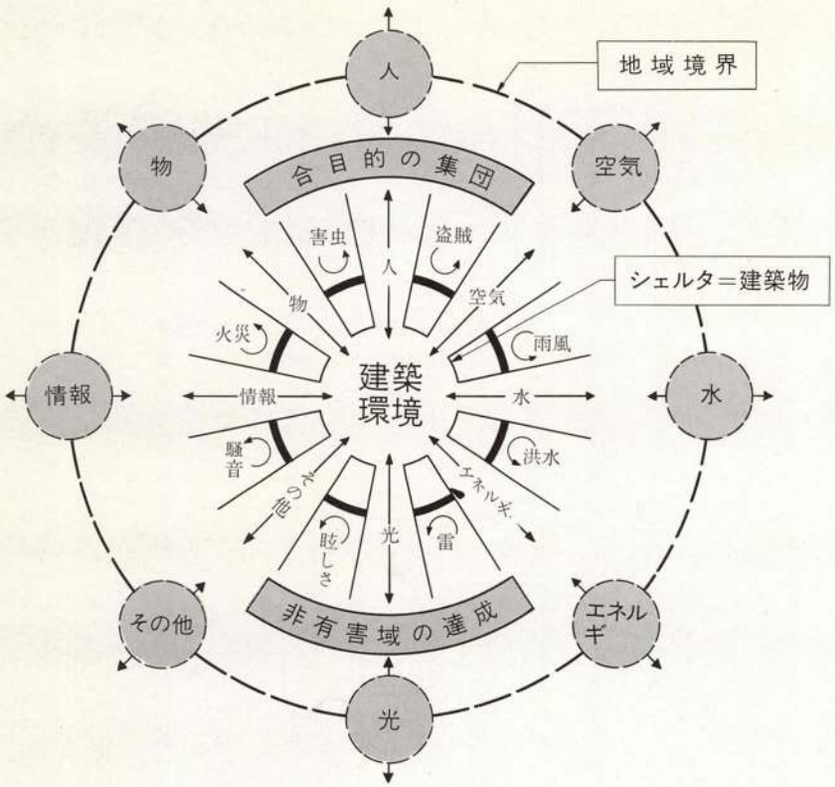
ⓑ空間維持に対して互にまわりに有害な影響をおよぼさないこと…日射防害，光の反射，電波，振動，物の落下

(C)地域空間の経済バランス

ⓐ各建物に対しても経済的であること…建設費維持費

ⓑ地域空間に対しても経済バランスが得られること……建設費，維持費

さらに上記の(A)，(B)，(C)の目的を達成するにあたって，設備を設けるは当然であり，一部の要素のみとりあげれば必須条件でもあろう。しかしより高度な設備を設ける場合には，設置さ



図—2　環境要素とシェルタの役目，地域境界との関係
（建築内部の要求によりさらに多くの要素を必要とすることがある）

れる設備が，この設備を通じて得られる数々の有効な環境要素を，人はまずその『価値性』を認め，さらにそのための『有用性』を自覚しなければならない。（図—2参照）

設備機能は建築との共通なベースの上で正しい評価が行なわれ，その評価によって設備の価値性が認められ，その態度として設備のニード力(有用性)が云々され，さらに各設備によって一段と飛躍した経済力を生み出すことになる。これが社会全域に広がるとき，設備の社会的当為性は大きく花ひらき，一つの渦となって一段とアクチベートされる。地域設備を考えるとき，まず最初に設備によって得られる要素とその全体的働き方を認識することが第一であり，このことは建築の具体的形態より先んじて行なわなければならないと思う。

I　設備システムの方法

室内環境さらに建物群をとりまく地域空間に対する設備システムは，建築に対する設備システムを包含し，今後とも検討を要する大きな課題である。

そこで設備システムをさらにミクロ的，マクロ的にあらゆる角度で検討するとして，システム思索の一つの方法をここにのべる。万博跡地をテーマにとり，具体的にあらゆるシステムを記述したいが，紙面の都合で，今回は方法論の提案にとどめる。

① 設備システムは自然界の混沌の状態から受け入れ，室内の快適な環境作りとそれに伴う処理設備を一括して考えてゆくことを前提条件とする。供給側のシステムのみ検討しても片手落ちである。

② 供給変換設備，処理変換設備を図—1ではこれまでの一般的考え方にもとづき，理解を助ける意味で，設備システムを一次，地域，末端と3階段に分割し，それぞれの役目の概念を図示している。しかしこのシステムフローシートは一システムを表現したに過ぎない。

③ 建築内部の設備による環境維持の程度，さらに万博跡地空間全体の環境維持の程度，この2つの程度をあらかじめ設定し，グレードを付けておくことが条件となる。例えば，地域空間自体の空気を常に清浄とするには，有害ガスの発生を禁止させるか，あるいは発生させた場合はただちに処理する機構を設けるか，いずれかとなろう。グレード差によっては地域全域の人工気候空間作りも考えられる。あるいは現在の市街地なみの場合もあろう。

④ 供給設備のウエイトを地域供給設備に比重をおくか，あるいは末端供給設備におくか，これはシステム決定に際して大きな問題であろう。これは一次供給される情報，物質，エネルギの種類と経済コストによって変るものである。各設備機構の比重のおきかたは前提でなく，検討の結果によって表現されるべきである。

⑤ 設備の比重に大きく影響するのがエネルギ供給である。具体的には地域冷暖房システム（冷水，高温水による）によるか，あるいは各建物別に冷・温熱源システムを含めるかといったことである。前者を地域熱源集中方式，後者を地域熱源分散方式と名付けよう。これは一辺倒に集中方式が有利であるとはいえない。といって分散方式が有利かといえばそうではない。一次エネルギの粗密の程度とそのエネルギコストによる。粗密度とは，例えば重油をあげれば，重油内に硫黄分など，人体に対する有害物が含まれず，完全燃焼さえすれば地域空間にまったく影響をおよぼさないとすれば，地域冷暖房方式をとる必要もない。しかし現実の問題として，一方的に解釈することはシステム化につながらない。したがって，あらゆる角度から検討し，有効性，有害性の基準の上にのって，総合的経済比較を行ない，その結果として経済的に最適であるシステムを2～3にしぼり，さらに比較した上で決定する。

⑥ 設備システムは建築の構造，規模，形態，用途すべてに関連するもので，設備サイドのみでは決定できない。同様に建築も同じことがいえるのであって，熱エネルギ損失の多い建物，物の搬送が渋滞しやすいような配置など総合的にみても最適とはいえない。設備システムの決定に際しては，建築あるいは建築群をよい環境に保つための損失が最も少ない方法に修正するよう働きかけが大切である。システム化は設備のみの領域にとどまってはならない。設備に関連するすべての空間そのものの最適化のために，領域を広くし，より広域間でのバランスと経済性を中心に進める必要がある。

⑦ 既存の設備施設の有効使用はシステムの選定にからんでくるもので，即断は許されない。すなわち，跡地の利用目的，その目的に従った建築群，その建築群の必要する環境目的，そのための設備が必要となり，設備はシステム方式によりそこに使用される機材はおのずと異なる。ある設備システムが現有の多くの機材を用いられるとすれば，そこではできるだけ既存物件を利用してよいだろう。あるいは敷地内道路網の変り方によって使用できないこともあろう。したがって，前述のように全体の設備システムの中で有利となれば使用できる。しかし設備システムは2～5程度の数少ないものでなく，あらゆるパターンを考えると数十のシステムはでてこよう。客観的判断と将来の社会に適合でき，快適な環境が持続できる設備システムの選定計画が最も重要なポイントとなろう。

戦後の建築運動史

関西における25年の歩み

ＮＡＣ建築運動史部会

1

■ まえがき

戦後25年を経たこんにち，日本における戦後の建築運動の歴史を正確に記し，こんごの運動の糧にすることはきわめて必要なことである。最近の建築運動の高まりのなかで，そういった運動史を求める声がずいぶんと多い。ところが，おどろくべきことに，まとまった建築運動史が残されていないのである。わずかに，建築研究団体連絡会が編集した「建築をみんなで」（1956年）があるぐらいのものである。これとて，いまでは貴重な資料ではあるけれど，必ずしも，綱領・目的をもち，社会性をもった建築運動の歴史とはなっていないのである。

ＮＡＵ（新日本建築家集団）なきあと，建築運動は停滞したといわれ，日本に綱領をもち，社会性をもった建築運動は中断したと一般にあやまり伝えられている。しかし，関西ではＮＡＵの組織と伝統をひきついで活動してきた。決して日本の建築運動は中断したのではなくて，こんにちの全国組織結成まで，努力・活動が続けられてきたのである。

わたくしたちは，これを正確に記録し，後世に伝えていくことは，わたくしたちのひとつの社会的責任だと考えた。そこで，1967年に，ＮＡＣ（新建築家集団）に，「建築運動史部会」を設置し，資料蒐集，年表作成からはじめた。ある年代の資料が散逸したりしているため，きわめて困難な作業であった。約三年がかりで，資料をあつめ，活動した先輩たちや同僚たちの声をきき，その協力もえながら，原稿を作成していった。

ようやく，下記のような内容目次でまとめたので，資料と年表もつけて，逐次発表していくことにした。これを関西を中心とした建築運動史の決定版としたい心組みでいる。もちろん，東京を中心とした建築運動史がまとまれば，両方合せて，名実ともに日本の建築運動史の決定版としたいと考えている。そういうことも念頭に入れて作成したつもりである。

ただ，第Ⅶ章の「新しい建築運動をめざして」については，東京とか，全国各地の動きも含んでいる。また，現在，全国組織をつくる運動と直接つながっているので，時期的に，この章を先に発表することにした。

（松井昭光・垂水英司）

戦後の建築運動史（関西における25年のあゆみ）

Ⅰ 組織活動と建築運動
1. ＮＡＵ本部の成立
2. ＮＡＵ大阪支部，ＮＡＵ京都支部の成立
3. ＮＡＵ本部の消滅

Ⅱ 平和運動と建築運動
1. 社会情勢と平和運動
2. 平和展と平和講演会
3. 近代建築史講座と啓蒙活動
4. ＮＡＵ本部消滅後の建研連の動き

Ⅲ 調査活動と設計活動
1. 農村調査と水害調査
2. 鳥取支部の成立とその活動
3. 設計活動

Ⅳ 都市問題と建築運動
1. ＮＡＣの誕生
2. 例会活動および部会活動

Ⅴ 社会と建築のつながり
1. 民族遺産の保存
2. 労住研・事務所連絡会・労福研
3. 民主化シリーズ
4. 社会と建築のつながり
5. 万博問題

Ⅵ 友宜団体との交流
1. 民主団体・科学者運動との交流
2. 建築学生会議・建築労組との交流
3. 日中建築交流センターと北京科学シンポジウム

Ⅶ 新しい建築運動をめざして
1. 停滞からの脱却
2. すすむ東西交流
3. 各地でつぎつぎと運動組織
4. 「新建築運動統一準備会」が発足
5. 呼びかけに各地から反響
6. 「明るい民主府政をすすめる建築家・技術者の会」
7. 「安保をなくし，民主々義をすすめる建築家・技術者の会」
8. 「新建築家技術者集団設立準備会」へ

Ⅷ 建築運動の今後の課題

Ⅶ 新しい建築運動をめざして

Ⅶ—1 停滞からの脱却

すでに述べてきたように，51年にＮＡＵ本部が活動停止してからは，関西における一連の動きのほかは，東京を中心に，ＮＡＵの運動のなかで育っていたいくつかのサークルや，それらの連絡組織として54年結成された「**建築研究団体連絡会（建研連）**」などの活動があったものの，57年ごろをさかいにそれもゆきづまり，全国的な規模での組織的な民主的建築運動は，ついに今日をまたなければならなかったのである。いわゆる「高度成長」期をへて，かってなかったほど広範な建築技術者層が生みだされ，技術者が当面する諸問題も深まりつつあったにもかかわらず，建築運動は一時的な停滞を余儀なくされたのであった。

しかし，やがてこうした停滞が打ち破られるときがきた。

東京を中心に「**仮称建築家集団**」が最初に動きはじめたのは，64年３月のソ連東欧建築報告会であった。この会には，予想を上回る53名が集まり，これに力を得た世話人は，このような例会を計画しながら，それを通じてひとつの組織にまとめていくということを確認した。

仮称建築家集団は，その動機について趣意書の第１案で次のように述べている。"……われわれは，建築技術者として，やりたいこと，やるべきであること，を数多くかかえています。かって，それらを自主的・民主的に解決しようと努力する建築家自身の組織が，なんどかできてはやがてつぶれて行きました。それらの経験から学んで，もっと地道に，もっと広範に，もっと系統的，永続的に，そんな組織をつくりたい——これがわれわれの希望でした。……"

一方，63年暮，ソ連東欧建築報告会の開催を準備していた東京へ，関西の「新建築家集団（ＮＡＣ）」の有志が訪れた。そして，全国規模での民主的建築運動組織であったＮＡＵの伝統をひきついだ組織を，ぜひ東京でつくってほしいという要請を行なった。ＮＡＣは，その設立のときから，全国的な規模での運動が将来おこることを希望し，それが実現したときには進んで協力することを確認し，機会あるごとに東京などへ働きかけていた。このときの話し合いでは，東京の特殊性を考えながら，今後，友好的に連絡をとりあっていくことをたがいに確認するにとどまったが，東京での運動を発展させるひとつのきっかけになったといえよう。

その後，仮称建築家集団は，第３回例会「災害と建築技術者—新潟地震から学ぶもの」（64年９月），第４回例会「北京科学シンポジュウムから帰って」（65年５月，ＮＡＣの松井委員が講師），第６回例会「松代群発地震調査報告」（66年９月），第10回例会「シンポジュウム，戦後の建築運動について」（68年４月）などの例会活動を重ねる一方，松代群発地震の調査活動，施工現場の山留工事の不備による地盤沈下の補償問題や都営アパートの騒音防止設備の要求運動に対する協力など，具体的な運動もすすみ，そのほかに技術者のさまざまな要求にこたえるきめ細かな小集会の開催，あるいは，「連絡ニュース」の発行など，実質的な運動団体として急速に発展していった。

Ⅶ—2 すすむ東西交流

関西のＮＡＣとの交流は，最初のころはたがいに個人的な話し合いの段階にとどまっていたが，67年11月26日に開かれた**第８回ＮＡＣ総会**に東京からはじめてメッセージが送られ，このころになって東京の方の準備が進むにつれて，急速に交流の必要性が高まってきた。

翌68年になると，**新建東西交流講演会**がとり組まれた。これは，ＮＡＣ，仮称建築家集団両団体の共催で，同じ講演会を東京，大阪で行ない，たがいの交流を深めるという企画であった。講師は，東京から山口文象氏，関西から西山夘三氏にお願いし，６月17日には東京住宅公団講堂で，「建築家の雑言」と「すまいと建築家」というテーマで，９月20日には大阪中之島公会堂で，「現代建築家の姿勢」と「国土空間の担い手」というテーマで，開催された。両会とも，それぞれ予想を上回る300名



新建東西交流講演会（1968.9.20，於大阪）で講演する山口文象氏

内外の出席者があった。たがいに代表がメッセージをもってかけつけたこととともあわせて，交流の成果は大いにあがった。

こうした活動をするなかで，8月31日彦根で両団体の活動家が初めて会する**第1回新建東西交流懇談会**をもつことができるまでに進展した。NACからは，委員全員ほか計11名が，仮称建築家集団からは4名が参加し，また，建築運動を発展させるため名古屋にも組織をつくってほしいという個人的なよびかけに応じて，名古屋から2名の有志が参加した。そして，これからの建築運動のありかたをはじめ，建築運動の全国組織をいかにしてつくっていくべきかなどをめぐって，夜のふけるまで熱心に討論し，その後の建築運動発展のための貴重な一歩を記すことができた。

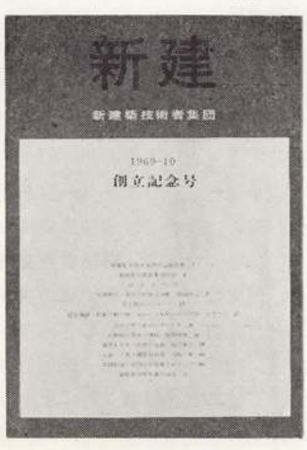
ひきつづいて，**第2回新建東西交流懇談会**が10月6日名古屋で開かれ，NACから6名，東京から4名，名古屋から3名の計13名が参加し，第1回の成果のうえにたってさらに討議を深めていった。

こうした積み重ねのうえにたって68年12月1日の**NAC第9回総会**に，東京，名古屋からそれぞれ代表各1名が参加した。その前夜祭（11月30日）において，これらの代表を含めて，**特別議題「建築運動の全国組織をめざして」**というテーマで討論を行なった。(**第3回新建東西交流懇談会**) そして翌日の総会において運動方針の討議のなかで**「今年はより一層組織的に建築運動の交流を深めよう」**という提案がなされ，これを全員一致で決定した。こうして，これまで活動家の任意参加という形で進められてきた新建東西交流懇談会を，さらに組織的に推進すべきである，という方向がうちだされ，新たな発展段階をむかえることになった。

Ⅶ—3　各地でつぎつぎと運動組織

■新建築技術者集団が正式発足

この直後，12月14日東京では，仮称建築家集団の事務局員の一部が，まったく非民主的なやりかたで，破壊分裂活動を行なうという事件があった。すなわち，事務局長になんの連絡もなく，これまでの基本方針とまったく異なった方向で，「第12回例会」なるものを行ない，「技術を武器として，米日支配階級と実力で闘う」などと極左的なことを主張し，事務局長がそれをうけ入れないとして「解任」した。しかし，事務局長をはじめ集団に結集していた大部分はすぐさま態勢をたて直した。



新建築技術者集団機関誌

NACは，あくる69年2月10日の委員会でこの問題を討議し，事務局長のもとに結集した仮称建築家集団を支持し，今後も交流を進めていくことを決定し，すぐさま東京へ激励の電話を入れた。

こうした困難をのりこえる過程で，これまで「仮称建築家集団」といったあいまいな組織形態で活動していたことが，この種の困難を生む一因である点をみとめ，早急に正式発足への取り組みを強めた。そして，「すべての建築や建築家にノンをつきつける」のではなく，重要なことはより広範な建築技術者の結集であることを確認した。こうして，急速に組織化がすすみ，5月10日「**新建築技術者集団**」として正式発足するに至った。（資料Ⅶ—1参照）このように新しい名称で出発しようとしたのは，仮称建築家集団の積極面はこれを全面的に引き継ぐが，問題点や限界はこれを止揚しようという意欲がこめられていたのである。趣意書は次のようにのべている。

"……私たち建築技術者は，私たちのおこなっている建築の仕事を，社会的関連の中で正しくとらえることにつとめ，建築創造とはなにか，私たちはいかにあるべきか，という問題にとりくむため，今こそ広く結集すべきときです……"

なお，設立総会には，NACおよび神戸建築技術者交流会から代表がかけつけ，連帯のあいさつを送った。首都，東京に建築運動団体が誕生した意味は大きく，全国各地から続々と問い合せや入会があいついだ。会員も，その年の11月末で147名とふえ，ひきつづき着実な活動を展開していった。また，11月には，活版刷りB5版57ページの機関誌「**新建**」**創立記念号**5,000部が発行され，東京はもちろん，各運動団体の協力もあって全国各地の技術者に広く配付されていった。

■京都で建築土木技術者交流会

京都では，新建東西交流懇談会には参加していなかったが，すでに67年2月から「**建築土木技術者交流会（BEC）**」（資料Ⅶ—2参照）が活動していた。BECは，NACなどの運動団体とは多少ニュアンスの異なった組織で，おもに民間設計事務所の所員，それもどちらかといえば下積みの青年技術労働者が中心であった。その当初の目的は，「私たち建築土木技術者は，現在社会から未来社会への建設をになう者として，私たちはどうあるべきか，自己の目的を自覚し，相互の理解を深め協力するとともに，私たちの技術向上を目ざし，住民の立場から建設を考える」というものであった。おもな活動は，会員でつくりあげた技術部，レクリエーション部，都市計画部，文化部，生活相談部の五つの専門部のサークル活動が中心であった。つまり，技術の勉強をし，レクリエーションでたのしみ，あるいは，生活や仕事の問題をかざりけなく話し合い，たがいの連帯を強めるなかで，技術者のありかたに対する自覚も高めていこうという，きわめて大衆的な性格の強い組織であった。そして，いろいろな活動や行事をつうじて参加してきた延べ人員は，67年の第1年度181名，第2年度272名，第3年度462名というように，着実な活動のうえにたって多くの技術者を結集していった。どちらかといえば，比較的上層の技術者層に限定されていたNACなどが，これまで組織しえなかった青年技術者労働者層のエネルギーを結集した点でユニークな組織であり，新建築統一運動にも大きな影響を与えた。しかし反面，運動団体として社会に働きかけていくという点ではやや問題意識に弱さをもっていた。しかし，のちにのべるように，「新建築運動統一準備会」に参加するなかで，こうした弱点をのりこえようとする動きがでてきたのは注目に値する。この点については，あとへゆずりたい。

■神戸建築技術者交流会と第4回新建東西交流懇談会

大阪や京都にくらべて，神戸は建築運動の比較的不毛の地であった。しかし，神戸を中心とした建築運動がまったくなかったわけではない。54年1月，神戸大学や設計事務所，官公庁などのメンバー8名を中心に「**神戸建築クラブ**」が結成されている。クラブは，NAUのような活動を神戸で行なうという意図で出発し，約3年あまり，月1回程度の例会を開き，ニュースの発行などを行なっていたが，57年春には活動を停止するにいたった。明確な綱領をもつに至らなかったが，明らかに建築運動



統一準備会に参加した各運動団体発行の「ニュース」

体として神戸で活動した意義は少なくない。

しかし，その後は，運動らしいものはなかった。わずかに，ＮＡＣの神戸在職あるいは在住の会員数名が，例会ごとに大阪へ出向いていくのが精一杯であった。これでは本当に自分が住み，働いているところの問題に具体的に対処できないし，自分たちで自主的に運動を育てていこうとする気風は生まれなかった。やはり，ぜひ神戸に根をおろした組織の確立が望まれていたのであった。

こうした動きは，68年の６月ごろから，神戸あるいはその近辺の建築家，技術者，研究者などが，それぞれの職場や研究機関という日常活動のわくをこえて交流し，職場や地域のなかに埋もれている問題の解決を図るための組織をつくろうとする運動として展開していった。当初は，組織の性格，目的，活動方針を明確に規定せず，民主的な建築技術者の交流運動として基本的な方向だけを確認して準備が始められた。名称も暫定的に「仮称神戸建築技術者交流会」として，正式発足にいたるまで７回の例会活動が取り組まれた。そして，こうした活動をするなかで，ＮＡＣや新建築技術者集団が全国組織をめざして交流を重ねている現状をふまえながら，各地域で実質的な活動ができる組織をつくっていくことが，きたるべき全国組織のいしずえになると判断し，69年７月19日，正式に「**神戸建築技術者交流会**」として設立されることになった。（資料Ⅶ－３参照）

この夜，設立総会にかけつけた新建築技術者集団やＮＡＣの代表と神戸の活動家をふくめて，**第４回新建東西交流懇談会**が神戸・有馬で開かれた（出席者11名）。東京や神戸で各組織が正式発足した成果をふまえながら，これまで積み重ねてきた論議を深め，とくに技術者運動と労働運動との関係や，技術者の多様な要求をどうとらえるかなどについて，つっこんだ議論がなされた。

■名古屋計画者グループ

名古屋では，以前から住宅公団，名古屋市，名大，名工大などのおもに計画者を中心とした個人的なグループ活動の下地があったが，68年春ＮＡＣから，ぜひ名古屋でも組織をつくってほしいという要請が行なわれた。そして，すでにのべたように第１回新建東西交流懇談会に個人的に参加したのをはじめ，これまでの私的な勉強会的な集まりから脱皮し，もう少し輪をひろげ，社会的活動たりうるものに育てていけないかというのが最初の動機となっている。

たまたま，日本建築協会の機関誌「建築と社会」69年３月号の特集記事がこのメンバーに依頼され，住民の立場に立って中部圏における各種開発計画についてレポートすることになった（「**中部からの報告―計画と住民**」）。こんご活動を育ててくれるであろう中核メンバー約20名に呼びかけが行なわれ，この作業が取り組まれた。これが名古屋グループの結束を固めるうえで大きなプラスになったし，また同時にグループの性格を特徴づけることになっているともいえよう。

内容は，グループが足で集めたデータを，徹底したグループによる共同討議と作業を通じ，グループの共通した問題意識―住民運動のあり方―を軸にまとめられたものである。結果は，グループ活動からくる種々の制約もあったが，約３カ月にわたって，土，日曜日はこの活動のためにすべて投入する，という集中した活動のなかから，共通した仲間意識が芽ばえ，作業を終えた段階では，自然発生的に，こんごも地域のなかで「計画」のありかたを考え，活動をしてゆく必要があるとの機運が高まった収穫は大きいといわねばならない。

その後も，いくたびかの予備的会合ののち，６月以降毎月一度の定期的会合がもたれ，中部地区における計画やそのありかたについて，住民の視点から検討を加えるなど，正式の呼称，組織ではないが，「**名古屋計画者グループ**」として活動をつづけた。のちにのべる，このグループ以外の名古屋の設計グループの活動家とともに，以後の名古屋の組織を発展させていく原動力の役割を果していった。

Ⅶ－４　「新建築運動統一準備会」が発足

このように，各地域にいろいろな運動体ができてくると，全国の統一組織に対する必要性がさらに高まってきた。さきの第９回大会で「組織的に全国組織への活動を強める」決議をしたＮＡＣでは，委員会で検討した結果，ＮＡＣが呼びかけ人となって，現在活動している新建築技術者集団，建築土木技術者交流会（ＢＥＣ），神戸建築技術者交流会および名古屋の計画者グループに働きかけて，統一のための準備会をＮＡＣを含めた５団体によって正式に発足させることになった。

この呼びかけに答えて，第１回目が69年11月６日，名古屋で各組織から計16名の代表が参加して開かれた。まず，これまで過去４回にわたって積み重ねてきた新建東西交流懇談会などの成果を総括したあと，各団体から活動報告と統一への意見が述べられ，それにもとづいて今後の建築運動のあり方や統一組織の形態について討論した。その結果，この会を**第１回「新建築運動統一準備会」**とし，各団体２名の準備委員を選出し，全員一致の原則で運営することになった。またこの会では，統一組織をつくる必要のあることは確認できたが，組織形態については，「単一の全国組織をめざしながらも当面は連合体方式」でいくか，「初めから単一の全国組織」でいくかについては結論がでなかった。

しかし，この問題は，準備会をかさねるなかで，しだいに後者すなわち「**単一の全国組織方式**」に意志統一されていった。つまり，都市問題，国土問題をはじめ建築運動の課題が最近ますます全国規模で展開されていることに対応するためであり，また，各地，各職場・各分野の技術者の要求を適確にかつ持続的に結集していくには，単一の全国組織は欠くことができないからである。

ともかく，新建築運動統一準備会が正式に活動しはじめたことは，これまでのＮＡＣ，新建築技術者集団を中心とした交流活動の努力をさらに組織的に前進させたものとして高く評価しうるものといえる。なお，これまでの交流懇談会では参加していなかったＢＥＣが，はじめてこの運動に参加してきたことも，ここに記しておく必要があろう。

第２回新建築運動統一準備会は，12月14日，各組織から13名が集まり，同じく名古屋で行なわれた。この日は，今後の建築運動のありかたとして，組織すべき技術者の層が問題になった。討論の結果，われわれの目指す組織は，限定された層に対するものではなく，いわゆる「建築家」とよばれる層から下積みの建築技術労働者も含めて，広範な層の結集に努めるべきことを再確認した。このなかで，とくに下積みの若い建築技術者層の組織化については，これまでの運動の盲点であったが，ＢＥＣ



第３回新建築運動統一準備会（1970.2.22，於名古屋）

が大きな成果をあげてきていた。また逆に，ＢＥＣの方からは，この準備会に参加することによって，運動体として脱皮する必要性をより明確に認識するようになったことが報告された。そして，ＢＥＣは，あくる70年４月26日の第４回総会で会則改正をはかり，目的も明確にして運動体として脱皮していく方向性をうちだしたのである。こうした討論のうえに立って，この準備会をこれまでの５団体でさらに名実ともに全国組織への準備会に発展させるため，全国の広範な各層・各地域からの参加を得ようと，統一準備会の名でアピールを出すことに決定した。

Ⅶ－５　呼びかけに各地から反響

70年２月１日，新建築運動統一準備会の名で，「**新しい建築運動の全国組織をつくろう――1970年を迎えて全国の建築関係技術者に呼びかける――**」というアピール（資料Ⅶ－４参照）が，できるかぎり多くの地域へ送られ，また，雑誌などへも掲載された。こうした呼びかけに立って，２月22日名古屋で開かれた**第３回新建築運動統一準備会**には，これまですでに準備会に結集している５団体以外に，群馬，九州から代表が参加したのをはじめ，名古屋からは，これまでの計画者グループ以外の設計事務所などのメンバーの出席があった（計24名出席）。また，この日，都合で出席できなかった広島の代表から祝電があったのをはじめ，そのほかにも手紙などで連絡，問合せがあった。

このように，アピールに対して多くの反響があり，全国組織の結成の基礎が一段とかたまった。そして，さらに，全国各地でこうした運動のめばえる基盤が広範に存在していることが明らかになったのである。この日の統一準備会で報告された新しい地域での以下に示す経験がそれをものがたっている。

地方のなかでも**群馬**は，建築界が非常に不毛であり，とりわけ住宅の問題がなおざりにされてはいないかといった問題意識のもとに，まず，みじかな学習から始めようと67年３月に「**前橋住宅研究会**」が発足した。一般研究，団地住宅の実態調査，職場分析，うたごえ祭典の会場設営などの活動のうえに，69年12月，前橋における住宅の実態，作品，住宅相談，シンポジュウムを内容とした「住宅展」が開催された。必ずしも十分な発表とはいえなかったが，反響は大きく，そのなかから地域における活動も確認された。69年４月に発足した藤岡地区の「**建築計画ゼミナール**」もその一つである。そして11月には，地域の市民センター案を展示し，ビラによって市民へアピールしたり，市当局へも提示するなど，一定の成果をあげた。

次に，**九州**の福岡市では，70年１月「**住民・自治・環境・学習会**」が組織された。これは，独占資本の利潤追求のなかで，その矛盾の具体的なあらわれである環境の著しい悪化が日一日と進行しているが，こうした状況を科学的に分析，摘発していく場として，異なった職域での建築，都市関係者が自主的に集まることによって出発したものである。市内の９設計事務所，住宅公団，九州大学など４つの大学・工高などから集まり，正式会員30余名を数えた。おもな活動としては，毎週土曜日にひらかれる定例会があり，ここでは職場問題懇談会，建築技術学習会，広場問題学習会，子供の環境を考える会などが取り組まれた。

また，**名古屋**からは，計画者グループ以外の建築設計事務所のメンバーから，65年につくられて活動していた「**建築家を志す若人のグループ（AYFC）**」の経験がのべられた。これは，設計事務所の若手所員の集まりで，会則（資料Ⅶ－５参照）がつくられ，20数名の会員で発足したものである。名古屋市民会館公開コンペ要請や帝国ホテルを守る会署名カンパ活動，各専門部の研究，交流，レクリエーションなどがとりくまれ，会員も30数名に増加した。しかし，会の目的と展望のあいまいさ，幹事の指導の悪さ，会員多忙のため，その後運動が停滞してしまった。こうしたグループを持続的に発展させるためにも，全国組織というよりどころが早くできることが望まれるという報告があった。しかし，この統一準備会に参加するなかで次第に動きが復活し，新しく組織をつくり直す努力が行なわれた。その過程で，新瑞（アラタマ）共同保育所建設運動に参加したり，名演（名古屋勤労者演劇集団）会館設計グループを結成したりする動きがでてきた。

このように，全国から新しいメンバーを加えたこの準備会でさらに討論を深め，全国各地で行なわれている無数の建築技術者のグループ，サークルに方向性を与え，それらを結集していくためにも，全国統一組織の確立がいまぜひ必要であることが確認された。そして今後は，さらに全国組織の原案の作成など具体的な作業をすすめるため，この準備会のなかに小委員会をもうけることになり，各地域から１名ずつ小委員が選出された。

なお，当日，京都のＢＥＣから，目前にせまった京都府知事選について，これが単に京都府だけの選挙ではなく，全国的な意味をもつものであり，また，京都の建設にたずさわる建築技術者としても民主府政を一層おしすすめることの重要性を認識して，全国の建築家，技術者の積極的支援を要請した。これに対し統一準備会は，全員一致で支持を約し，「**来る４月におこなわれる京都府知事選挙にさいし，民主府政の一層の前進のために，全国の建築家・技術者のみなさんの積極的支援を訴たえます**」（資料Ⅶ－６参照）というアピールを採択した。

Ⅶ－６　「明るい民主府政をすすめる建築家・技術者の会」

京都では，知事選をひかえた70年２月ごろから，ＢＥＣやＮＡＣの京都会員などが中心メンバーとなって，民主府政をより一層前進させるための建築技術者の組織づくりが準備されていた。公明党が「柴田支持」を決めたこともあって，京都府知事選は民主勢力と反動勢力の一騎打ちとなり，70年代の幕明けにふさわしい，あらゆる階層の人たちをまきこんだ大選挙戦へ発展していった。数回の予備的な会合ののち，「**民主府政をより一層前進させ，美しく住みよい豊かな京都のまちをつくりましょう**」というよびかけのもとに，３月15日，「**明るい民主府政をすすめる建築家・技術者の会**」が結成された。

設立総会には，約100名の建築家，技術者が集まり，また，新建築技術者集団，ＮＡＣ，神戸建築技術者交流会，あるいは，全国建設などの労働組合等，全国から寄せられたメッセージや祝電は多数にのぼった。さらに著名な建築家をはじめ10数名の人たちから祝電や支持が寄せられた。まず，代表委員に大倉三郎，中村綱両氏を，幹事に岩下滋氏以下13名をえらんだあと，**総会宣言**（資料Ⅶ－７参照）が採択された。ひきつづいておこなわれた記念講演会では，山田芳治京都府副知事，西山夘三氏，富家宏泰氏，堀江友広氏（明るい民主府政をすすめる会代表委員）より，それぞれの角度からの興味深い話があった。

すでに設立総会のとき，約100名の入会者があったが，その後さらに広く，京都在住の建築家，技術者約5,300人全体によびかけることに努めながら，最終的に約500名の支持署名と約200名の会員を獲得し，また，多額の協力金やカンパが，京都はもちろん全国各地から寄せられたのであった。

こうしたなかで，３月28，９両日**第４回新建築運動統一準備会**が，京都で開催された。この日，「明るい民主府政をすすめる建築家・技術者の会」から，代表委員中村綱氏が出席，統一準備会へメッセージを送るとともに，知事選に対する支援を要請した。これに対して，統一準備会終了後，出席者全員が赤い旗に「ニナ川必勝」の寄せ書きをし選挙事務所を訪れて手渡すとともに，さらに有志が支援活動を行なった。こうした活動をはじめ，統一準備会とこれに結集した全国の建築技術者の力はおおいに発揮されたのである。



京都府知事選での寄せ書き

そして，いよいよ４月12日の投票日を迎え，13日には蜷川候補の圧倒的



旗をかかげてフランス式デモ（1970.6.23.東京）

勝利が決まり，名実ともに民主府政を前進させる基礎がかためられたのである。14日には，「民主府政勝利，建築家技術者祝賀会」が開かれ，民主府政をすすめようとする意気大いにあがった。しかしながら，今後に残された課題は，むしろいよいよ重大であるといわねばならなかった。

すなわち，京都の民主府政は，過去20年の実績のうえにたって，府民に明らかにした公約（政策）の実行という重要な課題があった。そのなかでも，“建設”に直接かかわりをもつ建築家，技術者の責任は重大であり，「明るい民主府政をすすめる建築家・技術者の会」の果たすべき役割は大きいといわねばならなかった。そして，その時点で，今後ともこの会を持続することを確認し，たとえば，府に「建築相談コーナー」の設置を要求するなど，具体的に建築技術をつうじて府の建設行政と住民をつなぐパイプの役割りをどのように果たしていくか検討していった。

Ⅶ－7　「安保をなくし，民主主義をすすめる建築家・技術者の会」

一方，世の中は，70年6月が近づくにつれて，急速に安保廃棄の統一行動が発展していった。70年6月23日以降，通告によって安保を一年後に廃棄できる民主的な政府をうち立てるか，このまま自動延長をみとめる政府を許しておくかどうかの新しい選択の時代に入っていった。こうしたなかで，新建築技術者集団を中心として，**「安保をなくし，民主主義をすすめる建築家・技術者の会」**（世話人代表青戸純）が，6月19日，東京において結成された。（資料Ⅶ－8参照）賛同者には，佐藤次夫，山口文象，竹内芳太郎，山本学治氏の名も見える。つづいて，6月23日のあの歴史的な全国統一行動の日に，180人の建築家や技術者が参加し，「安保をなくし，民主主義をすすめる建築家・技術者の会」の旗を高くかかげながら，会場の代々木公園から新橋まで整然と行進し，いたるところで，フランス式デモを行ない，多くの人々の注目をあびたことは特筆するに値する。

Ⅶ－8　「新建築家技術者集団設立準備会」へ

70年の春頃になると，各地，各組織での全国統一組織に対する討論や準備活動などの取り組みが強められていった。新建築技術者集団には，その後も札幌をはじめいくつかの地域から，入会や支部をつくりたいという多くの問い合せがあり，こうしたなんらかの連絡のある地域は，すでにこの時点で20数都道府県に達していた。

群馬では，統一準備会に参加するなかで，各地に散在する活動家の結集の必要もあって，4月に，**「群馬建築家・技術者集団」**が発足し，その第1回例会「群馬建築界の現況」が開催された。

また，名古屋では，さきに述べたように計画者グループとその他に設計者などのグループが統一準備会に参加していたが，6月1日，名古屋地域での統一した組織づくりをめざして，**「名古屋地域における建築運動グループ懇談会」**が開かれ，両グループのメンバーが今後の取り組みかたについて話し合った。

京都でも，選挙戦をひかえた3月18日，ＢＥＣやＮＡＣの京都会員が中心になって，**「京都地区統一準備会」**が開かれ，京都地区での統一運動のすすめかたについて話し合った。

ＮＡＣでは，3月25日，例会**「統一組織のありかたについて」**を開き，ＮＡＣとしての取り組みを検討した。

神戸では，第13回集会**「建築運動の全国組織をめざして―兵庫県ブロック討論集会」**を開き，神戸地域以外に姫路その他の地域からも多くの参加者があって，兵庫県全域に運動をひろげる第一歩となった。

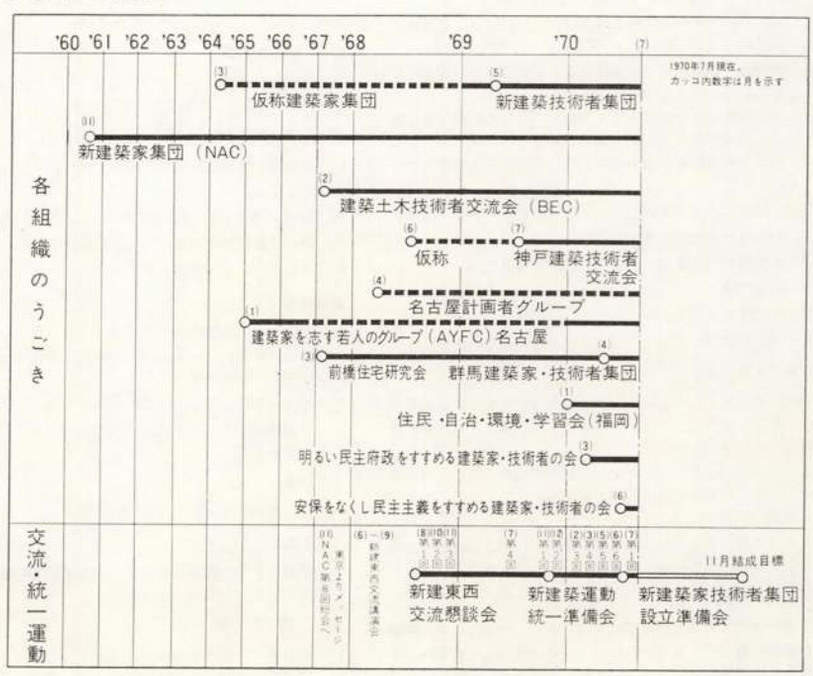
また，九州では，5月22日，ＮＡＣ委員長の上林博雄氏をむかえて講演会が開かれるなど，交流もすすんでいった。

こうした各地域での取り組みもふまえながら，新建築運動統一準備会は，前項でふれた京都における第4回（3月28日，29日）にひきつづいて，5月10日大阪で**第5回**，6月7日同じく大阪で**第6回**と，会をかさねていった。第1回から第6回までの参加延人員は116名であり，毎回午前11時から午後6時まで長時間にわたった。そして，これらの統一準備会をつうじて，ひとつは，5団体以外の新しいメンバーを加えたうえで，なぜ全国統一組織をつくる必要があるのかについて討議を深めながら，意志統一をはかっていった。

それは，まずなにより，「新全国総合開発計画」に代表されるように，住民無視の国土，都市づくりが全国的な規模で展開されようとしており，こうした問題に対処するためにも，ぜひ強力な全国統一組織が要請されている。また，無数にあると思われる建築技術者の自発的なサークルやグループ活動に，ひとつの方向性を提供し，こうした技術者のエネルギーを持続的に高めていくためにも，全国統一組織の存在は大きな影響力をもつであろうということである。一方，具体的に新組織の名称も**「新建築家技術者集団」**と決められた。“建築家”と“建築技術者”を併記したのは，広く建築にたずさわる技術者を結集しようという意図からいえば，どちらか一方では，いずれも不十分だからである。

また，趣意書や綱領案の検討もすすんだ。そして第6回の集りで決定をみた。これらは，いずれも統一準備会などを通して討論され，深められてきた建築運動に対する考えかたが盛りこまれたものである。こうした到達点に立って，11月結成大会をめざし，さらに準備活動を強めるため，この新建築運動統一準備会を，新たに**「新建築家技術者集団設立準備会」**として，発展的にひきついでいくことになったのである。

新建築運動統一への動き



●資料Ⅶ—1

新建築技術者集団設立趣意書

国土を荒廃から守り，すぐれた民族の遺産をひきつぎ，住みよい豊かな国土，人民の生活向上に役立つ建設をめざすことは，私たち建築技術者すべての心からの願いです。

しかし，反動勢力のおしすすめている「高度経済成長」にともなう一見花やかな国土建設は，全国にまたがる軍事基地ともかかわって，人民の生活と健康をおびやかし，文化遺産を破壊する結果を招いて，それに対する私たち建築技術者の責任を，ひしひしと感じさせています。

設計事務所，建設業者，官公庁関係等の技術者は，いずれも，企業のわくや，前近代的な生産関係や，合理化等によって，現実の大きな矛盾になやみながらも，広い視野をもつことを妨げられています。

独占集中による企業の零細化や下請け化はますます進行して，自主的な経営を困難にさせ，同時に技術そのものも一部に偏在していく傾向が深まっており，その結果，建築および建築技術の発展を阻害しています。

建築教育は，「産学協同」の名のもとに，企業への従属的傾向を強め，マスプロ教育の弊害とあいまって，創造や技術の正しい位置づけ，あるいは技術者の社会的責任（役割）等の基本的な問題にとりくみ得ないような体制を強めています。

研究者は，相変わらず生活の基盤を保障されないまま，研究時間・研究費の不足になやみ，専門分野はますます細分化され，自主的・総合的な研究ができにくくなっています。

私たち建築技術者は，私たちのおこなっている建築の仕事を，社会的関連の中で正しくとらえることにつとめ，建築創造とはなにか，私たちはいかにあるべきか，という問題にとりくむため，今こそ広く結集すべきときです。

過去の建築運動の伝統を正しく受けつぎ，いわゆる「おかかえ大工」的な弱さや，技術至上主義的傾向におぼれがちな弱さ等，中間的な立場からくるいろいろな弱さを自覚し，運動を進める中で相互理解と連帯を深め，私たちの技術が真に人民に奉仕しうるよう努力しましょう。

国土を荒廃から守り，住みよい豊かな国土，人民の生活向上に役立つ建設をめざしましょう。

建築の，すぐれた伝統と理論の，正しい継承と創造につとめましょう。

各分野・各職場で，建築技術者の当面する諸問題を明らかにし，その解決につとめましょう。

さまざまな分野の科学者・技術者，民主的文化運動と連帯し，現場労働者や広範な人民と手を結びましょう。

世界の民主的建築運動との自主平等の交流・連帯をつよめましょう。

このような趣旨で，新建築技術者集団を設立することを，多くの建築技術者に心から訴えます。

新建築技術者集団会則

Ⅰ　名称・目的・事業

第1条　この団体は，新建築技術者集団と称し，本部を東京におく。

第2条　集団は次の目的をもつ。

1　国土を荒廃から守り，住みよい豊かな国土，人民の生活向上に役立つ建設をめざす。

2　建築の，すぐれた伝統と理論の，正しい継承と創造につとめる。

3　各分野・各職場で，建築技術者の当面する諸問題を明らかにし，その解決につとめる。

4　さまざまな分野の科学者・技術者，民主的文化運動と連帯し，現場労働者や広範な人民と手を結ぶ。

5　世界の民主的建築運動との自主平等の交流・連帯をつよめる。

第3条　集団は，前条の目的に沿って，次の事業をおこなう。

1　機関誌その他の文書の発行。

2　研究会，討論集会，講演会，見学会等の開催。

3　調査活動。

4　他団体との交流。

5　その他集団の目的を達成するために必要な事業。

Ⅱ　会　員

第4条　集団は，この会則を認め，所定の会費を納める建築関係技術者で構成され，個人加入の組織とする。入会には常任幹事会の承認を受ける。

第5条　会員は班に所属し，それを通じて連絡をうけ，機関誌の配布をうける。会員は総会で議決権をもち，集団のすべての事業に参加できる。

第6条　集団の会則に違反したり，会費を一年以上滞納した会員の処置は，常任幹事会で決定し，総会の承認をうける。

Ⅲ　組織・機関

第7条　集団の最高決議機関は総会である。総会は，年一回幹事会の招集によりひらかれる。その他会員の⅓の要求がある場合，臨時総会を開くことができる。総会は，会員½以上の出席により成立するものとする。総会は当年度の活動方針，予算，決算，役員選出その他を審議決定する。議決は出席者の⅔以上の同意を必要とする。

第8条　集団に幹事会をおく。幹事および幹事長は総会によって選出され，総会の決定にもとづき会の運営にあたる。幹事長は集団を代表する。幹事会は最低3カ月に一回開かれなければならない。幹事会は幹事長の招集により開かれるほか，幹事の½以上の要求がある場合に開くことができ，幹事の½以上の出席で成立する。幹事会の活動は総会に報告し，承認をうける。

第9条　幹事会の下に常任幹事会をおく。常任幹事は幹事会によって選出され，幹事会の任務を代行する。常任幹事会は最低月一回開かれなければならない。

第10条　常任幹事会の下に事務局を設け，集団の日常の仕事をおこなう。事務局長は幹事会によって選出される。

第11条　集団は，地域別あるいは職場別の班を基礎組織とする。

Ⅳ　支　部

第12条　集団は，必要な地に支部をおくことができる。

Ⅴ　財　政

第13条　集団の経費は，会費・寄付金・その他の収入金によりまかなう。

第14条　集団の会計年度は毎年四月に始まり，翌年三月に終わる。

第15条　集団の会計は，会計監査の監査を受ける。会計監査は総会において選出する。

付　記

第16条　上記各条のほか，必要に応じ幹事会の承認を得て，内規を設けることができる。

第17条　本会則は集団発足と同時に効力を発生する。

第18条　本会則の改正は，総会出席者の⅔以上の同意を必要とする。

（1969年5月10日設立総会）

●資料Ⅶ—2

建築土木技術者交流会（ＢＥＣ）会則

よびかけ

建築土木技術者交流会は1967年2月に京都ではたらく建築，土木技術者が集まり結成されました。

私達の仲間はいろんな問題でなやんでいます。友達がほしい，給料がやすい，技術をもっとのばしたいがどうしたらいいのか，また，職場をもっと明るくしたいなど，さまざまな要求がうずのようにまきおこっている現在，京都で働く技術者は幅広く団結し，本来の目標に向って進まなければならないのではないでしょうか。

みなさんの積極的な入会を期待します。

目　的（第1条）

私たち建築土木技術者は国土を荒廃から守り，美しく住みよい豊かな生活環境の創造をめざし，建築のすぐれた伝統と正しい理論をまなびかつその継承と創造，発展につとめるとともに，私たち技術者の当面する諸問題を明らかにし，その解決につとめ，さまざまな分野の科学者，技術者，民主的文化運動，地域住民の運動および建設労働者との交流連帯を強めるなかで技術をきたえ，住民の立場からの建設に役立つよう努力する。

名　称（第2条）

この団体は建築土木技術者交流会（Building Engineer Circle）と称し，事務所を京都におく。

事　業（第3条）

1. 機関紙，定期誌，その他文章の発行。
2. 調査活動。
3. 目的を同じくする他の団体との交流をはかる。
4. 会には専門部をおき必要な活動をおこなう。
5. その他会の目的を達成するために必要な事業。

会員資格（第4条）

1. 建築土木技術者で会の目的会則を認め所定の会費をおさめた者は随時会員となることができる。なお入会者は幹事会の承認を受け総会に報告される。
2. 会員は国籍，性別，地位のいかんを問わない。
3. 会員は原則として，京都に在住または勤務する者で個人加入とする。

（第5条）

会員は機関紙その他文書の配布を受ける。

（第6条）

会員は総会での議決権をもち，会のすべての催しもの，事業に参加することができる。

機　関（第7条）

1. 会の最高決議機関は総会である。
2. 総会は会員総数の過半数の出席を必要とする。
3. 総会は年1回幹事会の招集によって開かれる。
4. 総会は会員の⅓以上の要求がある場合，または幹事会が必要と認めたときに臨時に開くことができる。
5. 総会は当年度の活動方針，予算，決算，役員選出，その他を審議し決定する。議決は出席者の½以上の同意を必要とする。

幹事会（第8条）

1. 会には幹事会をおく。幹事は総会によって選出され総会の決定にもとづき会の運営にあたる。
2. 代表幹事は幹事会で選出し会を代表する。
3. 幹事会は最低月1回とする。
4. 幹事会の下に常任幹事をおく。常任幹事は幹事会で選出される。
5. 幹事会の任期は総会から総会までとする。
6. 幹事会の構成は次の通りとする。
   - ○　代表幹事　　2　名
   - ○　常任幹事　　若干名
   - ○　幹　事　　若干名

事務局（第9条）

幹事会の下に事務局を設け会の業務をおこなう。

事務局構成は次のとおりとする。

事務局長，事務局次長，事務局員（若干名），機関紙部員（若干名），会計

専門部（第10条）

幹事会の下に専門部をおき，会の目的にそって独自活動をおこなう。

財　政（第11条）

1. 会の財政は入会金，会費，寄付金，その他によりまかなう。（入会金 100円，会費1カ月 100円）
2. 会の会計予算は4月に始まり翌年3月に終る。
3. 会計予算は総会に提案し幹事会が執行する。
4. 会計は会計監査の監査を受ける。
5. 会計監査は総会において選出し，総会および必要なときに監査報告をおこなう。

（第12条）

会の会則に違反したり，会費を一年以上滞納した会員の処理は幹事会で決定し，総会の承認をうける。

会則改正（第13条）

本会則改正は総会出席⅔以上の同意を必要とする。

連絡体制（第14条）

1. 連絡体制はブロック，班とする。
2. ブロックは各行政区に設置し班は職場，地域に設ける。
3. ブロックは2班以上，班は3人以上を単位として構成する。

附　則

本会則は1970年4月26日をもって効力を発する。

（1967年2月17日設立総会・70年4月26日改定）

●資料Ⅶ—3

神戸建築技術者交流会の趣旨と会則

会の趣旨

1　たがいの職場のわくをこえ，他の分野とも広く交流し，

2　住民のための建築，住宅，都市の建設をめざします。

3　そのため，民主的諸運動や全国の民主的建築運動と交流，連帯を深めながら，

4　職場や地域の諸問題の解決に努めます。

このような考えのもとに

1　集会，講演会，研究会などを開き，

2　ニュース，パンフレットなど文書を発行し

3　あるいは調査活動や

4　他団体の交流，そのほかの活動を行ないます。

会　則

（名　称）

第1条　この会は神戸建築技術者交流会という。

（会　員）

第2条　この会は設立趣旨に賛同する建築技術者その他で構成する。

2　入会は幹事会の承認を受ける。

3　会員は所定の会費（年間 500円）を納めなければならない。会計監査は年1回以上行なう。

（機　関）

第3条　この会の最高決議機関は総会で，年1回以上開く。総会は正会員の過半数の出席によって成立し，出席者の過半数によって決議できる。

2　幹事会は総会の決定にもとづき会を運営する。

（事務局）

第4条　この会の事務局を神戸市内に置く。

（1969年7月19日設立総会）

●資料Ⅶ—4

新しい建築運動の全国組織をつくろう

—1970年を迎えて全国の建築関係技術者に呼びかける—

1

国土を荒廃から守り，住みよい豊かな国土や都市，住民の生活向上に役立つ建設をめざすこと，また，建築のすぐれた伝統や理論を継承し，豊かな建築創造に努めることは，わたくしたち建築技術者すべての心からの願いです。しかし，現在わたくしたちをとりまく情勢は，こうした願いからはるかにかけ離れたものであり，一見はなやかに進められている国土建設も，むしろ，住民の生活や健康をおびやかし，公害の発生，環境悪化，文化遺産の破壊となってあらわれております。

設計事務所，建設会社，官公庁などで設計や現場に従事する技術者は，いずれも近代化や合理化のなかで，いろいろな矛盾に悩まされており，しかも職場のせまいわくにとじこめられ，広い視野をもつことがさまたげられています。

自治体をはじめ，官庁，住宅公団，都市計画事務所などで働らく建築家，計画者は，独占本位の都市計画，「地域開発」が強行されるなかで，住民のための計画を進めることがますます困難になっています。

独占企業がますます大きくなる一方，中小・零細企業は下請化を強め，自主的な経営が困難になっており，同時に技術も一部に偏在し，建築および建築技術の総合的な発展が阻害されています。

建築教育は，「産学協同」の名のもとに，企業への従属傾向を強め，創造や技術の正しい位置づけが困難になっています。また，研究者は生活の基盤を保障されないまま，研究時間，研究費の不足に悩み，ますます細分化される専門分野のなかで，自主的・総合的な研究ができにくくなっています。

こうした情況を打開し，建築を社会的関連のなかで正しくとらえ，豊かな建築創造を実現し，日本の建築の真の発展をめざすためには，それぞれの職能の枠をのりこえ，すべての分野の建築技術者が今こそ広く結集すべきときです。

2

建築を社会とのつながりのなかで正しくとらえようとする運動は，すでに戦前からの歴史がありますが，戦後まもなく1947年に設立された「新日本建築家集団（NAU）」によってはじめて組織的な民主的建築運動として大きな発展を示しました。しかし，1951年NAUが活動停止してからは，いくつかのサークルや団体が活動をしていましたが，やがて，綱領をもった民主的建築運動の伝統を守るのは，関西で1960年結成された「新建築家集団（NAC）」だけという状態になりました。

しかしながら，久しく続いた停滞が打ち破られるときがきました。

1964年から，東京を中心に仮称建築家集団が新しい建築運動の準備を始め，あらゆる困難や分裂，妨害をのりこえて，1969年「新建築技術者集団」を結成しました。また，京都でも1967年から「建築土木技術者交流会（BEC）」が，神戸でも1969年から「神戸建築技術者交流会」がそれぞれ活動を定着させはじめ，名古屋でも現在準備が続けられています。

こうしたなかで連帯の運動も深まり，1969年秋には，上記5団体が母体となって，「新建築運動統一準備会」が結成されて，すでに2回の集りをもちました。しかしながら，先に述べたような建築界の情況を考えるとき，もっと広く全国的に結集することが，今後の日本の建築運動を正しく発展させるために大切なことになっています。全国的に結集し，統一することが全国各地域の建築運動をさらに活発にし，あるいは各地域の新らしい運動のめばえを助長することになるでしょう。この全国組織への発展とその運動なくしては，より広範な建築技術者のより多様な諸要求をとらえ，現下の国土を荒廃化から守り，住みよい国や都市の創造を実現することはできません。

全国各地の建築家，計画者，設計技術者，現場技術者，研究者その他建築関係技術者のみなさん，この新しい建築運動の創造に積極的に参加され，日本に力強い民主的な建築技術者の全国組織をともにつくりあげていこうではありませんか。

わたくしたち「新建築運動統一準備会」は，別記のとおり，会合をもちますので，個人，団体を問わず，積極的に参加下さいますように，ここに呼びかける次第です。

1970年2月1日

新建築運動統一準備会

●資料Ⅶ—5

AYFC会則（Architect Young Fresh Club）

（昭和40年1月24日決定）

第一章　総　則

第1条　名　称

この会はAYFC（建築家を志す若人のグループ）と称する。

第2条　目　的

我々会員は健全な生活を営むため，団結し技術の向上を計り，これを以って社会の貢献に寄与することを目的とする。

第3条　会員の範囲

主として建築設計事務所に所属する者とする。

第4条　行　事

この会（AYFC）は第2条の目的を達成するため左記の行事を行なう。

1. 分科会
1. 見学会
1. 機関紙の発行
1. 交流会
1. 発表会

但し分科会とは左記の研究機関をいう。

理　論
デザイン
構　造（構造計算）
工　法
材　料
設　備
積　算

第5条　組　織

この会は主として建築設計事務所に所属する会員を以って構成する。

第6条　～第23条（省略）

●資料Ⅶ—6

来る4月におこなわれる京都府知事選挙にさいし，民主府政の一層の前進のために全国の建築家・技術者のみなさんの積極的支援を訴えます

1970年代を大きく左右する，京都府知事選が目前にせまっています。

これは，京都府だけの選挙でなく，全国の選挙といって過言ではありません。なぜならば，京都民主府政は全国の民主勢力を前進させ，富井京都市政・美濃部都政・沖縄屋良主席を生み出す先導的役割を果してきたからです。

京都民主府政は"憲法を生活の中に生かそう"のスローガンのもとに府民のくらしと地方自治を守りつづけてきました。保守三党連合を相手にたたかう民主府政の勝利は，反動連合政権構想に大きな打撃をあたえること，今後の民主的勢力の前進にとってさらに有利な条件をつくりだすこと，の重要な意義があります。

私たちは住民の自治に深い関心をもち，地域住民運動に参加しつつ，よりよき建築と都市づくりに努めているのですが，京都民主府政の業績は，この点でも全国で先進的自治体であります。住民の生活環境を破壊する公害への規制（生コンプラント建設申請書を受付けないなど），交通問題への適切な行政措置，積極的な住宅行政，大資本の住民を無視した宅地開発への防災上のきびしい行政指導および規制，鴨川を美しくする行政措置，等々，日ごろこれと反対のやりかたをしている国や自治体へ批判を加えている私たちが，京都民主府政を支持し支援するのはもっとも道理にかなったことです。

第3回新建築運動統一準備会は，京都代表（建築土木技術者交流会）の提議によって支持決定をおこない，明るい京都民主府政をすすめる建築家技術者の会の具体的な今後の要請にもとづいて，積極的に支援することをきめました。

各地で御活躍の皆さん。京都民主府政の圧倒的勝利のためにあらゆる支援を送りましょう。

1970年2月22日

新建築運動統一準備会

新建築技術者集団　　新建築家集団
群馬県グループ　　神戸建築技術者交流会
名古屋グループ　　九州グループ
建築土木技術者交流会

●資料Ⅶ—7

明るい民主府政をすすめる建築家・技術者の会総会宣言　＝建築家・技術者へのアピール＝

民主府政の一層の前進と，美しく住みよい豊かな京都をつくるために

京都ならびに全国の建築家・技術者のみなさん！

京都ではすでに1970年代の進路にふかいかかわりあいのある重大なたたかいが迫り，すでにはげしい動きがはじまっています。

国民のためによりよき生活空間を創造しようとつとめている私たちにとって，民主的な地方自治の前進は大きな期待でもあり，要求でもあります。

過去20年にわたり京都の府政は一貫して日本の顔「京都」の文化遺産を守り，鴨川など自然の美しさを守り，つりあいのとれた過疎過密対策，大資本による住民無視の地域開発の規制，交通その他公害対策，積極的な住宅対策など，憲法をくらしの中に生かし府民のくらしといのちを守るために努力をかさねてきました。

私たち建築家・技術者はこの業績と全国の地方自治のあるべき姿を示してきた役割を高く評価するものであります。しかしいま，このような日本の夜明けともいえる民主的な府政をてんぷくさせ，ふたたびくらやみの時代の息を吹きかえそうとする勢力が金力と権力のすべてをあげておそいかかってきています。

私たち民主府政の前進をねがうすべての建築家・技術者はこの重大な事態をふかく認識し決して歴史のはぐるまを逆転させない決意のもとに，民主府政の一層の前進めざし，ただちにたたかいにたち上ろうではありませんか。

本設立総会は，京都ならびに全国の建築家・技術者のみなさんに今日の事態と私たちの決意を心から訴えるとともに，みなさんの積極的御支持と御支援をおねがいいたします。

1970年3月15日

明るい民主府政をすすめる建築家・技術者の会設立総会

●資料Ⅶ—8

安保をなくし，民主主義をすすめる建築家・技術者の会

みなさん御承知のように，6月23日以降，通告によって，日米安全保障条約は，一年の期限をもって無効とすることができます。

世界に類のない不平等な国家関係であり，日本の自主的発展を妨げる安保体制は，すみやかに清算されるべきだと考えます。

民族の運命とアジアの平和を左右する新しい歴史の段階をむかえ，日ごろから日本の在り方について深い関心を抱いておられるみなさんに，〈安保をなくし，民主主義をすすめる建築家・技術者の会〉に参加されるよう訴えます。

安保をなくし，平和憲法の精神に沿って日本の建設をすすめることは，ひとり建築家・技術者のみで果しうるところではありません。しかしこのことを全国民の課題としてうけとめ，各界各層の人々が一致してこの方向に社会を推進してゆくならば，必らず良識と正義の支配する豊かに美しい日本を築きあげることができると信じます。

日本の将来と国土の建設に責任をもつ立場にある者として，私たちは次のことを全国民に訴えたいと思います。

1. 国民の主権を犯し，平和的発展を妨げる「日米安保条約」をすみやかに廃棄し，沖縄を平和な姿でとりもどして，日本を自主的な平和国家にしよう。
2. アジア諸国への侵略に協力する「安保」と「基地」をすみやかに撤去させ，諸民族の自決と平和的発展を擁護しよう。
3. 国民のための生産と建設を妨げる「安保体制」をすみやかに解除し，美しい日本の国土を築こう。
4. 建築の総合的発展の可能性を阻む「安保・軍事化」をすみやかに排除し，すべての建築家・技術者が自由な建築文化の創造にその知識と技術を傾注できるようにしよう。

安保体制は，国民の関知せぬ場所で侵略と抑圧を企てる体制であって，いかに美化しようとも，平和憲法の相容れぬところです。各界各層の良心と相携え，民主主義を推し進めるために，安保体制を少しも早く終息させることは，今日に生き後世に責を負う者の当為と考えます。

昭和45年6月19日

安保をなくし民主主義をすすめる建築家・技術者の会世話人会

1967年（昭和42年）年表

数字は月を示し（例）は例会を示す。東京その他のうごきは主要なもののみを抜粋。

交流・統一運動	関西のうごき ●大阪（NAC）◀京都（BEC）	東京その他のうごき ●東京　◀群馬
	●1.（例）「ヨーロッパの休日―青年建築家の貧乏ひとり旅行」（阿部憲一） ◀1.交流会設立準備小委員会	
	●2.（例）「戦後建築運動とNAC」（第1回）（飯田精次郎，松井昭光） ◀2.建築土木技術者交流会（BEC）結成総会	
	●3.（例）「戦後建築運動とNAC」（第2回）（西山邦三，増田幸次郎） ◀3.都市計画研究部会―京都市長期開発計画について――（11月まで）	◀3.「前橋住宅研究会」
	●4.（例）「新ファッシズム化の現代建築」（向井正也）	
	●5.（例）「アーバンデザイン教育と設計業務」（小島将志） ◀6.RC構造計算講習会（10月まで）	
	●7.（例）「建築組織論の立場からみた社会と建築の接点」（宍和夫）	
	●9.工場見学と夕食会（神戸で） 「神戸の都市計画」（嶋田勝次） 「7月豪雨について」（垂水英司，石東直子） （例）「再開発に関連する区分所有」（福原裕司）	
	●10.（例）「都市不良住宅地区の現状と住宅改良について」（住田昌二） ◀10.古社寺と近代建築見学会	●10.第7回例会「シンポジウム"住宅問題"その現状と解決の方向をめぐって」（三宅醇，田口仲子「住宅問題部会」）（仮称建築家集団）
●11.仮称建築家集団よりNAC第8回総会へはじめてメッセージ	●11.NAC第8回総会（阪南荘） ◀11.鉄骨構造計算講習会（68年4月まで）	

1968年（昭和43年）

交流・統一運動	関西のうごき ●大阪（NAC）◀京都（BEC）■神戸（神戸建築技術者交流会）	東京その他のうごき ●東京（仮称建築家集団）　■名古屋
	●1.（例）「都市化に伴う災厄の予測」（田端修） ◀1.都市，建設諸法「改正」問題懇談会（他団体も含む）	
	●2.（例）「大都市内部の居住地と居住者の地域評価」（梶浦恒男） ◀2.ダンスパーティ交流会	
	●3.（例）「最近の民間分譲住宅建設の特徴」（延藤安弘） ◀4.ダンスパーティ交流会 ◀4.BEC第2回総会	●3.第8回例会「都市問題についてどう考えるか」（馬渡尚，「都市問題部会」）
	●5.（例）「経営社会学と公害問題について」（宮本憲一）	●4.第9回例会「シンポジウム・戦後の建築運動について」（宮内嘉久，竹村新太郎，鈴木成文，松井昭光，高橋倬之）
	●6.（例）「わが国における"地域開発"のパターンとその展開」（儀我荘一郎） ■6.神戸建築技術者交流会の準備活動始まる。 「建築諸法改正の動きと問題点」（宮谷進）	■4.名古屋計画者グループ話し合い始まる
●6～9.新建東西交流講演会	◀7.講演と討論の夕べ「都市について考える」 ◀7.第2回鉄骨構造計算講習会（10月まで）	●6.新建東西交流講演会（10回例会） 「建築家の雑言」（山口文象） 「すまいと建築家」（西山邦三）
●8.第1回新建東西交流懇談会（彦根）	■7.「兵庫県の住宅供給計画と問題点」（増田紘） ◀8.丹後神崎浜海水浴レクリエーション	
●9.新建東西交流講演会 「現代建築家の姿勢」（山口文象） 「国土計画の担い手として」（西山邦三）	■9.「公共団体における建築技術者の役割」	■11.「計画と住民―中部からの報告」調査執筆作業始まる
●10.第2回新建東西交流懇談会（名古屋）	◀10.修学院離宮見学会（永瀬雄三，沼尻康光，垂水英司） ◀11.私の嵯峨野，古建築見学会	●11.第11回例会「万博問題討論集会」
●11.第3回新建東西交流懇談会（NAC総会前夜祭・京都）	■11.「地域開発と住民参加―淡路島開発計画について」（橋本芳次，福田稔）（NACと共催）	
●12.NAC第9回総会（京都東山会館）	◀12.クリスマスパーティ	

1969年（昭和44年）

交流・統一運動	関西のうごき ●大阪（NAC）◀京都（BEC）■神戸（神戸建築技術者交流会）	東京その他のうごき ●東京（新建）　◀群馬　■名古屋
	●1.（例）「建築技術者の意見と実態」（島津良樹）	
	●2.（例）「都市計画事業と住民」（竹内範夫） ◀2.生活アンケート調査 ■2.「神戸における生活環境」（嶋田勝次）	
	●3.（例）「計画と住民――中部からの報告」（玉置伸悟） ◀3.ボーリング大会	
	●4.（例）「"地団研"と"国土研"との交流」（志岐常正，岡林一夫） ◀4.BEC第3回総会 ◀4.「都市について考える」第1回（三村浩史）	◀4.「建築計画ゼミナール」発足
	■5.「住宅産業の現況と問題点」（林敬之介）	●5.新建築技術者集団設立総会 記念講演「建築活動の移り変わりとわれわれの立場」（山本学治）
	●6.（例）「万博の意義の再検討」（吉田光邦） ◀6.雲ケ畑ハイキング ◀6.RC構造計算講習会（12月まで） ◀6.パース講習会（11月まで）	■6.「栄東地区再開発住民運動について」 ―その評価と批判，反省―
●7.第4回新建東西交流懇談会（神戸有馬）	◀7.「都市について考える」第2回（速仏亨） ■7.神戸建築技術者交流会設立総会 記念講演「都市問題を考える」（広原盛明）	■7.「名古屋市将来計画，基本計画69.5」―その市民的立場からの検討―
	◀8.美浜海岸海水浴 ■8.「都市とすまい―都市内居住の理念」（早川和男）	◀8.「団地における住宅の実態調査」
	◀9.「都市について考える」第3回（中村孝） ◀9.　〃　第4回（中村孝） ■9.「最近の都市計画の問題点について」（富安秀雄）	■9.「東京都中期計画」 ――シビルミニマム計画の評価と限界――
	◀10.雲取山はんごうすいさん ◀10.万博工事現場見学会 ■10.再開発研究会発足	
●11.第1回新建築運動統一準備会（名古屋）	◀11.社寺見学会（浄瑠璃寺，平城宮祉）	●11.「新建」創立記念号 ◀11.「市民センター案」の発表
●12.第2回新建築運動統一準備会（名古屋）	●12.（例）「混合地域の再開発」（三村浩史，安藤茂男） ◀12.クリスマスパーティー ■12.「市街地再開発の視点」（嶋田勝次）	●12.新建第2回総会 ◀12.「住宅展」開催

土質用語の解説

中堀和英

●圧縮性

圧縮応力の増加により土が間隙比の減少すなわち圧縮されやすいかどうかの性質を指す。圧縮性の大きい土に構造物を載せると沈下は大きい。圧縮率 m_v の値は，密な砂で0.002，ゆるい砂0.009，粘土で0.06㎠/kg，他の材料に比べて変化が大きい。

沈下量＝〔圧縮応力〕×〔m_v〕×〔層厚〕

●圧密

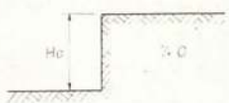
圧縮応力の増加のため土の体積が徐々に小さくなること。水で飽和した粘土の場合は間隙の水が逃げないと縮めないので，脱水していくのに時間がかかる。

●安定係数

鉛直に自立し得る高さを示す係数で，これを N_s とすれば

$$N_s=\frac{\gamma H_c}{C}$$

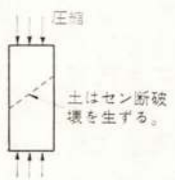
γ ：土の単位体積重量
H_c：臨界高さ
C ：粘着力



●一軸圧縮試験（q_u）

円筒形の試料を側圧かけることなく軸方向に圧縮する試験で，$\sigma_3=0$ の条件で行なった非排水の三軸圧縮試験と同じである。

内部摩擦角が0のときは，一軸圧縮強度の $\frac{1}{2}$ が粘着力となる。



●鋭敏比（S_t）

粘性土の乱さない状態の強度と，これを含水比そのままで練り返した状態の強度との比をいう。

$$\text{鋭敏比}S_t=\frac{\text{乱さないときの強度}}{\text{乱したときの強度}}$$

4以上を鋭敏な，8以上を極めて鋭敏，という。

●コンシステンシー

英語の Consistency そのままであり，堅さ，人格などの意がある。あの人は堅い人だという時の語法が源である。粘性土の変形の難易の程度を表わしたもので，堅い，柔らかい，もろいなどで表わす。別項の塑性限界，液性限界なども土の含水比の変化によるコンシステンシーの段階を示すものである。俗に，カチンカチンの粘土とか，ネバネバの粘土というのもこれを表わしている。

●洪積層

第四紀の洪積世にたい積した地層。洪積世は200万年前から1万年前(最後の氷河期の終）を指す。砂，れき，粘土からなることが多く，関西では，上町層，大阪層群の大部分，伊丹れき層などが属する。大阪層群のとくに古いものは，第三紀に属する。大阪層群は，大阪平野はもちろん，六甲山南側，千里丘陵から京都府の一角にも分布する。

●過剰間隙水圧

土粒子の間に挟まれた間隙水の水圧を間隙水圧というが，静水圧として当然持っている圧力より大きい分をこのように呼ぶ。時にはこれがマイナスの場合もある。

●間隙比（e）

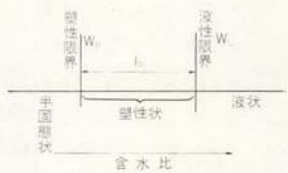
土の間隙の体積（気体・液体の部分）を土粒子の体積（固体の部分）で割った比。これが小さい値であるほど，土が密な状態である。だから土の状態を示す重要な値である。砂では0.3～1.0，沖積粘土で2前後，埋立直後では4以上のこともある。

$$\text{間隙比}\ e=\frac{\text{間隙の体積}}{\text{土粒子の体積}}$$

●塑性指数（I_p）

塑性とは簡単にいえば，弾性と違って応力を0にしたとき元の状態に戻らないことを指す。塑性指数 I_p は

$I_p=W_L-W_p$ で示す。



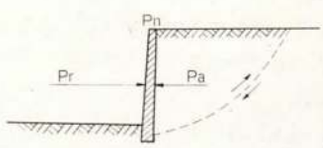
W_L は液性限界で，土が塑性状態から液状に移る限界の含水比。基準の皿で土の溝が25回で閉じるときのもの。

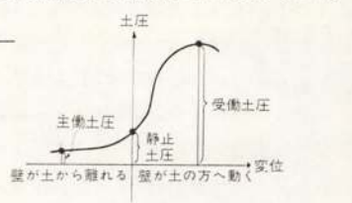
W_p は，塑性限界で，土が半固態状から塑性に移る限界の含水比。土を直径3㎜のひも状になるときのもの。

I_p が大きいのは，その土が含水比の広い範囲で塑性であること，すなわち粘性土らしい特性であり，砂はこの逆である。これらの限界をアッターベルグ限界ともいう。

●主働土圧，受働土圧，静止土圧

壁が図の P_a のように土から遠ざかるように動いて，土のせん断抵抗が一ぱい働いたときの土圧，受働土圧はこの反対に壁を土の方に押したときの土圧 P_r，静止土圧はこの中間で自然状態の地盤はこれに近い。P_n。





●塑性図

土の液性限界を横軸に，塑性指数を縦軸にとって示した関係図で，位置によって種々の土性をよく分類し得，細粒土の分類基準を与えるものとして利用される。簡単にいえば，粘性土らしい特長をもつほど右の方へくる。



●シルト

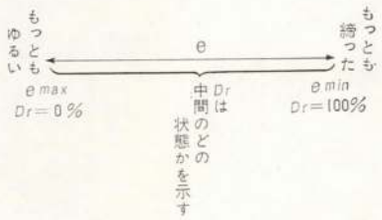
土粒子の径が0.074～0.005㎜のものをいう。砂より細かく，粘土より大きいものである。多くは細砂と同様の鉱物からなり，ほとんど塑性がなく，乾燥しても粘土より強度が小さい。また，砂のように粒子のかみ合わせによる摩擦も小さいので，なかなかやっかいな土である。単独にでてくるより，砂や粘土に混っている場合の方が多い。

●**相対密度**（D_r）

砂質土がどれだけ締っているかを表わす目安である。

$$D_r=\frac{e_{max}-e}{e_{max}-e_{min}}$$ で定義する。

e_{max}：もっともゆるい状態の間隙比
e_{min}：もっとも締ったもの
e　：その時の間隙比



D_r が大きいことは，内部摩擦角φなど大きいことであり，したがって支持力も大きいのである。

●**節　　理**

岩石である程度規則だった割れ目をいうが，断層のように両側が相対的に動いていないものを指す。

●**シキソトロピー**

コロイド化学の用語である。粘土には多くのコロイドを含んでいるので，時には大きい影響をもたらす。粘土を水とともに十分練り返して静置すると，水中でも粘着力が増加していく。これを再び練り返すと粘着力を失う。このように強度が可逆的に変化するのはシキソトロピーのためである。とくに沖積粘土は現地で衝撃によって強度を失うことがあるので注意を要する。

●**先行圧密圧力**（p_o）

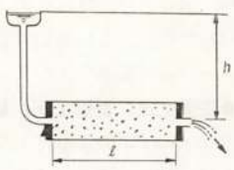
土が受けていた最大の有効圧力。先行荷重または圧密降伏荷重ともいう。

●**透水係数**（k）

$v=k\times i$

v：土を通る水の平均流速
i：水圧の勾配

で定義され，水の通しやすさの目安である。



このとき $i=\frac{h}{l}$

したがって，また，透水係数は勾配1：1のときの流速と考えてもよい。

単位は cm/sec，m/min などである。粘土では10^{-8}というような小さい値もあり，砂れきでは10^{-1}などもあり，土によって1千万倍もの開きがある。砂にわずかの細粒子が加わるとこの値がすぐ小さくなる。精確な値は現地揚水試験によっている。透水係数の大小は植木鉢に水を注ぐときのことを連想されたい。

●**統一土質分類**

土を構成する土粒子の大きさによって土をG（れき），S（砂），M（シルト），C（粘土），O（有機質土）に分け，さらに粗粒土（G，S）については，粒度配合によりW（良），P（不良），M（シルト分を含む），C（粘土分を含む）を付し，細粒土（M，C，O）についてはH（高塑性）L（低塑性）に分け，二つの記号を組合わせて（例えばSM，CL）土の種類を表わす。砂質ロームなどというより力学的に内容豊富な名付け方である。

●**地盤係数**（K）

地盤のある面を1cm沈下させるのに圧力いくら必要かという数字。

$$K=\frac{P}{S}\ (\mathrm{kg/cm^3})$$

ここで　P：地盤にかかる圧力（kg/cm²）
　　S：それによる変位量（cm）

K値の実測は載荷板の直径Dによって少し異なるので，K_D などで表わす。

●**第三紀層**

新生代を第三紀と第四紀とに分ける。さらに第四紀を洪積世と沖積世に分ける。第三紀は200万年～6,500万年前。日本では第三紀前半のものは少なく，後半のものが多い。泥岩，砂岩が多く，多少とも凝灰質の岩石が多い。

しばしば火山噴出物をはさむ。泥岩は風化して軟弱なこともあり，時に地すべりの原因となっている。大阪層群最下部，甲山，二上山，神戸層群などこれに属する。

●**電気浸透工法**

水で飽和した土に直流電圧を加えたとき，土中の水分が一方の極（一般に陰極）の方に移動する現象が見られる。これを利用して，粘土中の水分を極に集め，粘土をあらかじめ圧密強化する工法である。実施例として，大阪の毎日ホールなど。

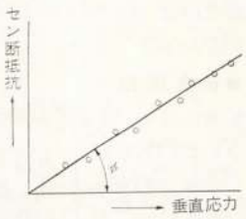
真空法のように重力勾配の代りに電気エネルギーの勾配を与え，水を移動させようとする工法と考えてもよい。

●**電気抵抗式地下探査（電探）**

岩石や土の種類や状態による電気抵抗の相違を利用して，一般に地表に設けられた電極間に電流を通じ，地表の2点間の電位差を測定し，地層の性質・構造を見出そうとする調査法。地層が単純な構成をしているものほど判定は容易である。

●**内容摩擦角**（φ）

土中に働く垂直応力とせん断抵抗の関係を表わす直線と横軸とのなす角（φ）。また，上の二つの比例常数を tanφ とすると，そのφが内部摩擦角であるともいい得る。



砂質土の支持力はほとんどφの大小によって定まる。その大きなものは45°を越え，小さいもので25°などの値を示す。

試験法によってやや値が異なるので，多くの研究者がその解明に焦点を向けている。

●**二次圧密**

載荷重による過剰間隙水圧がほとんど0になったときに，主として土の構造の変化にもとづいて生ずる体積減少をいう。テルザアギー式の一次圧密沈下曲線の後部にやや傾向の違う沈下が見られるのがこれである。

計算方法が確立されていないので，設計では例えば一次圧密の量に15%ほど割増しして見込むなどしている。

●**ヒービング**

掘さく底面のふくれ上りのこと。上載荷重の除去，土中の空気の膨脹，上向きの浸透水圧，くいの打込，凍結などで地盤がふくれる現象をいう。再び建物が載って，また，収縮沈下する例もあるし、掘さく近傍の橋台が数cm上った例もある。

●**ベーン試験（ベーンテスト）**

図のような十字羽根（ベーン）を軟かい粘土の中で廻転し，その抵抗から，せん断強度を測定する。



サンプリングには，どうしても乱れが伴うので，なるべく自然状態のせん断強度を求めるため，これが使われる。

羽根は径5～10cm，高さ10～20cm。

テストはボーリング孔底より少し下へ押込み行なう。鋭敏粘土には優れた試験法である。

●**有効応力**

土に働く全垂直応力（全応力または全圧）から間隙水圧を差引いたもの。土粒子骨格の圧縮および土粒子間の摩擦に有効な応力。実用上，粒子間応力と考えて差支えない。

（なかぼり　かずひで　中掘ソイルコーナー代表）

日本建築協会 月間の動き

□昭和45年6月分□

通常総会

25日　4時半～5時　於会館集会室
出席者　小川正氏ほか21名
議事(1)昭和44年度事業報告承認の件
(2)昭和44年度収支決算承認の件
(3)昭和45年度収支予算承認の件
(4)細則一部改訂（会費値上げ）承認の件

定時評議員会

25日　4時～4時半　於会館集会室
出席者　小川正氏ほか19名
委任状　53名　計72名
議事(1)昭和44年度事業報告承認の件
(2)昭和44年収支決算承認の件
(3)理事1名補選の件

理事会

25日　3時～4時　於会館集会室
出席者　岡橋理事ほか12理事　小西監事
議事(1)建築工事実務講習会開催の件
(2)第7回「よろず相談住宅展」開催の件
(3)7月定例理事会休会の件
(4)第17回青年技術者（昭和45年）選衡委員会委員委嘱の件
(5)入退会者承認の件
(6)報告事項

編集委員会

「建築家の課題と責任」特集座談会
2日　3時～7時　於会館集会室
出席者　鳥田委員長，三村委員ほか11名

委員会
8日　4時～6時　於会館集会室
出席者　鳥田委員長ほか19名
議事(1)7月号＝欧米における契約特集報告
(2)8月号＝建築家の課題と責任特集報告
(3)9月号＝工事計画特集報告
(4)10月号＝民間ディベロッパー特集幹事会の件
(5)11月号＝第17回青年技術者特集選衡委員会の件

作品作風小委員会
17日　6時～8時　於会館集会室
出席者　近藤主査ほか5名
議事　8月号の作品について

ディベロッパー特集編集幹事会
22日　4時～7時　於会館集会室
出席者　鳥田委員長ほか9名
議事　10月号の「ディベロッパー特集」の企画とテーマ・執筆者選定

事業委員会

見学会小委員会
4日　5時半～7時　於会館3階会議室
出席者　山野副委員長ほか2名
議事(1)4月，5月に実施した見学会についての報告
(2)本年度の見学会企画について
(3)そのほか

委員会
11日　6時～7時半　於会館集会室
出席者　北垣，大橋，窪田，山野正副委員長，柏岡幹事ほか8名
議事(1)各小委員会の事業報告および企画について
(2)7月～9月の事業企画について
(3)本年度の事業計画について
(4)そのほか

住宅委員会

委員会
9日　6時～8時半　於会館集会室
出席者　岡橋，黒谷正副委員長ほか20名
議事(1)よろず相談住宅展について
(2)そのほか

よろず相談住宅展打合会
18日　2時～4時　於阪神百貨店
出席者　協会　岡橋委員長ほか3名
阪神百貨店　3名
出展業者　40名

住宅スライド小委員会
19日　6時～8時半　於会館3階会議室
出席者　岩本主査ほか6名
議事　「マイホーム見て歩る記」の編集

住宅資料小委員会
23日　6時～8時半　於会館集会室
出席者　佐孝主査ほか4名
議事　住宅展用資料の作成について

住宅展，総務合同部会
29日　5時半～9時半　於会館集会室
出席者　黒谷副委員長ほか10名
議事(1)第7回よろず相談住宅展について
(2)そのほか

教育委員会

工高生デザインコンクール募集規定作成会
10日　正午～2時　於会館集会室
出席者　上林審査委員長ほか5審査員，橋本教育委員長ほか3委員
議事　第16回工高生デザインコンクール募集規程について

法規委員会

委員会（三会合同）
18日　2時半～5時　於会館集会室
出席者　福田委員長ほか18名
議事　改正建築基準法解説

建築データシート編集委員会

原稿打合会
18日　1時半～2時半　於会館集会室
出席者　日立製作所，中原委員長ほか2名
議事　原稿作成について

委員会
25日　6時～8時　於会館集会室
出席者　中原，松村正副委員長ほか5名
議事(1)合本の編集作業について
(2)編集グループの未掲載項目の取扱いと運営状況について
(3)完成後の計画試案について
(4)そのほか

建材委員会

委員会
26日　3時～4時半　於会館集会室
出席者　堀内委員長ほか6名
議事(1)材料説明「フジコート」内外製吹付塗装材
(2)耐火被覆材について
(3)そのほか

出版委員会

鉄骨のデザイン幹事会
26日　11時半～2時　於会館3階会議室
出席者　鷲尾委員長，木田，宮川幹事ほか1名
議事(1)鉄筋デザインの増刷について
(2)鉄筋構造講習会企画について
(3)次回の編集企画図書について

表彰候補者推せん委員会

27日　11時半～1時　於綿業クラブ
出席者　中沢委員長ほか3名
議事　国家褒章，叙勲候補者について協議

見学会

山陽新幹線神戸トンネル布引工区と神戸港ポートアイランドその他見学会
13日　1時20分～4時半
参加者　35名
神戸トンネル工事
設計監理　日本国有鉄道大阪新幹線工事局
施工　株式会社　奥村組

旅客船ターミナル
設計監理　日建設計工務株式会社
施　　工　清水建設株式会社

講　習　会

第21回建築工事実務講習会
6月15日～6月20日（6日間）
第22回建築工事実務講習会
6月27日～7月3日（6日間除日曜）
各日　午前9時～午後5時
会場　大阪科学技術センター4階401号室
聴講者　第21回　158名
　　第22回　196名

15日，27日
建築工事の着工から竣工までの業務総論
大阪府営繕工事課　中居誠之助氏
基礎・地業工事
竹中工務店　水畑　輝雄氏

15日，
材料の検収とその管理
鴻池組　鈴木　敏夫氏

16日，29日
現場製図
大林組　越本　昌弘氏

16日，30日
労務管理と安全管理
鹿島建設大阪支店　岸田　成計氏

16日，17日，29日，30日
鉄筋コンクート工事・鉄骨工事
清水建設大阪支店　荒川　治徳氏

17日，29日
仮設物と仮設材料
松村組　伊藤　俊夫氏

17日，18日
積算，木工事，屋根工事，サッシュ外工事
鹿島建設大阪支店　高橋　　裕氏

18日，1日
施工計画
大成建設大阪支店　梅原　洋一氏

18日，19日，1日，2日
石工事，タイル工事，ブロック工事
藤木工務店　西山　長司氏

19日，2日
工事機械と工器具類
大林組　木下　幸一氏

19日，20日，2日，3日
防水工事，左官工事，塗装工事
銭高組　塩脇　昭司氏

20日，3日
設備工事
竹中工務店　小川　隆造氏

20日，27日
現場に関する諸法規とその手続
大成建設大阪支店　鈴木安太郎氏

30日，1日
積算，木工事，屋根工事，サッシュ外工事
鹿島建設大阪支店　岩下　久哉氏

3日
材料の検収とその管理
鴻池組　横田　一男氏

3会事業委員長打合会

26日　正午～1時　於会館集会室
出席者　矢野士会，上林学会事業委員長
　　ほか事務局員5名
議事　7月以降の共催事業について打合せ

第2回　日本建築祭

事業部会大会分科会
4日　6時～8時半　於会館集会室
幹　事　会（関西側）
5日　2時～4時　於会館集会室
事業部会大会分科会
12日　6時～8時半　於会館集会室
18日　3時～6時　於万国博本部会議室
19日　6時～8時半　於会館集会室
24日　3時～7時　於万国博本部会議室
26日　6時～9時半　於会館集会室
総務部会
30日　5時半～7時　於会館集会室

6月の入会者（敬称略）

〔団体会員　3社〕
㈱設計事務所ゲンプラン
大都リッチランド㈱ミサワホーム事業部
東光サッシ㈱

〔個人会員　23名〕

内田政雄	島田雄作	古井乃喜
兼元和美	鈴木祥司	細見昌之
木村敏明	鈴木幸雄	増淵昌利
黒田　宏	根橋利夫	三木多夫
小原　忠	日比敏雄	箕島友行
小山義文	福成秀明	吉田訓規
清水健司	福村　務	吉光幸雄
塩田幸男	船江通宏	

〔准会員　9名〕（氏名省略）

■訂正とおわび

本年7月号の暑中見舞広告欄のうちで，次のとおり訂正しおわび申し上げます。

	誤	正
清水受明氏の欄……	株式会社清水受明	株式会社清水工業所
本庄弘樹氏の欄……	株式会社三星商会	株式会社三晃商会
吉村機蔵氏の欄……	吉村幾造	吉村幾蔵
鹿島建設㈱大阪支店の欄……	電話訂正	電話203-3381
池田宮彦設計事務所の欄……	氏名訂正	代表取締役　池田昭



山陽新幹線神戸トンネル布引工区見学

建築確認申請書の不適合部分の訂正処理について

昭和45年6月29日
建設省住宅局建築指導課長

建築基準法が改正され，執行体制の整備拡充とあわせて，違反建築物の取締りの強化が図られることになった。そのために，組織を拡充する必要があることはいうまでもないが，当面限られた人員で，建築行政を適切に行なうためには，行政事務手続などの処理に関し，従来までの慣行にとらわれることなく，抜本的に合理化，簡素化を図る必要がある。とりわけ，建築確認申請書の処理事務に関しては，建築設計者の責任分野を明確にすることによって，その合理化を図ることが望まれる。すなわち，従来，建築確認申請書の内容のうち，関係法令に適合しない部分がある場合には，建築主事が申請者にその旨を連絡し，訂正させたうえで確認するという慣習がみられた。このため，一部の設計者の建築主事に対する依頼心を助長する結果を招来しているとの見方もあり，確認申請書提出前にあらかじめ適法性を十分検討していないとみられる確認申請書も少なくない。また，従来の建築確認事務は，その処理過程において，上述の訂正事務に時日を要するため，法定の期限内に建築確認が行なわれない結果となるのみならず，この種の事務量は年々増大し，建築行政事務に大きな影響をおよぼすに至っている。一方，最近の急激な技術革新によって，新材料・新構法が次々に開発され，また，建築確認対象法令も年々複雑化していることから，建築物の設計に際し，法令上の取り扱いなどに関し，事前相談がなされる例も多くなってきているが，事前相談の段階での取扱い方針があいまいにしか示されなかったため，それが確認申請段階で問題になり，建築確認事務をいたずらに混乱させている事例も見受けられるので，事前相談については，責任をもって明確な指導を行なうよう十分留意されたい。以上の趣旨および方針に従い，今後，建築確認事務は下記要領に即して取り扱うものとするが，この切換えを円滑に行なうため，この通達の実施は少なくとも2カ月間の周知期間の経過後とする。

記

1. 建築確認対象法令に適合していないものについては，次項の場合を除いて，訂正は行なわず，不適合通知をだすものとする。また，不適合通知をだした建築物については，建築確認を受けないまま着工する事例が，これまでも多数みられたので，必ず現場検査を行なうものとする。
2. 建築基準法第42条に規定する道路で「みなし道路」その他特定行政庁の立会いを要するものなどで建築確認申請書提出後訂正を要する場合にあっては，その訂正のために必要な相当な期間を指定し，その期間を過ぎても訂正が行なわれないときは，原則として，不適合通知をだすものとする。なお，この場合においても前項同様現場検査を行なうものとする。

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事 専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　電話　大阪364代表 0206～9

室谷

内装資材専門店

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　(英和ビル)
直通電話　神戸(33) 0881～3
支店　大阪市北区絹笠町50(堂ビル5階 502号室)
直通電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5　(電話㉒2923)

陸屋根防水には 奥山式 特許 絶縁工法 を

OKUYAMA·KAKOGYO WATER·PROOF OAM

カッパー防水帯 コーパータイト

パーフェクトな 冷工法 デラタイト

奥山化工業株式會社

東京都中央区銀座8－4－11　電話(571)2703～4・2370・4064・0264
大阪出張所　大阪市都島区都島中通り5－4　電話(921)2497・(922)7280
名古屋出張所　名古屋市南区若草町33　電話(811)3660・3104

特許　岩元式ベンチレーター
(電動式並固定型各種)

岩元式ベンチレーター　A型・B型・固定型
岩元式連塔換気装置（コンチニヤス・ベンチレーター）
新型　換気塔 NSライン　（強制換気扇付）
新型　換気塔 SFスーパー　(特殊装置による風量増幅 換気扇の能力を倍増する)
最新型　採光排気塔(風光)スーパーライン特殊増幅装置付
スカイライト工事・通風ルーパー
スチール及アルミサッシュドアー・各種シャッター製作施工
其の他　曲加工一式



(カタログ進呈)

岩元工業株式会社

大阪市東成区東今里四丁目40番地
電話(981)0616～0618

空気調和・冷暖房設備
給排水・衛生設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区芝浜松町2－7　電話(434)6171(大代)
大阪支社　大阪市東淀川区加島町375　電話(302)2271(代)
支　店　北海道・仙台・名古屋・広島・福岡
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

冷暖房　給排水、衛生水道　電気　厨房
各種サッシ　環境衛生施設　荷役運搬機械　化学鉱山機械

三機工業 株式会社大阪支店

取締役社長　大前玉男
取締役支店長　樋口勝栄
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪(202)代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、富山
出張所　横浜、金沢、静岡、高松

電気・空調・給排水・衛生設備・設計施工

大阪電気暖房株式会社

取締役社長　菅谷知巳
本店　大阪市西区江戸堀1－60　電話(441)8231大代
支店　東京・名古屋・福岡
営業所　札幌・仙台・金沢・神戸・広島
出帳所　京都・岡山・高松・熊本・横浜
新潟・富山・福井・豊田

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市都島区都島本通4－10－30　電話(922)6251(代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(667)3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平
大阪市北区高垣町一・電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4945(代)
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話神戸34局 5892

空気調和・衛生設備
設計施工

株式会社 三晃商会

本社　大阪市北区富田町16番地　電話(363)大代表1371
支店　東京都千代田区神田小川町2丁目1番地　電話(292)代表7751
広島市紙屋町1丁目2番22号　電話(47)代表4535
福岡市大名1丁目8番12号　電話(76)代表3795
出張所　名古屋・富山・金沢・福井・京都・松江

営業種目 ●空気調和設備 ●給排水衛生設備 ●塗装設備
●蒸気噴射式冷凍機／設計・製作・施工

空気調和のケンザイ 株式会社 建材社

本社・東京支店＝東京都中央区銀座6－6－7　㊫(572)7411代
大阪支店＝大阪市北区中之島2－22　㊫(203)3721代
名古屋支店＝名古屋市中区錦2－2－13　㊫(211)1535代
出張所＝札幌・仙台・豊田・金沢・神戸
広島・松山・福岡・バンコック

須賀工業株式会社

空気調和 衛生設備

大阪市西区土佐堀通1丁目14　電話 441－5171
支店－東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡
営業所－広島　出張所－北九州

水道・衛生・暖冷房・其他管工事
設計並施工
(旧斎藤久孝事務所)

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市北区常安町11番地
電話 大阪(443)5041～5番
東京本社　東京都千代田区大手町2の8番地(日本ビル)
電話 東京(270)7411番(代表)
札幌営業所　札幌市南大通西4丁目1札幌道銀ビル　電話 札幌(22)5756
金沢営業所　金沢市高岡町2番16号　電話 金沢(21)2074
福井出張所　福井市御幸2の1　電話 福井(24)2436
高松出張所　高松市2番丁9　電話 高松(21)5195
岡山出張所　岡山市大供380の1　電話 岡山(24)5486

空気調和　地盤凍結　冷凍冷蔵

精研冷機株式会社

本　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地
(オートセンタービル2階)　郵便番号542
電話 大阪(06)761(代)1141～8番(直通)
東京営業所　東京都千代田区九段南2丁目2番5号
(九段ビル8階)　郵便番号102
電話 東京(03)262－3241～4番

創業 大正二年
暖冷房・換気・温湿度空気調和 設計
病院諸設備・給排水衛生・水族館設備 施工

株式会社 斎藤省三商店

東京店　東京都千代田区丸の内2の2　丸ビル676号　電話 212(代)3751
大阪店　大阪市西区土佐堀通1の1　大同ビル616号　電話 443代 3361
札幌店　札幌市北十条西18丁目36番地　電話 61(代)4371
名古屋店　名古屋市中区栄3の5番29号　千代田ビル514号　電話 261(代)0641
京都店　京都市南区西九条春日町48番地　電話 681(代)1781

温湿度調整装置、暖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30　電話 (361)5177(代) (364)0977(代)
本　社　東京都千代田区丸ノ内3－2(新東京ビル)
電話(211)8511・8561(代)
仙台支店　仙台市新伝馬町60
電話(21)4491
名古屋支店　名古屋市東区東門前町3－6
電話(971)3621

冷房・暖房・温湿度調整装置
換気・給排水・衛生設備
設計施工

第一企業株式会社大阪支店

大阪市北区北同心町1丁目57
電話 (351) (代表) 2808
本社 東京都文京区本郷1丁目12－5
電話 (814) (代表) 5151
支店出張所 名古屋・福岡・札幌・仙台・高松・広島

㊀ 平山工業株式会社

衛生・空気調和設備 ・ 設計・施工

TEL (441)㈹ 1994.(443) ㈹0331 大阪市西区江戸堀通2の2

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

高砂熱学

大阪支店 大阪市北区梅田8番地(新阪急ビル8階)
電話 大阪 (312) 4521 (代表)
本社 東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和・恒温恒湿・冷凍・冷蔵
給排水衛生 設備 設計施工

Ⓕ 不二熱學工業株式會社

本店 大阪市南区順慶町2－50 電話 261－2436㈹
東京支店 東京都大田区西馬込1－2－1 電話 773－1231㈹
営業所 銀座・浜松・京都・神戸・福岡

Carrier
空気調和装置、各種冷凍機
設計・製作・施工

東洋キヤリア工業株式会社 大阪支店

大阪市北区堂島浜通1－25 (新大ビル)
電話 大阪 (344) 1512 (大代)
本社 東京都中央区日本橋本石町4－2 (三井第二別館)
支店 東京・名古屋 出張所 九州
工場 埼玉県北足立郡・東京都足立区

冷暖房・温湿度調整・水道
衛生・環境衛生施設
設計施工

山田工業株式会社

本社 大阪市西区京町堀1丁目62 電話(443) 代表8161～9
支店 名古屋市中村区水主町1の12 電話(541)0966(551)1655
出張所 東京都港区赤坂2丁目3～12
赤坂ピークビル5階 電話 (583) 1467
神戸市生田区北長狭通7丁目1の1 電話 (34) 1778・4386

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備 設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区京町堀4丁目 TEL(443) 8071
本社 東京都中央区京橋2丁目9 TEL(562) 1351
支店 名古屋・福岡

空気調和装置・冷暖房・換気装置
ファン・ヒーター・クーラー
スチール・アルミ・サッシ・ドア・シャッター
設計・製作・施工

理研鋼機株式会社

大阪支店 大阪市東区高麗橋5－45 (興銀ビル別館)
電大阪代 (202) 7745番
本社・工場 東京都北区神谷3の10の8
電東京代 (901) 3191番
空調事業部 東京都港区西麻布4-15-23(第5興和ビル)
電東京代 (409) 0151番
支店 名古屋・仙台

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

㊀ 日本管工業株式会社

代表取締役 市川繁雄

本社 京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪営業所 大阪市北区天満橋筋1－37(天満橋北詰)
電話 (352) 3501～3
四日市営業所 四日市市浜田西末広町 電話㊿7431～3
大津出張所 大津市打出浜13－15 電話 0775 ㉒9738
津営業所 津市栄町2－111 電話⑧3610

Carrier
冷暖房は CARRIER キャリア
東洋キヤリア工業(株)製品販売店・特約工事店

㊂ 日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所 大阪市西区土佐堀通1－16(石川ビル)
電話大阪 (443) 3661～5

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

㊅ 株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通4丁目11 電話大阪(458)3531番
出張所＝京都・福岡

エレベータ・リフト・カーリフト
設計・製作

日本エレベータ工業株式会社

代表取締役 長尾正大

本社 大阪市大淀区天神橋筋六(天六阪急ビル) (351) 4927代 4540
大阪営業所 (351) 4927代 サービス事業所 (328) 0364代
東京営業所 (822) 0995代 工場 (328) 0363代

各種電気工事設計施工

浅海電気株式会社

取締役社長　浅海正雄

本　社　大阪市北区老松町ノ丁目22
電話大阪(362)8701
東京支社　東京都港区赤坂1丁目5番7号
電話(481)8621代表
支　店　名古屋・札幌・福岡
営業所　旭川・横浜・浜松・姫路・高松

電気設備 ε 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役　山本博三

本　社　大阪市北区中之島3の3　朝日ビルディング
TEL　代表　(448)　1361
営業所　大阪市西区土佐堀通り4の8
TEL　代表　(448)　1361
営業所　京都市西京極郡三反田町11の5
TEL　代表　(311)　1185

電気工事設計施工

太陽工藤工事株式会社

取締役会長　西村庄市
取締役社長　小林四郎

本　社　大阪市此花区恩貴南之町73
電力工事本部　TEL(06)462−1301(代)
施設工事本部　大阪市北区野崎町69
TEL(06)313−3451(代)

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社 大阪支社

支社長　姉川正男

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地　電話大阪(202)0325〜9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番地5号
支　社　札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
出張所　旭川・白河・横浜・静岡・富山

電気工事・計装工事
設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長　栗原信英

大阪市北区高垣町16番地(東阪急ビル)
電話　大阪(313)1101(大代)
支店　東京・名古屋・舞鶴・大阪南・神戸・広島・九州

電気工事 中 設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長　中本正明

本　社　大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話大阪(931)代表7341〜5
0388・2193
資材倉庫　大阪市城東区野江東之町三丁目一一　電話大阪(931)7004
奈良営業所　奈良県御所市御国通り360　電話御所(2)2607・4259

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役　林　敏夫

本　社　大阪市北区絹笠町50(堂ビル7階)
電話(351)3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電話(661)1478(代)
出張所　川崎・相模原・堺・福山

各種電気工事設計施工・制御盤製作

野里電気工業株式会社

取締役社長　池内文夫

本　社　大阪市西淀川区柏里町1丁目110番地
電話大阪(472)代表1101〜7
支　店　東京都品川区西五反田6丁目25番11号(福島ビル)
電話東京(491)1746(492)0182・0350
営業所　北九州市小倉区鋳物師町23番地
電話小倉(56)5665・5818
出張所　群馬・千葉・和歌山・名古屋

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長　嘉納伝三

本　社　大阪市北区絹笠町五〇(堂ビル三階)
電話(364)1471(代)
支　社　東京都中央区明石町6−23(辻孝ビル)
電話(542)5641
営業所　名古屋市北区城見通二丁目二〇番地
電話(991)5131〜3
出張所　神戸市・堺市・高槻市・姫路市

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長　田中実

本　社　大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話大阪(541)0564〜7・7148〜9
営業所　東京・名古屋・広島・福岡

電気工事・計装工事・設計施工

中央電気工業株式会社

取締役会長　今村　騰
取締役社長　立石行男

本　社　大阪市北区梅ケ枝町56番地
電話　大阪　大代表(312)8881
支　店　東京・名古屋・四日市・神戸・和歌山
営業所　松山・京都・草津・静岡・水島・福岡

各種電気工事設計施工

株式会社 ヤマト電気商会

取締役社長　山本永造

本　社　大阪市北区西堀川町15番地
電話大阪(364)代3056
東京支店　東京都港区新橋5−34−6　相馬ビル5階
電話　東京(434)3848・(431)8435
出張所　大阪南・札幌・名古屋・四日市・松山・徳山

奉仕感謝の店

タイル工事施工

特許申請中・完全滑止タイル

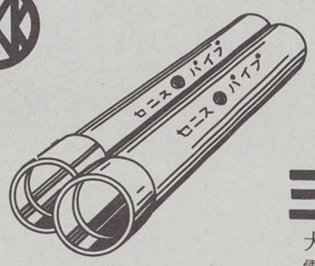
サンエス
SSS タイル新発売

（カタログ進呈）

株式会社 川岸窯業商店
大阪市西区靱本町２丁目９８　靱本町電停前
電話　大阪（532）０４６１～４番

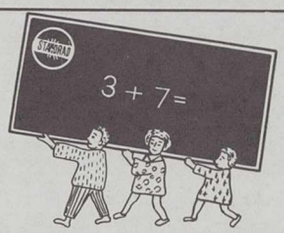
窓掛、緞帳、日際、壁紙 室内装飾 絨毯、舗床材一般
東洋リノリュームの 東リカーペット 発売元

亀井株式會社
大阪市東区南久宝寺町四丁目（心斎橋筋）
電話　大阪（251）1353（代）～ 6・9996
営業所　名古屋・福岡



トラフ・ヒューム管
ベンチレーター・マンホール

株式会社
三幸商會
大阪市北区与力町一ノ一〇
電話　大阪(358)　４０３１



Standard Board&Slate

フタバ黒板
大阪市東住吉区桑津町三丁目１０１番地　電話大阪(717)4561～２

営業品目
● カネボウゴーレックス防水
●化粧壁材ソリジットスタイン吹付
●樹脂砂壁エバーサンド吹付
●樹脂蛭石エバテックス吹付

合同特許建材工業株式会社
本社営業所・大阪市東住吉区駒川町３－54　電話(702)代7814～６
特約代理店・東京・名古屋・金沢・広島・今治・福岡

KANDAN
●空気調和設備　●給排水衛生設備
●各種送排風機　設計施工

関西煖房工業株式会社
本　社　大阪市住吉区万代東六丁目三番地　電話 大阪（672）大代表1281
出張所　名古屋・広島・福岡　　工　場　和泉・名古屋

特許　内外式　意匠登録
電動ベンチレーター
屋上強制換気装置製作のパイオニア

50年の豊富な経験と技術、研究により
1．最高の換気率　4．価格の低廉
2．スマートな外観　5．直傭工による施工の完璧
3．雨仕舞の完全　6．行届いたアフターサービス

近畿コカコーラボトリング美原工場
ＮＫ型口径 900m /m（モートル 3HP）40基

内外建材株式会社
本　社　大阪市西区江戸堀北通１－25（相生ビル）　ＴＥＬ(441)3983～4・4396
工　場　大阪市城東区天王田町１の１４１　ＴＥＬ(962)１１４９

内外式コンチニアスベンチレーター
筒型ベンチレーター
内外式ガラス屋根
内外式連続採光換気装置
設計施工

製造発売元・責任施工

特許ニッポン防水液
ニッポン防水液B号
ニッポン急結液壱号
ニッポン耐寒剤
ニッポン防水目地材
ビルコート

標準セメント防水剤

特許 ニッポン セメント防水剤
国立大阪工業試験所御利用 強度増加 絶対防水 硬化促進

黒川化学のセメント防水

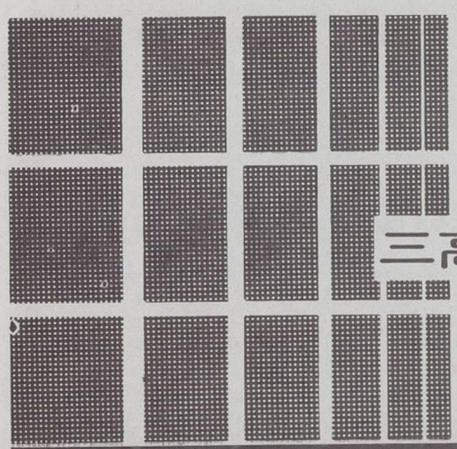
有限会社 黒川化学工業所
本店 工場 神戸市東灘区住吉町反高林 TEL (85) 2723

内外

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルト（樹指）
モルタル工事

N.G.C.式
米国パブコ・アスファルトコンパウンド
米国バイヤーライト・アスファルトコンパウンド
} 販売
各種シート防工事 責任施工
新防水材リベットルーフ 責任施工

内外工業株式会社
本社 大阪市阿倍野区旭町1丁目1番地30号 電話(641)3434～6
(631)0810(夜間)
工場 大阪市東住吉区桑津町3丁目16番地



スチール
アルミ
ステンレス
サッシ・ドアー
カーテンウオール
シヤッター
三高式オペレーター・ドアーハンガー

TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社 三高製作所
本社・工場 尼崎市神崎五反田280番地
電話 大阪(499) 8151 代表

近代建築の要求する

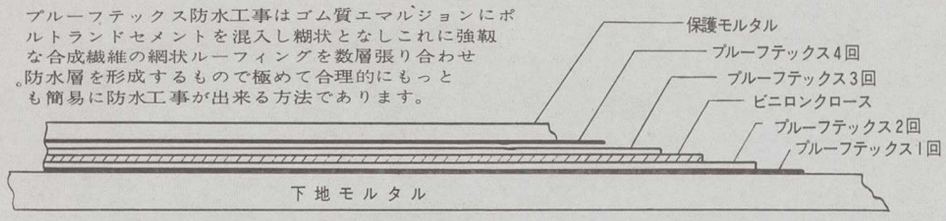
＊特許 小俣式 ステンレス・アルミニウム 防火シャッター

設計
製作
施工

小俣シャッター工業株式会社大阪支店
大阪支店 大阪市北区若松町30 電話大阪(364)9004・9016・4825
本社工場 東京都北区田端町1138 電話東京(893)5211～5

プルーフテックス防水工事

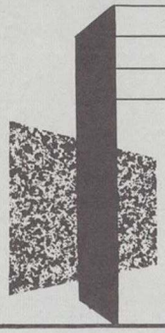
プルーフテックス防水工事はゴム質エマルジョンにポルトランドセメントを混入し糊状となしこれに強靱な合成繊維の網状ルーフィングを数層張り合わせ防水層を形成するもので極めて合理的にもっとも簡易に防水工事が出来る方法であります。



《特　長》
1）防水性が優秀
2）接着力が強大
3）火気を要しない
4）耐摩耗性
5）物理的強度優秀

耐酸工事・防水工事専門店　**耐酸化学工業株式会社**
大阪市北区高垣町80番地
電話大阪(06)361・0178代

日本建鉄の



PS80Aレディメードサッシ

PA60A·PA70Aサッシドア

日本建鉄株式会社

本　社　東京都千代田区大手町2～8　TEL東京(270)6511(大代)
大阪支店　大阪市北区梅田町47(新阪神ビル)　TEL大阪(341)4331(代)

ニードルパンチカーペットの決定版

ユーロン®パンチョス

ポリプロ　70%　ナイロン　30%

P.Pの特性とナイロンの特徴を最大限に生かし、独特の新方法を加え、
ニードルの欠点を全く解決した驚異的な……**パンチョス**

表に特殊加工（特許申請中）
裏に合成ゴム（特許）

ピリングを防止し、伸縮がなく、耐摩耗性にすぐれ、耐久力は抜群……
土足のところに絶対強く、フレヤーの起らない……**ユーロン®パンチョス**

本州・四国・九州地区発売元　装栄株式会社
北海道地区発売元　株式会社　三晃

電植、ナイロン100%

ニチレ®ナイロン ユーロン®カーペット

デラックス……スベリ止め加工、重量感のある豪華さ。
スタンダード……裏は板ゴムで特に工事向の価格。

TSK 大誠化工株式会社
本社　大阪市東区安土町1丁目23(新船場ビル)　電話(06)261－5716(代表)
工場　京都市南区吉祥院西ノ庄向田町8　電話(075)313－8834(代表)

新製品

特許セメント分散剤
コンクリート減水剤
● リグコン

特許 セメント分散剤 コンクリート減水剤
リグナール

建設大臣認定
● 三段ブロック
其の他コンクリート二次製品

● 宅地造成・分譲
指導　神戸大学土木工学部長
田中　茂教授
設計　日建設計工務株式会社
現在二団地設計中

● 耐火・防水外見板
SPボード代理店
● 日本鋼管
NKプレハブ代理店
● 高弾性目地材　エスシール#31
● 防水材　エスシール#21

リグナール製造発売元
神戸枓料株式会社

本　社　神戸市葺合区熊内町2丁目88番地
電話078代表(23)1421・6956
東京営業所　電話03(294)6167・6177
福山出張所　電話0849(23)2　6　7　9

特許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料
オリエンタルメタル

燃えない
われない
腐らない

長尺物・色彩自由・責任施工

品種　オリエンタルメタル(O.P.M)
オリエンタルスーパーメタル(S.P.M)
オリエンタルカラードメタル(C.P.M)
カラースーパーオリエンタルメタル(C.S.P.M)

波板規格　S小波　S大波　V波　ボックス波　Wジャンボ波

用途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
通風器・排気ダクト・モニター

オリエンタルメタル製造株式会社

本　社　兵庫県尼崎市長洲稲川新田44　電話　大阪(488)1081代表
東京支社及工場　埼玉県蕨市塚越5丁目6番32号　電話　蕨　(42)3115～8
大阪支社及工場　兵庫県尼崎市長洲稲川新田44　電話　大阪(488)1081代表
九州支店及工場　福岡県遠賀郡水巻町頃末　電話　八幡(69)2831～4
名古屋支店及工場　名古屋市中村区泥江町1の24第2中経ビル　電話　名古屋(581)2781～4

カタログ御請求下さい。

コーキングパテ

ウヅラ印



柏原瀝青株式会社

本社工場　大阪市西淀川区御幣島東２ノ５　電話大阪(471)1493～4・8267
第二工場　大阪市西淀川区御幣島西３ノ99　電話大阪(471)　０４２６

パテタイル

全国で好評の……

新興の内装壁材を！

新しい時代の新らしい壁
ヒル石基材の燃えぬ壁材

ダイシンコート

（特長）

塗装・吹付・保温・防音・耐水・耐火

革新塗料現る

①ソフトな感覚、優雅な味
②ペイント塗料に優る
③塗りかえ自由
④安価で塗りよい
⑤吹付施工も自由
⑥洗いも下地も自由

繊維塗料の

シンコソール

全国有名建材店又は当社へ

繊維壁材（通称）わたかべ

耐水、耐アルカリ性時代来る

（特長）
漆喰下地に強く
差しなしセメントモルタル塗面が強く
ドロマイドプラスター落ちない良く

すゝき・すゞか・新いすゞ・四香・七宝・錦紋・王座

●カタログお送りします

（株）新興建材工業所
大阪市西区南堀江通６丁目39番地　TEL 大阪(538)2951～5・(541)5757～9
営業所　東京・高槻・明石・姫路・四国・中国

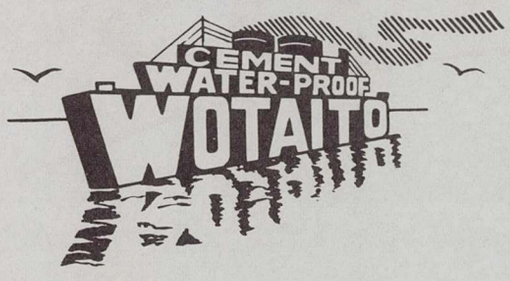
発売元

新興壁材工業（株）
大阪市住吉区粉浜本町４丁目２６番地　TEL 大阪（672）１６６１～３

（株）九州新興建材工業所
福岡市上牟田八田町２６の１　TEL 福岡（41）５２２５～６

日本建築協会優良証明

セメント硬化促進増強防水剤



ウォータイトB号

合成樹脂系防水剤　スーパーウオータイト
合成ゴム系防水剤　ウオータイトK
（クロロプレン系）
合成ゴム系防水剤　ウオータイトU
（ポリウレタン系）

JIS合格品
御一報次第型録並仕様書進呈

ウォータイト式防水工事代行店
安藤工事　TEL福　岡（28）5207
川添商店　TEL鹿児島（51）0001
大三工業　TEL高　松（51）6811
伊東工業　TEL徳　島（52）6880
豊永建材　TEL広　島（61）6371
東邦防水　TEL札　幌（82）3133

株式会社 日本セメント防水剤製造所

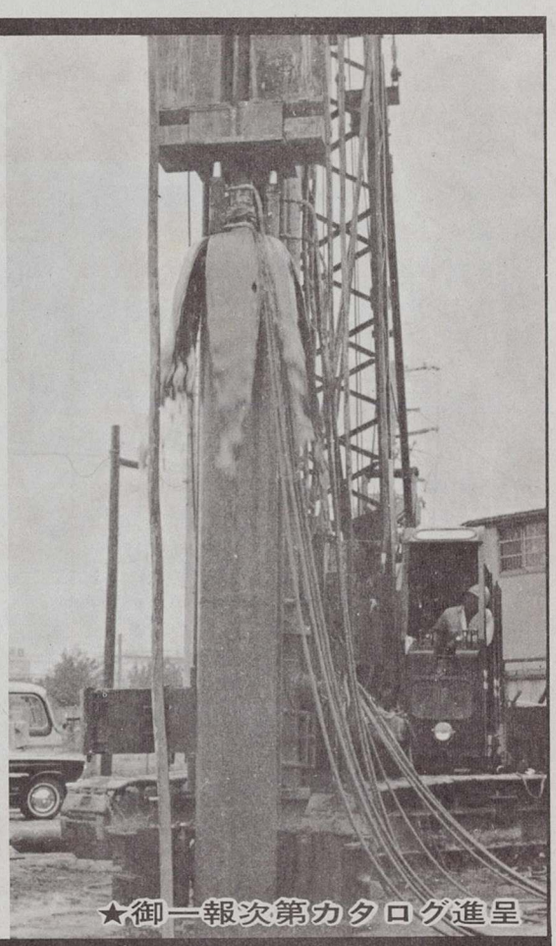
大阪事務所　TEL大　阪（941）2626・2628
宝塚市高台　TEL宝　塚（86）2　1　5　3
名古屋出張所　TEL名古屋（331）1　5　3　1
仙台出張所　TEL仙　台（23）0　7　2　1
東京出張所　TEL東　京（431）8　6　4　8

タイプ
TAIP工法
にはハンマー不要です
〈完全無音無振動既製杭工法〉

従来の既製杭を利用して杭打施工時の
振動・騒音を完全に追放しました!!

■主な特長

1.ネジ込力を杭押込力に変えるので完全無振動無騒音です。
2.根入長さが長く安定した支持杭が施工出来ます。
3.スライムの沈積はありません。
4.完全に支持層に岩着させるので大きな支持力が期待出来ます。
5.何米でもヤトイ杭で納められ地下室のある建築に最適です。



株式会社 武智工務所

■本　　社　大阪市東区高麗橋2の20（高麗新ビル）TEL大阪（202）3233（代）
■名古屋支店　名古屋市中区錦1－3－2（殖産ビル）
■福岡支店　福岡市赤坂1－15－33（第二菊陽ビル）
■営業所　東京・静岡・富山・広島・熊本・鹿児島　■工場　大阪・名古屋・鹿児島

★御一報次第カタログ進呈



全く新しい床タイルです

三星ピサロンは、従来のビニールタイルとは製法原料配合が全く違います。塩ビの他に最近開発された新しい共重合体の特殊樹脂を用いた画期的な新製品です。軟質プレスタイプの床タイルに比べ仕上り安定性がよく、カレンダー方式の流れ模様とは対照的な静止した現代模様。ピサロンの持つエラスチックで高級な質感、すぐれた歩行感は、床タイルの新しい世界を開きました。

協同組合員が責任をもって施工いたします

三星ピサロンは、材料だけの販売はいたしません。責任施工の出来る協組員が入念な仕上げをします。

これからはピサロンの時代です

三星ピサロンの新しい色調、パターンは、現代のインテリアデザインに要求される個性的な床造りには欠かせません。東京浜松町の超高層世界貿易センタービルの４F以上の各階エレベーターホールにも、使用されております。〝三星ピサロン〟はその模様がフランスの画家ピサロのタッチに似ていることから、名付けられたものです。

東日本床工事事業協同組合
西日本床工事事業協同組合
〈専用品〉

三星タイル
ピサロン
製造元― 田島応用化工株式会社

★規格＝333.3　×333.3　×２㎜　９枚／m²
　　333.3　×333.3　×３㎜　９枚／m²
★色数＝18色
★価格＝２㎜厚品　1,200円／m²（300m²以上）
　　３㎜厚品　1,800円／m²（300m²以上）
　　小部屋割増・階段40％高

■昭和45年 8月25日発行(毎月1回25日発行)・昭和24年 3月19日第3種郵便物認可

●回転軸部にナイロンベアリングを採用した耐久品

サンエイ
立枠付 ピボットヒンジ





■本品は特に各部品の材料を吟味し、表面が錆びないようボンデライジング加工を施した上に**防錆塗装**をしております。
■焼付塗装仕上製品の他に、他の持出し吊の腕部（吊込後扉から露出する部分）にSUS27(18.8)**ステンレス製ヘアーライン仕上**の化粧カバーを付けてあります。
■回転部分にナイロンベアリング及びスラストベアリングを嵌入してあります。
■別製の設計製作をも歓迎致します。

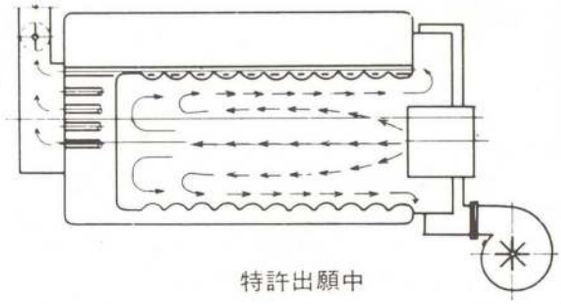
■弊社製立枠付ピボットヒンジは……
実用新案登録第517316号の立枠には何んら低触致しておりません。

三榮建材工業株式会社 555

本社　大阪市生野区巽矢柄町151　☎(06)751－3653～5／東京出張所　東京都墨田区本所2－11－11　☎(03)623－7677

わが国初の戻り燃焼方式!!

MPボイラ 800型



特許出願中



WTP水管ボイラ

●25T/Hまでトレーラで輸送できます

特　長
●ボイラ効率90～88%
●すす吹きはワンタッチ
●構造簡単・小形軽量
●スチームアップが早い

〈その他の営業品目〉
用廃水処理装置

株式会社 平川鉄工所

本社・工場　大阪市大淀区大淀町北1丁目11番地　電話(06) 458－8681(代)
東京支店　東京都中央区八重洲6の7城辺橋ビル　電話(03) 272－2721(代)
名古屋営業所　名古屋市中区新栄町1の6中日ビル　電話(052)262－2451(代)
札幌26－8018　福岡76－3146　滋賀工場(07758) 7－1450

■ご入会のお申込は・社団法人 日本建築協会 〒541 大阪市東区北浜3－37 電話大阪(06)231-9648・9649・9640 振替口座大阪39975番

定価 300円(送料共)